

障害のある子どもが 里親家庭で育つために

障害児の里親促進のための基盤整備事業報告書

平成21年度独立行政法人福祉医療機構(子育て支援基金)助成事業



障害のある子どもが 里親家庭で育つために

障害児の里親促進のための基盤整備事業報告書

平成21年度独立行政法人福祉医療機構(子育て支援基金)助成事業

ごあいさつ

この報告書は、障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会が、独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）の助成を受けて実施した「障害児の里親促進のための基盤整備事業」の内容をまとめたものです。本事業は平成21年から23年までの3年間の継続事業として行われており、本年はその初年度にあたります。

子どもの育ちの基盤は家庭にあります。何らかの事情で親もとを離れるを得ない子どもにとって、最善の育ちの場が里親家庭であることが、近年ようやくわが国でも認識され始めています。障害のある子どもにとっても同じです。これまでにも、少数ではあっても、心身に障害のある子どもたちが里親の手もとで育てられています。しかしそこにはさまざまな困難が伴います。障害のある子どもが里親家庭で育つためにはどのような基盤整備が必要で且つ有効なのでしょう。それを明らかにすることを通して障害児の里親促進に寄与することが本事業の目的です。

この事業の柱は次の5つです。

1. 障害児の里親促進のためのアンケート調査の実施
2. 障害児を養育する里親家庭、ファミリーホームなどの訪問調査
3. スウェーデンの障害児支援の現場研修と講義の受講
4. 社会啓発のためのシンポジウムの開催
5. 障害児里親研修テキストの作成と研修会のモデル実施

事業を進めるために、里親、里親の研究者、児童養護の専門家、障害福祉の研究者、障害福祉現場を担う人たちなど、各方面の代表的な方々に集まつていただきました。委員構成は研究者一覧の通りです。事業実施委員会は事業の全体の方向性をきめ、事業の推進力としての役割を担いました。専門家委員会は、障害児里親研修のカリキュラムおよびテキストの作成を行い、モデル研修会を実施しました。調査ユニット（横浜ワーキンググループ）は、「障害児の里親を促進するためのアンケート調査」を実施し、その結果を踏まえて「子どもの住まいを考えるシンポジウム～里親さんたちとつながりたい」を開催しました。研修ユニット（札幌ワーキンググループ）は、専門家委員会に協力し研修会「障害のある子ども里親家庭で育つために」を実施しました。それらの内容については報告書をご覧下さい。

この事業を実施するにあたり、全国の里親さんはじめ多くの方々のご協力をいただきました。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

平成22年3月

障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会

代表 室津 滋樹

研究者一覧

研究代表

室 津 滋 樹 (日本グループホーム学会代表)

事業実施委員

赤 塚 瞳 子 (赤塚ファミリーホーム・横浜)

大 塚 晃 (上智大学総合人間科学部教授)

川名はつ子 (早稲田大学人間科学学術院准教授)

北川聰子 (知的障害児通園施設むぎのこ園長・里親)

木ノ内博道 (全国里親会理事・里親)

庄 司 順 一 (青山学院大学文学部教授・里親)

伊 達 直 利 (旭児童ホーム施設長)

花崎三千子 (日本グループホーム学会運営委員)

藤 野 興 一 (鳥取こども学園常務理事)

ト 藏 康 行 (日本ファミリーホーム協議会会长)

堀江まゆみ (白梅学園大学教授)

光 増 昌 久 (松泉学院施設長)

村 田 和 木 (ライター)

専門家委員

井 田 徳 子

大 塚 晃

金 沢 俊 文 (社会福祉法人麦の子会 臨床発達心理士)

川名はつ子

北川聰子

庄 司 順 一

村 田 和 木

調査ユニット(横浜ワーキンググループ)

荒 江 俊 樹 (白根学園児童寮支援係長)

井 田 徳 子

市 香 織 (横浜市社会福祉協議会障害者支援センター)

木ノ内博道

工 藤 暢 子 (中区本牧活動ホーム)

斎 藤 有 香 (横浜市磯子区福祉保健センター係長)

白 神 晃 子 (早稲田大学人間科学学術院助手)

内藤真起子 (中区本牧活動ホーム)

橋 爪 久 予 (横浜共生会地域生活支援センター海)

花崎三千子

平 田 修 三 (早稲田大学人間科学研究科)

堀江まゆみ

室 津 滋 樹

持 田 隆 平 (早稲田大学人間科学部)

山 田 貴 美 (武藏野会すぎな愛育園施設長)

研修ユニット(札幌ワーキンググループ)

遠 藤 光 博 (札幌療育会ノビロ学園園長)

金 沢 俊 文

北川聰子

熊井ゆかり (NPO法人わーかーびーー副理事長)

鈴 木 久 也 (知的障害児通園施設むぎのこ副園長・里親)

田 中 貞 美 (札幌市里親会会长・里親)

花崎三千子

古 家 好 恵 (麦の子会ジャンプレツツ施設長・里親)

光 増 昌 久

CONTENTS

ごあいさつ 室津滋樹	1
研究者一覧	2
はじめに一本事業の背景と目指すこと— 庄司順一	4
社会的養護を必要とする障害児の現状と課題～今後の方向性～ 大塚晃	6
第1章 障害児の里親促進のためのアンケート調査報告	9
I アンケート調査結果報告 その1 花崎三千子	10
II アンケート調査結果報告 その2 白神晃子 平田修三 持田隆平	42
III 調査結果の要約 木ノ内博道	56
IV 資料	
1 調査票	60
2 集計票	68
3 自由記述(問26,27)	79
第2章 訪問調査報告	151
1 愛していい 愛していい 遠慮しないで愛していい 北川聰子	152
2 この縁に感謝して 鈴木久也	154
3 愛おしいを先に 鈴木久也	156
第3章 スウェーデンの障害児支援調査報告	157
1 LSS住宅について 内藤真起子	158
2 重度障害児のショートステイホーム 井田徳子	160
3 プリスクールの統合教育 北川聰子	164
4 重度重複障害児のためのプリスクールとショートステイ 北川聰子	166
5 スウェーデンの里親制度 村田和木	168
6 脱施設について 村田和木	171
7 スウェーデン社会を支えるもの(ハンソン・友子氏の講義) 北川聰子	174
第4章 シンポジウムと里親研修会	177
I シンポジウム「里親さんたちとつながりたい」	178
1 シンポジウムの概要「里親さんとつながりたい」 橋爪久予	178
2 基調講演「障がいを持つ里子の暮らしを支える」—地域での共生をめざして 川名はづ子	179
II 里親研修会「障がいのある子も里親家庭で育つために」 古家好恵	183

はじめに ー本事業の背景と目指すことー

庄司 順一

まず、本事業の背景として、障害のある子どもの里親養育の現状と、本事業が目指すことを述べる。

里親制度とは

子どもは、生んでくれた親のもとで、あるいは生まれた家で育つのが自然である。しかし、さまざまな事情により、親のもとで暮らすことができない場合がある。たとえば、親が死亡した、病気である、子どもを虐待する、子どもの養育を拒否するような場合である。このような、「保護者のない子どもまたは保護者に監護させることが不適当であると認められる子ども」を「要保護児童」という。

要保護児童の保護、養育は、公的な責任においてなされるものであり、これを「社会的養護」という。社会的養護を担う場としては、施設養護と家庭的養護がある。施設養護の代表は乳児院、児童養護施設での養護であり、家庭的養護の代表は里親制度である。両者の中間的な形態としてグループホームがあるが、子どもの社会的養護の分野では「里親ファミリーホーム」といわれてきて、東京都、横浜市、川崎市など、いくつかの自治体で取り組まれてきたが、平成21年4月から国が「小規模住居型児童養育事業」として制度化した。

さて、里親とは、「保護者のない児童又は保護者に監護させることが不適当であると認められる児童（要保護児童）を、養育することを希望する者であって…都道府県知事が…児童を委託する者として適当と認めるもの」（児童福祉法第6条の3、ただしかなり簡略にしてある）をいう。

里親による養育とは、要保護児童を家庭へ迎え入れ、親子として、家族として、あるいは生活共同者として、ある期間、ともに暮らしながら子どもの成長を目指す営みといえよう。養育する期間は短期のことも長期となることもあるが、可能な場合には実親のもとへ帰る。

里親養育は、法制度にもとづくものであるが、暮らしの中で緊密な感情の交流が生じる。ここにこそ里親制度の意義があるわけであるが、これは里親養育のむずかしさをももたらす。

わが国は、先進国の中で唯一と思われるが、要保護児童の9割が「施設」で暮らし、家庭にかわる環境としての「里親」に委託される子どもは約1割にすぎない。

障害のある子どもの里親養育

児童憲章（昭和26年5月5日）には「児童は、人として尊ばれる。児童は、社会の一員として重んぜられる。児童は、よい環境のなかで育てられる」としたうえで、「2 すべての児童は、家庭で、正しい愛情と知識と技術をもって育てられ、家庭に恵まれない児童には、これにかわる環境が与えられる」および「11 すべての児童は、身体が不自由な場合、または精神の機能が不十分な場合に、適切な治療と教育と保護が与えられる」と述べられている。

しかし、障害のある子どもが家庭環境に恵まれない場合、「家庭にかわる環境」として、「施設」で暮らすことが多いのではないだろうか。

欧米の先進諸国では要保護児童のケアは里親制度が基本となっており、アメリカの里親制度の発展を基礎づけたと考えられる、1909年の第1回ホワイトハウス・カンファレンスは、家庭の重要さを高く謳っているが、実は「障害のない子どもには家庭を」という姿勢であった。すなわち、「家庭生活は、文明の至高の、すばらしい所産である」とし、「家庭から引き離さなければならない十分な理由がある子ども、あるいは家のない子どもは、可能ならばつねに家庭で養育されるべきであり、慎重に選ばれた里親家庭が正常な子どもにとって自然な家庭の最良の代替となる」と述べ、施設養育ではなく、里親優先の思想

を説いている。しかし、ここには「精神および身体が正常であり、特別の訓練を要しない子どもであるならば」という条件がついているのである。つまり、里親制度発展の出発点から、障害のある子どもは排除されてきたのである。

障害のある子どもの里親養育の現状

わが国の近年の里親養育において、障害のある子どもはどのような状況にあるのだろうか。

第1に、今日、里親は、障害をもつ子どもや病虚弱児を養育することが少なくない。平成14年に制度化された専門里親の対象となる子どもは、はじめは虐待を受けた子どもであったが、その後非行傾向のある子どもにも拡大され、平成21年4月の里親制度改正により、障害をもつ子どもも含まれるようになった。この改正により、専門里親認定研修のスクーリング科目に「障害のある子どもの理解」が1科目加わった。

専門里親ではなく、養育里親としても、障害のある子ども、また明らかな障害があるとはいえないが、知的発達がボーダーライン・レベルの子どもを養育することは決してまれではない。

このことは、里親は障害についての知識や、障害のある子どもの養育技術を身につけることが必要であることを意味している。

厚生労働省が5年ごとに実施している「児童養護施設入所児童等調査結果」によれば、平成10年には、「心身障害あり」の割合は8.9%であったのが、15年12.6%、20年18.0%と増加している。このような傾向は、施設入所児にも認められる。平成10年、15年、20年の「心身障害あり」の割合は、乳児院入所児では28.1%、30.4%、32.3%であり、児童養護施設入所児では10.3%、20.2%、23.4%であった。施設入所児に比べて、里親委託児では「心身障害あり」の割合がやや低いことに注意したい。里親委託児の心身障害の内容（重複回答）は、平成20年調査では、知的障害6.6%、身体虚弱2.6%、広汎性発達障害2.0%、ADHD1.5%などが多く、その他肢体不自由、視聴覚障害、言語障害、てんかん、LDなどもあった。

また、障害のある子どもを養育した経験のある里親は約30%であった。

第2に、子どもの委託を受けた時点では障害があるとは認められず、養育していく過程で障害があることがしだいに明らかになる場合がある。

このことは、里親への研修や、委託後の児童相談所や療育機関等との連携が不可欠であることを意味している。

第3に、障害のある子ども側からみると、障害があることによって、最初から里親委託の適応とは考えられないこともある。

このことは、里親の意識改革も必要ではあるが、子どもを委託（措置）する児童相談所の意識改革も必要であることを意味している。

本事業が目指すこと

本事業は、障害のある子どもの家庭での養育を保障することを目指している。その実現にはいくつかの課題があると考えられるが、ここでは次の2点を強調しておきたい。

第1に、児童相談所児童福祉司、里親など関係者が、子どもの障害の有無にかかわらず、里親委託に積極的になることが重要である。

第2に、里親が障害のある子どもを養育する場合、必要な知識、技術を身につけるために研修が重要である。委託前の、里親、専門里親に対する基本的な研修とともに、委託直前あるいは委託後の個別的な支援が不可欠であり、障害児施設や専門家との連携も欠かせない

社会的養護を必要とする障害児の現状と課題 ～今後の方向性～

大塚 晃

はじめに

障害者の地域生活と就労を進め自立を支援する観点から、これまで障害種別ごとに異なる法律に基づいて提供されてきた福祉サービス等について、共通の制度の下で一元的に提供する仕組みである障害者自立支援法が平成18年度から施行されている。自立支援法は、負担、報酬、障害程度区分等の課題を抱えながら、平成21年3月障害児の支援も射程に入れた「障害者自立支援法等の一部を改正する法律案」が国会に提出された。しかし、衆議院の解散などにより、7月改正案は廃案となった。新たな政権は、障害者自立支援法は廃案とし、今後は「障がい者総合福祉法（仮称）」を創設するとしている。

障害児支援を考察するにあたり、社会的養護を必要とする児童との交錯する場を中心に今後の方向性を考えてみたい。

1 障害児支援の立場から

(1) 障害児支援の経緯について

平成18年4月から施行されている障害者自立支援法に、居宅介護、短期入所、児童デイサービス等が位置づけられたが、施設サービスを含む障害児支援の全体については今後の検討課題とされた。平成20年7月「障害児支援の見直しに関する検討会の報告書」が、同年12月、社会保障審議会障害部会の報告書「障害者自立支援法施行後3年の見直しについて」が出され、平成21年3月には改正法案が提出された。今後の障害児支援の見直しの最重要テーマは、障害児が安心して地域の中で生活できる仕組み作りであると考えるが、その際、障害児は障害のある児童の前に普通の児童であり、児童福祉法など一般の施策の中に位置付け、支援されることが重要である。

(2) 障害児支援に現状について

障害児支援については、家庭から療育に通う場としての知的障害児通園施設や肢体不自由児通園施設、児童デイサービスと入所して保護や治療を受ける場としての知的障害児施設、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設などがある。近年では、施設福祉から地域福祉の流れのなかで、障害児も地域のさまざまなサービスを活用して生活していくことに移りつつある。しかし、虐待など社会的養護を必要とする児童の支援の場は入所施設などに限られている。また、知的障害児施設などに入所している児童の大部分は、社会的養護を必要としている児童である。知的障害児施設の入所理由を見ると、養育能力28.1%、離婚等12.4%、虐待・養育放棄が11.3%である。平成17年度については、入所数の30.4%が虐待による入所。（平成18年度全国知的障害児・者施設実態調査報告書）・肢体不自由児施設に入所している児童の4%は被虐待児とされている（「療育施設に入所している被虐待児童についての研究・調査」、平成15年度子育て支援基金事業）。入所児童の態様を見るとすでに障害児施設は児童養護施設に近づいているということができる。また、「障害児支援の見直しに関する検討会の報告書」においては児童のグループホームのような、施設から地域の移行版としての家庭的な生活の場が求められている。

(3) 障害児支援の具体的検討内容

「障害児支援の見直しに関する検討会報告書」（平成20年7月22日、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課）の今後の障害児支援の見直しの基本的な視点は、①子どもの将来の自立に向けた発達支援 ②子どものライフステージに応じた一貫した支援 ③家族を含めたトータルな支援 ④できるだけ子ども・家族にとって身近な地域における支援とされ地域におけるきめ細かな多様な支援が期待さ

れている。このような理念に基づき障害児施設の見直しにおいては、従来の入所による支援を行ってきた知的障害児施設、知的障害児通園施設、盲ろうあ児施設、肢体不自由児施設及び重症心身障害児施設は、障害児入所施設（障害児入所支援と呼ぶ）に一元化するとともに通所による支援を行ってきた肢体不自由児通園施設、知的障害児通園施設、難聴幼児通園施設を児童発達支援センターに一元化するとされている。

2 社会的養護を必要とする児童の立場から

(1) 社会的養護の現状

「社会的養護」は家庭で暮らすことのできない児童を家庭に代わって公的に養育する仕組みである。戦後の孤児対策など、両親がいない児童を対象に始まった社会的養護であるが、近年、親の離婚や虐待等により家庭において適切な養育を受けることができない児童の数が増加している。その背景には、発達障害をはじめとする援助が必要な子どもへの社会的支援の不足等様々な要因があると考えられる。社会的養護は、「家庭的養護」と「施設養護」に大別される。特に虐待を受けた児童にとっては、一対一で愛されて安心や信頼の感情を持つことがその後の成長に何よりも大切であり、「家庭的養護」が望ましい。しかし、実態は、社会的養護を必要とする児童の約9割が「施設養護」となっており、「家庭的養護」の拡充が喫緊の課題である。

(2) 施設養護について

施設養護については、児童養護施設、乳児院等がある。このような施設においては、近年増加している虐待等による心理的・情緒的・行動的課題のある児童に対する支援、疾患や障害のある児童への支援等の一定の専門性を必要とする支援が強く求められており、その対応すべき課題は多様化・複雑化していると言われている。しかし、施設におけるケアの単位が大規模であること等により、児童に対して個別的な対応が十分にはできていないこと、とりわけ虐待を受けた児童へのケアは愛着関係の形成が重要であるにもかかわらず、親密な信頼関係が保障されるケアを行うことが困難であるとされている。

児童養護施設に入所している児童の20.2%は何らかの障害がある。その内訳は、知的障害8.1%、肢体不自由児0.4%である。また、ADHD1.7%となっている。児童自立支援施設に入所している児童の27.3%は何らかの障害があり、その内、知的障害8.6%、ADHD7.5%である。情緒障害児短期治療施設の59.5%には何らかの障害あり、その内、知的障害8.3%、ADHD9.1%とされ、（平成15年児童養護施設入所児童等調査）、知的障害児施設との差異が小さくなっている。

児童養護施設は、愛着関係の形成を図りながら、専門的なケアをより個別性を高めて実施するという観点から、施設単位の小規模化によるグループケアの実現や地域に密着した家庭的な地域小規模児童養護施設などの拡大が必要とされている。このように施設の小規模化により、地域で児童を支援していくことが進みつつある。

(3) 里親制度の活用

児童福祉法第6条の3によれば、「この法律で、里親とは、保護者のいない児童又は保護者に監護させることが不適当であると認められる児童を養育することを希望するものであって、都道府県が適当と認められる者をいう。」とされている。平成21年4月1日施行の児童福祉法一部改正に伴い、従来の里親について、養子縁組によって養親となることを希望する里親と養育里親を区別され、さらに養育里親については、養育里親と専門里親に区分された。これにより、里親の種類は、養子縁組を前提としない養育里親・専門里親・従来の短期里親をあわせた「養育里親」、さらに「養子縁組によって養親となることを希望する里親」、「親族里親」となった。特に、平成14年度に創設された専門里親は、児童虐待等の行為により心身に有害な影響を受け、保護者からの養育を受けることが困難な児童を、一定期間養

育する里親として、その支援に専門性が求められている。また平成21年4月から、4～6人の児童を養育する小規模住居型児童養育事業（里親型ファミリーホーム）が創設されている。このような里親の拡大版も含めて、多様な生活支援・自立支援の場が確保されつつある。障害のある児童の支援を考えれば、里親の対象として障害児も含める制度が早急に望まれる。その障害のある社会的養護の必要のある児童については、生活支援・自立支援に発達支援を含めたトータルな支援が必要である。専門性の確保のためには専門里親研修のカリキュラムの中に、障害の理解（知識と技術を含めた）のための内容が必要となるだろう。

3 今後の方向性

今後、障害のある児童への支援の中心となるべきものは、従来の児童の障害に焦点を当てた療育だけでなく、広い意味での「子育て支援」が必要となろう。従来はともすると障害児について障害に焦点が当てられ、障害児である前に児童であるという視点が弱かったのでなかろうか。障害のある児童も他の子ども同様に、地域でさまざま支援を受けながらあたりまえに生活していくことであれば、今後の障害児への支援については、なるべく一般施策により対応していくと考えられる。障害児の支援は児童福祉法に位置付け、積極的に一般施策である里親制度などを活用していくことが必要である。それが、子どもの頃から障害の有無にかかわらず地域でともに学び、遊び、活動するノーマライゼーション理念の具現化である。

おわりに

現在、日本が批准に向けて準備している「障害者の権利条約（外務省仮約）」によれば、障害児については、「1 締約国は、障害のある児童が他の児童と平等にすべての人権及び基本的自由を完全に享有することを確保するためのすべての必要な措置をとる。2 障害のある児童に関するすべての措置をとるに当たっては、児童の最善の利益が主として考慮されるものとする。3 締約国は、障害のある児童が、自己に影響を及ぼすすべての事項について自由に自己の意見を表明する権利並びにこの権利を実現するための障害及び年齢に適した支援を提供される権利を有することを確保する。」とされている。今後、児童の権利擁護及び最善の利益（best interest）を基に支援を組み立てていくことが重要である。

引用文献

- (1) 障害者自立支援法、平成17年11月7日、法律1
- (2) 障害児支援の見直しに関する検討会報告書、平成20年7月22日、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課
- (3) 報告書「社会的養護体制の充実を図るための方策について」
- (4) 平成19年8月に「社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会」を設置し、「社会的養護体制の充実を図るための方策について」の報告書（同年11月）
- (5) 厚生労働省、平成20年3月「児童福祉法等の一部を改正する法律案」

第1章

障害児の里親促進のための アンケート調査報告

調査ユニット（横浜ワーキンググループ）は平成21年11月 全国の里親のうち調査可能な2200人を対象に「障害児の里親促進のためのアンケート調査」を行い、その結果をまとめた。

I アンケート調査結果報告 その1 …… 統計数値の分析と解説を行った

II アンケート調査結果報告 その2 …… 自由記述の分析と解説を行った

III 調査結果の要約 ……………… 要点を簡潔にまとめた

IV 資料3として掲載した 自由記述(問26,7) は膨大な量だが、これがこの調査のひとつの特徴である。頁数の関係で、小さな文字になったが是非お読みいただきたい。各記述の最初に付した番号は、問26の記述者が問27ではどのような記述をしたかが分かるように付した。ただし、①のように丸で囲んだ番号はこの限りではない。



I アンケート調査結果報告 その① 花崎 三千子

1 調査の概要

調査の目的 社会的養護を必要とする障害児がより多く里親に養育されるための要件を明らかにする

調査の対象 現に委託児を養育している全里親

調査の日時 平成21年11月1日～11月27日

調査の方法 全国66箇所の里親会を通じ、現に委託児を養育している里親に調査票を郵送した。
厚生労働省は平成20年3月時点の66都道府県政令市別の委託里親数を発表している。
その合計は2582人であるが、里親の個別の住所を把握するすべがないため、64都道府県政令市の里親会事務局に委託里親数の調査票をまとめて送付し、個別里親への郵送を依頼した。このため、委託里親であっても里親会に入っていない人には調査票はとどいていない。また里親会事務局のさまざまな事情や考え方により、調査票が事務局に留め置かれ、里親の手元に届かなかったものも相当数あった。配布状況を電話などで調査した結果、調査票が実際に里親の手元に届いたのは最大で2200と推計される。

回答数・回答率: 期日までに1016通の回答があった。回答率は46%をこえた。このほか期日後に57通の回答がとどき、これらを入れると回答率は48.8%になるが、期日を過ぎていたため集計から除外した。ただし、調査報告その2で行った問26.27の自由なご意見の分析には、この57通にあった意見も反映させた。

調査票の構成:

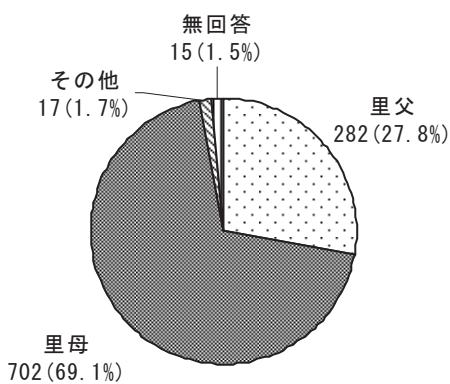
- 1.回答者のプロフィール
- 2.里親の現状と意識
- 3.委託児の状況
- 4.「障害がある」および「発達に心配のある」委託児の状況
- 5.「障害がある子」および「発達に心配のある子」を受託することについて
- 6.「障害がある子」および「発達に心配のある子」の養育と社会資源の活用状況
- 7.「障害がある子」および「発達に心配のある子」を育てる里親の意識
- 8.全里親の自由な発言(感想・意見・提言など)

2 調査結果

1. 回答者のプロフィール

問1 | 回答者の立場

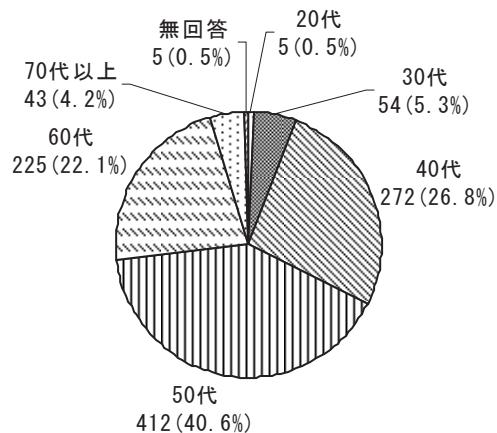
【回答者】(sa) N=1016



アンケートに答えたのは、里母702人(69.1%)、里父282人(27.8%)である。その他が17名あるが内訳は不明。

問2 | 回答者の年齢

【回答者の年齢】(sa) N=1016



50代が412人(40.6%)で最多、40代727人(26.8%)、60代225人(22.1%)。40代~60代が89.5%をしめる。30代54人(5.3%)、70代以上43人(4.2%)である。

問3 | 回答者の住所(都道府県)

問3 居住都道府県

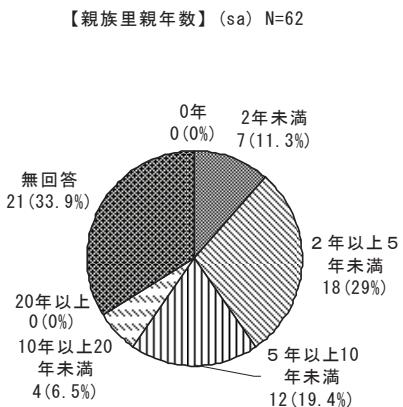
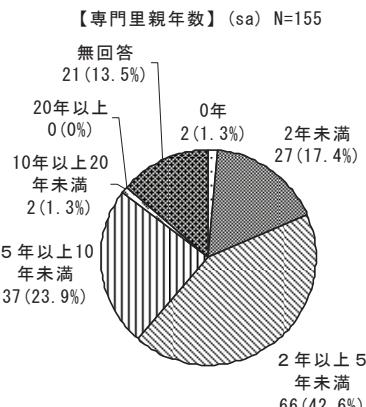
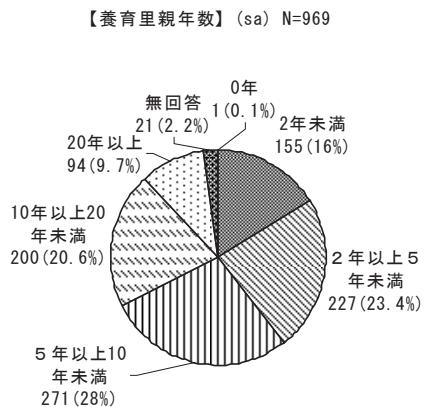
N=1,016

都道府県	件数
北海道	127
青森県	5
岩手県	18
宮城県	17
秋田県	0
山形県	6
福島県	14
茨城県	24
栃木県	29
群馬県	24
埼玉県	36
千葉県	43
東京都	88
神奈川県	41
新潟県	23
富山県	2
石川県	4
福井県	7
山梨県	18
長野県	11
岐阜県	21
静岡県	33
愛知県	12
三重県	24
滋賀県	20
京都府	4
大阪府	40
兵庫県	37
奈良県	20
和歌山県	11
鳥取県	10
島根県	4
山口県	18
広島県	16
徳島県	6
香川県	9
愛媛県	3
高知県	5
福岡県	40
佐賀県	5
長崎県	8
熊本県	17
大分県	16
宮崎県	23
鹿児島県	13
沖縄県	28
無回答	36

北海道が127人で突出している。東京都88人がこれに続き、千葉県、神奈川県、大阪府、福岡県、兵庫県、埼玉県が40人前後である。回答数にはばらつきがあるものの秋田県、岡山県を除く全都道府県から回答が寄せられた。

I 集計結果の解説 その①

問4 里親の経験年数



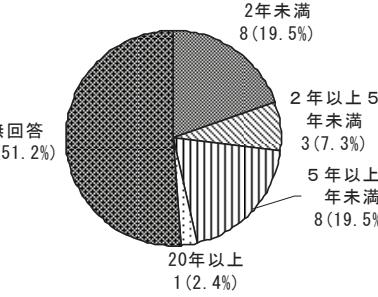
「養育里親」は5年～10年が271、2年～5年が227、10年～20年が200の順に多い。

十分な経験を持つと評価できる5年以上の経験者が全体の58.3である。

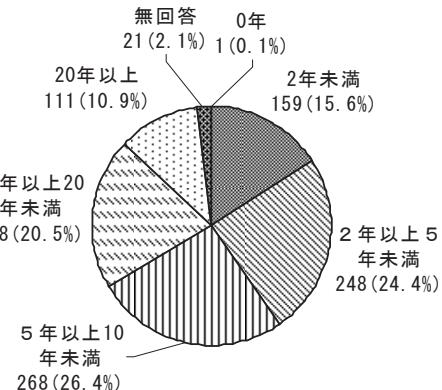
「専門里親」は、2年～5年が66(42.6%)で最も多い。5年～10年が37(23.9%)。2年未満が29(18.7%)である。専門里親は制度そのものが新しく(平成14年)また、2年ごとの区切りがあるためと思われる。

「ファミリーホーム」は全体で20件であるが、2年未満と5年～10年とともに8(19.5%)、2年～5年が3(7.3%)、20年以上が1(2.4%)あった。

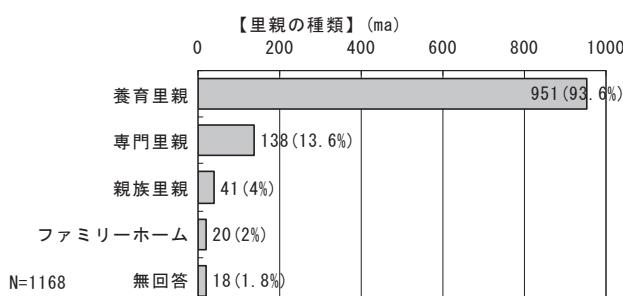
【ファミリーホーム年数】(sa) N=41



【合計年数】(sa) N=1016



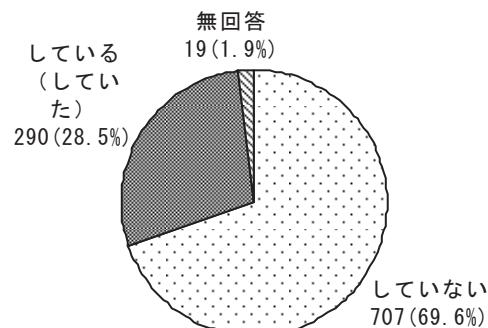
問4 里親の種類 (一人が種類の異なる複数種の里親をやる場合があるが、複数回答)



養育里親が圧倒的に多く951人(93.6%)。専門里親138(13.6%)。親族里親41(4.0%)。ファミリーホームは20(2.0%)である。回答数の合計は無回答(18)を除いて、1150件である。

問5 回答者または配偶者の障害に関わる職業経験の有無

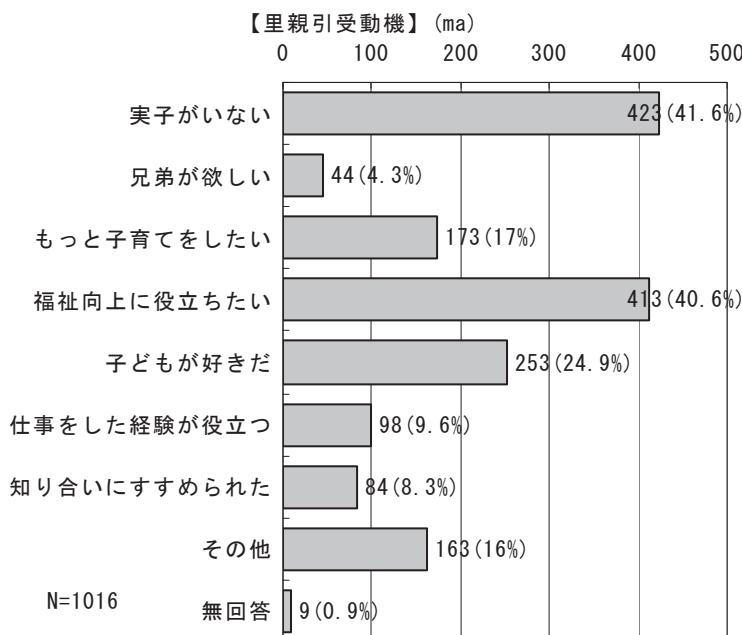
【障害の仕事経験】(sa) N=1016



経験あり290人(28.5%)、経験なし707人(69.6%)である。30%弱の人が経験しているのは高い数字であるが、このアンケートの性質上、回答を寄せた人が障害福祉に関心の深い人たちであったからかもしれない。

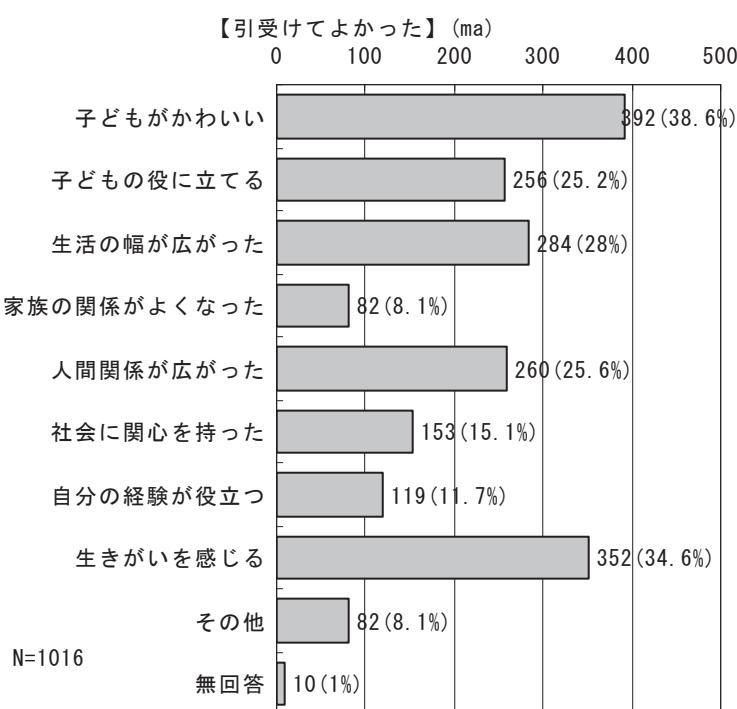
2. 里親の現状と意識

問6 里親を引き受けた動機 (複数回答)



「実子がない」423、「子どもの福祉向上に役立たい」413がともに40%を超えて突出している。「子どもが好きだ」が253(24.9%)。「実子はいるがもっと子育てをしたい」173(17.0%)。「その他」163(16.3%)。その他の記述の中には、表現は違うが「子どもの福祉向上に役立たい」にあたるもののが多数あった。実子の有無に関わらず子どもが好きで子育てに意欲的な自分を、子供の福祉向上に役立てたいという子ども中心の積極的な人間像が見える。まさに子どもを育てるのに最適な人たちであることがわかる。平成20年3月末現在で里親登録数7934、委託里親2583である。里親を希望しその要件を満たし、登録を完了しながら、未委託の人が5152人いる。登録里親の3人のうち2人が子どもを委託されていないのである。「里親を引き受けた動機」に現れた里親像は子育てに非常に積極的である。委託が進まない原因を精査する必要があるだろう。

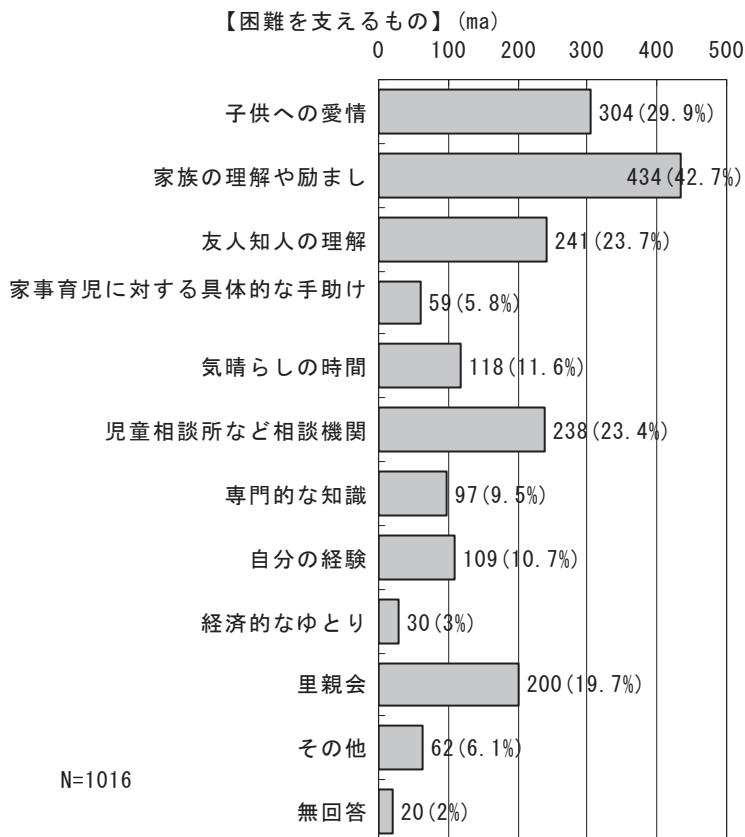
問7 里親を引きうけてよかったですと感じていること (複数回答)



「子どもがかわいい」392人(38.6%)、「生きがいを感じる」352人(34.6%)が突出している。「生活の幅が広がった」「子どもの役に立てる」「人間関係が広がった」がそれぞれ25%以上である。その他では「自分自身が成長した」が多い。「半年たつが問題行動ありでまだよかったですと感じられない」がその他の記述に一件あった。無回答が10人あり、単なる記入漏れか、或いはよかったですと感じることが無いのか気になる。

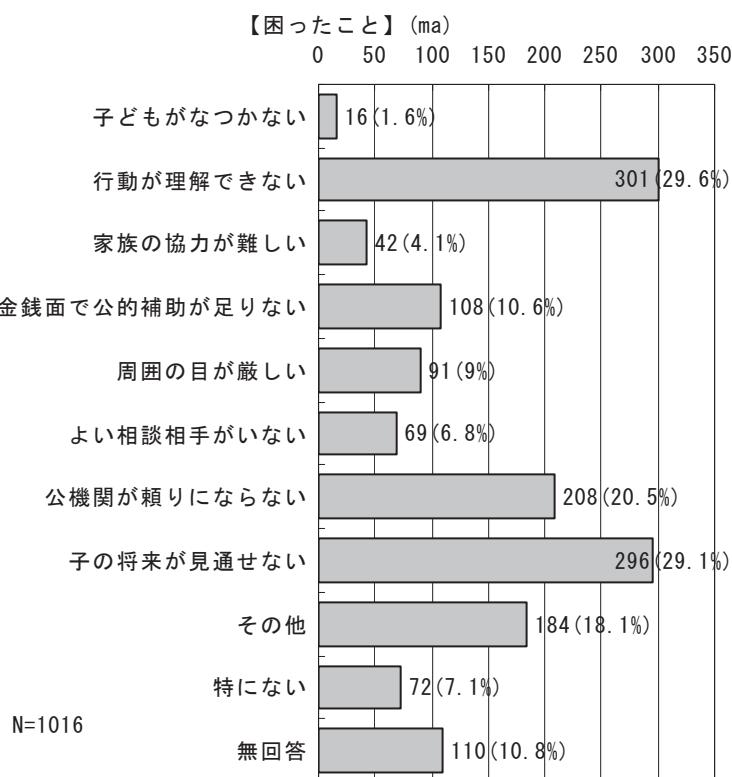
I 集計結果の解説 その①

問8 里親を引き受けて予想外に困ったこと (複数回答)



「子どもの行動が理解できない」(301)、「子どもの将来が見通せない」(296)など、子どもに関することが1位で、ともに約30%。次に「公的機関が頼りにならない」208(20.5%)、「金銭面で公的補助が足りない」108(10.6%)など、行政の力不足や制度面の不備に起因するものが続く。「周囲の目が厳しい」(9%)「よい相談相手がいない」(6.8%)「家族の協力が得られない」(4.1%)などは、身近な人間関係の難しさをあらわしている。その他が4位で非常に多く、具体的な記述も多岐にわたったが、「実親との関係困難さ」、「思春期の難しさ」、「学校・病院・銀行などの里親認知の低さ」、「家事処理の難しさ」などがあった。72人(7.1)が「予想外の困難は特に無い」と答えている。

問9 | 困難にぶつかったとき、何に支えられるか（複数回答）

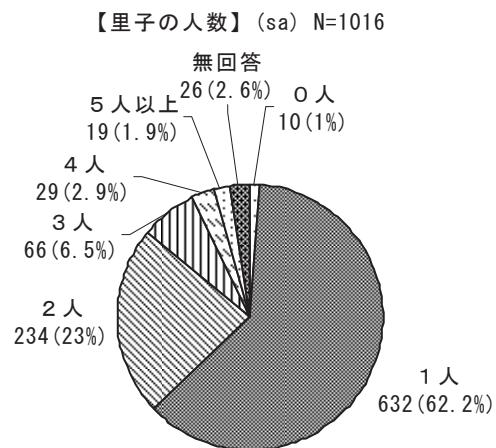


「家族の理解や励まし」434(42.7%)が突出している。「子どもへの愛情」304(29.9%)が続く。「友人知人の理解やアドバイス」「児童相談所などの相談機関」「里親会」など相談相手がそれぞれ20%台。「気晴らし」「専門的な知識」「自分の経験」などが10%前後。その他には「信仰」をあげたものもあった。

3. 委託児の状況

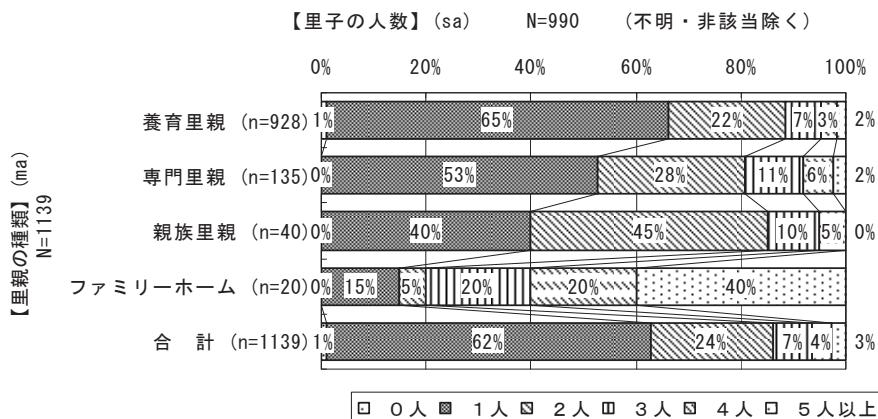
問10 委託児の人数 (現在委託されている子どもの人数)

「1人」が圧倒的に多く632(62.2%)、「2人」が234(23.0%)。「3人」が66(6.5%)である。「4人以上」の48件のうち、ファミリー・ホームは12件であり、養育里親、専門里親、親族里親として、個人で4人以上の委託を受けている家庭があることがわかる。ファミリー・ホーム、親族里親、専門里親、養育里親の順に複数の委託児を受け入れている割合が高い。本調査に答えた1016人の里親が養育する委託児童数は1182+である。



【里親の種類別委託児の人数】

	養育里親	専門里親	親族里親	ファミリー・ホーム	無回答	非該当
0人 (n=10)	10	0	0	0	0	0
1人 (n=632)	604	71	16	3	10	0
2人 (n=234)	208	38	18	1	3	0
3人 (n=66)	61	15	4	4	1	0
4人 (n=29)	28	8	2	4	0	0
5人以上 (n=19)	17	3	0	8	2	0
無回答 (n=26)	23	3	1	0	2	0
合計 (n=1039)	951	138	41	20	18	23



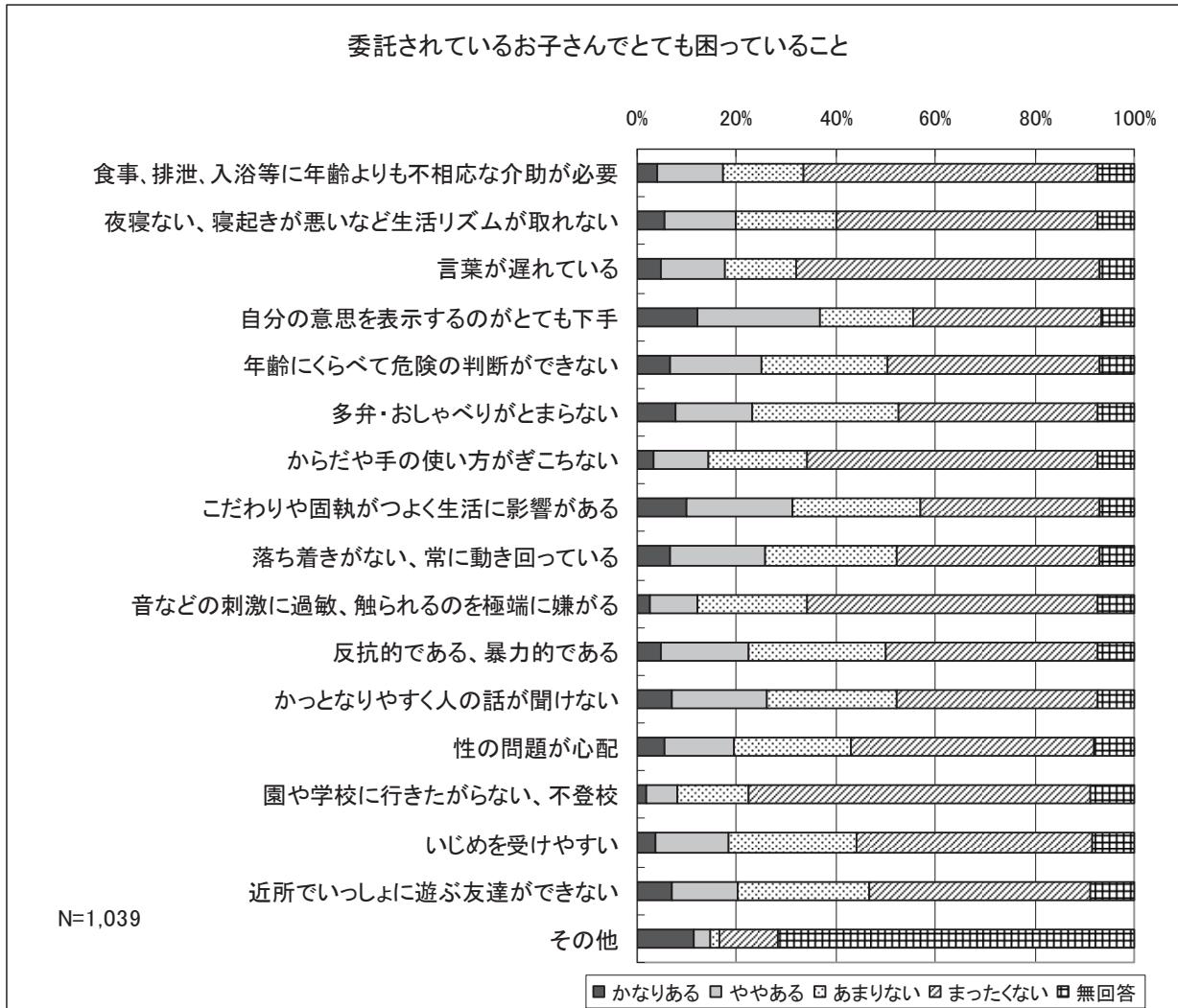
問11 | 委託児でとても困っていること（複数回答）

複数の委託を受けている場合はもっとも困っている一人について答えるか、調査票をコピーして複数児について答えるかのいずれかを選んでもらい、結果として1039児について回答を得た。

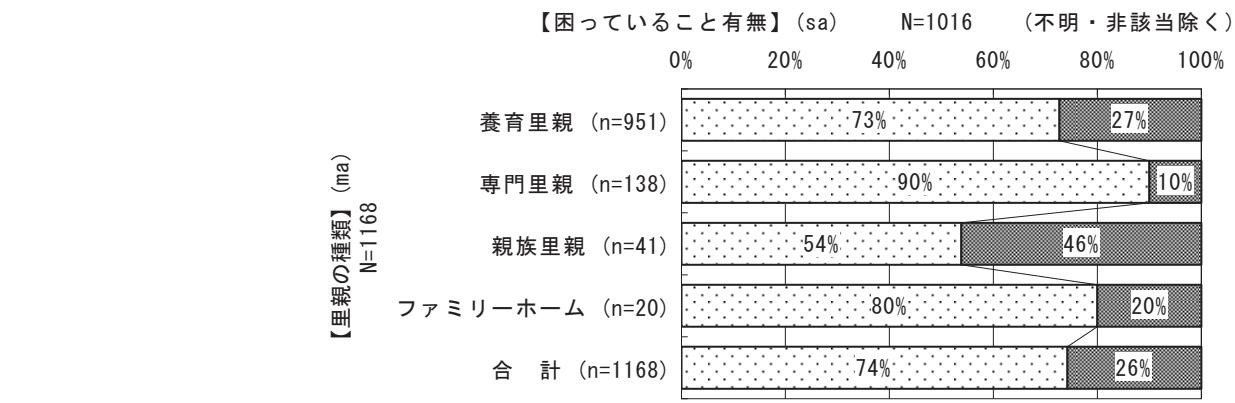
困っていることが個人に属する問題である場合（個人因子）について16項目について質問した。ある（かなりある、ややある）は「自分の意志を表示するのがとても下手」が383で最も多く、「こだわりや固執がつよく生活に影響がある」「かっとなりやすく人の話を聞けない」「年齢に比べ

て危険の判断が出来ない」「落ち着きが無く常に動き回っている」「多弁・おしゃべりがとまらない」「反抗的である・暴力的である」などの順で多かった（333～233）。どの項目も「かなりある」は「ややある」を大きく下回り、2対1、3対1以下の対比であった。その他が151あり「信頼関係が希薄」「うそ・ごまかし」「盗癖」「暴力的」「パニック」他であった。無回答が多いのは、「子どもはこんなもの」ととらえ「とても困っていること」と感じていない場合が多いのかもしれない。

委託されているお子さんでとても困っていること

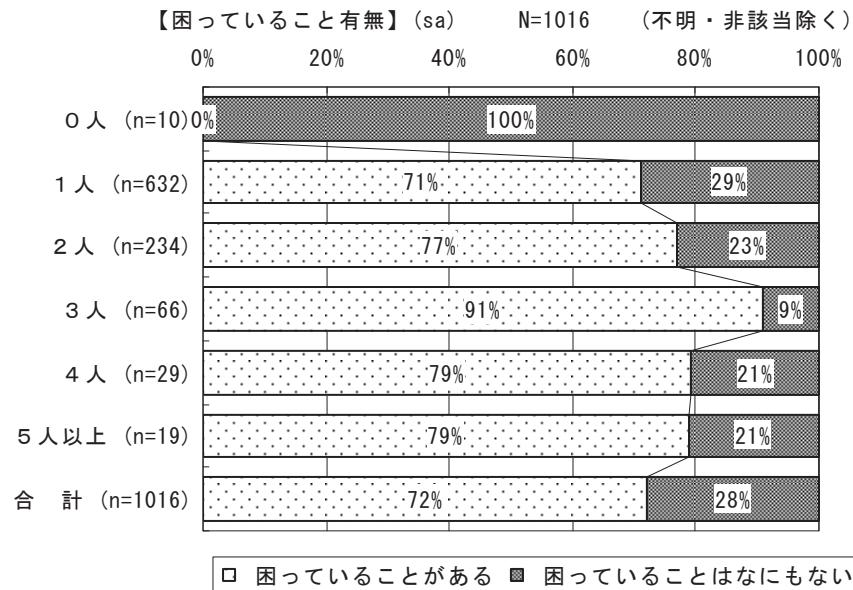


I 集計結果の解説 その①



委託児の人数別の困っていることの有無では、委託児の人数に関わらず、いずれも7割以上が困っていることがあると回答しているが、とくに委託児の数が3人では困っていることがあるの割合が91%と高くなっている。

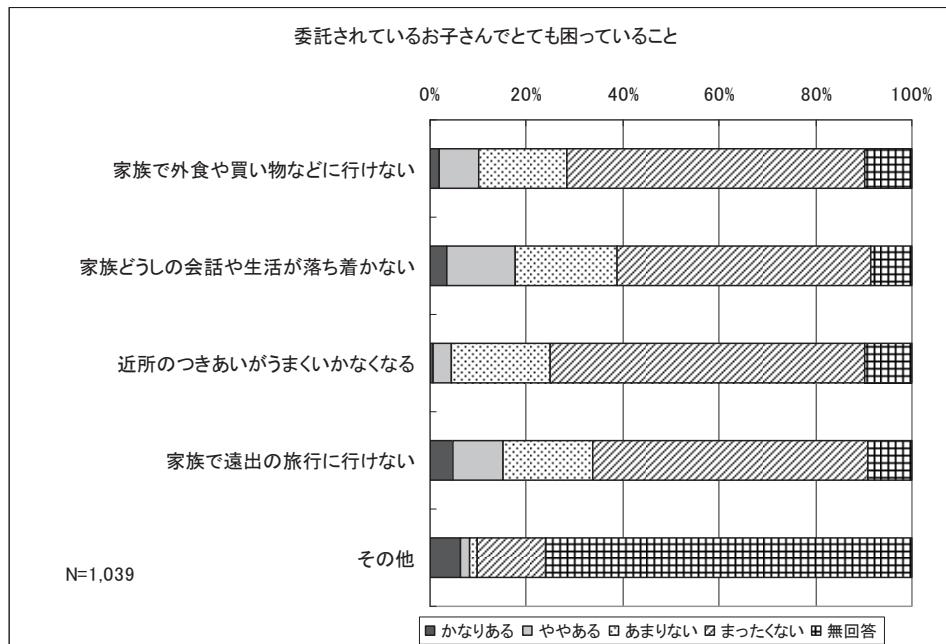
【里子の人数】(sa)
N=1016



問11 あなたの家族がとても困っていること(複数回答)

委託児の行動などで家族が影響される困難について4項目について聞いた。ある(かなりある、ややある)は、「家族どうしの会話や生活が落ち着かない」が182(19.2%)、「家族での遠出の旅行に行けない」157(16.62%)、「家族で外食や買い物などに行けない」106(11.3%)、「近所の付き合いがうまく行かない」47(5.1%)、の順であった。このうち「か

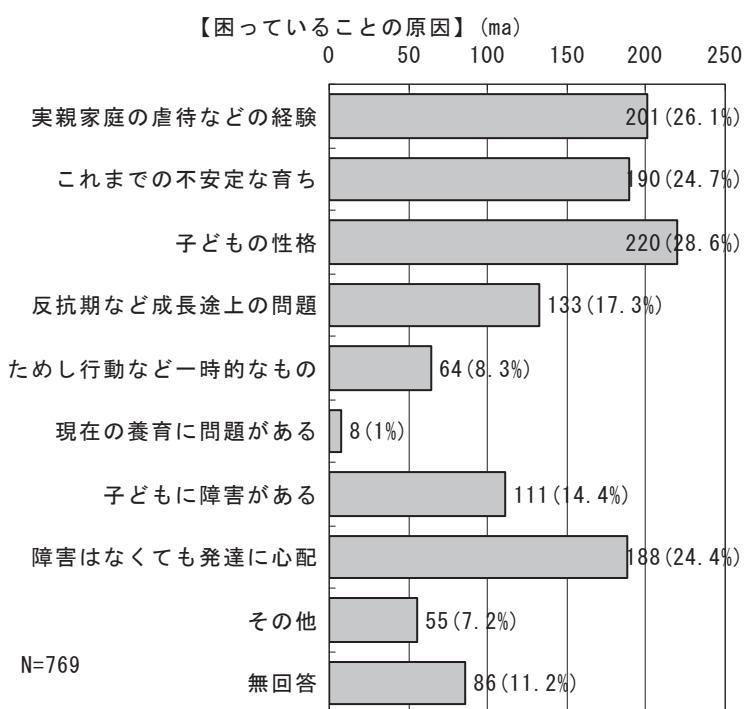
なりある」は少なく合計で111、「ややある」の合計は368であった。「その他」が85あり、記述には「家の中で物がなくなる」「家を空に出来ない、鍵を渡すことに不安がある」「気が休まらない。家族内で言い争いが多い」「預けるところがない」など深刻なものがあった。



問11-1 困っていることの原因(複数回答)

困っていることが一つでもあると答えた人に、その原因がどこにあると思うかを聞いた。

最多は「子どもの性格」220である。「実親家庭の虐待など不幸な経験」「乳児院や養護施設などの不安定な育ち」など生育過程の問題と捉えたものが合計391。「障害とはいえないでも発達に心配がある」が188、「子どもに障害がある」が111、合計299人が子どもの発達障害に着目している。「反抗期」「ためし行動」など一時的なものと捉えたもの197。「無回答」が86と他の質問項目に比べ多くなっているのは、日常的な子育ての中で困ることがあっても、あえてその原因を探る意識や必要を感じないためだろうか?「子どもの性格」と捉えている場合であっても発達障害が疑われる可能性もあり、困っている内容と里親の推定原因との相関関係を専門的な見地から精査する必要があるだろう。

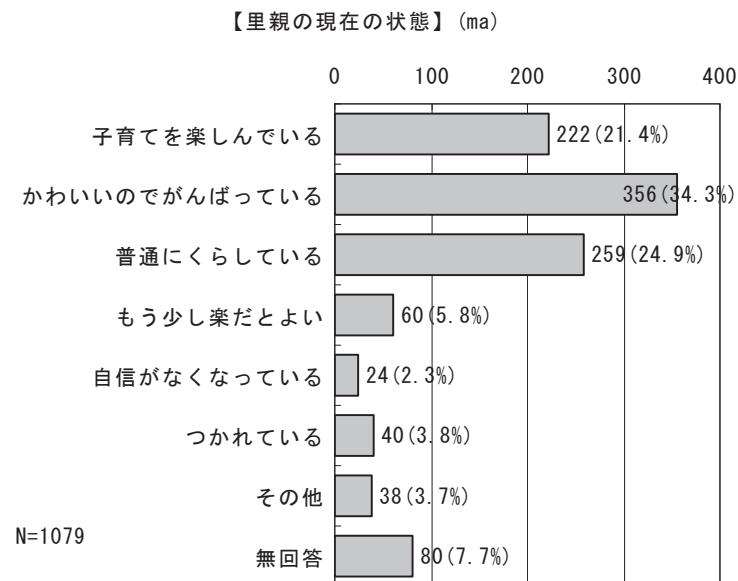


I 集計結果の解説 その①

問12 里親自身の現在の状況（複数回答）

子どもの状況(困っていることの有無と、その原因)について聞いたうえで、改めて困っていることがある人ない人の両方に里親自身の現在の状況をきいた。

「大変だが子どもがかわいいのでがんばっている」と答えた人が356人(34.3%)、「普通に暮らしている」259(24.9%)、「子育てを楽しんでいる」222(21.4%)である。全体にはパワフルで明るい里親像が見える。しかし数は少ないが「もう少し楽だとよい」「つかれている」「自信がなくなっている」という回答が合計142ある。その他の記載にも、「大変だが使命を感じて…」など「大変さ」を強調する記載が多くあつた。「早く手放した。よそへ行ってほしい」など限界を越えていると思われるものもあった。無回答の原因は不明だが、1割以上の里親が委託児を抱えながら、相当な疲れと困難を感じているということは、里親、委託児双方にとって一刻も放置できない重大な問題である。



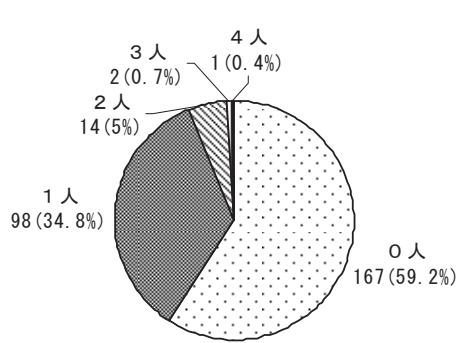
4. 「障害がある」あるいは「発達に心配がある」子どもの状況

問13 一人の里親が養育する子の人数

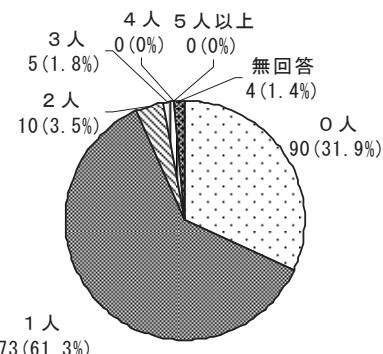
1人の「障害がある子」を養育する里親98人、2人を養育する里親14人、3人を養育する里親が2人、4人の障害児を養育する里親1である。「障害がある子」を養育する里親の総数は115である。

1人の「発達に心配のある子」を養育する里親173人、2人を養育する里親10人、3人を養育する里親5人である。「発達に心配がある子」を養育する里親総数は188人である。

【障害】(sa) N=282



【発達】(sa) N=282



問14 | 回答対象の児童（障害がある子について答えるのか、心配のある子について答えるのか）

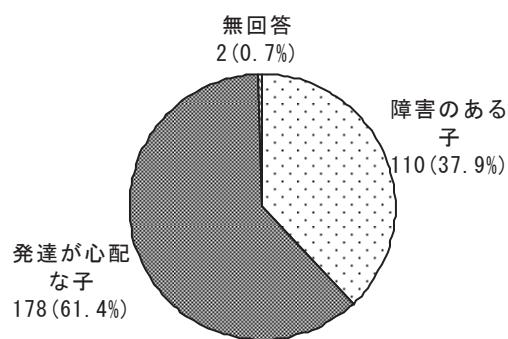
（障害がある子について答えるのか、心配のある子について答えるのか）

障害のある子について答える人110人 発達に心配のある子について答える人178人。

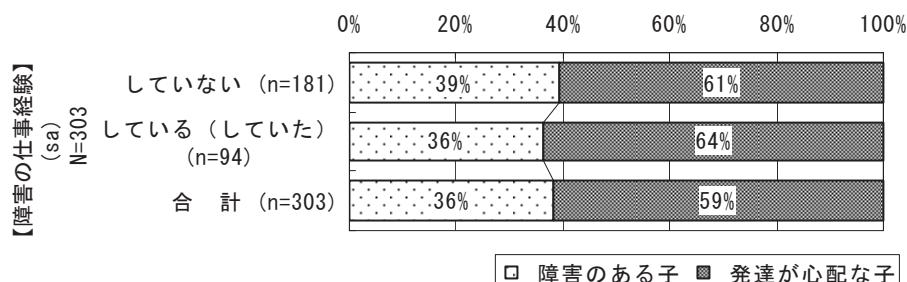
無回答2を含めて本調査の中で「障害」又は「発達に心配がある」児童数は290である。本調査に回答した1016人の里親が養育する委託児数は1182+であるから、「障害」+「心配あり」の子どもの比率は全体の約25%である。

里親の、障害に関わる職業経験の有無別に、回答対象となる「障害のある子」、「発達に心配のある子」の割合をみると、障害に関わる職業経験の有る人も無い人も、「障害のある子」が約4割、「発達に心配のある子」が約6割となっている。

【回答対象】(sa) N=290



【回答対象】(sa) N=288 (不明・非該当除く)



「障害のある子」、「発達に心配のある子」別の困っていることの有無では、ほぼ全員が「困っていることがある」と回答している。

「障害のある子」、「発達に心配のある子」別の現在の状況では、「障害のある子」、「発達に心配のある子」とともに、「かわいいので頑張っている」「子育てを楽しんでいる」という回答が多いが、「障害のある子」では「もう少し楽だとよい」とする人が14%、「疲れている」が9%、「発

達が心配な子」では「もう少し楽だとよい」とする人が8%、「疲れている」が7%、「自信がなくなっている」が6%と不安を抱えている人がいる。(現在の状態は複数回答であり、「かわいいので頑張っている」「子育てを楽しんでいる」と回答した人の中にも、「もう少し楽だとよい」「疲れている」「自信がなくなっている」と回答している人がいることに留意が必要である。)

【「障害のある子」「発達に心配のある子」別「困っていることの有無】

	困っていることがある	困っていることはなにもない	無回答
障害のある子 (n=110)	105	1	4
発達が心配な子 (n=178)	173	0	5
不 明 (n=2)	2	0	0
合 計 (n=290)	280	1	9

I 集計結果の解説 その①

【「障害のある子」「発達に心配のある子」別「現在の状況】

実数(人)	子育てを楽しんでいる(n=49)	かわいいのでがんばっている(n=175)	普通にくらしている(n=0)	もう少し楽だとよい(n=30)	自信がなくなっている(n=11)	つかれている(n=23)	その他(n=15)	無回答(n=7)	合計(n=290)
障害のある子	24	63	0	15	1	10	2	4	110
発達が心配な子	25	111	0	15	10	12	13	3	178
無回答	0	1	0	0	0	1	0	0	2
構成比(%)	子育てを楽しんでいる(n=49)	かわいいのでがんばっている(n=175)	普通にくらしている(n=0)	もう少し楽だとよい(n=30)	自信がなくなっている(n=11)	つかれている(n=23)	その他(n=15)	無回答(n=7)	合計(n=290)
障害のある子	22%	57%	0%	14%	1%	9%	2%	4%	100%
発達が心配な子	14%	62%	0%	8%	6%	7%	7%	2%	100%
無回答	0%	50%	0%	0%	0%	50%	0%	0%	100%

【「障害のある子」「発達に心配のある子」別「とても困っていること】

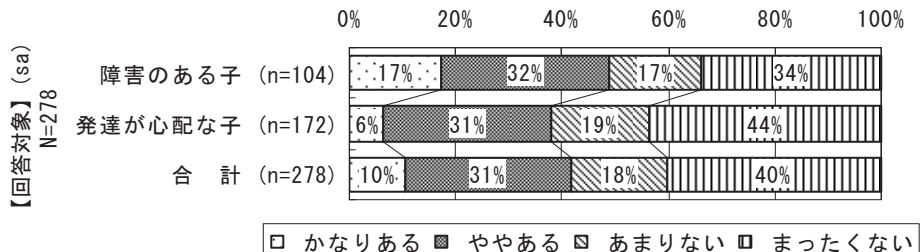
「とても困っていること」を「障害のある子」と「発達が心配な子」と比較する(「かなりある」「ややある」の合計の大きさで比較)と、「障害のある子」に顕著な「とても困っていること」、「発達が心配な子」に顕著な「とても困っていること」、「障害のある子」と「発達が心配な子」に共通の「とても困っていること」の特徴がみられた。

「障害のある子」に顕著な「とても困っていること」としては、【食事排泄入浴等に介助必要】【言葉が遅れている】【意思表示がとても下手】【危険の判断ができない】【からだの使い方がぎこちない】【触られるのを嫌がる】【性の問題が心配】【園や学校に行きたがらない】【いじめを受けやすい】【近所に友達ができない】が挙げられる。

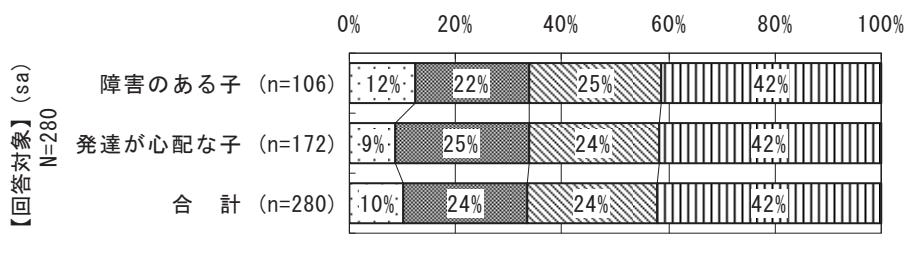
「発達が心配な子」に顕著な「とても困っていること」としては、【反抗的である、暴力的である】【かつとなりやすい】が挙げられる。

「障害のある子」と「発達が心配な子」に共通の「とても困っていること」としては、【生活リズムが取れない】

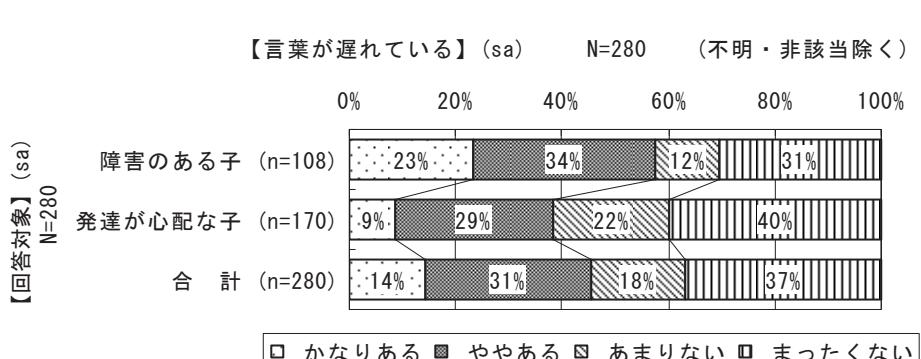
【食事排泄入浴等に介助必要】(sa) N=278 (不明・非該当除く)



【生活リズムが取れない】(sa) N=280 (不明・非該当除く)

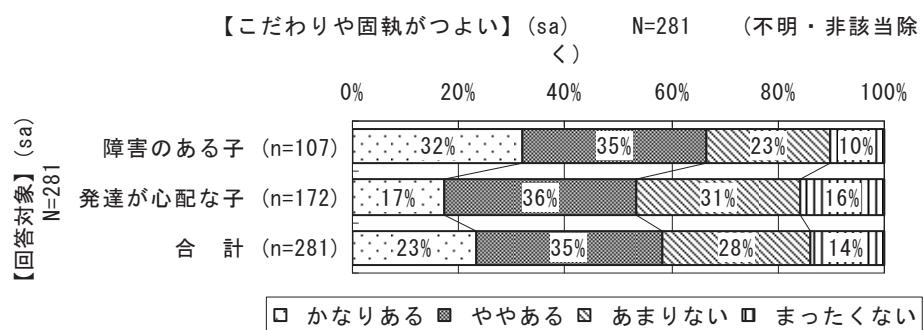
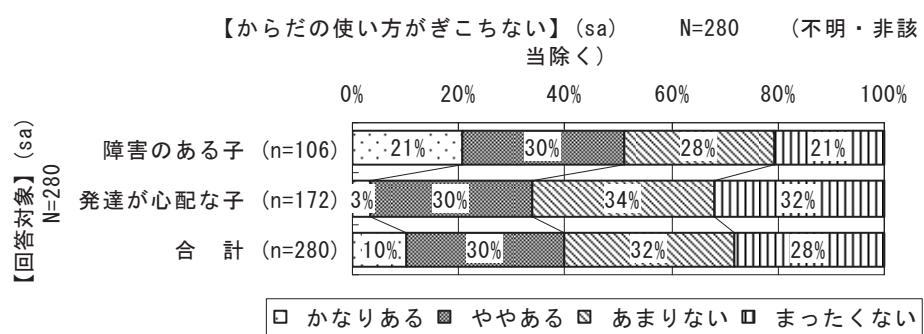
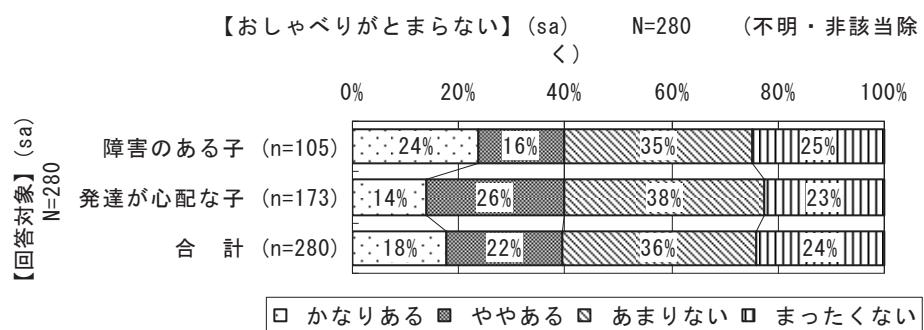
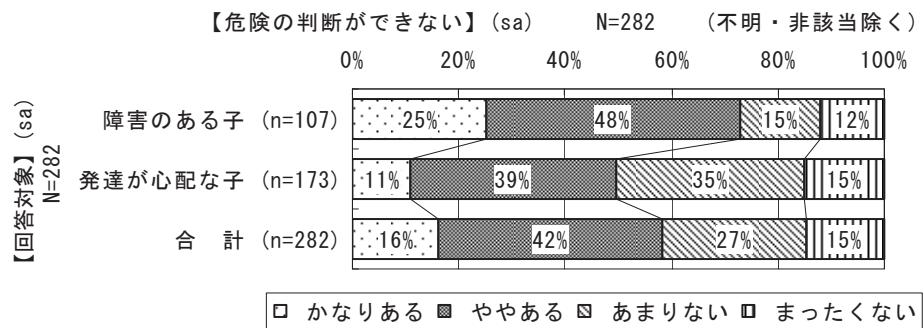
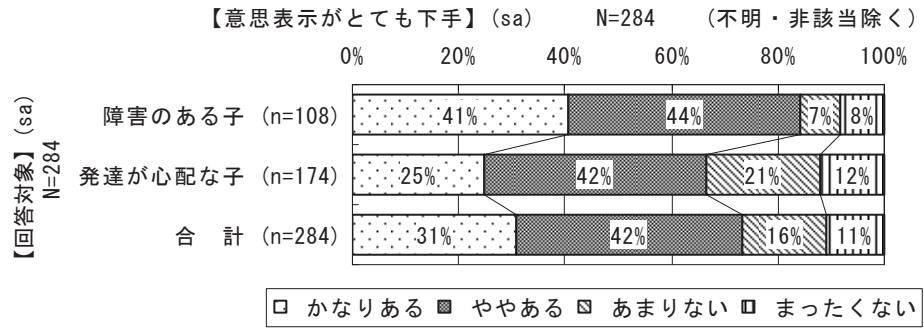


【言葉が遅れている】(sa) N=280 (不明・非該当除く)

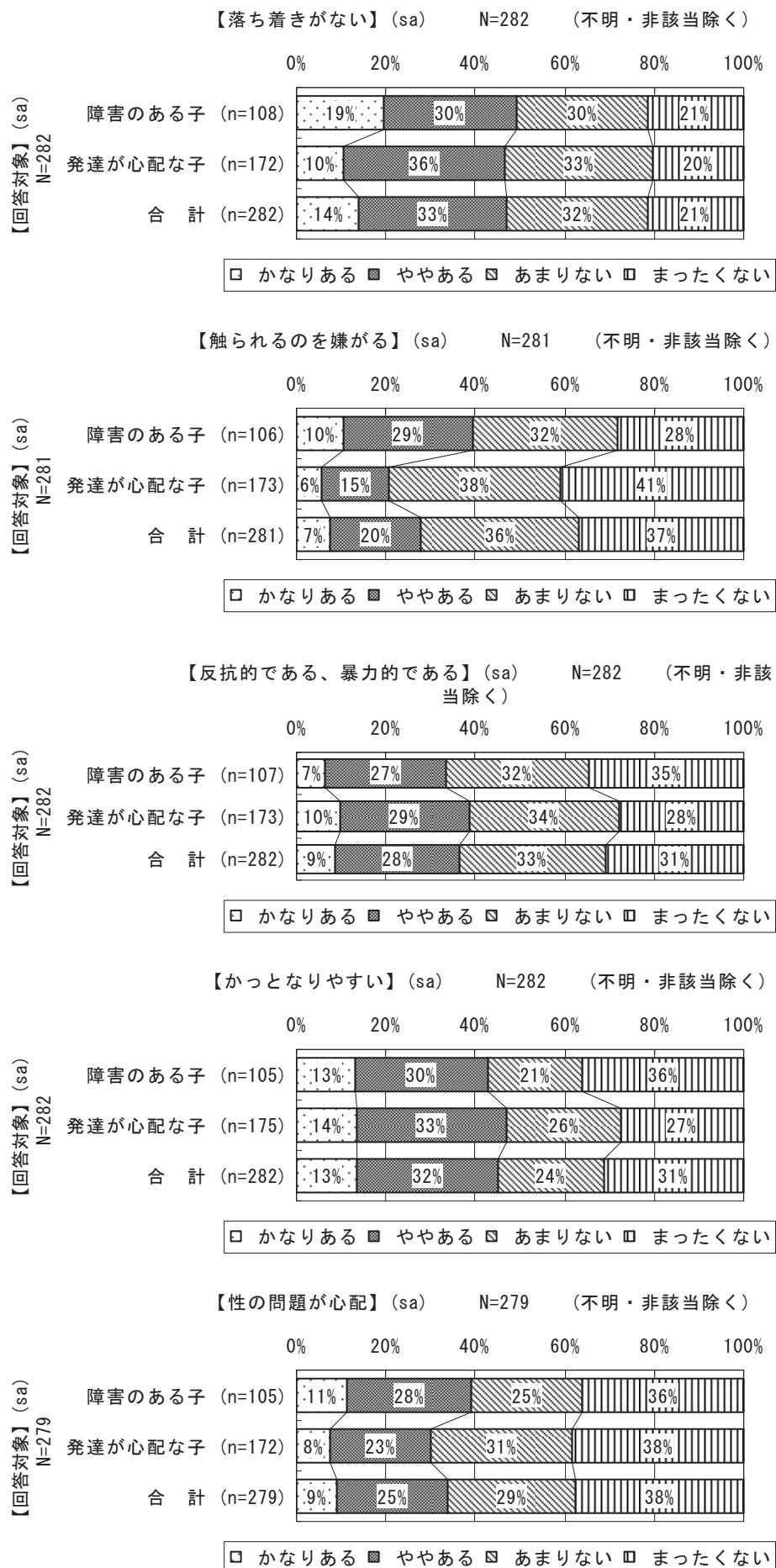


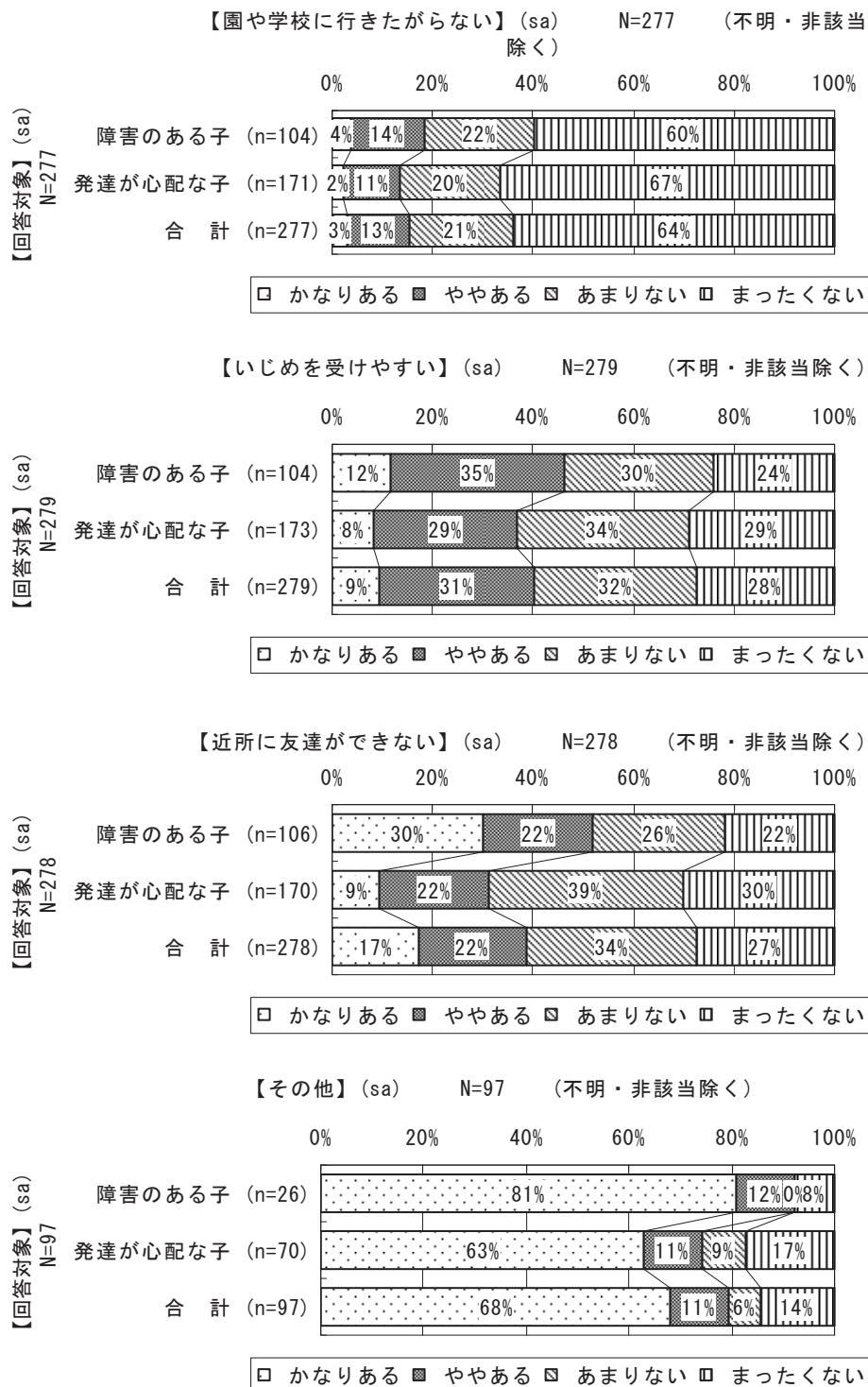
□かなりある ■ややある ▨あまりない ▨まったくない

ムが取れない】【おしゃべりがとまらない】【こだわりや固執がつよい】【落ち着きがない】が挙げられる。



I 集計結果の解説 その①





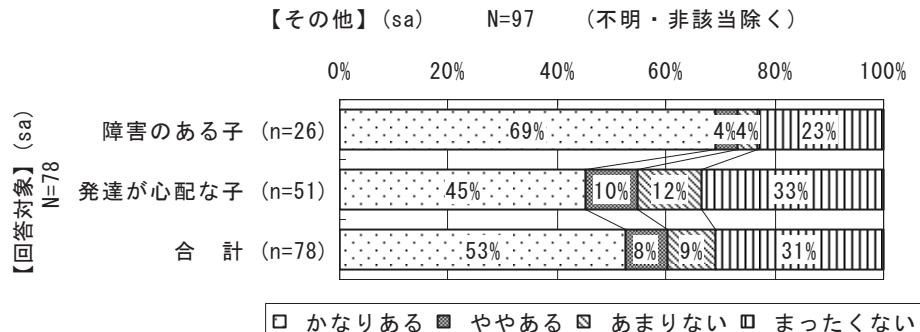
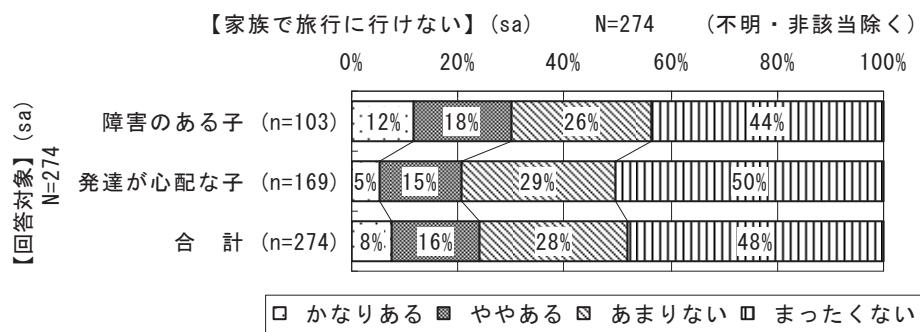
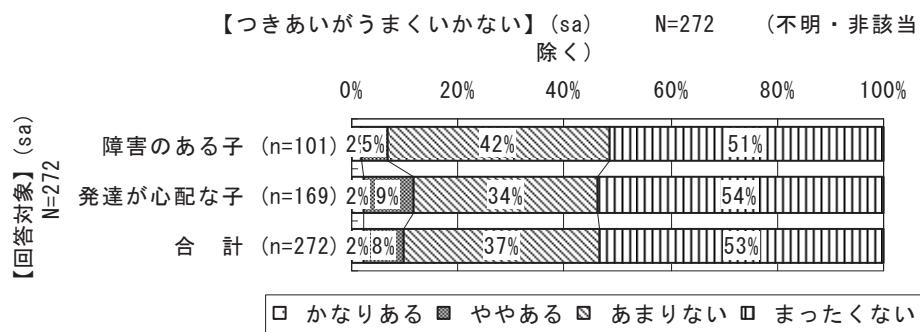
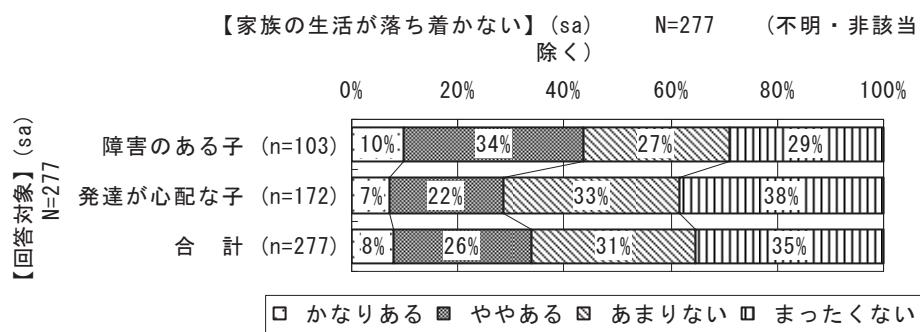
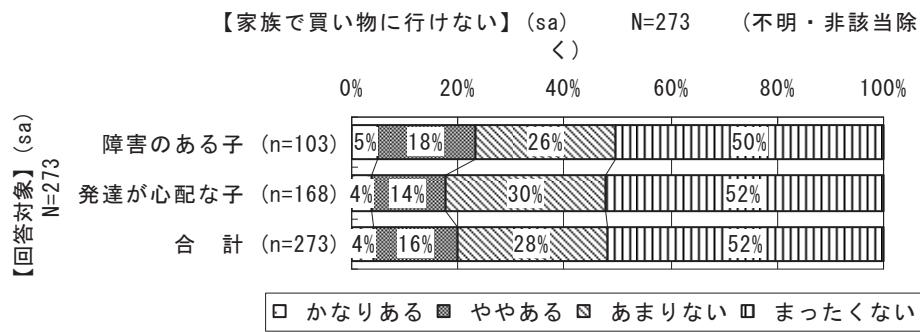
「家族がとても困っていること」を「障害のある子」と「発達が心配な子」とで比較する(「かなりある」「ややある」の合計の大きさで比較)と、「障害のある子」に顕著な「家族がとても困っていること」、「障害のある子」と「発達が心配な子」に共通の「家族がとても困っていること」の特徴がみられた。

「障害のある子」に顕著な「家族がとても困っていること」としては、【家族で買い物に行けない】【家族の生活が落ち着かない】【家族で旅行に行けない】が挙げられる。

「障害のある子」と「発達が心配な子」に共通の「家族がとても困っていること」としては、【つきあいがうまくいかない】が挙げられる。

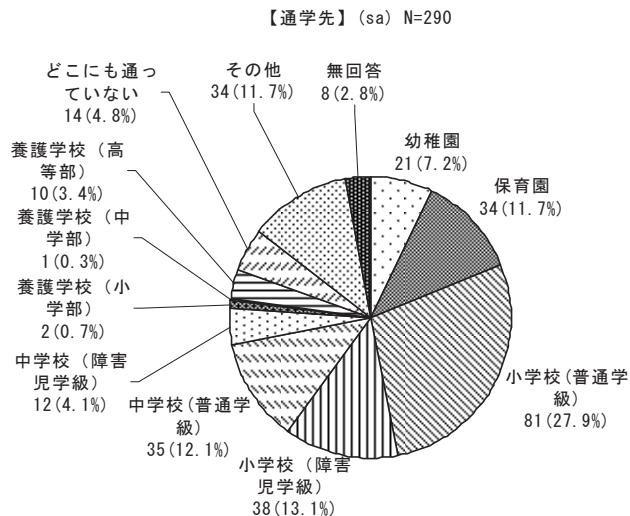
I 集計結果の解説 その①

【「障害のある子」「発達に心配のある子」別「家族がとても困っていること】



問15 通学(園)先

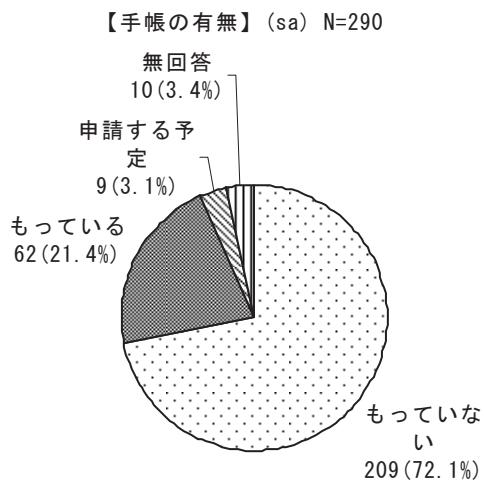
子どもが通う学校などの利用状況をきいた。
保育園、幼稚園、小学校普通学級、中学校普通学級、など通常の子どもの通学(通園)先を利用するものがほとんどであるが、63人(21.6%)が障害児学級、特別支援学校に通っている。「障害のある子」の方が、「発達が心配な子」に比べて障害児学級や養護学校に通園している割合が高いが、「発達が心配な子」でも障害児学級や養護学校に通園している子がみられる。



	幼稚園	保育園	小学校(普通学級)	小学校(障害児学級)	中学校(普通学級)	中学校(障害児学級)	養護学校(小学校部)	養護学校(中学部)	養護学校(高等部)	どこにも通っていない	その他
障害のある子 (n=109)	8.3%	7.3%	21.1%	22.9%	6.4%	7.3%	1.8%	0.9%	7.3%	4.6%	11.9%
発達が心配な子 (n=173)	6.9%	15.0%	33.5%	7.5%	16.2%	2.3%	0.0%	0.0%	1.2%	5.2%	12.1%
合 計 (n=282) 不明を除く	7.4%	12.1%	28.7%	13.5%	12.4%	4.3%	0.7%	0.4%	3.5%	5.0%	12.1%

問16-1 手帳の有無

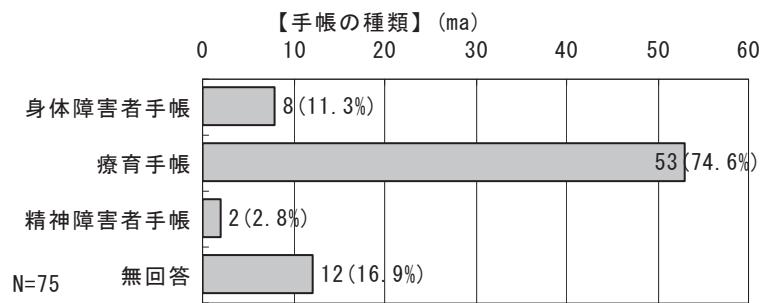
持っていない218(75.2%)、持ついる62(21.4%)。
持っていないもののうち9人は近く申請する予定。



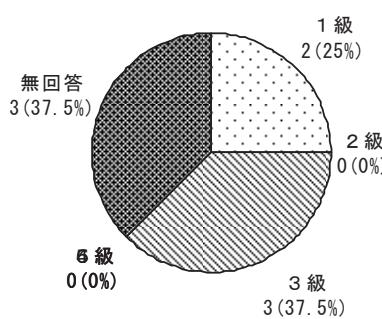
I 集計結果の解説 その①

問16-2 手帳の種類と障害区分

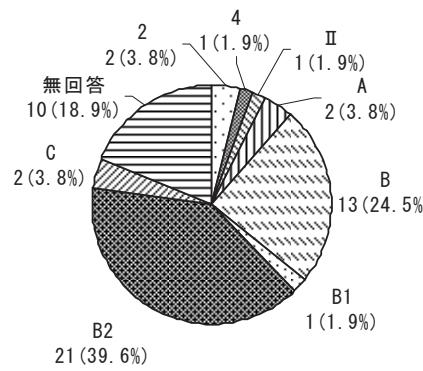
療育手帳が多く53人(74.6%)である。身体障害者手帳8人、精神障害者手帳2人(2.8%)。療育手帳の障害区分はB・B1・B2(中度・軽度)が66.0%である。A(重度判定)3.8%ある。身体障害者手帳は1級が2、3級が3。精神障害者手帳は2級と無回答である。療育手帳の区分に2,4などの回答があったのは、障害者自立支援法の制度利用に用いる障害程度区分との混同があったと思われる。



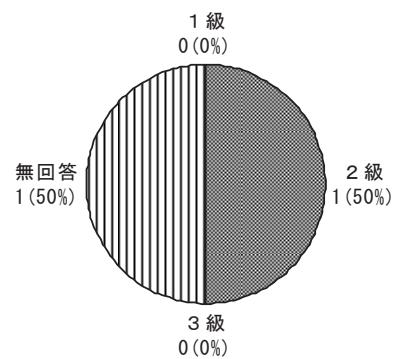
【身体手帳区分】(sa) N=8



【療育手帳区分】(sa) N=53

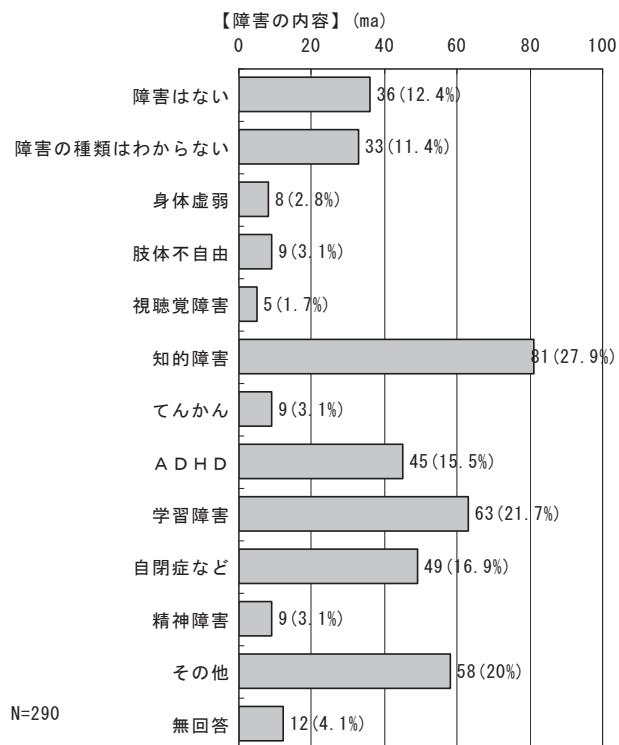


【精神手帳区分】(sa) N=2



問16-3 障害の有無と種類(複数回答)

障害の種類をさらに詳しく聞いた。「知的障害」が27.9%、「学習障害」21.72%、「(自閉症など」16.9%、「ADHD」15.5%と多く、広い意味で発達障害に入る答えが82%あった。「障害がない」12.4%、「障害があるがどれだけわからない」11.4%。その他は20%で、「愛着障害」「難病」などの記載があった。

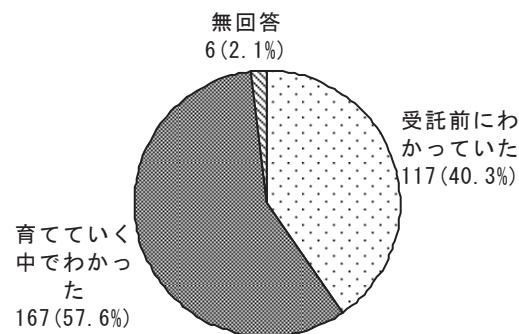


5. 「障害がある子」または「発達に心配のある子」を受託することについて

問17 | 障害あるいは発達の心配がわかった時期

「委託前にわかつっていた」40.3%、「育てていく中でわかつた」57.6%である。障害や発達の心配がわからないままに受託した人が約6割である。一方障害を承知で受託した人が4割いる事実は見逃せない。

【判明時期】(sa) N=290



「障害のある子」、「発達に心配のある子」別の「障害や心配が判明した時期」では、「障害のある子」では、半数以上(54%)が受託前からわかつていたとしている、「発達に心配のある子」では、「育てていく中でわかつた」が65%と多く、「受託前からわかつていた」は33%である。

【「障害のある子」「発達に心配のある子」別「障害や心配が判明した時期】

実数(人)	受託前にわかつていた	育てていく中でわかつた	無回答
障害のある子 (n=110)	59	51	0
発達が心配な子 (n=174)	58	116	4
無回答 (n=2)	0	0	2
合計(n=290)	117	167	6
構成比 (%)	受託前にわかつていた	育てていく中でわかつた	無回答
障害のある子 (n=110)	54%	46%	0%
発達が心配な子 (n=174)	33%	65%	2%
無回答 (n=2)	0%	0%	100%
合計(n=290)	40%	58%	2%

I 集計結果の解説 その①

問18-1 委託前にわかつていた場合に児童相談所からうけた説明 (自由記述)

・ボーダーである・虐待によるものか先天性か不明・自閉症の疑いがある・里親以外の養育は困難なので何とかお願いしたい・発達がゆっくりな子です・実親育児放棄、歩行不良、生活習慣や、学習に偏り・あまり先のことは考えずとりあえず受けけてほしい・文書による心理判定結果、参考図書の紹介・特に無かった などなど106件の記述

があった。詳しい分析は問26.27の自由記述の分析を待つにしても、児童相談所の対応はその場しのぎの感がある。

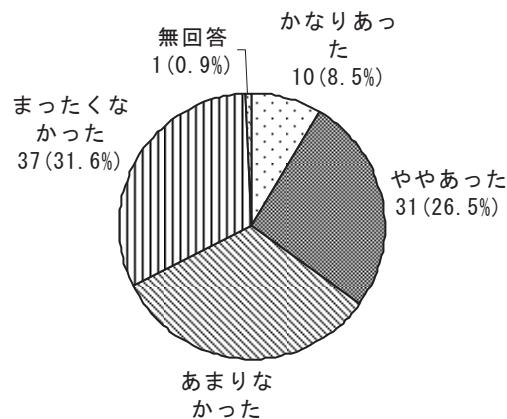
問18-2 受託するのにためらいはあったか

「あまりなかった」32.8%、「全く無かった」31.6%、「ややあった」26.5%、「かなりあった」8.5%である。64.4%がほとんどためらわずに受け入れているのは驚くべき数字である。

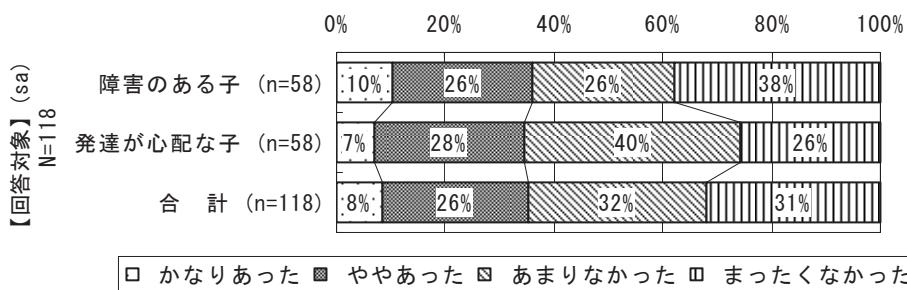
「障害のある子」「発達が心配な子」で比較すると、「あまりなかった」「全く無かった」の合計では差がみられ

ないが、「まったくなかった」では、「障害のある子」では38%、「発達が心配な子」では26%と違いがみられた。

【受託のためらい】(sa) N=117



【受託のためらい】(sa) N=116 (不明・非該当除く)

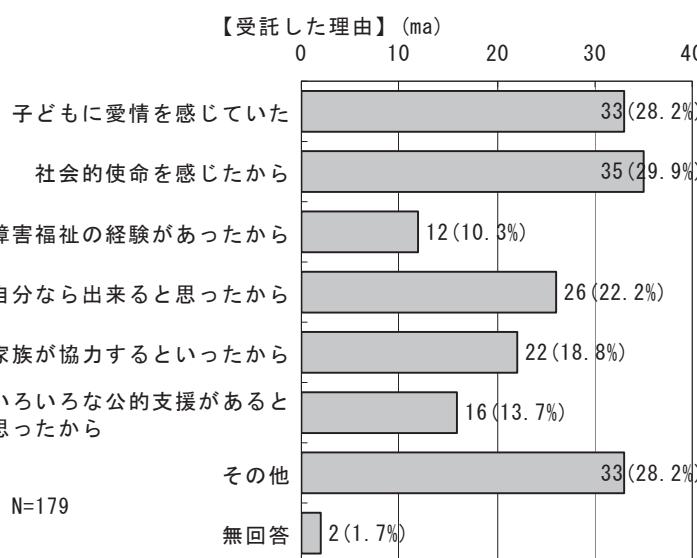


問18-3 | わかつていて受託したのはなぜか (回答2つまで)

「社会的使命を感じたから」29.9%、「子どもに愛情を感じたから」28.2%、「自分ならできると思ったから」22.2%、「家族が協力するといったから」18.8%などが上位である。その他も多いが、表現は異なっても選択肢のどれかに当てはまるものがほぼ平均していた。「どんな子でも断る気持ちはない」「実子は選べない」「信仰」「縁」などもあった。社会的使命を認識し目の前の子どもに愛情を感じ、自分の力を信じ、家族の協力をバックに、障害のある子・発達に心配のある子を引き受ける里親の姿勢には頭が下がる。しかし一方「公的支援があると思ったから」は14%とあまり高くない。精神力で突き進む危惧を感じさ

せる回答ともいえる。「障害福祉の経験があったから」が10%である。

「障害のある子」「発達が心配心がある子」別の「わかつていて受託した」理由では、「障害のある子」では、「社会的使命を感じたから」が32.7%と最も多く、次いで、「家族が協力するといったから」25.5%、「子どもに愛情を感じていたから」23.6%、が多い。「発達が心配な子」では、「自分なら出来ると思ったから」33.3%が最も多く、次いで、「子どもに愛情を感じていたから」31.6%、「社会的使命を感じたから」24.6%、が多い。



【「障害のある子」「発達が心配な子」別分かっていて受託した理由】

	子どもに愛情を感じていた	社会的使命を感じたから	障害福祉の経験があったから	自分なら出来ると思ったから	家族が協力するといったから	いろいろな公的支援があると思ったから	その他
障害のある子 (n=55)	23.6%	32.7%	14.5%	12.7%	25.5%	10.9%	25.5%
発達が心配な子 (n=57)	31.6%	24.6%	7.0%	33.3%	14.0%	15.8%	29.8%
合 計 (n=117)	27.7%	29.4%	10.1%	21.8%	18.5%	13.4%	27.7%

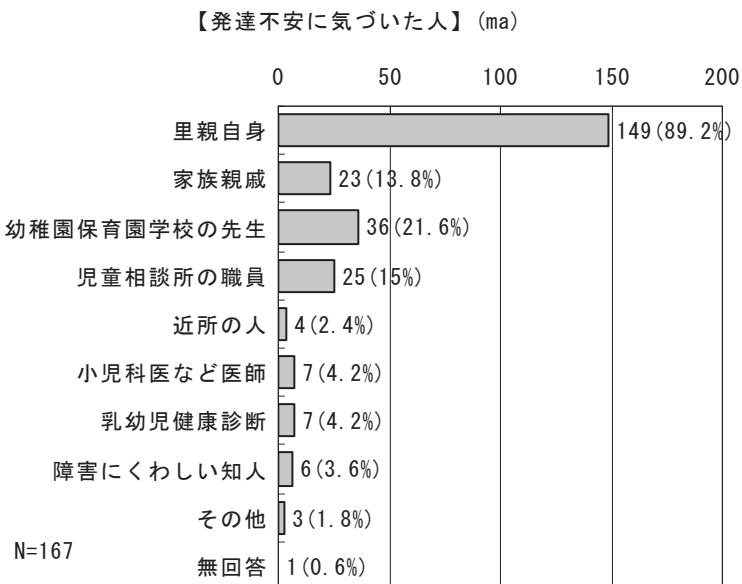
問18-4 | 引き受けるに当たって特別に希望したこと (自由記述)

「困ったときの専門家のアドバイス」「進路についての児相のかかわり」「更なる社会的援助」「レスパイと」「困難なときのアドバイスやネットワーク」「市の福祉課の協力」など49件の記載があった。

I 集計結果の解説 その①

問19 | 育てて行く中で障害あるいは発達に心配に気づいたのは誰か (複数回答)

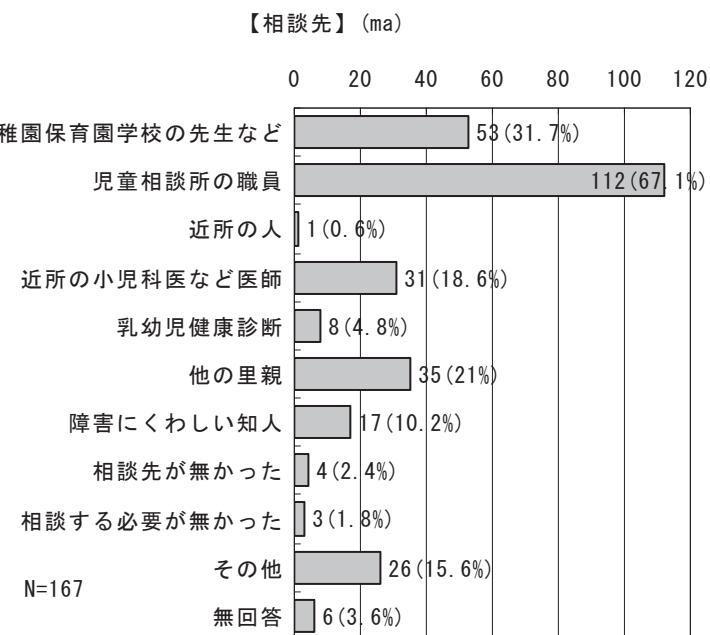
「里親自身」が89.2%で群を抜いて多い。「幼稚園・保育園・学校の先生」が21.6%。「児童相談所の職員」は15.0%あまり多くない。やはり日常的な接触度の違いであろうか。「近所の小児科医や乳幼児健診」はそれぞれ4.2%で少ない。



問19-2 | その時誰に相談したか (複数回答)

「児童相談所の職員」が67.1%で最も多い。「幼稚園保育園学校の先生」が31.7%。「他の里親」も21.0%ある。「近所の小児科医など医師」18.6%。「障害に詳しい人」10.2%である。その他には「子育て支援センター」「地域療育センター」「子どもがいた施設の職員」など。「相談先が無かった」が4人あった。

障害に詳しい人や専門家が気がついた場合は、専門家に相談する割合が高く、次いで児童相談所に相談する割合が高い。里親自身や親族など、障害に詳しくない人が気がついた場合は、児童相談所に相談する割合が高い。



【気づいた人別相談相手-順位】

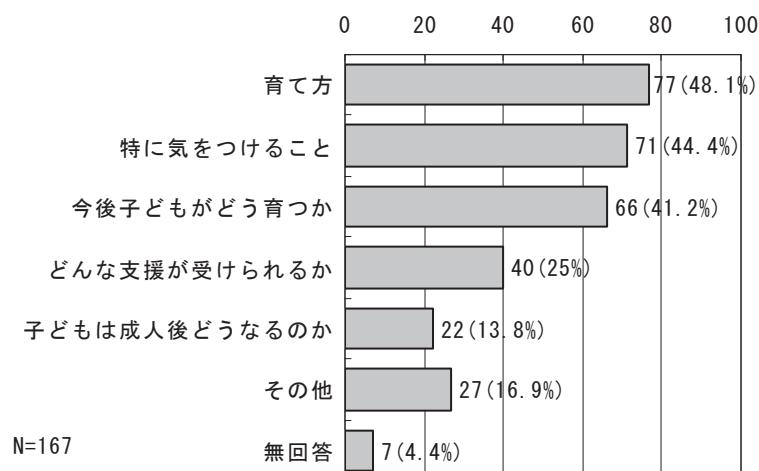
	幼稚園保育園学校の先生など	児童相談所の職員	近所の人	近所の小児科医など医師	乳幼児健康診断	他の里親	障害にくわしい知人	相談先が無かった	相談する必要が無かつた	その他
里親自身 (n=145)	2	1	10	4	7	3	6	8	9	5
家族親戚 (n=22)	2	1	7	3	7	4	7	7	5	5
幼稚園保育園学校の先生 (n=35)	2	1	9	3	7	5	6	7	9	3
児童相談所の職員 (n=25)	2	1	9	3	7	3	5	9	7	6
近所の人 (n=4)	3	1	5	5	5	5	3	5	5	2
小児科医など医師 (n=7)	3	1	7	2	7	5	6	7	7	3
乳幼児健康診断 (n=7)	3	2	7	4	1	5	7	7	7	5
障害にくわしい知人 (n=6)	5	2	7	5	7	2	1	7	7	4
その他 (n=3)	2	1	4	2	4	4	4	4	4	4
合 計 (n=254)	2	1	10	3	7	4	6	8	8	5

問19-3 どなことについて相談したか (複数回答)

「育て方」48.1%、「特に気をつけること」44.4%など育てについての相談内容が多い。「今後子どもがどう育つか」41.2%、「子どもは成人後どうなるのか」13.8%など子どもの将来についての相談も目立つ。「どんな支援が受けられるか」など公的支援についての相談は25.0%。その他は「進学先の選択について」「診断を受けるべきか」「問題行動の理由」他。

相談相手別の相談内容は、幼稚園・保育園・学校の先生、近所の小児科医などの医師、障害に詳しい人への相談では、「特に気をつけること」が最も多く、児童相談所の職員、乳幼児健康診断、他の里親、障害に詳しい人への相談では、「育て方」が最も多い。

【相談内容】(ma)



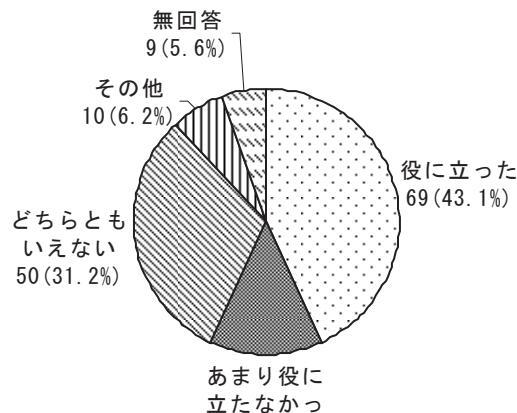
I 集計結果の解説 その①

問19-4 その答えは役に立ったか

「役に立った」が43.1%で半分以下である。「あまり役に立たなかった」が13.8%あり、「どちらともいえない」と答えをためらう人31.3%を合わせると、45.1%の人が積極的な評価をしていない。途中で障害や発達の心配に気づいた人が直面する問題の切実さを考えると、この数字は今後の重要な課題として受け止める必要がある。その他のなかには「病院を紹介してくれた」「そんなはずはないといわれた」「突き放された」「育て方が悪いと他の里親にいわれ辛かった」などがあった。

相談内容別に役に立ったかどうかでは、「今後子どもがどう育つか」を除いて「役に立った」が最も多いが、「どちらともいえない」割合も比較的多い。「今後子どもがどう育つか」では「どちらとも言えない」が最も多く、「あまり役に立たなかった」も20.6%と高い。

【役に立ったか】(sa) N=160



【相談内容と役に立ったか否か】

	役に立った	あまり役に立たなかつた	どちらともいえない	その他
育て方 (n=75)	45.3%	13.3%	36.0%	5.3%
特に気をつけること (n=69)	47.8%	7.2%	42.0%	2.9%
今後子どもがどう育つか (n=63)	34.9%	20.6%	39.7%	4.8%
どんな支援が受けられるか (n=40)	65.0%	10.0%	22.5%	2.5%
子どもは成人後どうなるのか (n=22)	54.5%	4.5%	31.8%	9.1%
その他 (n=26)	42.3%	19.2%	19.2%	19.2%
合 計 (n=298)	46.6%	12.8%	34.9%	5.7%

6. 「障害がある子」および「発達に心配のある子」の養育と社会資源の活用

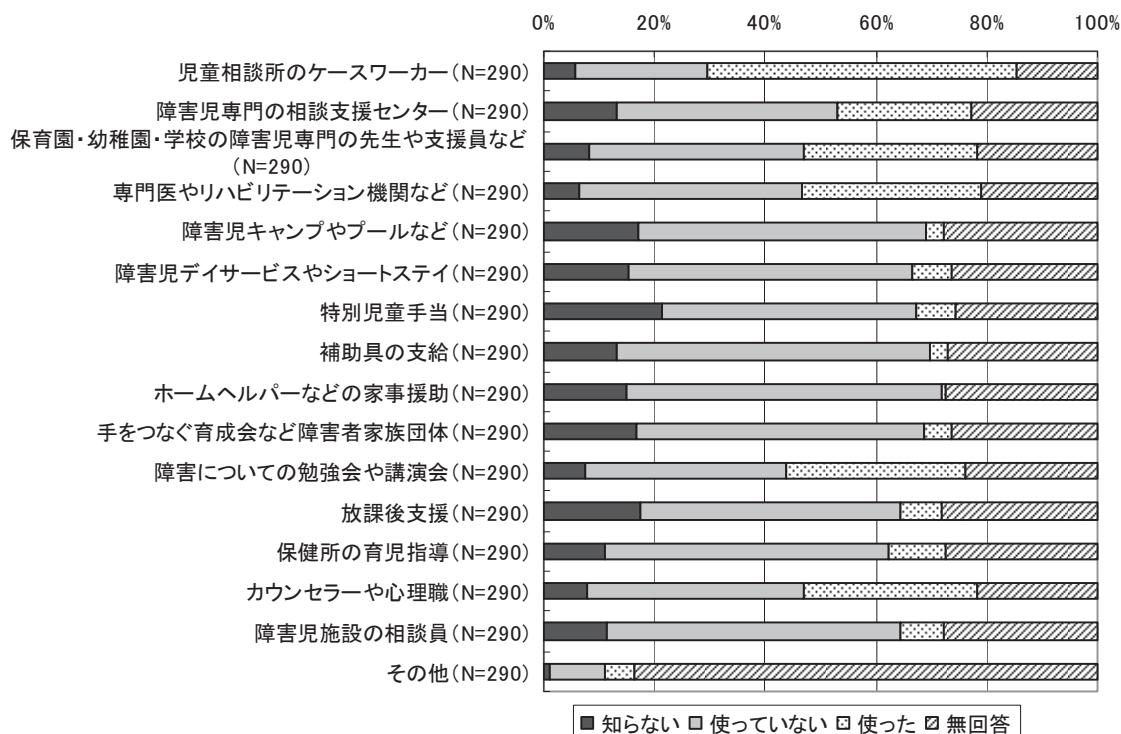
問20 | 社会資源の利用経験の有無 (受託時にわかつっていた、育てる途中でわかつた両方が対象)

「児童相談所のケースワーカー」、「障害児の相談支援センター」、「障害児のデイサービスやショートステイ」、「特別児童手当」など制度化された社会資源、および、「手をつなぐ育成会」、「障害についての勉強会や講演会」など民間の社会資源の合計15項目について、「使った」「使っていない」「知らない」の3択で調査した。

「児童相談所のケースワーカー」は使ったが55.9%だが、使っていないが23.8%あり、知らないも5.9%ある。「専門医やリハビリテーション機関など」は使ったが32.4%、使っていないが40.0%で、利用しない人の率が比較的高いのは、障害程度が軽い児童が多いためと思われる。その他で利用率が比較的高いのは身近にいる「保育園や幼稚園学校などの障害児専門の先生や支援員」31.4%ま

た、「カウンセラーや心理職」31.4%である。「障害についての勉強会や講演会」も32.4%の人が活用し、勉強熱心さがうかがわれる。「障害児施設の相談員」などは実際にはかなり力になると思われるが利用率が7.9%と低い。「手をつなぐ育成会」など障害児の親のピアサポート団体も同様に役立つと思われるが5.2%と低い。何故利用しないのかの解明が必要である。放課後支援は7.2%の利用率であるが、受け入れ側の問題が予想される。「特別児童手当」の利用率が7.2%と低いのは情報が行き渡っていない(知らないが21.4%)以外に所得制限の問題があるのかもしれないが詳細は不明である。その他では「市の教育相談」「地域のボランティア活動」「保健所」「ペアレントレーニング」ほか。

社会資源の利用経験の有無

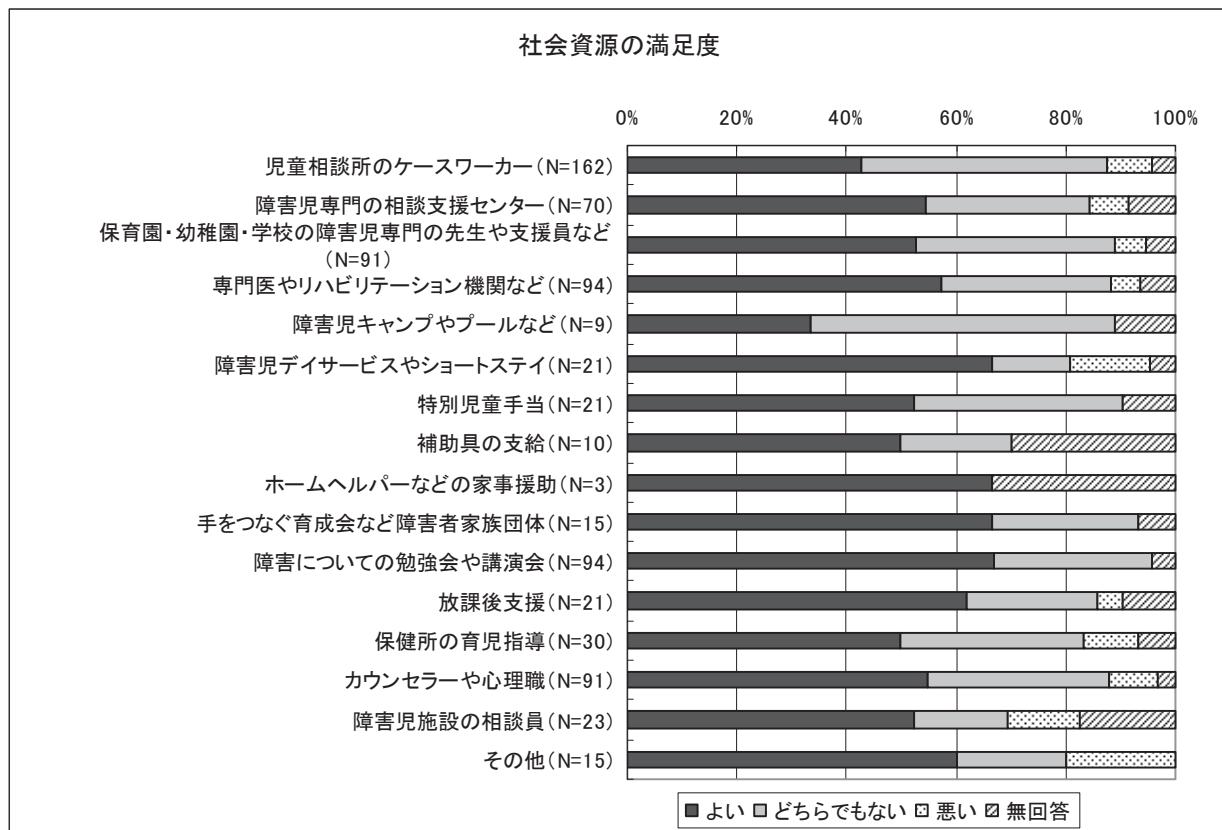


I 集計結果の解説 その①

問20 | 社会資源を使った場合の満足度

満足度(よい)が高いのは「障害児デイサービスやショートステイ」「障害についての勉強会や講演会」「手をつなぐ育成会など障害者家族団体」「放課後支援」「ホームヘルパーなどの家事援助」などがいずれも60%を超えており、障害についての勉強会や講演会以外はいずれも利用率が7%以下で非常に低いが、利用した場合の満足度は高い。このほか満足が50%を超えるのは「専門医やリハビリテーション機関など」

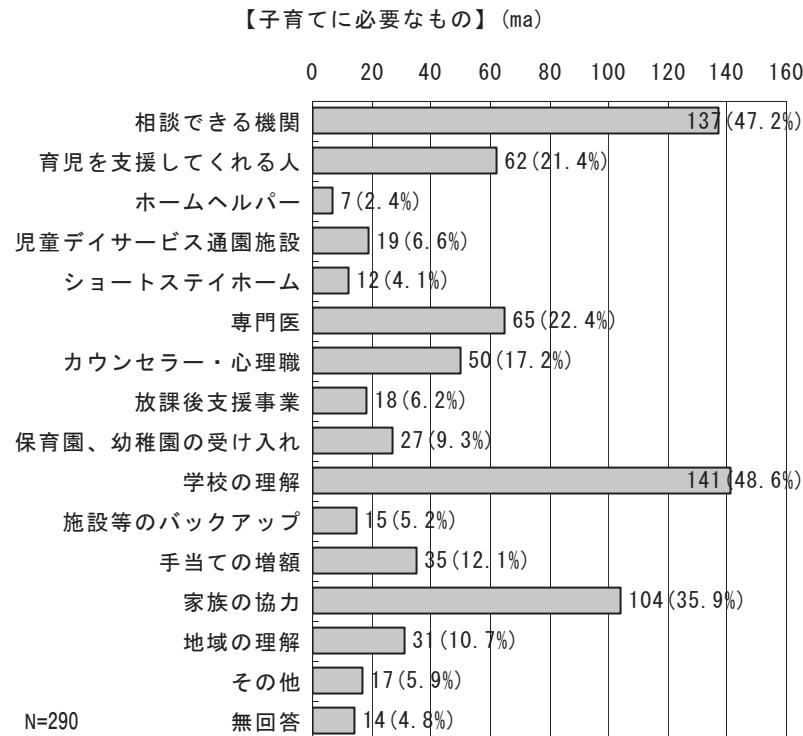
「ハビリテーション機関など」「障害児の相談支援センター」「保育園や学校の障害児専門の先生や支援員など」「特別児童手当」「補助具の支給」「障害児施設の相談員」などである。「児童相談所のケースワーカー」は利用率は55.9%と一番高いが満足度は「よい」が42.6%、どちらでもない45.1%、悪い8.0%とやや残念な結果が出た。今後の課題である。



7. 「障害がある子」および「発達に心配のある子」を育てる里親の意識

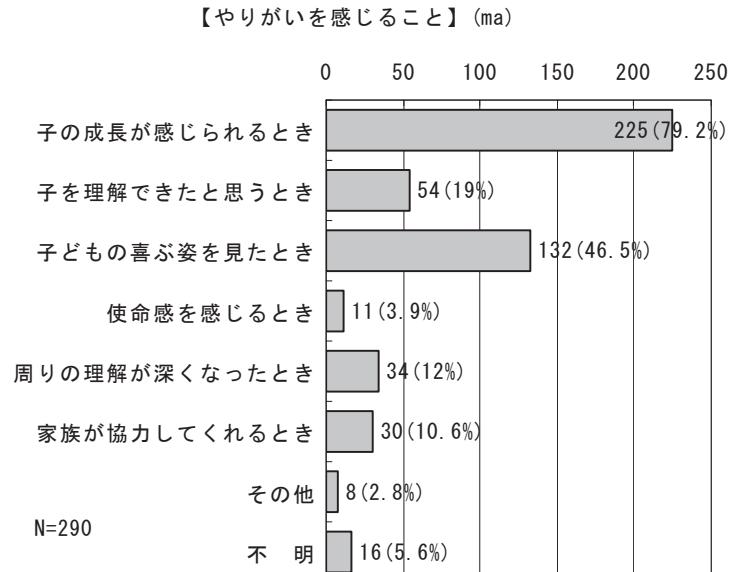
問21 「障害がある子・発達に心配のある子」を育てるために必要なもの (回答は3つまで)

「学校の理解」が48.6%で最も高く、「相談できる機関」47.2%がこれに並ぶ。次に「家族の協力」35.9%、やや下がって「専門的に育児を支援してくれる人」「専門医(児童精神科・整形外科等)」が20%超である。学校の理解と専門的な相談機関や支援者の存在、それに家族の協力が特に必要とされていることがわかる。その他には「里親自身の学びの場」「里親や家族の休息」「フットワークの軽いケースワーカー」「ドクターでも心理でもよいから正しい理解を持つ人」などがあった。



問22 「障害がある子」および「発達に心配のあるこの子」の子育てに、やりがいを感じるとき (回答は2つまで)

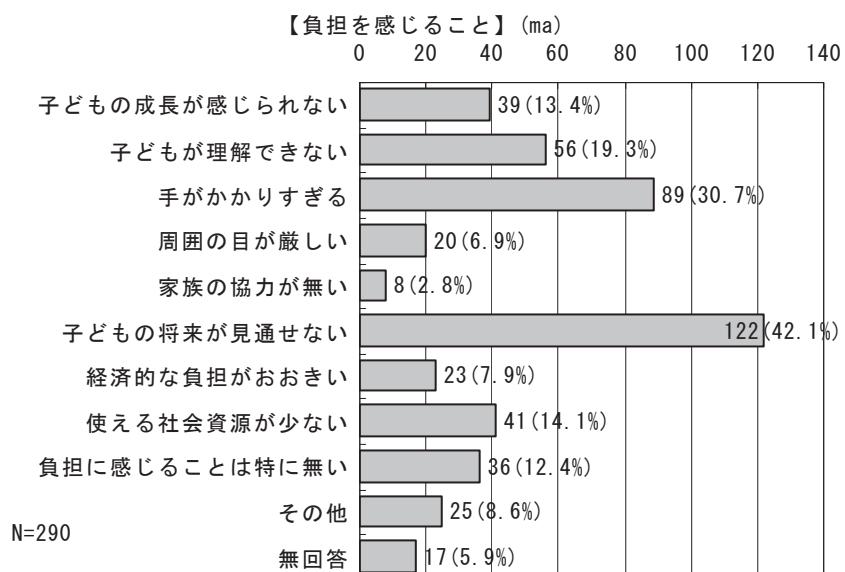
「子どもの成長を感じられるとき」が断然一位で79.2%。「子どもの喜ぶ姿を見たとき」46.5%、「自分が子どもを理解できたと思うとき」19.0%である。障害児や発達に心配のある子どもを育てながら子どもにしっかりと目を向け、子どもの成長や喜ぶ姿にやりがいを感じる里親の姿が見える。ほかに、「周りの人の理解が深くなったとき」「家族がよく協力してくれるとき」が10%を超える。その他には、「学級担任と子どもの成長を確認し合えるとき」「家族が子どもの成長によって理解が深まるとき」のほか「成績なし」もあった。無回答が16人(5.6%)あり、やりがいを感じられる時がないほど苦境にいるということであろうか。



I 集計結果の解説 その①

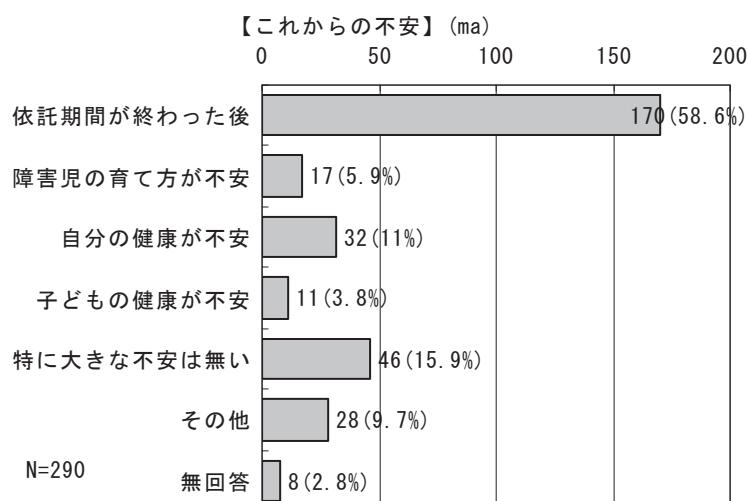
問23 「障害がある子」および「発達に心配のある子」を育てる際に負担に感じること (回答は2つまで)

「子どもの将来が見通せない」42.1%が最も多い。「手がかかりすぎる」が30.7%ある。「子どもが理解できない」19.3%、「子どもの成長が感じられない」13.4%がこれに続く。「使える社会資源が少ない」が14.1%ある。「特に不安に感じることはない」人が12%超いる。その他として、「忍耐」「他の里子と平等にかわいがること」「児相面談の体力・時間・金銭的負担」「育成支援課の非協力」「担任に理解してもらうこと」ほかがある。



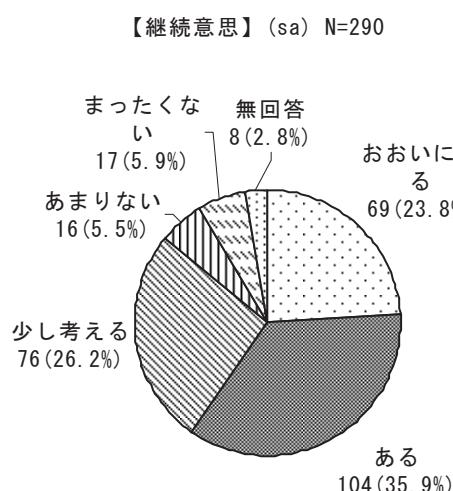
問24 これから大きな不安

「委託期間が終った後、子どもがどうなるか不安」が58.6%で群を抜いている。「今のところ特に大きな不安はない」15.9%が2位である。「自分の健康が不安」と感じる人が11.0%ある。年齢との関係があるのかなど調査が必要である。その他では「思春期」「実母の問題」などがある。



問25 今後「障害のある子」や「発達に心配の子」の養育を里親として続けてゆく気持ちの有無

「おおいにある」と大変意欲的な回答が23.8%、「ある」35.9%、あわせて約60%が「ある」と答えているのは特筆すべきである。「少し考える」とためらいを見せるのが26.2%。「あまりない」と「全くない」は5.5%、5.9%であり、少ない。



8. 全里親の自由な発言（感想・意見・提言など）

問26と27は、障害などに関係なく全里親に自由記述を求めた。

問26. 里親としての喜びや悲しみ、養育しているお子さんへの気持ち、家族その他周りの方がたへの気持ちなど自由にお書きください。

問27. 現在の里親制度や里親を引き受けることや、障害のある子の里親を引き受けることについてのご意見やご感想、問題点、提言などを自由にお書きください。

問26には775人、問27には657人という多数の方から真情あふれる熱心な記述がよせられた。こうした調査の常識をはるかに超える数と質である。この調査が、はからずも全国の里親の経験と思いの蓄積を表に出す貴重な機会となったことの表れであろうが、これについては別に報告の機会を設けたい。

3

まとめ

1. この調査報告は、平成 21 年度独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）の助成により実施した障害児の里親促進のための基盤整備事業」の事業の一つとして行った「障害児里親促進のためのアンケート」の集計結果の報告である。
2. この調査は全国の委託里親 2852 名（平成 20 年 3 月 31 日現在）のうち、調査票郵送可能な 2200 名を対象に行い、1016 名から回答を得た。回答率は 46.2% である。
3. 回答は秋田県、岡山県を除く全都道府県から寄せられた。
4. 回答者は 40 代から 60 代の里親（里母・里父）が 90% であった。回答を寄せた里親の種別は養育里親、専門里親、親族里親の順に多かった。ファミリーホームは 20 件であった。
5. 里親自身又は配偶者が障害福祉関係の職業に従事した経験は 29% であった。
6. 里親の現状と意識の調査では、実子の有無に関わらず、子どもが好きで子育てに意欲的な自分を、子供の福祉向上に役立てたいという積極的な人間像が明らかになった。まさに子どもを育てるのに最適な人たちであることがわかる。一方この調査は現役の委託里親を対象としており、何らかの事情で委託解除した人が含まれていないことを考慮に入れる必要がある。今後委託解除ケースの研究とし合わせることにより、よりリアルな里親の実像と里親制度の現状が明らかになるものと思われる。
7. しかし、こうした点を考慮に入れても、里親の持つ子育ての潜在力は計り知れないものがあることが分かった。現在、里親を希望しその要件を満たし、登録を完了しながら、未委託の人が登録里親の 3 分の 2 いることは、子どもの福祉向上の観点からみて大きな損失である。マッチングの難しさは当然あるだろう。またこのアンケートにもあらわれたように、里親と委託児を支えるために本来必要とされる幅広い社会資源や人々の理解が不十分な状況では、児童相談所に過重なフォローの責任が課され、それが委託が進まない一つの原因でもあるのだろう。こうした点が改善され、子どもの福祉に役立ちたいという里親の熱意が生かされることが切にのぞまれる。
8. 委託児の状況を見ると、「子どもについて困っていること」「あなたの家族が困っていること」が多くあるが、その程度は比較的軽い。しかし数は少ないが深刻な状況が自由記述の中にあった。困難に対し里親は「大変だが子どもがかわいいので頑張っている」など全体にはパワフルな姿勢を見せるが、1割以上の里親が委託児を抱えながら、限界に近い疲れと困難を感じている点を放置すべきでない。
9. 里親が委託児に「障害がある」あるいは「発達に心配がある」と答えた児童は約 25%（290 人）である。このうち障害手帳を所持しているのは 21%。知的障害が圧倒的に多い。障害程度は軽度がほとんどである。
10. 受託時の状況を見ると、受託前に障害がわかっていたのは 40%、育てるなかで気づいたケースが 60% である。受託前にわかっていても 65% の里親がほとんどためらいなく子どもを引き受けているのは特筆すべきである。
11. 育てるなかで「障害」や「心配がある」に気づくのはやはり里親である。その際児童相談所に相談する場合が一番多いが、その答えに必ずしも満足していない。
12. 「障害がある」または「発達に心配のある」子を育てる際の社会資源の利用状況は多岐にわたるが十分ではなく、身近な資源をさらに活用することによって児童も里親も利益をうる余地が十分残されている。実子の障害児を育てる親の資源活用状況との比較調査を行いたい。同時に受け入れ側の里親制度の認識状況の調査も必要である。

13. 「障害がある」あるいは「発達に心配がある」子どもを育てながら、里親は「子どもの成長」に生きがいを見出し「子どもの成長が見通せない」また「手がかかりすぎる」ことに負担を感じ、委託期間が終わった後の子どもの生活に大きな不安を感じている。
14. 「障害」あるいは「発達に心配」のある子どもの養育を、今後も続ける気持ちの有無を聞いたところ、「大いにある」「ある」の合計が60%を超えたことは驚くべき結果といえる。
15. 以上のことから、障害がある子や発達に心配のある子が里親のもとで養育される可能性は、予想以上に大きいことがこの調査によって示された。障害がある子の実親よりもしろ冷静に子どもを捉え、精神的なゆとりを持って子育てに当たっている場合が多いというのが、調査を通して得た率直な感想である。今後どのような支援があればこの可能性をもっと広げることが出来るかについて、さらに詳細な調査を行いたい。
16. 懸念されるのは、里親が抱いている子どもへの愛情や使命感の強さと、児童相談所はじめ公的機関の支援力のアンバランスな状況である。この点が改善されないと里親制度は伸び悩むだろう。また障害児が里親家庭で育つ可能性は広がらないだろう。
17. 里親のもとには、子どもに対する深い愛情と、子育ての豊かな経験が蓄積されている。こうした貴重な宝を社会共有の財産にしたい。
18. 一方、障害児や発達に心配のある子どもの里親であるか否かに関わらず、現に困難を抱え苦しんでいる里親の存在も明らかになった。全体の中の割合が少ないと放置してよい問題ではない。地域の児童相談所や里親会などのきめ細かな対応によってこうしたケースの発見に努め、具体的な支援を図るべきである。里親制度の管轄の見直しも含めて検討すべきである。子育てという非常に日常的で具体的な問題は、身近な市区町村が受け持ち、必要な介入や支援が即出来る体制が望まれるのではないか。市区町村のパワーアップも当然必要である。
19. この調査の特徴は自由記述の多さである。また調査票の最後に、今後のヒアリングに協力する意志のある人に連絡先の記載を求めたところ、予想を大幅に上回る353人が記載した。これらは里親としての自分の状況をさらに詳しくわかってほしいという痛切な気持の現れであると同時に、里親の仕事を社会的なものと認識し、人々と広く共有したいという積極的な意識の表れであろう。
20. この報告は本調査の第1次報告である。今後時間をかけてより幅広い考察を行い、面倒な調査に協力してくださった里親さんははじめ関係の方々のご厚意に報いたい。

（調査票は調査ユニットが作成した。集計作業・図表作成およびクロス集計に関する解説は株式会社地域環境計画代表田中孝司氏にお願いした）

II アンケート調査結果報告 その②

白神 晃子・平田 修三・持田 隆平

全里親の自由な発言（感想・意見・提言など）の分析

問26と問27は、障害などに関係なく全回答者に自由な意見を求めた。

問26. 里親としての喜びや悲しみ、養育しているお子さんへの気持ち、家族その他周りの方がたへ気持ちなど自由にお書きください。

問27. 現在の里親制度や里親を引き受けのことや、障害のある子の里親を引き受けることについて意見やご感想、問題点、提言などを自由にお書きください。

結果の概要

自由記述についてのみ、期日後に返送された57通を含む全1073通分の回答の分析を行った。問26には814人、問27には685人という多数の方から真情あふれる熱心な記述が寄せられた。こうした調査の常識をはるかに超える数と質である。この調査が、はからずも全国の里親の経験と思いの蓄積を表明する貴重な機会となったことのあらわれであろう。問26と27は自由記述という回答形式の性質上、ここに寄せられた意見は他の質問に対する回答と重なることを含みつつも、現在里親が訴えたい率直な意見が反映されていると考えられた。

分析方針

問26、27ともに全回答を詳細に検討し、主な意見を集約したうえでカテゴリ化を行い、それに基づいてデータを分類した。なお、カテゴリ一覧およびカテゴリ別の言及数については表に示す。問26については、委託児を養育する際に体験したことやそのときの気持ち、将来への不安など、里親の心情を中心に多様な意見が寄せられたため、回答全体の構造を把握することを主眼として分析を行った。一方、問27については、制度や支援に対する意見や要望が数多く寄せられたため、カテゴリの一覧を示しつつ、障害児を養育する里親の普及促進（以下、障害児里親の促進）のための課題や改善点を浮き彫りにすることを主眼として分析を行った。

問26 自由記述の結果

はじめに、抽出されたカテゴリを紹介しつつ回答全体の概説を行う。抽出されたカテゴリ間の関係を模式的に表した図を次頁に示す。

問26では、まず委託児の養育をするなかで経験したポジティブな側面とネガティブな側面という、相反する2つの要素が挙げられた。具体的にはII. 喜び・達成感を伴う経験とIV. 直面した問題である。また、それらの経験から生じた感情として、それぞれI. 感謝、III. 不安・心配の2つが挙げられた。そして、以上を踏まえたうえでの将来的なヴィジョンとしてのV. 子どもへの期待・養育観、さらに、制度や社会に対するVI. 意見が挙げられた。

続いて、それぞれの下位カテゴリ別の言及数にも触れながら考察していく。ただし、今回は紙面の関係もあり、問26で多く記述された里親の感情に着目し、以下に挙げる「里親としての喜び」と「里親が感じている困難」の2つの観点から、特に注目すべきと思われた点に絞って検討を加えることにする。

● 里親としての喜び

問26の回答者の6割以上が、I. 感謝とII. 喜び・達成感を伴う体験に言及しており、III. 不安・心配、IV. 直面した問題として挙げられた意見はその半数程度であった。このことから、全体的な傾向として、里親は委託児の養育にポジティブな印象を抱いていることが伺えた。また、II. 喜び・達成感を伴う経験の下位項目の言及数について検討してみると、里親は、たとえば委託児が学力的な成果を上げること（11件）や、就職や結婚をす

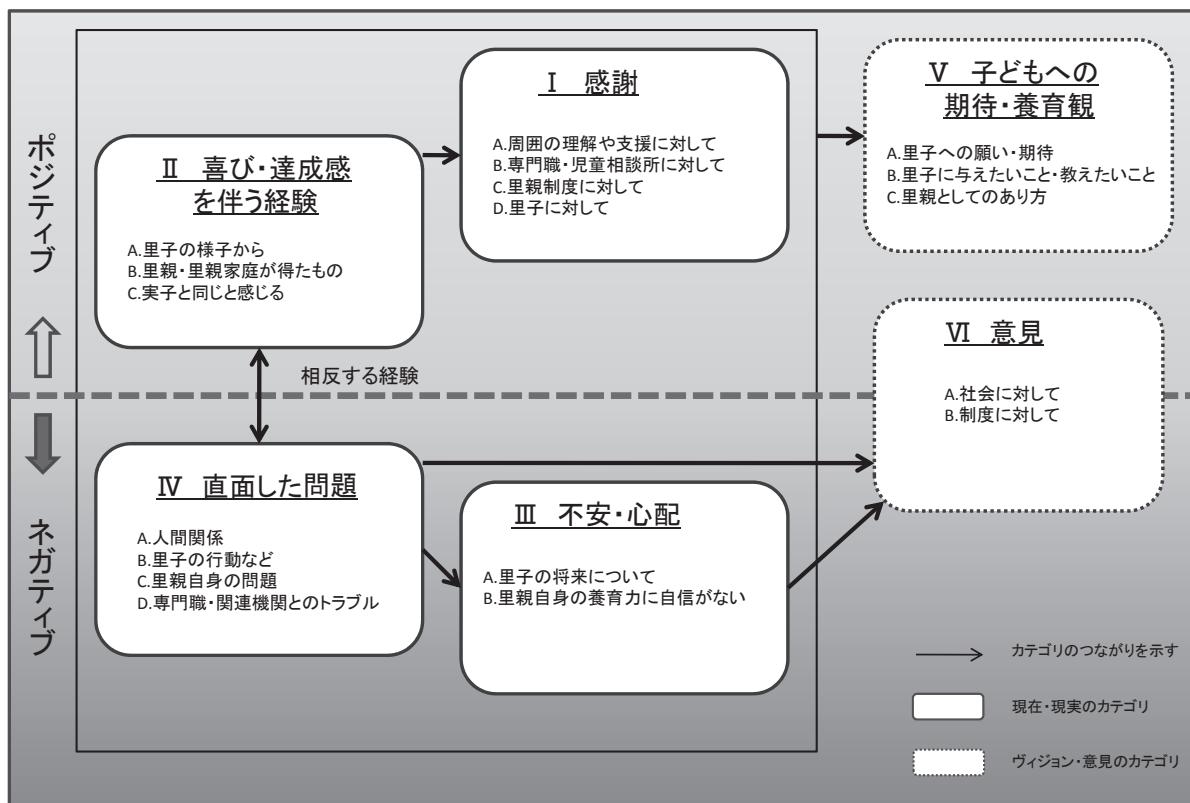


図. 問26データの全体像

ること（7件）よりも、「里子の成長を感じる（96件）」、「かわいい・いとしい（79件）」、「打ち解けて、信頼関係を築けるようになった（37件）」などの、親密な触れ合いの中で委託児の変化を実感することによって喜びを感じ、達成感を得ているということが読み取れた。そして、里親はこうした経験を通して日常生活が楽しくなったり、里親自身の成長を感じるようになると考えられた。ただし、このような傾向は、委託児の委託年数や障害の有無、障害の程度などによって変化しうることに留意しておく必要がある。

● 里親が感じている困難

一方、IV.直面した問題についてその詳細を検討してみると、里親が抱える困難は、委託児の行動面だけでなく、周囲との人間関係や里親自身の体力や年齢の問題、専門職・関連機関とのトラブルなど多岐にわたっていることが分かる。また、III.不安・心配についても、将来、真実告知を行うときの子どもの気持ち、措置切れ後の委託児の生活、実親との関わりなど多岐にわたっており、

里親によっては自身の養育力に不安を感じてしまうケースもあるようである。こうしたことを踏まえると、里親が抱える種々の困難についてさらに理解を深め、里親家庭を対象とした支援体制をさらに充実させていく必要があるだろう。

問26ではVI.意見として、里親が社会に対して望むこと、必要な支援制度などいくつかの意見や要望が挙げられたが、これらについては問27の自由記述の分析でさらに詳細に検討することにする。

II 集計結果の解説 その②

表 問26の分析結果（1）

コード	カテゴリ名称	total
I	感謝	
A	周囲の理解や支援に対する感謝	192
a	近所の人々、周囲の人々への感謝	98
b	家族（実子、パートナー）への感謝	66
c	学校、先生への感謝	16
d	他の里親への感謝	12
B	専門職・児童相談所に対する感謝	12
C	里親制度に対する感謝—里子に出会えたこと、研修制度	18
D	里子に対する感謝	15
II	喜び・達成感を伴う経験	
A	里子の様子から感じる喜び・達成感	253
a	里子の成長を感じる	96
b	かわいい・愛しいと思う	79
c	打ち解けて、信頼関係を築けるようになった	37
d	情緒的に落ち着いてきた	16
e	学校（勉強）での成果	11
f	里子の就職・自立・結婚	7
g	子どもの強さ、頑張りを感じた	7
B	里親・里親家庭が得たもの	249
a	楽しい生活が得られた	82
b	里親自身が成長できた	53
c	生きがい・やりがい・充実感が得られた	44
d	家族がにぎやかになった	20
e	家族外の人間関係が広がった	19
f	元気や勇気をもらった	18
g	家族の結びつきが強くなった	9
h	実子の子育てを振り返ることができた	4
C	実子と同じだと感じる	30
III	不安・心配	
A	里子の将来について	90
a	自立・措置切れ後の生活・経済面	32
b	真実告知を行うときの子どもの気持ち	17
c	実親との関わり難しい接触・実親に戻った後のこと	17
d	いつか別れてしまうことへの切なさ	12
e	思春期を迎えること	8
f	いじめを受けるのではないか	4
B	里親自身の養育力に自信がない	8

表 問26の分析結果(2)

コード	カテゴリ名	total
IV 直面した困難		
A 人間関係		63
a 周囲の不理解		35
b 家族関係に問題が起こる		14
c 実親への対応が困難		9
d 周囲に気をつかってしまう		5
B 里子の行動など		121
a 問題行動(ex.他者に危害を与える、障害によるもの)		52
b 日常生活・習慣における困難		24
c 打ち解けてくれない・反抗的・里子の抱えている問題が理解できない		23
d 学校・学習面での困難		13
e 発育が遅い		9
C 里親自身の問題		59
a 大変だ—とくに体力面の問題、子どもの障害への対応		36
b 里親の高齢に伴う問題		15
c 精神的困難・ストレス		5
d 経済的困難		3
D 専門職・関連機関とのトラブル		19
a 相談機関の問題(ex.「どこに相談したらよいのか分からない」「対応が不適切」)		15
b マッチングの問題		4
V 子どもへの期待・養育観		
A 里子への願い・期待(ex.楽しい家庭を築いてほしい、本人なりに人生を楽しんでほしい)		46
B 里子に与えたいこと・教えたいこと		61
a 愛情・安心感・愛着を与える		20
b 自分で生活できる力をつけてやりたい		18
c できる限りのサポートをしてやりたい		9
d しつけをしっかりしたい		8
e 「家族」という環境を与える		5
f 大学までは行かせてやりたい		1
C 里親としてのあり方		34
a 実子と同じように育てたい		17
b 学ぶ姿勢を持って育てたい・子どもと一緒に成長したい		11
c 楽しんで育てたい		6
VI 意見		
A 社会に対する意見		18
a 里親制度の啓発、里子への社会的理解を求める		14
b 周囲の理解が必要である		4
c 実親に対して子どもを持つことへの責任を求める		3
B 制度に対する意見		40
a 里親のサポート制度の充実(ex.レスパイト)		15
b 里親制度の拡充		14
c 里親教育の充実		4
d 里親の権利向上(ex.親権をめぐる問題)		3
e 里親ファミリーホームの充実		2
f 里子のアフターケアの充実		2

問27 自由記述の結果

すべての記述内容を検討し、「障害児里親の促進」という観点から重要と思われる記述をカテゴリ化した結果、約100のカテゴリが抽出され、それらは大きく5つ（I～V）に分類された。カテゴリ一覧およびカテゴリ別の言及数については表に示す。

I. II. III. では、委託児の障害の有無に限らず、里親が委託児を養育していく中で感じている問題や直面した困難、制度について改善すべき点などの記述を整理してまとめた。

I. は、里親への直接的な支援についての提言や要望である。A. 相談援助としては、相談場所や相談機関の必要性が最も多く指摘された。また、B. 精神的サポートとして里親同士あるいは障害児を育てる里親同士で支えあう場がほしいという意見が挙げられた。これらに対応するためには、里親サークルやサロンを運営しやすいようエンパワメントを行うこと、里親同士のピアカウンセリングができるしくみ、里親を卒業した経験豊かな人材が相談者として活躍する場を設けるなど、様々な対策が考えられる。問27の回答では、子どもを委託する直接的な窓口となるD. 児童相談所に関する記述が特に多かった。特に職員配置（専門性、配置転換、人員不足）の不適切さから派生した問題が、里親の不信感につながったり、実際の養育を困難にしていることが伺えた。また、C. レスパイトやF. セーフティネットの充実は、特に、それらがないことにより窮状を経験した里親から多く寄せられた意見である。

II. は、現在の里親・里子を取り巻く制度に対する提言や要望である。A. 里親制度の問題として、里親制度の啓蒙と普及・委託率の増加などが求められていた。また、委託児の自立に向けた支援がないことや、子どもに関する制度が実子同様に利用できないことは、里親が直面する深刻な困難につながっていることが伺えた。B. 経済的支援に対する要望としては、様々な困難を抱える委託児を養育するために、実態に応じた適正な経済的支援が求められている。また、障害児を養育する場合には特に手厚い支援が必要であるという意見も寄せられた。C. 委託に至るまでの制度的問題（マッチング）としては、障害や発達の遅れ、委託児の実家族の障害の有無などを

含む、委託児に関する情報提供が求められていた。委託年齢の引き下げについては、もし障害があったとしても、幼いうちから愛情をもって養育していくべき継続して育てていけるという意見、さらに養護施設のあり方についての意見などと関連させて述べられていた。D. 里親研修については、愛着障害や発達障害の理解、思春期をどう乗り越えるか、といった内容の研修を専門里親以外にも開催してほしい、実際に役立つ研修にしてほしいという指摘がなされた。E. 実親の問題とF. 里親の権限に関する記述からは、実親の親権の強さや、再統合後の実親への指導やチェックがないこと、さらには里親の権限が少ないことに対して、無力感を感じている里親の姿が明らかになった。一方、委託後には里親が委託児のすべてを引き受けなければならないという負担の大きさに様々な感情を持ちながら、なおも養育を続けている里親の姿も浮き彫りとなった。G. 関連機関の連携と情報共有は、今ある資源を有効に活用するために、早急に進められるべき事項である。これは、制度の改革に比して取り組みやすく、高い効果も期待される。

III. は、より広い視野から、社会や日本の文化に対して成熟を求める記述である。養育児童を育てる際にも、障害児を育てる際にも、差別や偏見をなくすことはもちろん、地域社会の理解と協力が欠かせない。また、里親自身は、周囲の人々に積極的に働きかけて委託児への理解と協力を得ようとする意識や、子どもの抱える困難に対処できるよう専門性を向上させようとする意識を持っていた。

IV. V. では、障害児を養育することについての記述を整理してまとめた。

IV. には、実際に障害児を養育することについての、率直な考えが示されている。障害児を養育することについての考えは、A. 困難、B. 条件付きで可能または困難、C. 可能あるいは平等主義的意見、の3つに大別された。障害児を養育することは可能であるという記述（38件）は、困難であるという記述（88件）の半数以下であった。一方、条件付きで可能であるという記述（120件）が突出していたことは、注目すべきである。これらの記述から、障害児の受け入れ促進の可能性と、それを阻害している要因について伺い知ることができる。ここで挙げられた受け入れの条件は、行政や周囲の支援、里親

自身の適性・経験・力量・知識が最も多く、将来の見通し、自立への援助、幼少時／乳児期からの委託などが続く。これらは、I・IIにおいて提言や要望として挙げられていた内容であり、障害児養育に限らず、里親制度の改善によってある程度の対応が可能になるものと思われる。

V.については、少數の記述であっても1つひとつの意見が重要であると考え、できるだけ多くの内容をカテゴリ化した。IV.で多くの指摘がなされた障害児を育てることの大変さについて、里親が実際に障害児を養育した

経験から、いくつかの困難の例が示され、「障害児の養育に悩んでいる。助けてほしい」との切実な声も寄せられた。一方で、障害児養育のプラスの面についての記述もあった。今後、制度の方針が変更されることがあったとしても、ここに挙げられたような、実際に障害児を養育した経験を踏まえて提起された問題について、誠実に対応していくことが重要であると思われる。そうでなければ、記述にみられたような「共倒れ」や「委託解除」という結果につながりかねない。

表 問27の分析結果（1）

コード	カテゴリ名称	total
I (提言・要望)里親への支援		
A	相談援助	64
a	相談場所・機関が必要(ex.気軽に利用できる相談者が必要、適した相談者がいない)	30
b	専門家アドバイス・ケア、家庭訪問	22
c	社会資源に関する情報提供—育児、障害児の	6
d	どこに相談したらいいかわからない	4
e	子の今後の見通しを立ててほしい(ex.起こりうる問題、発達・成長のプロセス)	2
B	精神的サポート	23
a	里親同士／障害児を持つ里親同士の支えあいの場がほしい—サークル、サロン、ピアカウンセリング	17
b	里親のメンタルケア・精神的サポート	6
C	レスパイト—期間延長、拡大、県域の廃止、機能していない	13
D	児童相談所	90
a	支援不足、職員の不理解	23
b	職員の専門性や経験の不足	16
c	職員がすぐ変わる、引き継ぎがない	16
d	不信感ある、頼りにならない、「児相ではムリ」	11
e	職員増やすべき、多忙すぎる	6
f	対応・返事が遅い	6
g	相談した場合、処遇が心配	4
h	サポート助かる	8
E	セーフティネット—問題が起きた時の対応、困った時の即時対応	11
F	(包括的記述)里親への手厚い「バックアップ／支援／サポート」の「体制／制度」が必要／不足している	38

II 集計結果の解説 その②

表 問27の分析結果 (2)

コード	カテゴリー名	total
II (提言・要望)制度		
A 里親制度の問題		133
a 里親制度の啓蒙、里親制度もっと知ってほしい		30
b 委託率の増加、実効性に問題アリ(ex.やる気はあっても子どもが来ない)		26
c 措置期間の延長(高校進学しない子含む)、自立への支援を		26
d 里親制度普及、里親数の増加		23
e 実子と同様に民間制度利用できない—育休、保険		7
f 実子と同様に公的制度利用できない—医療受診券、パスポート、児童手当、定額給付金		3
g 施設中心の政策に問題アリ		2
h (包括的記述)制度の整備不足		16
B 経済的支援		43
a 経済的に困難、養育手当の増額(ex.家庭教師費用、へき地手当、習い事、学費)		28
b 障害児の場合はさらに手厚く		13
c 手当の支給方法の見直し(ex.子にかかる費用が適正に支給されること)		2
C 委託に至るまでの制度的問題		62
a 子どもの情報がほしい、正しい情報(ふれあい含む)		31
b 委託年齢—幼少から、特に障害児は乳児期から		21
c 決定から引き受けまでの時間的余裕がほしい		4
d 決定のプロセスが不透明		4
e 県域の廃止		2
D 里親研修		31
a 研修の充実・拡大、研修制度見直し(ex.専門里親以外にも研修を、児相以外でも開催して)		21
b 里親への教育が必要(ex.育児経験のない里親への委託前研修)		7
c 研修が有効である		3
E 実親の問題		37
a 実親への指導・ケア、再統合後のチェック、実親の里親制度理解を働きかける		13
b 実親の親権強すぎる		12
c 実親との関わり難しい		9
d 実親と交流したい		3
F 里親の種類、負担と権限		36
a 行政の無責任・丸投げ、里親の負担が大きすぎる		17
b 里親の権限の拡大、地位向上(同じ立場に)、里親が軽視されている		11
c 里親の種類を分けることに問題アリ、対応の差なくすべき		4
d 里親の種類を分けるべき(ex.実子目的の養子と養育里親は違う、「障害専門里親」が関わるのがよい)		4
G 関連機関の連携と情報共有(児相、病院、学校など)		17
Z その他		
a 制度見直され良くなった、手当ありがたい		10
b 養護施設のあり方に問題		9
c 行政側の偏見・不理解(児相のみ限定の場合は除く)		6
III 社会・文化・里親としての意識		
A 親意識への言及(ex.子どもを大切に、問題は親(里親)にある、現代の子育てに不安感じる、一般的に親教育必要)		8
B 差別と不理解		18
a 偏見差別がある、偏見差別をなくす		10
b 障害児、被虐待児、里子に対する周囲の理解がない		5
c 里親に対する勘違い(ex.里親はボランティアと思われる、子のない親のための制度だと思われる)		3
C 里子・障害児に対する地域・日本社会の在り方		35
a 周囲の理解・協力が必要(ex.里子であること公にできる社会に、子を社会で支える必要がある)		24
b 里親が孤立しないような社会に		6
c 障害児が育ちやすい社会に		5
D 里親としての心構え		13
a 里親も勉強しなくては、専門性が必要、里親の頑張りに期待		9
b 社会の中で育てるよう意識している		4

表 問27の分析結果（3）

コード	カテゴリ名称	total
IV 障害児を養育することについての考え方		
A	困難	88
a	（無理）自分にはできない、想像できない、難しい	25
b	（大変さ）大変だろう、周囲の理解得にくいだろう	25
c	（消極）不安を感じる、自信がない、勇気がない	24
d	（前向き）やってみたいが踏み切れない。受け入れられればいいが…	10
e	（消極）できれば避けたい	3
f	（拒否）引き受けるつもりはない	1
B	条件付きで可能or困難	120
a	行政や周囲の支援／サポートなければ困難	43
b	里親に適性／経験／力量／知識なければ困難	32
c	里親の状況による(ex.高齢、健康状態、親の介護など)	12
d	将来まで里親が負う現状では困難、18歳以降はどうなるか	10
e	障害の程度による(ex.重度の場合は不可)	6
f	幼少時／乳児期からなら受け入れられるかも	5
g	里親が仕事しながらは困難、共働きでは困難	4
h	他の子にマイナスとなるなら困難	3
i	短期であれば可能	2
j	障害の内容・種類による(ex.障害児は可能だが被虐待児は不可、身体障害は可能だが精神障害は不可)	2
k	初めての里子が障害児では困難	1
C	可能、平等主義的意見	38
a	（積極）どんな子でもOK	24
b	（責務）障害児であっても育てるべき	10
c	（消極）努力したい、機会があれば	4
Z	その他	
a	もっと障害児を委託してほしい	4
b	障害児の受け入れを断ったことがある、（条件整わず）諦めたことがある	3
c	委託児に障害あるきょうだいがいるが、引き受けに迷っている	1
d	正直なところ、障害の有無については気になる	1
e	（大変なので）措置解除となつても仕方ない。児相に返す勇気も必要	1
V 実際に障害児養育を踏まえた記述		
A	プラスの面	14
a	障害児を育ててプラスの面があった	11
b	養育するうち慣れてきた／障害がよくなつた	3
B	困難	52
a	苦労は大きい、大変だ	18
b	支援が少ない／ない、支援機関が利用しにくい	6
c	障害児の子育てに悩んでいる、助けてほしい	6
d	障害がグレーディングで公的支援使えない、ボーダーラインではつきりしない	5
e	将来が不安	4
f	手続きが煩雑、多すぎる	4
g	理解が得られない、大変さがわかつてもらえない	3
h	経済的困難がある	3
i	里親自ら異常の有無、治療を判断しなければならない	1
j	通院や投薬の多さに、びっくりして戸惑つた	1
k	実子に迷惑がかかる	1
C	意見	10
a	委託の慎重さ求める意見	6
b	障害児には専任者が必要	2
c	養育する子の数に限度がある	2
D	ヴィジョン	2
a	他の子と比べずに、ゆっくり成長を見守ることが大事	1
b	障害が顕在化しないよう支援しながら育てたい	1

回答者属性と自由記述の内容の関連

ここでは、次のような疑問を検討するために、回答者属性と自由記述の内容の分析を試みた。

- ・専門里親と養育里親では、制度に対する要望に違いがみられるだろうか？
- ・障害に関わる職業についていた場合、障害児の養育に抵抗が少ないのでないか？
- ・障害児を養育する里親と、そうでない里親とでは、求める支援に違いがあるだろうか？

里親の属性や背景によって、自由記述欄の記載内容に特徴がみられるかどうかを検討するため、問1～問25から導き出される回答者属性のいくつかと、問27の分析で明らかになつたいくつかのカテゴリについて分析を行つた。自由記述欄については、分析の結果得られる提言が具体的な改善につながりやすいという観点から、生成された多くのカテゴリのうち、里親が求める具体的な

支援や制度（カテゴリ問27Ⅱ.Ⅲ.）、障害児を養育することについてどの程度可能と考えているか（カテゴリ問27Ⅳ.）のみを取り上げた。なお、児童相談所のサポートのお陰で助かる（I-D-h）、里親研修が有効である（II-D-c）については、カテゴリの内容が要望・提案とは異なる性質であったため、分析対象から除外した。分析に用いたのは、次の質問項目およびカテゴリである。

問4 回答者の里親の種類

問5 回答者または配偶者の障害に関わる職業経験の有無

問14 障害がある子、発達に心配がある子のいずれについて答えるか

問17 障害あるいは発達の心配がわかつた時期

問27 カテゴリⅠ. 支援に対する提言・要望

問27 カテゴリⅡ. 制度に対する提言・要望

問27 カテゴリⅣ. 障害児を養育することについての考え方

問4、問14、17については、次のような方針で回答を修正して用いた。

●問4の回答の修正

問4は複数回答可能な設問であったため、ここでは便宜的に

「4 ファミリーホーム>2 専門里親>1 養育里親>3 親族里親」

の順に専門性が高いと定義した。複数の回答を選択している場合は、より専門性の高い里親の種類を採用して分析を行つた。

●問14および問17をもとにした「5分類」

問14および問17の設問から、回答者の属性を次の5つに分類した。

a. 障害がある子を養育しており、委託前にわかつて

いた。

- b. 障害がある子を養育しており、育てていく中でわかつた。
- c. 発達に心配のある子を養育しており、委託前からわかつていた。
- d. 発達に心配のある子を養育しており、育てていく中でわかつた。
- e. 障害がある子も発達に心配のある子も養育していない、または無回答。

分析方法

まず、それぞれの質問項目について、クロス集計表を作成した。クロス集計表は、複数回答の性質を持つ自由記述の分析結果（カテゴリ）を用いて作成された。また、いずれの項目も回答者属性の母数の差が大きいため、回答件数よりも回答者属性内での割合（%）を参照していただきたい。

結果と考察

● 問4 里親の種類 ×

I.Ⅱ. 支援や制度に対する提言・要望

里親の種類では、それぞれ「養育里親」が806名（79.3%）、「専門里親」が135名（13.2%）、「親族里親」が37名（3.6%）、「ファミリーホーム」が20名（1.9%）という分布であった。これらの里親がそれぞれ支援や制度について、自由記述でどのような回答傾向を示していくかをまとめたものが表1である。

この表について χ^2 検定を行い、1%の危険率で有意差が見られた（ $\chi^2 (36,546) = 69.593$ 、 $p < .01$ ）ため、さらに残差分析を行って各項目について検討した。

表から、いくつかの特徴が見てとれる。まず、専門里親は、他の種類の里親と比べて、他の提言や要望よりも特にセーフティネットの必要性と里親の種類、負担と権限について有意に多く記述していた。つまり、障害児や

今回は自由記述の内容の特徴をみるため、探索的に χ^2 検定を用い、有意差が見られたものについては残差分析を行った。残差分析を行ったデータは、度数がゼロの項目がいくつか含まれていたため、結果の解釈には注意が必要である。

被虐待児を委託される専門里親には、緊急避難的なサポートが特に必要とされている。また、障害や発達の心配に伴う委託児の診断や治療の責任を里親にすべて負わせるのではなく、関連機関と里親との連携の中で協力して行っていくことが必要であろう。

次に、親族里親は、他の提言や要望よりも経済的支援に関する言及が有意に多く、養育里親では有意に少なかった。親族里親には手当がないことに加えて、親族里親は比較的高齢である（cf. 親族里親を選択した41名のうち、40代17%、50代20%、60代39%、70代以上24%であり、全里親の分布と比べて年代が高い）ために、経済的な困難が大きいことが考えられる。

このことから、多岐にわたる要望の中でも、ここに挙げた3点の改善の重要性は高いのではないかと考えられる。

	1養育里親	2専門里親	3親族里親	4ファミリーホーム
I A 相談援助	41 (5.1)	8 (5.9)	2 (5.4)	1 (5.0)
I B 精神的サポート	23 (2.9)	8 (5.9)	0 (0.0)	1 (5.0)
I C レスパイイト	9 (1.1)	3 (2.2)	0 (0.0)	1 (5.0)
I D 児童相談所	68 (8.4)	15 (11.1)	0 (0.0)	* ↓ 2 (10.0)
I E 「サポート」「制度」の必要	28 (3.5)	5 (3.7)	0 (0.0)	2 (10.0) * ↑
I F セーフティネット	5 (0.6)	4 (3.0) * ↑	0 (0.0)	0 (0.0)
II A 里親制度の問題	100 (12.4)	12 (8.9)	3 (8.1)	2 (10.0)
II B 経済的支援	26 (3.2) * ↓	8 (5.9)	3 (8.1) * ↑	3 (15.0)
II C 委託に至るまでの制度的問題	51 (6.3)	4 (3.0)	0 (0.0)	2 (10.0)
II D 里親研修	19 (2.4)	3 (2.2)	1 (2.7)	1 (5.0)
II E 実親の問題	27 (3.3)	6 (4.4)	0 (0.0)	0 (0.0) * ↓
II F 里親の種類、負担と権限	25 (3.1)	7 (5.2) * ↑	0 (0.0)	0 (0.0) * ↓
II G 関連機関の連携と情報共有	9 (1.1)	7 (5.2)	1 (2.7)	0 (0.0) * ↓

数値は回答件数、（）内の数字は回答者属性内での%

** $p < .01$, * $p < .05$ 残差分析の結果、他カテゴリよりも有意に多い項目には「↑」、有意に少ない項目には「↓」を加えた。

表1. 里親の種類とカテゴリI・IIのクロス集計表と残差分析結果

II 集計結果の解説 その②

● 問4 里親の種類 ×

IV. 障害児を養育することについての考え方

養育里親、専門里親、親族里親、ファミリーホームがそれぞれ障害児を養育することについて、自由記述でどのような回答傾向を示していたかをまとめたものが表2である。

この表について χ^2 検定を行ったところ、有意差は見

られなかった ($\chi^2 (4,210) = 1.491$ 、n.s)。つまり、里親の種類によって障害児を受け入れることに関する記述の傾向に、大きな違いは見られなかったということである。養育里親の中には、障害児を養育することについて専門里親と同じような考え方を持つ里親が多いと考えられる。障害児の受け入れに関しては、養育里親の中にも、潜在的な受け皿が存在する可能性が示唆された。

	1養育里親	2専門里親	3親族里親	4ファミリーホーム
IVA 困難	63 (7.8)	8 (5.9)	1 (2.7)	0 (0.0)
IVB 条件付きで可能or困難	88 (10.9)	11 (8.1)	2 (5.4)	0 (0.0)
IVC 受け入れ可、平等主義的意見	31 (3.8)	6 (4.4)	0 (0.0)	0 (0.0)

数値は回答件数、()内の数字は回答者属性内での%

表2. 里親の種類とカテゴリIVのクロス集計表

● 問5 障害に関わる職業経験の有無 ×

I. II. 支援や制度に対する提言・要望

障害に関わる「職業経験なし」は 707 名 (69.5%)、「職業経験あり」は 290 名 (28.5%) であり、それぞれが支援や制度について自由記述でどのような回答傾向を

示したのかを表3にまとめた。この表について χ^2 検定を行ったところ、有意差は見られなかった ($\chi^2 (8,554) = 43.579$ 、n.s)。つまり、職業経験の有無によって提言・要望に関する記述の傾向に、大きな違いは見られなかったということである。

	1. 経験なし	2. 経験あり
I A 相談援助	39 (5.5)	14 (4.8)
I B 精神的サポート	21 (3.0)	11 (3.8)
I C レスパイト	9 (1.3)	4 (1.4)
I D 児童相談所	57 (8.1)	30 (10.3)
I E 「サポート」「制度」の必要	22 (3.1)	13 (4.5)
I F セーフティネット	5 (0.7)	5 (1.7)
II A 里親制度の問題	79 (11.2)	36 (12.4)
II B 経済的支援	23 (3.3)	16 (5.5)
II C 委託に至るまでの制度的問題	39 (5.5)	17 (5.9)
II D 里親研修	17 (2.4)	8 (2.8)
II E 実親の問題	24 (3.4)	9 (3.1)
II F 里親の種類、負担と権限	17 (2.4)	15 (5.2)
II G 関連機関の連携と情報共有	7 (1.0)	10 (3.4)

数値は回答件数、()内の数字は回答者属性内での%

表3. 障害に関わる職業経験の有無とカテゴリI・IIのクロス集計表

● 問5 障害に関する職業経験の有無 ×

IV. 障害児を養育することについての考え方

障害に関する職業経験のあった里親となかった里親が、それぞれ障害児を養育することについて、自由記述でどのような回答傾向を示していたかをまとめたものが表4である。

この表について χ^2 検定を行ったところ、有意差は見られなかった ($\chi^2 (2,213) = 3.169$ 、n.s.)。つまり、障害に関する職業経験の有無によって、障害児を受け入れることに関する記述の傾向に、大きな違いは見られなかったということである。

	1. 経験なし	2. 経験あり
IVA 困難	57 (8.1)	16 (5.5)
IVB 条件付きで可能or困難	67 (9.5)	35 (12.1)
IVC 受け入れ可、平等主義的意見	27 (3.8)	11 (3.8)

数値は回答件数、()内の数字は回答者属性内での%

表4. 障害に関する職業経験の有無とカテゴリIVのクロス集計表

● 5分類 × I II 支援や制度に対する提言・要望

問14および問17の回答をもとに回答者の属性を5つに分類した結果、「a. 障害児を養育しており、委託前にわかっていた」が55名 (5.4%)、「b. 障害児を養育しており、育てていく中でわかった」が50名 (4.9%)、「c. 発達に心配のある子を養育しており、委託前からわかっていた」が59名 (5.8%)、「d. 発達に心配のある子を養育しており、育てていく中でわかった」が115名 (11.3%)、「e. いずれも養育していない、または無回答」が737名 (72.5%) という分布であった。これらの回答者属性ごとに自由記述での支援や制度についての回答傾向を調べたものが表5である。この表について χ^2 検定

を行ったところ、有意差は見られなかった ($\chi^2 (8,554) = 43.579$ 、n.s.)。

統計的に有意な結果は得られなかったが、障害児を養育している場合、その他と比べて相談援助について多くの記述がみられた (a: 9.1%、b: 14.0%)。障害や発達の心配が委託後に育てていく中でわかった場合、その他の場合と比べて児童相談所の問題 (b: 18.0%、d: 16.5%)、委託に至るまでの制度的問題 (b: 16.0%、d: 10.4%)について多くの記述がみられた。里親の種類、負担と権限については、委託前から障害や発達の心配が分かっていた場合に、その他の場合と比べて多くの記述がみられた (a: 7.3%、c: 6.8%)。

	a. 障害 委託前	b. 障害 委託後	c. 発達 委託前	d. 発達 委託後	e. いずれも 該当なし
I A 相談援助	5 (9.1)	7 (14.0)	1 (1.7)	6 (5.2)	35 (4.7)
I B 精神的サポート	3 (5.5)	3 (6.0)	2 (3.4)	2 (1.7)	23 (3.1)
I C レスパイ特	1 (1.8)	2 (4.0)	1 (1.7)	2 (1.7)	7 (0.9)
I D 児童相談所	6 (10.9)	9 (18.0)	4 (6.8)	19 (16.5)	49 (6.6)
I E 「サポート」「制度」の必要	3 (5.5)	2 (4.0)	3 (5.1)	6 (5.2)	21 (2.8)
I F セーフティネット	0 (0.0)	3 (6.0)	0 (0.0)	3 (2.6)	4 (0.5)
II A 里親制度の問題	9 (16.4)	8 (16.0)	6 (10.2)	17 (14.8)	77 (10.4)
II B 経済的支援	2 (3.6)	2 (4.0)	4 (6.8)	5 (4.3)	27 (3.7)
II C 委託に至るまでの制度的問題	2 (3.6)	8 (16.0)	5 (8.5)	12 (10.4)	30 (4.1)
II D 里親研修	4 (7.3)	3 (6.0)	2 (3.4)	2 (1.7)	14 (1.9)
II E 実親の問題	1 (1.8)	2 (4.0)	4 (6.8)	4 (3.5)	22 (3.0)
II F 里親の種類、負担と権限	4 (7.3)	0 (0.0)	4 (6.8)	2 (1.7)	23 (3.1)
II G 関連機関の連携と情報共有	1 (1.8)	1 (2.0)	1 (1.7)	2 (1.7)	12 (1.6)

数値は回答件数、()内の数字は回答者属性内での%

表5. 回答者の属性とカテゴリI・IIのクロス集計表

II 集計結果の解説 その②

● 5分類 × IV障害児を養育することについての考え方

上述の5つに分類した里親が、それぞれ障害児を養育することについて、自由記述でどのような回答傾向を示していたかをまとめたものが表6である。 χ^2 検定を行い、1%の危険率で有意差が見られた ($\chi^2 (8,214) = 24.862$ 、 $p < .01$) ため、さらに残差分析を行って各項目について検討した。

表から、いくつかの特徴が見て取れる。まず、障害児と発達に心配のある子のいずれも養育していない里親(e.)は、障害児を育てるこや受け入れることの難しさを、特に多く記述しており、一方で受け入れが可能だと記述することは有意に少なかった。

障害や発達の心配を委託前からわかっていて受け入れた里親では、障害児の受け入れは困難とする記述をした者はいなかった。また、障害を委託前から知っていた里親は、障害児の養育は条件付きで可能とする考えを特に多く記述していた。これは、条件が整っていたために委託を受けたと解釈することも可能だが、該当する記述内容を踏まえれば、里親が実際に障害児を養育する中で実感している「様々な条件が整わないと困難だ」とい

う現実を反映していると考えられる。委託後に子の障害が判明した里親、および発達の心配を委託前から知っていた里親では、障害児の受け入れは可能とする意見が有意に多かった。

特筆すべきは、障害児や発達に心配のある子を養育した経験のない里親(e.)と比べて、子の障害が育てている中で明らかになった里親(b.)のほうが、障害児を受け入れることに前向きな意見を多く記述していたことがある。この5つの分類に沿って考えれば、子どもを受け入れた時点では、両者はいずれも養育していない里親(e.)に該当していたと考えられる。しかし、育てていく中で子どもの障害や発達の心配が明らかになり、養育を続けることによって障害児を養育する里親(b.)に該当するようになった里親は、現時点では障害児を養育することについて前向きな考えを示している。つまり、記述にみられたような、障害や発達の心配がわからない時期から委託をして、子どもとの十分な愛着が形成されていく中で障害が判明するのであれば育てられるのではないか、という考え方を支持する結果となった。

	a. 障害 委託前	b. 障害 委託後	c. 発達 委託前	d. 発達 委託後	e. いずれも 該当なし
IVA 困難	0 (0.00) * ↓	2 (4.00)	0 (0.00) * ↓	3 (2.61)	69 (9.36) ** ↑
IVB 条件付きで可能or困難	10 (18.2) ** ↑	5 (10.0)	6 (10.2)	3 (2.61)	79 (10.7)
IVC 受け入れ可、平等主義的意見	1 (1.82)	5 (10.0) * ↑	5 (8.47) * ↑	1 (0.87)	26 (3.53) * ↓

数値は回答件数、()内の数字は回答者属性内での%

** $p < .01$, * $p < .05$ 残差分析の結果、他カテゴリよりも有意に多い項目には「↑」、有意に少ない項目には「↓」を加えた。

表6. 回答者の属性とカテゴリIVのクロス集計表と残差分析結果

今回は、カテゴリの該当数が少なかったこと、ここで用いた集計や解析に必ずしも適当ではない設問形式であったことなど、いくつもの課題がある中で分析を行った。しかし、すべての里親が同じ状況で委託児を養育し

ているのではなく、それぞれの属性により異なるニーズがあることを踏まえて、提言を行っていくことが重要であると示唆された。

問26, 27の結果のまとめ・今後の課題

自由記述問26、27の分析結果を簡単に振り返りつつ、全体的な考察を行う。今回の分析では、里親による率直な意見をくみ上げつつ、里親が子どもを養育する際に感じる具体的な困難や不安の一端を明らかにした。さらに、それと関連するかたちで、里親の立場からみて必要な支援や制度のあり方についての意見を整理し、考察を加えた。その際、里親制度全般についての考察と同時に、特に障害や発達に心配のある委託児（以下、障害のある委託児）の養育に必要な支援や制度のあり方についても検討した。

障害のある委託児を養育する際には、障害のない委託児を養育する場合とは異なる支援も必要となってくる。一般的に障害児が受けることのできる支援を、障害のある委託児も受けられるよう、制度を整えることは大前提である。そのうえで、一般的な障害児への支援を充実させること、さらには障害のある委託児を育てやすい環境を整えることが必要である。

複数の記述にみられたように、里親がさまざまな問題に対処するための支援の不足や、委託される子どもが抱える多様な難しさなどから「里親の善意や熱意だけで里子を養育していくのは、限界がある」という現状が浮き彫りとなった。問6に見られるように、多くの里親が「福祉向上に役立ちたい」という動機で里親を引き受けていることを踏まえ、十分なサポート体制を確立し、養育児童が育ちやすい環境を整えることは急務である。さもなくば、障害児里親は促進されるどころか、心ある里親のバーンアウトが進むことになるだろう。

今回の自由記述欄の記載からは、困難や不安、提言や意見についての記述を上回る数の、感謝や喜びについての記述が寄せられたことも事実である。多くの里親は普

段の生活のなかで、子どもの成長を感じたり、子どもと少しづつ打ち解けていくことによって、やりがいや充実感を感じていた。そして、子どもから勇気や元気をもらいながら、里親自身の成長を感じたり、家族全体がにぎやかになるといったことを体験していた。そういう体験をした里親は、自分を支えてくれた人たちや、委託児に出会えたことに対して感謝の気持ちを抱いていた。今回の自由記述の分析をしてみて、「里親は大変ですが、それ以上に子どもの笑顔が嬉しい」「子どもがいなかったときに比べると、里子を中心に家族が1つになってきていることに、喜びを感じています」といった里親の暖かな声を伺うことができ、調査の分析に携わった者として懐倖の思いである。

さらには、里親には障害児を生んだことに対する自責の念がない分、比較的冷静かつ客観的に子どもと接することができるのではないかという意見も見られた。こうした記述からも、障害児里親を促進させる意義を読み取ることができる。

里親制度の問題点を考察し、改善点を提案することと同時に、以上のような、里親が感じている喜びや感謝の気持ち、養育児童や障害のある養育児童を育てることの意義について、データに基づいた正確な情報を用いて発信していくことも「障害児里親の促進」に有効であると思われる。今回の調査から垣間見える里親のもつ底力を、多くの子どもたちの幸せのために活かすべく、その促進と後方支援の充実が求められている。

今回の分析は限られた時間のなかで行わざるをえなかったため、カテゴリ分類の仕方など、全体的に改善の余地がある。今後、改めて分析を行い、報告する機会を持ちたいと考えている。

III 調査結果の要約

木ノ内 博道

はじめに

障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会では、障害児や発達に心配のある子どもを養育している里親の現状や意識を明らかにするため、全国の委託里親を対象にアンケート調査を行った。近年、このような大掛かりな調査は行われていない。不慣れな調査のため関係機関や里親さんに多大のご迷惑をおかけしたが、回答者の声は熱く、自由記述の欄にはまとめきれないほどのご意見をいただいた。多くの委託里親のもとに障害児や発達に心配のある子どもが委託されている。十分な支援が行われないなかで、それでも力いっぱい養育に取り組んでいる里親の姿には敬服しないではいられない。

以下は調査報告の要約版である。

1. 調査の目的、方法、回答者のプロフィール

障害児や発達に心配のある子どもを養育する里親の現状や意識を明らかにするため、委託里親を対象にアンケート調査を実施した。実施は平成21年11月。調査の方法は全国63ある地域の里親会を通じ、委託里親に調査票を郵送してもらう形で行った。調査票は約2200配布し、1016（回答率46%）の回答があった。

回答者のプロフィールは、里母の回答が69.1%、里父が27.8%。回答者の年齢は50代が最も多く40.6%、次いで40代（26.8%）、60代（22.1%）となっている。また里親の種類では養育里親が93.6%を占め、次いで専門里親が13.6%となっている。

回答者またはその配偶者が「障害に関わる職業を経験したか」と聞いたところ、28.9%もの里親が「している（していた）」と答えている。

2. 里親の現状と意識

「里親を受けた動機」については「実子がない」（41.6%）、「福祉向上に役立ちたい」（40.6%）の2つが多く、次いで「子どもが好きだ」（24.9%）と続く。また、「里親を受けた動機」について聞いたところ、

「子どもがかわいい」（38.6%）と「生きがいを感じる」（34.6%）の2つが多かった。

逆に、「里親を受けた動機」は、「子どもの行動が理解できない」（29.6%）と「子どもの将来が見通せない」（29.1%）が多く、次いで「公的機関が頼りにならない」（20.5%）となっている。

さらに、「困難にぶつかったとき何に支えられるか」を聞いたところ、「家族の理解と励まし」が最も多く42.7%、次いで「子どもへの愛情」（29.9%）、「児童相談所など相談機関」（23.4%）、「里親会」（19.7%）と続く。

「養育をして困ったこと」という質問に「公的機関が頼りにならない」が挙げられながら、困難にぶつかったときには「児童相談所など相談機関」と回答しているのは、頼りにならなくても他に解決方法が少ないからではないかと考えることができよう。

3. 委託児の状況

「現在委託されている児童の数」では「1人」が62.2%、「2人」が23%、「3人」が7%である。「委託児のこと困っていること」は、「自分の意思を表示するのがとても下手」、「年齢に比べて危険の判断ができない」、「落ち着きがなく常に動きまわっている」、「多弁・おしゃべりがとまらない」、「反抗的である・暴力的である」の順で多かった。

「あなたの家族がとても困っていること」を聞いたが、「家族どうしの会話や生活が落ち着かない」などの回答が見られるものの、それほど大きな数字にはなっていない。

「困っていることの原因」については、「子どもの性格」が最も高く28.6%、次いで「実親家庭の虐待などの経験」（26.1%）、「これまでの不安定な育ち」（24.7%）と続く。

「里親自身の現在の状況」について聞いたところ、「かわいいのがんばっている」が最も多く59.2%、次いで「子育てを楽しんでいる」が21.4%。現状を肯定的にとらえる里親が多い。しかし一方で、現状

を否定的にとらえている里親もわずかながら存在する。「もう少し楽だとよい」(5.8%)、「疲れている」(3.8%)、「自信がなくなっている」(2.3%)、「その他」(3.7%)。「その他」には「大変だが使命感を感じて——」「早く手放したい。よそに行ってほしい」など限界を超えているとみられるコメントが寄せられていた。

多くの里親が現状を肯定的に受け止めているなか、限界を感じている里親が少數ながらいることに注目する必要がある。

4. 「障害がある」あるいは「発達に心配がある」子どもの状況

回答した1016の里親のうち「障害がある子」を養育する里親は115(11.3%)と約1割を占める。そのうち、1人の「障害がある子」を養育している里親は98。2人を養育している里親は14。3人を養育する里親は2。4人を養育する里親は1となっている。

また1016里親のうち「発達に心配のある子」を養育する里親は188(18.5%)と2割弱を占める。そのうち1人の「発達に心配のある子」を養育している里親は173。2人を養育する里親は10。3人を養育する里親は5である。

なお回答した委託里親が養育している子どもの数は1182人で、「障害のある子」が110人(9.3%)、「発達に心配のある子」が178人(15.1%)、「障害のある子」と「発達に心配のある子」を合計すると、全体の24.4%に上り、里親に委託されている子どもの4人に1人がこうした子どもたちということになる。

その子どもたち288人の通学(園)先について聞いたところ、ほとんどが保育園、幼稚園、小学校普通学級、中学校普通学級など通常の通学(園)先を利用しているが、22%が障害児学級、特別支援学校に通っている。

手帳の有無については、この子どもたちの72.1%が持っていない。「持っている」が21.4%、「近く申請する予定」が3.1%となっている。手帳を持っている子どものうち「療育手帳」の割合が高く74.6%、次いで「身体障害者手帳」が11.3%、「精神

障害者手帳」が2.8%となっている。

障害の種類については「知的障害」が最も多く27.9%を占める。次いで「学習障害」(21.7%)、「自閉症など」(16.9%)、「ADHD」(15.5%)と続く。「その他」が20%と高くそのなかには「愛着障害」「難病」などの記載があった。

5. 「障害がある子」または「発達に心配のある子」を受託することについて

障害あるいは発達に心配のある子であると分かった時期について、これらの子を養育している里親に聞いたところ、「受託前に分かっていた」が40.3%を占める。「育てていかなかで分かった」が57.6%であった。

受託する前に分かっていた里親に児童相談所から受けた説明を自由記述方式で書いてもらったところ、106ものコメントが寄せられた。「ボーダーである」「虐待によるものか先天性によるものか不明」「自閉症の疑いがある」「里親以外の養育は困難なので何とかお願いしたい」「発達がゆっくりな子です」「あまり先のことは考えずとりあえず受けてほしい」など。児童相談所の説明にはどこか他人行儀で、一緒にこの子を養育していきましょうというような、養育に寄り添っていく姿勢はコメントからは感じられなかった。それどころか、子どもの障害などを実際より軽く説明し、当面の問題をやり過ごそうという意識がかいしま見られる。

受託する前に障害あるいは発達に心配のある子であることが分かっていた里親に、受託するのにためらいはなかったか聞いたところ、「あまりなかった」が33%、「まったくなかった」が31.6%と、65%もの里親がほとんどためらわずに受け入れている。ためらいが「かなりあった」は8.5%、「ややあった」は26.5%である。

さらに、分かっていて受託したのはなぜか聞いたところ、「社会的使命を感じたから」が最も多く(40.2%)、次いで「子どもに愛情を感じたから」(28.2%)、「自分ならできると思ったから」(22.2%)、「家族が協力すると言ったから」(18.8%)と続いている。「その他」が28.2%と多いが、そのなかには「どんな子でも断る気持ちはない」「実子は選べない」「信

III まとめ

仰」「縁」などのコメントが寄せられた。肝心の「いろいろな公的支援があると思ったから」は13.7%とあまり高くない。「障害福祉の経験があったから」は10%。気持ちが先行し、支援体制や福祉の経験を生かそうとする現実派の里親は少数である。

障害あるいは発達に心配のある子だということが育てていくなかで気付いたと答えた里親に、誰が気付いたのかを聞いたところ、「里親自身」が89.2%と群を抜いて多い。それ以外では「幼稚園保育園学校の先生」が21.6%、「児童相談所の職員」は15%である。措置権を行使して委託している子どもの状況について「児童相談所の職員」の気付きは少なすぎると言える。

気付いたときに誰に相談したか聞いたところ、「児童相談所の職員」と答えた里親が67.1%と非常に多い。次いで「幼稚園保育園学校の先生」(31.7%)、「他の里親」(21%)、「近所の小児科医など医師」(18.6%)と続く。このことから、里親の児童相談所への期待の大きさを見ることができる。

相談の内容については、「育て方」が最も多く48.1%、次いで「特に気をつけること」(44.4%)、「今後子どもがどう育つか」(41.2%)、「どんな支援が受けられるか」(25%)、「子どもは成人後どうなるのか」(13.8%)と続く。「その他」(16.9%)には、「診断を受けるべきか」「問題行動の理由」などが記載されていた。

さらに“その答えは役にたったか”と聞いたところ、「役に立った」が43.1%と最も多かった。しかし半数に届いていない。「あまり役にたたなかつた」は13%。「どちらとも言えない」が31.2%という結果になった。また「その他」(6.2%)のなかには「病院を紹介してくれた」「そんなはずはないと言われた」「突き放された」「育て方が悪いと他の里親に言われ辛かった」などの記載があった。

6. 「障害がある子」および「発達に心配のある子」の養育と社会的資源の活用

“社会的資源の利用経験はあるか”を聞いた。「児童相談所のケースワーカー」、「障害児の相談支援センター」、「障害児のデイサービスやショートステ

イ」、「特別児童手当」など制度化された社会的資源の他、民間の社会的資源も含めて合計15項目を「使った」「使っていない」「知らない」の3択で答えてもらった。

「児童相談所のケースワーカー」を“使った”里親は56%と最も多いが、“使っていない”が24%あり“知らない”も6%あった。次いで利用率の高いのは「専門医やリハビリテーション機関など」で“使った”が32%、しかし“使っていない”も40%と多い。「障害についての勉強会や講演会」も利用率が高く32%。里親の身近にいる「保育園や幼稚園学校などの障害児専門の先生や支援員」の利用率も高く31%。

全体的に言えることは、こうした子どもを持つ里親が社会的資源をあまり使っていないこと。「児童相談所のケースワーカー」についてはもっと活用すべきだし、民間の社会的資源とももっと繋がる必要があるだろう。「障害についての勉強会や講演会」の参加が多いのは、耳学問で自ら問題を解決しようという熱心さの表れだと見ることができる。

“社会的資源を使った場合の満足度”については、「障害児デイサービスやショートステイ」「障害についての勉強会や講演会」「手をつなぐ育成会など障害者家族団体」「放課後支援」「ホームヘルパーなどの家事支援」などが高くていずれも60%を超えている。「障害についての勉強会や講演会」以外はいずれも利用率が7%以下で非常に低いが、利用した満足度は高いという結果になっている。利用経験の最も高かった「児童相談所のケースワーカー」については“よい”が42%、“どちらでもない”が45%、“わるい”が8%と、やや残念な結果となっている。

7. 「障害がある子」および「発達に心配のある子」を育てる里親の意識

“障害がある子・発達に心配のある子を育てるために必要なものは何か”を聞いたところ、「学校の理解」(48.6%)、「相談できる機関」(47.2%)、「家族の協力」(35.9%)の3つが高かった。次いで高かったのは「専門的に育児を支援してくれる人」、「専門医（児童精神科・整形外科等）」で20%台。学校の理解と専門的な相談機関や支援者の存在、それに

家族の協力が特に必要とされていることがうかがえる。

こうした子どもを育てていて“やりがいを感じるときはどんなときか”を聞いた。「子の成長を感じられるとき」が断然一位で79.3%。次いで「子を理解できたと思うとき」が65.5%。ほとんどこの2つと言ってよいほど他の項目を引き離している。ところで「無回答」が6%あった。やりがいを感じるときがないということだろうか。

こうした子どもを育てる際に“負担に感じることはなにか”を聞いた。「子どもの将来が見通せない」が最も多く42.1%。次いで「手がかかりすぎる」(30.7%)、「子どもが理解できない」(19.3%)、「子どもの成長が感じられない」(13.4%)と続く。

次に“これからの大好きな不安はなにか”を聞いたところ、「委託期間が終わった後、子どもがどうなるか不安」と回答した里親が58.6%で群を抜いている。措置解除後も養育を続ける里親が現実に多くいるが、里親もいつまでも若くはない。「自分の健康が不安」(11%)という気持ちが理解できる。

最後に、こうした子どもたちを養育する里親として“続けていく気持ちがあるか”を聞いた。「おおいにある」と意欲を見せる里親が23.8%。「ある」が35.9%。6割が前向きな気持ちを持っているのは注目すべきことだろう。「少し考える」とためらいを見せる里親が26.2%。「あまりない」(5.5%)、「まったくない」(5.9%)は少数となっている。

IV 資料

1 調査票

里親の皆様へアンケートについてのお願い

皆さま お元気でいらっしゃいますか？

私どもはこのたび、全国の里親さんを対象に「発達に心配のある児童の里親アンケート」を実施いたします。

障害の有無にかかわらず、育ちの時期に家庭でくらすことは、すべての子どもにとって欠くことのできない大切な経験です。にもかかわらず、家族のさまざまな事情で親元を離れなければならない障害児は、今ほとんど障害児施設や児童養護施設など、入所型の施設で暮らしています。いま、虐待その他不適切な養育環境で傷ついた子どもたちが、里親さんの手もとで本来の育ちを取り戻しています。障害のある子どもたちにも、こうした機会が用意されたらどんなによいでしょう。

しかし障害児が里親家庭で養育されるためには、それなりの支えが必要です。何があればよいのでしょうか？どんな制度や支援があれば、それが可能になるのでしょうか？私たちはそのヒントを里親さんの経験から教えていただくために、このアンケートを実施いたします。それを通して、広く里親事業全体の発展と、すべての子どもの福祉の向上に役立つことを願っております。

お忙しい中大変恐縮でございますが、なにとぞ趣旨をご理解のうえご協力下さいますようお願ひいたします。

★この調査は全国里親会の全面的なご理解とご協力のもとに実施しております。

★この調査票は各地域の里親会事務局を通して配布していただきます。

★この調査の回答は直接調査実施事務局に返送されます。

★調査の結果は、後日、各地域里親会事務局あてにお知らせいたします。

★この調査は無記名式です。ここで得た情報は調査の目的以外には一切使用いたしません。

★返信用封筒に切手をはる必要はありません。調査票に記入後 返信用封筒に入れ、そのまま投函してください。

★調査の締切日は11月27日ですが、出来るだけ早く返送して下さるようお願いしいたします。

2009年11月1日

障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会
(障害児の里親促進の基盤整備事業実施委員会)
代表 室津 滋樹

アンケート調査票

はじめにこの調査票にお答えいただく方についておうかがいします

問1 このアンケートに答えていただく方を教えてください。(○は1つ)

- 1 里父 2 里母 3 その他 (具体的に : _____)

問2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

- 1 20代 2 30代 3 40代 4 50代 5 60代 6 70代以上

問3 あなたのお住まいはどちらですか。 (_____ 県・道・府・都)

問4 あなたの里親の種類と経験年数について教えてください。(○はいくつでも)

- 1 養育里親(_____年) 2 専門里親(_____年) 3 親族里親(_____年)
 4 ファミリーホーム (_____年) 5 合計で里親の経験年数は(_____年)

問5 あなた、または、あなたの配偶者は、福祉や教育分野で障害にかかわる仕事をされていますか、または過去していましたか。(○は1つ)

- 1 していない 2 している (していた)

問6 あなたが里親を引き受けたことを決めた動機は何ですか。(○は2つまで)

- 1 実子がいない 2 実子に兄弟が欲しい。
 3 実子はいるがもっと子育てをしたい 4 子どもの福祉向上に役立ちたい
 5 子どもが好きだ 6 子共にかかわる仕事をした経験が役立つ
 7 知り合いにすすめられた 8 その他 (_____)

問7 あなたが里親を引き受けたよかったです。(○は2つまで)

- 1 子どもがかわいい 2 子どもの役に立てる
 3 生活の幅が広がった 4 家族の関係がよくなった
 5 人間関係が広がった 6 社会の仕組みに関心を持つようになった
 7 自分の経験が役立つ 8 生きがいを感じる
 9 その他 (具体的に _____)

問8 あなたが里親を引き受け、予想外に困ったことは何ですか。(○は2つまで)

- 1 子どもがなつかない 2 子供の行動が理解できない
 3 家族の協力が難しい 4 お金の面で公的補助が足りない
 5 周囲の目が厳しい 6 よい相談相手がいない
 7 公的機関が頼りにならない 8 子どもの将来が見通せない
 9 その他 (具体的に _____)

問9 里親であるあなたが困難にぶつかったとき、何に支えられますか。(○は2つまで)

- 1 子供への愛情 2 家族の理解や励まし
 3 友人知人の理解やアドバイス 4 家事育児に対する具体的な手助け
 5 気晴らしの時間 6 児童相談所など相談機関
 7 専門的な知識 8 自分の経験
 9 経済的なゆとり 10 里親会
 11 その他 (具体的に _____)

現在、委託されているお子さんについておうかがいします

問10 現在委託されているお子さんは、何人ですか。

ぜんぶで _____ 人 (うち、男 _____ 人、女 _____ 人)

* 以下の項目は、「ひとりのお子さん」について記入していただく様式になっています。

委託されているお子さんが2人以上のときは、以下の部分をコピーして別々にお答えいただくか、あるいは、いちばん困っているお子さんひとり、についてお答えください。

問11 現在、「委託されているお子さん」の育ちや生活の中で、とても困っていることがありますか。

また、そのことで「あなたの家族」が生活で困るようなことがありますか。(それぞれに○は1つ)

	かなり ある	やや ある	あまり ない	まったく ない
--	-----------	----------	-----------	------------

「委託されているお子さん」でとても困っていること

1 食事、排泄、入浴等に年齢よりも不相応な介助が必要	1	2	3	4
2 夜寝ない、寝起きが悪いなど生活リズムが取れない	1	2	3	4
3 言葉が遅れている	1	2	3	4
4 自分の意思を表示するのがとても下手	1	2	3	4
5 年齢にくらべて危険の判断ができない	1	2	3	4
6 多弁・おしゃべりがとまらない	1	2	3	4
7 からだや手の使い方がぎこちない	1	2	3	4
8 こだわりや固執がつよく生活に影響がある	1	2	3	4
9 落ち着きがない、常に動き回っている	1	2	3	4
10 音などの刺激に過敏、触られるのを極端に嫌がる	1	2	3	4
11 反抗的である、暴力的である	1	2	3	4
12 かつとなりやすく人の話が聞けない	1	2	3	4
13 性の問題が心配	1	2	3	4
14 園や学校に行きたがらない、不登校	1	2	3	4
15 いじめを受けやすい	1	2	3	4
16 近所でいっしょに遊ぶ友達ができない	1	2	3	4
17 その他 (具体的に _____)	1	2	3	4

「あなたの家族」がとても困っていること

18 家族で外食や買い物などに行けない	1	2	3	4
19 家族どうしの会話や生活が落ち着かない	1	2	3	4
20 近所のつきあいがうまくいかなくなる	1	2	3	4
21 家族で遠出の旅行に行けない	1	2	3	4
22 その他 (具体的に _____)	1	2	3	4

問 11-1 問 11 で、「かなりある」「ややある」に 1 つでも〇がついた方にうかがいます。

その原因は何だと思いますか。(〇は 2 つまで)

「かなりある」「ややある」に〇がない方は、問 12 に進んでください。

- 1 実親家庭の虐待など不幸な経験
- 2 乳児院や養護施設などこれまでの不安定な育ち
- 3 子どもの性格
- 4 反抗期・思春期など成長途上の問題
- 5 ためし行動など一時的なもの
- 6 現在の養育に問題がある
- 7 子どもに障害がある
- 8 障害とはいえないでも発達に心配がある
- 9 その他(具体的に _____)

問 12 「困っていることがある」方と「困っていることがない」方の両方にうかがいます。

今の委託されているお子さんを養育していることについて、あなた（里親さん自身）の現在は以下のどれに当てはまりますか。(〇は 1 つ)

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1 子育てを楽しんでいる | 2 大変だが子どもがかわいいのでがんばっている |
| 3 普通にくらしている | 4 もう少し楽だとよい |
| 5 自信がなくなっている | 6 つかれている |
| 7 その他(具体的に _____) | |

以下の設問は、問 11-1 で、「7 子どもに障害がある」、

および、「8 障害とはいえないでも発達に心配がある」

と答えた方にうかがいます。それ以外の方は、最後のページの問 26 に進んでください。

問 13 問 11-1 で「7 子どもに障害がある」「8 障害とはいえないでも発達に心配がある」と答えた「障害のあるお子さん」は、何人ですか。（_____）人（うち、男_____人、女_____人）
「障害とはいえないでも発達に心配があるお子さん」は、何人ですか。

（_____）人（うち、男_____人、女_____人）

* 以下の項目は、「ひとりのお子さん」について記入していただく様式になっています。

該当するお子さんが 2 人以上のときは、以下の部分をコピーして別々にお答えいただかずか、あるいは、いちばん該当するお子さんひとり、についてお答えください。

問 14 以下でお答えいただくのは、どちらのお子さんのことですか。(〇は 1 つ)

- 1 障害のある子のことを答える
- 2 障害とはいえないでも発達に心配がある子について答える

* 以下では、ここで〇をつけた「障害がある」あるいは「発達に心配がある」お子さん
のことを「そのお子さん」ということにします。

問 15 問 14 で〇をつけた「そのお子さん」は、今、どこに通っていますか。(〇は 1 つ)

- | | | |
|---------------|---------------------|--------------|
| 1 幼稚園 | 2 保育園 | 3 小学校(普通学級) |
| 4 小学校(障害児学級) | 5 中学校(普通学級) | 6 中学校(障害児学級) |
| 7 養護学校(小学部) | 8 養護学校(中学部) | 9 養護学校(高等部) |
| 10 どこにも通っていない | 11 その他(具体的に _____) | |

問16 そのお子さんの「障害」あるいは「発達の心配」についておたずねします。

問16-1 身体障害手帳・療育手帳などを持っていますか。(○は1つ)

- 1 もっていない→問16-3へ 2 もっている 3 近く、申請する予定である

問16-2 手帳の種類と障害の区分をお知らせください。<手帳の内容を記載>(○はいくつでも)

- 1 身体障害者手帳(区分____) 2 療育手帳(区分____) 3 精神障害者手帳(区分____)

問16-3 障害はありますか。以下のどれにあてはまるかお答え下さい。(○はいくつでも)

- | | | |
|---------|--------------------|-------------------|
| 1 障害はない | 2 障害があるが、どれかはわからない | 3 身体虚弱 |
| 4 肢体不自由 | 5 視聴覚障害 | 6 知的障害 |
| 8 ADHD | 9 学習障害 | 10 広汎性発達障害(自閉症など) |
| 11 精神障害 | 12 その他(具体的に_____) | |

問17 そのお子さんの「障害」あるいは「発達の心配」はいつわかりましたか。(○は1つ)

- 1 委託を受ける前にわかつっていた →次の問18から答えてください
2 育てていく中でわかつた →次の次の問19から答えてください

問18 「委託を受ける前」に障害あるいは発達の心配があるとわかつていた方にうかがいます。

問18-1 児童相談所からどんな説明がありましたか。(自由記述)

問18-2 委託を受けることにためらいはありましたか。(○は1つ)

- 1 かなりあった 2 ややあった 3 あまりなかった 4 まったくなかった

問18-3 受託したのはなぜですか。(○は2つまで)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 子どもに愛情を感じていたから | 2 社会的使命を感じたから |
| 3 障害福祉の経験があったから | 4 自分なら出来ると思ったから |
| 5 家族が協力するといったから | 6 いろいろな公的支援があると思ったから |
| 7 その他(具体的に_____) | |

問18-4 そのほか、引き受けるにあたって、なにか特別に考えたり、希望したことがあればお教えください。(自由記述)

問19 「育てていく途中」で「障害」あるいは「発達の心配」があるとわかつた方にうかがいます。

問19-1 そのお子さんの「障害」あるいは「発達の心配」は誰が気がつきましたか。

(○はいくつでも)

- | | | |
|------------------|-------------|--------------------|
| 1 里親自身 | 2 家族・親戚 | 3 幼稚園・保育園・学校の先生 |
| 4 児童相談所の職員 | 5 近所の人 | 6 近所の小児科医など医師に言われた |
| 7 乳幼児健康診断で言われた | 8 障害にくわしい知人 | |
| 9 その他(具体的に_____) | | |

問19-2 そのとき誰に相談しましたか。(○はいくつでも)

- | | | |
|-------------------|---------------------|--------|
| 1 幼稚園・保育園・学校の先生など | 2 児童相談所の職員 | 3 近所の人 |
| 4 近所の小児科医など医師 | 5 乳幼児健康診断 | 6 他の里親 |
| 7 障害にくわしい知人 | 8 相談先が無かった | |
| 9 相談する必要が無かった | 10 その他 (具体的に _____) | |

問19-3 どんなことについて相談しましたか。(○はいくつでも)

- | | | |
|--------------------|-----------------|---------------|
| 1 育て方 | 2 特に気をつけること | 3 今後子どもがどう育つか |
| 4 どんな支援が受けられるか | 5 子どもは成人後どうなるのか | |
| 6 その他 (具体的に _____) | | |

問19-4 その答えは役に立ちましたか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------------|---------------|-------------|
| 1 役に立った | 2 あまり役に立たなかった | 3 どちらともいえない |
| 4 その他 (具体的に _____) | | |

**問20 「委託を受ける前」および「育てていく途中」で、「障害」や「発達の心配」に気がついた両方の方にうかがいます。以下の社会資源を使ったことがありますか。(○は1つ)
「使った」ことがある場合、その満足度はどうでしたか。(○は1つ)**

	知らない	使つていな	使つた	【満足度】			
				<よい	どちらで	わるい>	もない
1 児童相談所のケースワーカー	1	2	3	♦	1	2	3
2 障害児専門の相談支援センター	1	2	3	♦	1	2	3
3 保育園・幼稚園・学校の障害児専門の 先生や支援員など	1	2	3	♦	1	2	3
4 専門医やリハビリテーション機関など	1	2	3	♦	1	2	3
5 障害児キャンプやプールなど	1	2	3	♦	1	2	3
6 障害児デイサービスやショートステイ	1	2	3	♦	1	2	3
7 特別児童手当	1	2	3	♦	1	2	3
8 補助具の支給	1	2	3	♦	1	2	3
9 ホームヘルパーなどの家事援助	1	2	3	♦	1	2	3
10 手をつなぐ育成会など障害者家族団体	1	2	3	♦	1	2	3
11 障害についての勉強会や講演会	1	2	3	♦	1	2	3
12 放課後支援	1	2	3	♦	1	2	3
13 保健所の育児指導	1	2	3	♦	1	2	3
14 カウンセラーや心理職	1	2	3	♦	1	2	3
15 障害児施設の相談員	1	2	3	♦	1	2	3
16 その他 (具体的に _____)	1	2	3	♦	1	2	3

問 21 障害のある子、あるいは、発達に心配のある子を育てるにあたって必要なものは何ですか。
(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 相談できる機関 | 2 専門的に育児を支援してくれる人 |
| 3 ホームヘルパー | 4 児童デイサービス・障害児通園施設 |
| 5 ショートステイホーム | 6 専門医(児童精神科・整形外科等) |
| 7 カウンセラー・心理職 | 8 放課後支援事業 |
| 9 保育園、幼稚園の受け入れ | 10 学校の理解 |
| 11 養護施設、障害児施設等のバックアップ | 12 手当の増額 |
| 13 家族の協力 | 14 地域の理解 |
| 15 その他 (具体的に _____) | |

問 22 里親として、障害や発達に心配のある子の子育てにやりがいを感じるのはどんなときですか。
(○は2つまで)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 子どもの成長が感じられるとき | 2 自分が子どもを理解できたと思うとき |
| 3 子どもの喜ぶ姿を見たとき | 4 使命感を感じるとき |
| 5 周りの人の理解が深くなったと思うとき | 6 家族がよく協力してくれるとき |
| 7 その他 (具体的に _____) | |

問 23 里親として、障害や発達に心配のある子を育てる際に負担を感じるのはどんなことですか。
(○は2つまで)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 子どもの成長が感じられない | 2 子どもが理解できない |
| 3 手がかかりすぎる | 4 周囲の目が厳しい |
| 5 家族の協力が無い | 6 子どもの将来が見通せない |
| 7 経済的な負担が大きい | 8 使える社会資源が少ない |
| 9 負担に感じることは特に無い | 10 その他 (具体的に _____) |

問 24 障害のある子、あるいは、発達に心配のある子を育てるにあたって、これから大きな不安は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1 依託期間が終わった後、子どもがどうなるか不安 | 3 自分の健康が不安 |
| 2 障害児の育て方が不安 | 5 今のところ特に大きな不安は無い |
| 4 子どもの健康が不安 | |
| 6 その他 (具体的に _____) | |

問 25 あなたは今後、障害や発達に心配のあるお子さんの養育を里親として続けていく気持ちがありますか。(○は1つ)

- 1 おおいにある 2 ある 3 少し考える 4 あまりない 5 まったくない

さいごに自由なご意見をおうかがいします

問26 里親としての喜びや悲しみ、養育しているお子さんへの気持ち、家族その他まわりの方がたへの気持ちなど自由にお書きください。

問27 現在の里親制度や里親を引き受けることや、障害のある子の里親を引き受けることについてのご意見やご感想、問題点、提言などを自由にお書きください。

質問はこれで終わりです。

回答済みの質問票は同封の返信用封筒に入れ、

平成21年11月27日(金)までに郵便ポストに投函してください。

ご協力ありがとうございました。

なお、本調査の結果を踏まえて、今後ヒアリング調査を行う予定があります。
ヒアリングにご協力いただけるようでしたら、下記に連絡先を記入してください。

ヒアリング調査に協力していただける方

お名前 _____

住 所 _____

連絡先（電話、e-Mail等） _____

IV 資料

2

集計票

回答者について

問1 回答者

	件数	割合 N=1,016	割合 (除無回答) N=1,001
里父	282	27.8	28.2
里母	702	69.1	70.1
その他	17	1.7	1.7
無回答	15	1.5	—
全 体	1,016	100.0	100.0

問2 回答者の年

	件数	割合 N=1,016	割合 (除無回答) N=1,011
20代	5	0.5	0.5
30代	54	5.3	5.3
40代	272	26.8	26.9
50代	412	40.6	40.8
60代	225	22.1	22.3
70代以上	43	4.2	4.3
無回答	5	0.5	—
全 体	1,016	100.0	100.0

問3 居住都道府県

	件数	割合 N=1,016	割合 (除無回答) N=980
北海道	127	12.5	13
青森県	5	0.5	0.5
岩手県	18	1.8	1.8
宮城県	17	1.7	1.7
秋田県	0	0.0	0.0
山形県	6	0.6	0.6
福島県	14	1.4	1.4
茨城県	24	2.4	2.4
栃木県	29	2.9	3.0
群馬県	24	2.4	2.4
埼玉県	36	3.5	3.7
千葉県	43	4.2	4.4
東京都	88	8.7	9.0
神奈川県	41	4.0	4.2
新潟県	23	2.3	2.3
富山県	2	0.2	0.2
石川県	4	0.4	0.4
福井県	7	0.7	0.7
山梨県	18	1.8	1.8
長野県	11	1.1	1.1
岐阜県	21	2.1	2.1
静岡県	33	3.2	3.4
愛知県	12	1.2	1.2
三重県	24	2.4	2.4
滋賀県	20	2.0	2.0
京都府	4	0.4	0.4
大阪府	40	3.9	4.1
兵庫県	37	3.6	3.8
奈良県	20	2.0	2.0
和歌山県	11	1.1	1.1
鳥取県	10	1.0	1.0
島根県	4	0.4	0.4
岡山県	0	0.0	0.0
広島県	18	1.8	1.8
山口県	16	1.6	1.6
徳島県	6	0.6	0.6
香川県	9	0.9	0.9
愛媛県	3	0.3	0.3
高知県	5	0.5	0.5
福岡県	40	3.9	4.1
佐賀県	5	0.5	0.5
長崎県	8	0.8	0.8
熊本県	17	1.7	1.7
大分県	16	1.6	1.6
宮崎県	23	2.3	2.3
鹿児島県	13	1.3	1.3
沖縄県	28	2.8	2.9
無回答	36	3.5	—
全 体	1,016	100.0	100.0

問4 里親の種類（複数回答）

	件数	割合 N=1,016	割合 (除無回答) N=998
養育里親	951	93.6	95.3
専門里親	138	13.6	13.8
親族里親	41	4.0	4.1
ファミリーホーム	20	2.0	2.0
無回答	18	1.8	—
全 体	1,168	—	—

問4 里親の経験年数（複数回答）

		0年	2年未満	2年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上	無回答	全体	平均 (年)
件数	養育里親	1	155	227	271	200	94	3	951	8.10
	専門里親	2	27	66	37	2	0	4	138	3.45
	親族里親	0	7	18	12	4	0	0	41	4.51
	ファミリーホーム	0	8	3	8	0	1	0	20	4.02
合計		1	28	58	93	75	60	683	998	10.61
割合	養育里親 N=951	0.1	16.3	23.9	28.5	21.0	9.9	0.3	100.0	
	専門里親 N=138	1.4	19.6	47.8	26.8	1.4	0.0	2.9	100.0	
	親族里親 N=41	0.0	17.1	43.9	29.3	9.8	0.0	0.0	100.0	
	ファミリーホーム N=20	0.0	40.0	15.0	40.0	0.0	5.0	0.0	100.0	
合計 N=998		0.1	2.8	5.8	9.3	7.5	6.0	68.4	100.0	
割合 (除無回答)	養育里親 N=948	0.1	16.4	23.9	28.6	21.1	9.9	—	100.0	
	専門里親 N=134	1.5	20.1	49.3	27.6	1.5	0.0	—	100.0	
	親族里親 N=41	0.0	17.1	43.9	29.3	9.8	0.0	—	100.0	
	ファミリーホーム N=20	0.0	40.0	15.0	40.0	0.0	5.0	—	100.0	
合計 N=315		0.3	8.9	18.4	29.5	23.8	19.0	—	100.0	

問5 回答者または配偶者の障害にかかわる仕事の経験有無

	件数	割合 N=1,016	割合 (除無回答) N=997
していない	707	69.6	70.9
している（していた）	290	28.5	29.1
無回答	19	1.9	—
全 体	1,016	100.0	100.0

問6 里親を引き受けることを決めた動機（複数回答）

	件数	割合 N=1,016	割合 (除無回答) N=1,007
実子がいない	423	41.6	42.0
実子に兄弟が欲しい	44	4.3	4.4
実子はいるがもっと子育てをしたい	173	17.0	17.2
子どもの福祉向上に役立ちたい	413	40.6	41.0
子どもが好きだ	253	24.9	25.1
子どもにかかわる仕事をした経験が役立つ	98	9.6	9.7
知り合いにすすめられた	84	8.3	8.3
その他	163	16.0	16.2
無回答	9	0.9	—
全 体	1,660	—	—

問7 里親を引き受けたよかったです（複数回答）

	件数	割合 N=1,016	割合 (除無回答) N=1,006
子どもがかわいい	392	38.6	39.0
子どもの役に立てる	256	25.2	25.4
生活の幅が広がった	284	28.0	28.2
家族の関係がよくなった	82	8.1	8.2
人間関係が広がった	260	25.6	25.8
社会の仕組みに関心を持つようになった	153	15.1	15.2
自分の経験が役立つ	119	11.7	11.8
生きがいを感じる	352	34.6	35.0
その他	82	8.1	8.2
無回答	10	1.0	—
全 体	1,990	—	—

問8 里親を引き受けて、予想外に困ったこと（複数回答）

	件数	割合 N=1,016	割合 (除無回答) N=906
子どもがなつかない	16	1.6	1.8
子供の行動が理解できない	301	29.6	33.2
家族の協力が難しい	42	4.1	4.6
お金の面で公的補助が足りない	108	10.6	11.9
周囲の目が厳しい	91	9	10
よい相談相手がない	69	6.8	7.6
公的機関が頼りにならない	208	20.5	23
子どもの将来が見通せない	296	29.1	32.7
その他	184	18.1	20.3
特ない	72	7.1	7.9
無回答	110	10.8	—
全 体	1,497	—	—

問9 困難にぶつかったとき、何に支えられますか（複数回答）

	件数	割合 N=1,016	割合 (除無回答) N=996
子供への愛情	304	29.9	30.5
家族の理解や励まし	434	42.7	43.6
友人知人の理解やアドバイス	241	23.7	24.2
家事育児に対する具体的な手助け	59	5.8	5.9
気晴らしの時間	118	11.6	11.8
児童相談所など相談機関	238	23.4	23.9
専門的な知識	97	9.5	9.7
自分の経験	109	10.7	10.9
経済的なゆとり	30	3.0	3.0
里親会	200	19.7	20.1
その他	62	6.1	6.2
無回答	20	2.0	—
全 体	1,912	—	—

現在、委託されているお子さんについて

問10 委託されているお子さんの人数

	ぜんぶで			男			女		
	件数	割合 N=1,016	割合 (除無回答) N=990	件数	割合 N=1,016	割合 (除無回答) N=951	件数	割合 N=1,016	割合 (除無回答) N=951
0人	10	1.0	1.0	361	35.5	38.0	408	40.2	42.9
1人	632	62.2	63.8	454	44.7	47.7	425	41.8	44.7
2人	234	23.0	23.6	99	9.7	10.4	88	8.7	9.3
3人	66	6.5	6.7	30	3.0	3.2	22	2.2	2.3
4人	29	2.9	2.9	6	0.6	0.6	4	0.4	0.4
5人以上	19	1.9	1.9	1	0.1	0.1	4	0.4	0.4
無回答	26	2.6	—	65	6.4	—	65	6.4	—
全 体	1,016	100.0	100.0	1,016	100.0	100.0	1,016	100.0	100.0
平均(0人除く)	N=980	1.55人		N=590	1.31人		N=543	1.30人	

【以下の項目は「ひとりのお子さん」について回答】

問11 委託されているお子さんでとても困っていること

		かなりある (3)	ややある (2)	あまりない (1)	まったくない (0)	無回答	全体	加重平均
件数	食事、排泄、入浴等に年齢よりも不相応な介助が必要	41	137	169	615	77	1,039	0.59
	夜寝ない、寝起きが悪いなど生活リズムが取れない	57	150	208	548	76	1,039	0.71
	言葉が遅れている	49	134	148	636	72	1,039	0.58
	自分の意思を表示するのがとても下手	126	257	192	397	67	1,039	1.12
	年齢にくらべて危険の判断ができない	68	193	261	444	73	1,039	0.88
	多弁・おしゃべりがとまらない	80	162	303	419	75	1,039	0.90
	からだや手の使い方がぎこちない	34	115	206	607	77	1,039	0.56
	こだわりや固執がつよく生活に影響がある	103	220	269	373	74	1,039	1.05
	落ち着きがない、常に動き回っている	67	201	273	426	72	1,039	0.91
	音などの刺激に過敏、触られるのを極端に嫌がる	27	100	230	606	76	1,039	0.53
	反抗的である、暴力的である	50	183	286	445	75	1,039	0.83
	かっこなりやすく人の話が聞けない	72	198	273	420	76	1,039	0.92
	性の問題が心配	57	145	245	508	84	1,039	0.74
	園や学校に行きたがらない、不登校	19	65	148	715	92	1,039	0.35
	いじめを受けやすい	37	154	267	493	88	1,039	0.72
	近所でいっしょに遊ぶ友達ができない	73	138	276	459	93	1,039	0.82
	その他	118	33	19	123	746	1,039	1.50
割合	食事、排泄、入浴等に年齢よりも不相応な介助が必要 N=1,039	3.9	13.2	16.3	59.2	7.4	100.0	
	夜寝ない、寝起きが悪いなど生活リズムが取れない N=1,039	5.5	14.4	20.0	52.7	7.3	100.0	
	言葉が遅れている N=1,039	4.7	12.9	14.2	61.2	6.9	100.0	
	自分の意思を表示するのがとても下手 N=1,039	12.1	24.7	18.5	38.2	6.4	100.0	
	年齢にくらべて危険の判断ができない N=1,039	6.5	18.6	25.1	42.7	7.0	100.0	
	多弁・おしゃべりがとまらない N=1,039	7.7	15.6	29.2	40.3	7.2	100.0	
	からだや手の使い方がぎこちない N=1,039	3.3	11.1	19.8	58.4	7.4	100.0	
	こだわりや固執がつよく生活に影響がある N=1,039	9.9	21.2	25.9	35.9	7.1	100.0	
	落ち着きがない、常に動き回っている N=1,039	6.4	19.3	26.3	41.0	6.9	100.0	
	音などの刺激に過敏、触られるのを極端に嫌がる N=1,039	2.6	9.6	22.1	58.3	7.3	100.0	
	反抗的である、暴力的である N=1,039	4.8	17.6	27.5	42.8	7.2	100.0	
	かっこなりやすく人の話が聞けない N=1,039	6.9	19.1	26.3	40.4	7.3	100.0	
	性の問題が心配 N=1,039	5.5	14.0	23.6	48.9	8.1	100.0	
	園や学校に行きたがらない、不登校 N=1,039	1.8	6.3	14.2	68.8	8.9	100.0	
	いじめを受けやすい N=1,039	3.6	14.8	25.7	47.4	8.5	100.0	
	近所でいっしょに遊ぶ友達ができない N=1,039	7.0	13.3	26.6	44.2	9.0	100.0	
	その他 N=1,039	11.4	3.2	1.8	11.8	71.8	100.0	
割合 (除無 回答)	食事、排泄、入浴等に年齢よりも不相応な介助が必要 N=962	4.3	14.2	17.6	63.9	—	100.0	
	夜寝ない、寝起きが悪いなど生活リズムが取れない N=963	5.9	15.6	21.6	56.9	—	100.0	
	言葉が遅れている N=967	5.1	13.9	15.3	65.8	—	100.0	
	自分の意思を表示するのがとても下手 N=972	13.0	26.4	19.8	40.8	—	100.0	
	年齢にくらべて危険の判断ができない N=966	7.0	20.0	27.0	46.0	—	100.0	
	多弁・おしゃべりがとまらない N=964	8.3	16.8	31.4	43.5	—	100.0	
	からだや手の使い方がぎこちない N=962	3.5	12.0	21.4	63.1	—	100.0	
	こだわりや固執がつよく生活に影響がある N=965	10.7	22.8	27.9	38.7	—	100.0	
	落ち着きがない、常に動き回っている N=967	6.9	20.8	28.2	44.1	—	100.0	
	音などの刺激に過敏、触られるのを極端に嫌がる N=963	2.8	10.4	23.9	62.9	—	100.0	
	反抗的である、暴力的である N=964	5.2	19.0	29.7	46.2	—	100.0	
	かっこなりやすく人の話が聞けない N=963	7.5	20.6	28.3	43.6	—	100.0	
	性の問題が心配 N=955	6.0	15.2	25.7	53.2	—	100.0	
	園や学校に行きたがらない、不登校 N=947	2.0	6.9	15.6	75.5	—	100.0	
	いじめを受けやすい N=951	3.9	16.2	28.1	51.8	—	100.0	
	近所でいっしょに遊ぶ友達ができない N=946	7.7	14.6	29.2	48.5	—	100.0	
	その他 N=293	40.3	11.3	6.5	42.0	—	100.0	

問11 あなたの家族がとても困っていること

		かなりある (3)	ややある (2)	あまりない (1)	まったくない (0)	無回答	全体	加重平均
件数	家族で外食や買い物などに行けない	19	87	190	641	102	1,039	0.45
	家族どうしの会話や生活が落ち着かない	35	147	221	546	90	1,039	0.65
	近所のつきあいがうまくいかなくなる	8	39	213	678	101	1,039	0.34
	家族で遠出の旅行に行けない	49	108	195	592	95	1,039	0.59
	その他	67	18	18	145	791	1,039	1.03
割合	家族で外食や買い物などに行けない	N=1,039	1.8	8.4	18.3	61.7	9.8	100.0
	家族どうしの会話や生活が落ち着かない	N=1,039	3.4	14.1	21.3	52.6	8.7	100.0
	近所のつきあいがうまくいかなくなる	N=1,039	0.8	3.8	20.5	65.3	9.7	100.0
	家族で遠出の旅行に行けない	N=1,039	4.7	10.4	18.8	57.0	9.1	100.0
	その他	N=1,039	6.4	1.7	1.7	14	76.1	100.0
割合 (除無回答)	家族で外食や買い物などに行けない	N=937	2.0	9.3	20.3	68.4	—	100.0
	家族どうしの会話や生活が落ち着かない	N=949	3.7	15.5	23.3	57.5	—	100.0
	近所のつきあいがうまくいかなくなる	N=938	0.9	4.2	22.7	72.3	—	100.0
	家族で遠出の旅行に行けない	N=944	5.2	11.4	20.7	62.7	—	100.0
	その他	N=248	27.0	7.3	7.3	58.5	—	100.0

【問11で「かなりある」「ややある」が1つでもある方のみ】

問11-1 困っていることの原因（複数回答）

	件数	割合 N=769	割合 (除無回答) N=683
実親家庭の虐待など不幸な経験	201	26.1	29.4
乳児院や養護施設などこれまでの不安定な育ち	190	24.7	27.8
子どもの性格	220	28.6	32.2
反抗期・思春期など成長途上の問題	133	17.3	19.5
ためし行動など一時的なもの	64	8.3	9.4
現在の養育に問題がある	8	1.0	1.2
子どもに障害がある	111	14.4	16.3
障害とはいえないでも発達に心配がある	188	24.4	27.5
その他	55	7.2	8.1
無回答	86	11.2	—
全 体	1,256	—	—

問12 里親自身の現在の状態（複数回答）

	件数	割合 N=1,039	割合 (除無回答) N=959
子育てを楽しんでいる	222	21.4	23.1
大変だが子どもがかわいいのでがんばっている	356	34.3	37.1
普通にくらしている	259	24.9	27
もう少し楽だとよい	60	5.8	6.3
自信がなくなっている	24	2.3	2.5
つかれている	40	3.8	4.2
その他	38	3.7	4.0
無回答	80	7.7	—
全 体	1,079	—	—

【以下は問11-1で「子どもに障害がある」、「障害とはいえなくても発達に心配がある」と答えた方のみ】

問13 障害のあるお子さんの人数

	ぜんぶで			男			女		
	件数	割合 N=282	割合 (除無回答) N=282	件数	割合 N=282	割合 (除無回答) N=279	件数	割合 N=282	割合 (除無回答) N=279
0人	167	59.2	59.2	209	74.1	74.9	231	81.9	82.8
1人	98	34.8	34.8	62	22.0	22.2	45	16.0	16.1
2人	14	5.0	5.0	7	2.5	2.5	2	0.7	0.7
3人	2	0.7	0.7	0	0.0	0.0	1	0.4	0.4
4人	1	0.4	0.4	1	0.4	0.4	0	0.0	0.0
5人以上	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
無回答	0	0.0	—	3	1.1	—	3	1.1	—
全 体	282	100.0	100.0	282	100.0	100.0	282	100.0	100.0
平均 (0人除く)	N=115	1.19人		N=70	1.15人		N=48	1.08人	

問13 障害とはいえなくても発達に心配があるお子さんの人数

	ぜんぶで			男			女		
	件数	割合 N=282	割合 (除無回答) N=278	件数	割合 N=282	割合 (除無回答) N=274	件数	割合 N=282	割合 (除無回答) N=274
0人	90	31.9	32.4	170	60.3	62.0	190	67.4	69.3
1人	173	61.3	62.2	95	33.7	34.7	79	28.0	28.8
2人	10	3.5	3.6	7	2.5	2.6	5	1.8	1.8
3人	5	1.8	1.8	2	0.7	0.7	0	0.0	0.0
4人	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
5人以上	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
無回答	4	1.4	—	8	2.8	—	8	2.8	—
全 体	282	100.0	100.0	282	100.0	100.0	282	100.0	100.0
平均 (0人除く)	N=188	1.11人		N=104	1.11人		N=84	1.06人	

問14 回答対象のお子さん

	件数	割合 N=290	割合 (除無回答) N=288
障害のある子のことを答える	110	37.9	38.2
障害とはいえなくても発達に心配がある子について答える	178	61.4	61.8
無回答	2	0.7	—
全 体	290	100.0	100.0

問15 お子さんの通学先

	件数	割合 N=290	割合 (除無回答) N=282
幼稚園	21	7.2	7.4
保育園	34	11.7	12.1
小学校(普通学級)	81	27.9	28.7
小学校(障害児学級)	38	13.1	13.5
中学校(普通学級)	35	12.1	12.4
中学校(障害児学級)	12	4.1	4.3
養護学校(小学部)	2	0.7	0.7
養護学校(中学部)	1	0.3	0.4
養護学校(高等部)	10	3.4	3.5
どこにも通っていない	14	4.8	5.0
その他	34	11.7	12.1
無回答	8	2.8	—
全 体	290	100.0	100.0

問16-1 身体障害手帳・健康手帳の有無

	件数	割合 N=290	割合 (除無回答) N=280
もっていない	209	72.1	74.6
もっている	62	21.4	22.1
近く、申請する予定である	9	3.1	3.2
無回答	10	3.4	—
全 体	290	100.0	100.0

【問16-2で「精神障害者手帳」と回答した方のみ】

問16-2 精神障害者手帳の区分

	件数	割合 N=2	割合 (除無回答) N=1
1級	0	0.0	0.0
2級	1	50.0	100.0
3級	0	0.0	0.0
無回答	1	50.0	—
全 体	2	100.0	100.0

【問16-1で「もっている」または「近く、申請する予定である」と回答した方のみ】

問16-2 手帳の種類（複数回答）

	件数	割合 N=71	割合 (除無回答) N=59
身体障害者手帳	8	11.3	13.6
療育手帳	53	74.6	89.8
精神障害者手帳	2	2.8	3.4
無回答	12	16.9	—
全 体	75	—	—

【問16-2で「身体障害者手帳」と回答した方のみ】

問16-2 身体障害者手帳の区分

	件数	割合 N=8	割合 (除無回答) N=5
1級	2	25.0	40.0
2級	0	0.0	0.0
3級	3	37.5	60.0
4級	0	0.0	0.0
5級	0	0.0	0.0
6級	0	0.0	0.0
無回答	3	37.5	—
全 体	8	100.0	100.0

【問16-2で「療育手帳」と回答した方のみ】

問16-2 療育手帳の区分

	件数	割合 N=53	割合 (除無回答) N=43
2	2	3.8	4.7
4	1	1.9	2.3
Ⅱ	1	1.9	2.3
A	2	3.8	4.7
B	13	24.5	30.2
B1	1	1.9	2.3
B2	21	39.6	48.8
C	2	3.8	4.7
無回答	10	18.9	—
全 体	53	100.0	100.0

問16-3 障害の種類（複数回答）

	件数	割合 N=290	割合 (除無回答) N=278
障害はない	36	12.4	12.9
障害があるが、どれかはわからない	33	11.4	11.9
身体虚弱	8	2.8	2.9
肢体不自由	9	3.1	3.2
視聴覚障害	5	1.7	1.8
知的障害	81	27.9	29.1
てんかん	9	3.1	3.2
A D H D	45	15.5	16.2
学習障害	63	21.7	22.7
広汎性発達障害(自閉症など)	49	16.9	17.6
精神障害	9	3.1	3.2
その他	58	20.0	20.9
無回答	12	4.1	—
全 体	417	—	—

問17 障害あるいは発達の心配がわかった時期

	件数	割合 N=290	割合 (除無回答) N=284
委託を受ける前にわかつっていた	117	40.3	41.2
育てていく中でわかつた	167	57.6	58.8
無回答	6	2.1	—
全 体	290	100.0	100.0

【問17で「委託を受ける前にわかつっていた」と回答した方のみ】

問18-2 委託を受けることへのためらい

	件数	割合 N=117	割合 (除無回答) N=116
かなりあった	10	8.5	8.6
ややあった	31	26.5	26.7
あまりなかった	38	32.5	32.8
まったくなかった	37	31.6	31.9
無回答	1	0.9	—
全 体	117	100.0	100.0

【問17で「委託を受ける前にわかつっていた」と回答した方のみ】

問18-3 受託した理由（2つまで回答）

	件数	割合 N=117	割合 (除無回答) N=115
子どもに愛情を感じていたから	33	28.2	28.7
社会的使命を感じたから	35	29.9	30.4
障害福祉の経験があったから	12	10.3	10.4
自分なら出来ると思ったから	26	22.2	22.6
家族が協力するといったから	22	18.8	19.1
いろいろな公的支援があると思ったから	16	13.7	13.9
その他	33	28.2	28.7
無回答	2	1.7	—
全 体	117	—	—

【問19-2で「相談先が無かった」「相談する必要が無かった」と回答した方以外】

問19-3 相談内容（複数回答）

	件数	割合 N=160	割合 (除無回答) N=153
育て方	77	48.1	50.3
特に気をつけること	71	44.4	46.4
今後子どもがどう育つか	66	41.3	43.1
どんな支援が受けられるか	40	25.0	26.1
子どもは成人後どうなるのか	22	13.8	14.4
その他	27	16.9	17.6
無回答	7	4.4	—
全 体	310	—	—

【問17で「育てていく中でわかつった」と回答した方のみ】

問19-1 発達あるいは発達の心配は誰が気がつきましたか（複数回答）

	件数	割合 N=167	割合 (除無回答) N=166
里親自身	149	89.2	89.8
家族・親戚	23	13.8	13.9
幼稚園・保育園・学校の先生	36	21.6	21.7
児童相談所の職員	25	15.0	15.1
近所の人	4	2.4	2.4
近所の小児科医など医師に言われた	7	4.2	4.2
乳幼児健康診断で言われた	7	4.2	4.2
障害にくわしい知人	6	3.6	3.6
その他	3	1.8	1.8
無回答	1	0.6	—
全 体	261	—	—

【問19-2で「相談先が無かった」「相談する必要が無かった」と回答した方以外】

問19-4 相談の答えは役に立ちましたか

	件数	割合 N=160	割合 (除無回答) N=151
役に立った	69	43.1	45.7
あまり役に立たなかった	22	13.8	14.6
どちらともいえない	50	31.3	33.1
その他	10	6.3	6.6
無回答	9	5.6	—
全 体	160	100.0	100.0

【問17で「育てていく中でわかつった」と回答した方のみ】

問19-2 相談先（複数回答）

	件数	割合 N=167	割合 (除無回答) N=161
幼稚園・保育園・学校の先生など	53	31.7	32.9
児童相談所の職員	112	67.1	69.6
近所の人	1	0.6	0.6
近所の小児科医など医師	31	18.6	19.3
乳幼児健康診断	8	4.8	5.0
他の里親	35	21.0	21.7
障害にくわしい知人	17	10.2	10.6
相談先が無かった	4	2.4	2.5
相談する必要が無かった	3	1.8	1.9
その他	26	15.6	16.1
無回答	6	3.6	—
全 体	296	—	—

問20 社会資源の使用経験の有無

		知らない	使っていない	使った	無回答	全体	
件数	児童相談所のケースワーカー	17	69	162	42	290	
	障害児専門の相談支援センター	38	116	70	66	290	
	保育園・幼稚園・学校の障害児専門の先生や支援員など	24	112	91	63	290	
	専門医やリハビリテーション機関など	19	116	94	61	290	
	障害児キャンプやプールなど	50	150	9	81	290	
	障害児デイサービスやショートステイ	44	149	21	76	290	
	特別児童手当	62	133	21	74	290	
	補助具の支給	38	164	10	78	290	
	ホームヘルパーなどの家事援助	43	165	3	79	290	
	手をつなぐ育成会など障害者家族団体	49	150	15	76	290	
	障害についての勉強会や講演会	22	105	94	69	290	
	放課後支援	51	136	21	82	290	
	保健所の育児指導	32	149	30	79	290	
	カウンセラーや心理職	23	113	91	63	290	
	障害児施設の相談員	33	154	23	80	290	
	その他	3	29	15	243	290	
割合	児童相談所のケースワーカー	N=290	5.9	23.8	55.9	14.5	100.0
	障害児専門の相談支援センター	N=290	13.1	40.0	24.1	22.8	100.0
	保育園・幼稚園・学校の障害児専門の先生や支援員など	N=290	8.3	38.6	31.4	21.7	100.0
	専門医やリハビリテーション機関など	N=290	6.6	40.0	32.4	21.0	100.0
	障害児キャンプやプールなど	N=290	17.2	51.7	3.1	27.9	100.0
	障害児デイサービスやショートステイ	N=290	15.2	51.4	7.2	26.2	100.0
	特別児童手当	N=290	21.4	45.9	7.2	25.5	100.0
	補助具の支給	N=290	13.1	56.6	3.4	26.9	100.0
	ホームヘルパーなどの家事援助	N=290	14.8	56.9	1.0	27.2	100.0
	手をつなぐ育成会など障害者家族団体	N=290	16.9	51.7	5.2	26.2	100.0
	障害についての勉強会や講演会	N=290	7.6	36.2	32.4	23.8	100.0
	放課後支援	N=290	17.6	46.9	7.2	28.3	100.0
	保健所の育児指導	N=290	11	51.4	10.3	27.2	100.0
	カウンセラーや心理職	N=290	7.9	39.0	31.4	21.7	100.0
	障害児施設の相談員	N=290	11.4	53.1	7.9	27.6	100.0
	その他	N=290	1	10.0	5.2	83.8	100.0
割合 (除無回答)	児童相談所のケースワーカー	N=248	6.9	27.8	65.3	—	100.0
	障害児専門の相談支援センター	N=224	17.0	51.8	31.3	—	100.0
	保育園・幼稚園・学校の障害児専門の先生や支援員など	N=227	10.6	49.3	40.1	—	100.0
	専門医やリハビリテーション機関など	N=229	8.3	50.7	41.0	—	100.0
	障害児キャンプやプールなど	N=209	23.9	71.8	4.3	—	100.0
	障害児デイサービスやショートステイ	N=214	20.6	69.6	9.8	—	100.0
	特別児童手当	N=216	28.7	61.6	9.7	—	100.0
	補助具の支給	N=212	17.9	77.4	4.7	—	100.0
	ホームヘルパーなどの家事援助	N=211	20.4	78.2	1.4	—	100.0
	手をつなぐ育成会など障害者家族団体	N=214	22.9	70.1	7.0	—	100.0
	障害についての勉強会や講演会	N=221	10.0	47.5	42.5	—	100.0
	放課後支援	N=208	24.5	65.4	10.1	—	100.0
	保健所の育児指導	N=211	15.2	70.6	14.2	—	100.0
	カウンセラーや心理職	N=227	10.1	49.8	40.1	—	100.0
	障害児施設の相談員	N=210	15.7	73.3	11.0	—	100.0
	その他	N=47	6.4	61.7	31.9	—	100.0

【問20で「使った」と回答した方のみ】

問20 社会資源の満足度

		よい (1)	どちらでもない (0)	悪い (-1)	無回答	全体	加重平均
件数	児童相談所のケースワーカー	69	73	13	7	162	0.36
	障害児専門の相談支援センター	38	21	5	6	70	0.52
	保育園・幼稚園・学校の障害児専門の先生や支援員など	48	33	5	5	91	0.5
	専門医やリハビリテーション機関など	54	29	5	6	94	0.56
	障害児キャンプやプールなど	3	5	0	1	9	0.38
	障害児デイサービスやショートステイ	14	3	3	1	21	0.55
	特別児童手当	11	8	0	2	21	0.58
	補助具の支給	5	2	0	3	10	0.71
	ホームヘルパーなどの家事援助	2	0	0	1	3	1
	手をつなぐ育成会など障害者家族団体	10	4	0	1	15	0.71
	障害についての勉強会や講演会	63	27	0	4	94	0.7
	放課後支援	13	5	1	2	21	0.63
	保健所の育児指導	15	10	3	2	30	0.43
	カウンセラーや心理職	50	30	8	3	91	0.48
	障害児施設の相談員	12	4	3	4	23	0.47
	その他	9	3	3	0	15	0.4
割合	児童相談所のケースワーカー	N=162	42.6	45.1	8.0	4.3	100.0
	障害児専門の相談支援センター	N=70	54.3	30.0	7.1	8.6	100.0
	保育園・幼稚園・学校の障害児専門の先生や支援員など	N=91	52.7	36.3	5.5	5.5	100.0
	専門医やリハビリテーション機関など	N=94	57.4	30.9	5.3	6.4	100.0
	障害児キャンプやプールなど	N=9	33.3	55.6	0.0	11.1	100.0
	障害児デイサービスやショートステイ	N=21	66.7	14.3	14.3	4.8	100.0
	特別児童手当	N=21	52.4	38.1	0.0	9.5	100.0
	補助具の支給	N=10	50	20.0	0.0	30.0	100.0
	ホームヘルパーなどの家事援助	N=3	66.7	0.0	0.0	33.3	100.0
	手をつなぐ育成会など障害者家族団体	N=15	66.7	26.7	0.0	6.7	100.0
	障害についての勉強会や講演会	N=94	67	28.7	0.0	4.3	100.0
	放課後支援	N=21	61.9	23.8	4.8	9.5	100.0
	保健所の育児指導	N=30	50	33.3	10.0	6.7	100.0
	カウンセラーや心理職	N=91	54.9	33.0	8.8	3.3	100.0
	障害児施設の相談員	N=23	52.2	17.4	13.0	17.4	100.0
	その他	N=15	60	20.0	20.0	0.0	100.0
割合 (除無回答)	児童相談所のケースワーカー	N=155	44.5	47.1	8.4	—	100.0
	障害児専門の相談支援センター	N=64	59.4	32.8	7.8	—	100.0
	保育園・幼稚園・学校の障害児専門の先生や支援員など	N=86	55.8	38.4	5.8	—	100.0
	専門医やリハビリテーション機関など	N=88	61.4	33.0	5.7	—	100.0
	障害児キャンプやプールなど	N=8	37.5	62.5	0.0	—	100.0
	障害児デイサービスやショートステイ	N=20	70.0	15.0	15.0	—	100.0
	特別児童手当	N=19	57.9	42.1	0.0	—	100.0
	補助具の支給	N=7	71.4	28.6	0.0	—	100.0
	ホームヘルパーなどの家事援助	N=2	100.0	0.0	0.0	—	100.0
	手をつなぐ育成会など障害者家族団体	N=14	71.4	28.6	0.0	—	100.0
	障害についての勉強会や講演会	N=90	70.0	30.0	0.0	—	100.0
	放課後支援	N=19	68.4	26.3	5.3	—	100.0
	保健所の育児指導	N=28	53.6	35.7	10.7	—	100.0
	カウンセラーや心理職	N=88	56.8	34.1	9.1	—	100.0
	障害児施設の相談員	N=19	63.2	21.1	15.8	—	100.0
	その他	N=15	60.0	20.0	20.0	—	100.0

問21 障害のある子、あるいは、発達に心配のある子を育てるにあたって必要なもの（3つまで回答）

	件数	割合 N=290	割合 (除無回答) N=276
相談できる機関	137	47.2	49.6
専門的に育児を支援してくれる人	62	21.4	22.5
ホームヘルパー	7	2.4	2.5
児童デイサービス・障害児通園施設	19	6.6	6.9
ショートステイホーム	12	4.1	4.3
専門医(児童精神科・整形外科等)	65	22.4	23.6
カウンセラー・心理職	50	17.2	18.1
放課後支援事業	18	6.2	6.5
保育園・幼稚園の受け入れ	27	9.3	9.8
学校の理解	141	48.6	51.1
養護施設・障害児施設等のバックアップ	15	5.2	5.4
手当での増額	35	12.1	12.7
家族の協力	104	35.9	37.7
地域の理解	31	10.7	11.2
その他	17	5.9	6.2
無回答	14	4.8	—
全 体	754	—	—

問22 障害や発達に心配のある子の子育てにやりがいを感じるとき（2つまで回答）

	件数	割合 N=290	割合 (除無回答) N=274
子どもの成長が感じられるとき	230	79.3	83.9
自分が子どもを理解できたと思うとき	56	19.3	20.4
子どもの喜ぶ姿を見たとき	134	46.2	48.9
使命感を感じるとき	11	3.8	4.0
周りの人の理解が深くなったと思うとき	35	12.1	12.8
家族がよく協力してくれるとき	30	10.3	10.9
その他	9	3.1	3.3
無回答	16	5.5	—
全 体	521	—	—

問23 障害や発達に心配のある子を育てる際に負担を感じること（2つまで回答）

	件数	割合 N=290	割合 (除無回答) N=273
子どもの成長が感じられない	39	13.4	14.3
子どもが理解できない	56	19.3	20.5
手がかかりすぎる	89	30.7	32.6
周囲の目が厳しい	20	6.9	7.3
家族の協力が無い	8	2.8	2.9
子どもの将来が見通せない	122	42.1	44.7
経済的な負担が大きい	23	7.9	8.4
使える社会資源が少ない	41	14.1	15.0
負担に感じることは特に無い	36	12.4	13.2
その他	25	8.6	9.2
無回答	17	5.9	—
全 体	476	—	—

問24 これから大きな不安（複数回答）

	件数	割合 N=290	割合 (除無回答) N=282
依託期間が終わった後、子どもがどうなるか不安	170	58.6	60.3
障害児の育て方が不安	17	5.9	6.0
自分の健康が不安	32	11.0	11.3
子どもの健康が不安	11	3.8	3.9
今のところ特に大きな不安は無い	46	15.9	16.3
その他	28	9.7	9.9
無回答	8	2.8	—
全 体	312	—	—

問25 今後、障害や発達に心配のあるお子さんの養育を里親として続けていく気持ちの有無

	件数	割合 N=290	割合 (除無回答) N=282
おおいにある	69	23.8	24.5
ある	104	35.9	36.9
少し考える	76	26.2	27.0
あまりない	16	5.5	5.7
まったくない	17	5.9	6.0
無回答	8	2.8	—
全 体	290	100.0	100.0

IV 資料

3 自由記述（問26、27）

問26 里親としての喜びや悲しみ、お子さんへの気持ち等（自由記述）

障害のある子の里親 「委託を受ける前にわかつていた」

3 今、委託している子供はとても性格が優しく、素直な子なので、皆にすぐに好かれます。親戚もとても協力的で、最初は反対していた主人の母も、今は本当の孫のように可愛がってくれます。そして、もうすぐ本当の私達の子供になります。もう離れなくていいと思うと、嬉しくてたまりません。

15 委託期間も終わりが近づき、進学を希望する学校も決まり、あとは無事に高校を卒業するだけになった。当初は本人がなかなか打ち解けてくれなく、何を考えているのか理解出来なかつたけれど、少しずつ慣れてきて、今では実子と同じように生活している。まだ通院はしているので、一人暮らしは心配はあるが、頑張ってほしい。

26 障害があつてもなくとも、子供と暮らすことは楽しいし、生き甲斐を感じる毎日です。でも、一歩外に出ると、社会のルールからはみ出してしまう。こだわりの行動や年齢に相応しい成長でないことに、その都度弁明をしたり、誤ったりしなければならないことが、ストレスになります。皆と同じ沢山の経験をさせてあげたくて、どこにでも連れ歩いていますが、最近出不精になっているなあと気付きハッとしています。救急車を呼ぶこともあります、健康であつれたら、障害だけならもう少し楽かなと思います。

60 子供の育つ喜び、育った喜びを感じた時、親として自分が育った事も同時に喜びを感じます。

71 これまで11人育てたのですが、実子2人、社宅に置き去りにされた子2人、児童相談所7人。現在68才です。今、5才になる女の子を育てています。この子が手術後遺症が出て、右手右足が障害です。左脳がやられてしまって、こうなりました。

86 委託解除した後の里子との関わりが、委託時以上に重要なと実感しています。そこにどれだけの厚いサポートがあるかどうかが、里親を支えることにつながり、安心して養育に専念できます。現在は、不安なサポート状況であるように感じています。子供達との縁は切れるものではなく、家を巣立っても、「相談者」としての里親の役割が続きます。いつまでも心配や苦労（精神的、金銭的）が絶えません。

106 子供の笑顔は見ていて嬉しいですね。なかなか他の人には理解してもらえないことも、度々ありますが、仕方がないのかなあと想いながら、あやまりながらの毎日ですが、笑顔でいる子供を見てホッとしている。

217 約10ヶ月の面会期間を経て、里子として彼が我が家に来たのは、4才になろうとする時でした。実際一緒に生活するようになり、漠然と感じていた自閉的傾向と精神遲滞という彼のことが現実のものとなり、言葉の遅れ、排泄、こだわり、外部刺激過敏等、我が子では感じたことのない子育ての大変さを体験しました。試行錯誤の四苦八苦した4年程の道でしたが、少しずつ確実に成長している姿に歓喜したこともありました。振り返って思うことは、家族との出会いがなかったら、恐らく施設養育であったと思います。そう思うと、とても施設生活では、今の彼の姿は想像できません。施設が悪いとか、私達

の子育てが上手とかではなく、家庭という安定した環境の中で、ゆっくりではありますが、確実に成長してきたものと思います。そんな彼の姿を通して将来への楽しみが膨らんでいます。

218 実子を育てている時になかった夫婦の感情、気持ちを、里子を育てる中で、奥深くから引き出すことが出来た。

264 障害のある子供達の発達にとって、早期な専門療育は不可欠な事であるが、併せて、安定した情動を育んでいく愛情溢れた成育環境が必要となってくる。そして更に、それを継続してサポートしていく、児童デイサービスのような機関も必要とされる。しかし、現実はそれらが揃っていることが難しい状況にあることがとても悲しい。

285 子供が喜ぶことを計画しても、本人は自分中心で、少しでも家事をやらせようすると、不機嫌になり、感謝しているように思えない（しぶしぶだが、やるようにはなってきた……）。地域の方々は、声をかけたり、褒めたり、一緒に遊んだり（中1だが、小学3年生や保育園児と遊ぶ）と、子供の存在を喜んでくれるので、とても助かっている。息子は、里母と里子の関係が悪い時、どちらにも注意し、良い状況に進めるよう支えてくれるので、とてもありがたい。里子とのトラブルが結構あるので、申し訳ないと思う。夫はもっと子供への声かけなど、学んでほしい。具体的な研修があるといいと思う。

313 日々の生活の中、親子の触れ合い、子供同士の遊びを眺めて、喜びを感じ、又、心配しながらも、1日を楽しく過ごすことができる幸福を感じております。障害を持っている子供の将来を思いますと、不安もありますが、やがては成長し、社会の中で自立し、結婚して家庭を持ってもらいたいと夢見ております。

375 もっと早い時期に、里親登録をしていれば良かったと今思う。2人の子供が小学校へ、中学へ入学する時は、私達は幾つになっているんだろう。どう見ても、周りのお母さん達と違和感があるはずです。子育ての大変さを、この年になって実感しています。親って、皆さんはどんな感じかな？ 子育てって、こんな感じなんだって思える自分に、今幸せを感じています。子供に有り難う、神様に有り難う、旦那に有り難う。

412 ・生後4ヶ月から育てているので、自分が産んだ子のように思えて可愛い。

・近所や親戚など、いろいろな声があり、好意的に思ってくれる方と批判的な方がいて、両極端だった。又、思いも寄らない人が批判的で、驚いた。

420 我が子と思って育てているのに、14年以上も経った現在（3ヶ月前）、この事を初めて知ったと言って、確かめ驚き、褒める人がいて、私の方がびっくりがっかりしました。知っても知らないフリをするのが親切ではないかと思っています。子供も同様で、出生の事は忘れているようですので、子供が心配になります。

423 里母としては、子供を預かることは、実子時の体験等あるため、大変悩んだ末の里親でした。やはり、子供1人1人かたちは違えど、大変という言葉が多く出てしまうような生活が待ってました。でも、一緒に過ごす年月が経つにつれ、かわいさが増し、短期委託で我が家から実母の元へ帰られた数日は、涙涙の時もありました。これからも成長していく中で、今とは

違った大変さが待っているかも知れませんが、子供達のお陰で、実子を亡くし、暗くなっていた私達が笑いを取り戻し、様々なレジャーにも、楽しく行かせてもらっています。今いる4人の子供達が、「お母さん大～好き!」と言ってくれる言葉に元気をもらっています。

456 困難な状況に置かれている子供の事を考えると、何もせずにいられません。与えられた命をもっと大切に生きていけるよう、自分の出来る事なら、何からでもさせていただきたいと思います。又、家族や周りの協力があり、させていただいていることに感謝しています。

482 障害児AやSを引き受けに際して、おおよその様子は知られ、私自身も本等を通して学びました。又、マッチングの期間でも認識をさせられました。しかし、実際に生活が始まられている時、一日中嵐のように吹きまくる否定的行為。それが、障害がどこまで関与され、施設で習い覚え、染みついたものどこまで、又、失われている家庭観や親子間の影響がどうなっているのか、見当が付かない程で、そんな中でお互いに愛と平和に傷つき悲しました。前進するには、私達が里親として、人間として、多くの修練が必要でした。又、家族の理解と協力、考えの統一が欠かせませんでした。それでも、対応の変化を期する時があり、地域の人達の協力や公の機関の協力も必要でした。更に、愛の限界を覚えた時、正しい理解を持った人の励ましと助言は、神の言葉のようでした。児童福祉に携わっている方々や、AとSの昔をよく知っている方の劣いの言葉は、私に新たな前進のための力となりました。何年もかけて、AやSや他の里子達の「育ちなおし」のために、まず私自身（里親）が育てられて来ることを感じます。そして、十分ではないのに、それでもAやS、他の子達が穏やかになり、それぞれがそれらしく、輝き始めているのを見ることは、何よりの喜びであり、光栄だと思っています。

544 私の周りの方は、とても理解があるので、里親ということで、肩身の狭い思いをしたことがないので、とても良い環境で、子供達を育てていると思っています。ひとつ悲しいと思うことは、同じ里親なのに、年齢が若いということだけで、いろいろと陰で言われることがあること。同じ里親として、みんなが理解し、協力して子供がみれる環境になることを願いたい。

565 子供が2人になって、下が4才で手が掛かり、上の子が幼児返りをしていると、周囲から注意されました。自分としては、精一杯やっているつもりでしたので、ショックでしたが、一生懸命な分、見えていないものもあると気付かされました。上の子に学習障害や智恵遅れの兆候が見られ、身体だけは大きくなるので、周囲から年相応の対応を要求されるため、困ることが多いです。

571 余り力まず、淡々と過ごすことが大切。

592 昨年里親となって、まだまだ人の温かさが残っているなど、地域の方々に感謝しながら、第2の人生としてスタートして2年目。自己満足になるかも知れませんが、まずは内容で、家族や里親仲間、地域の皆さんに感謝感謝の気持ちでいっぱいです。皆さんありがとうございます!!

602 里子としての心の問題があるのに、更に、発達障害という問題が加わることにより、里親の負担が大である。

650 知的障害の男児は、3才から養育していて6年になります。手が掛かるのですが、本当に可愛く、天真爛漫で癒されます。家族の中でも学校でもアイドルです。中2で受託し現在高1の男子は、不登校や拒食症で、とても気を遣います。自分の気持ちを表現しない（できない）ので、関わりが難しい。けれど、少しずつ安定してくる子供の様子を見ると、とても幸せになります。確かな手応えを感じ、子供が愛おしく思える時、やっていて良かったと思います。家族や学校の先生などには感謝です。

659 ・毎日頑張っているのに、児相の担当者に分かってもらえない。

・子供の笑顔が元気の元。

720 関わって知る困難。

731 子ども会の親は、障害を理解して下さり、かわいがつて下さるが、子供達は、バカにして遊んでくれる人がいない。それは、本当に悲しい。

740 里親になって、本当に良かったと思っている。我が子（里子）がこんなに成長するなんて、思ってもいなかったし、我が子を通して、多くの友人にも恵まれた。喜びの方が、悲しみや辛さをはるかに上回っていて、里子であるという気持ちはほとんどなく、実子として育てている。

841 実子がいながら、特養の子を私達に託して下さった皆様に感謝しています。大人は様々な言葉で「愛しているよ」と伝えますが、子供達に本当の意味で伝わるのは、もっとずっと遠い日になるでしょう。だけど、「この思いは変わらないよ」って送り続ける毎日です。私は二度自分で命を……。その苦しみから救ってくれたのが、里親制度です。助けられた命、この子達のため（私のため）、尽くしたいと思っています。

849 子供から元気をもらっている。子供との毎日の生活は、とても楽しい。子供が大きくなるにしたがって、大変だ、疲れたと思うことも時にはあるけれど、子供の笑顔に救われる。とってもかわいい。子供の将来がどうなるか心配にもなるし、この子が大きくなるまでは、元気でいなければいけないと、健康に気を遣っているし、里父、里母の健康のことも気に掛かる。

862 実子である息子が、大分の高校において、毎週会いに行っています。周りの子供達、保護者の方々も、S君の手足の事を気に掛けた下さり、遊んだり関わっていただいています。その他我が家家の主人の実家も、私の実家も、孫としてとてもかわいがつて下さいます。一人ぼっちと思っていたS君は、今、沢山の人々とが、S君の人生に関わって下さいます。そのことに感謝し、このつながりを大切にしていきたいと思います。今、S君に対して、息子と同様の気持ちです。血ではないということを、痛感しています。S君を授けて下さった神様に、日々感謝しております。

874 年齢が離れているせいか、特に肩に力を入れることもなく、自然体で接することができ、毎日を過ごしている。近所の人達も、私との付き合い同様、温かく見守ってくれていて、本人もマイペースで過ごしている。

896 最初に委託された里子は2才で、それから5年、実子と何ら変わりない子育てを、経験させてもらっています。又、親戚や周囲の方々にも、我が家家の子供として、あたたかく接していただいており、感謝しています。今春、就学を機に真実を告知しましたが、心配していたよりもスムーズに受け入れてくれました。信頼関係ができていると思っています。

916 二分脊椎症についてもよく分からず、預かった3才の時から排泄障害、足の痛み等の訴えが続き、通院と不安で、子供と共に苦労の連続だったように思える。脊髄癓着剥離の大変な手術も（5年生、中3）、良いお医者さん（国立成育医療センター）のおかげで成功し、長年の身体の痛みも緩和し、足が守られて、共に苦労を乗り越えて、今、養護学校で立派に頑張れるようになります。皆に感謝です。

932 混血の母親に遺棄され保護。里親とのセッティングに失敗した女児を受託した時、大人の差別（特に教師）に合い、心が傷ついて、非行グループに入ったため、おりこうさんグループからも悪用され、自暴自棄になり、死にたがって乱れていた時期、我が家家の家族全員が、学校からの追放や、社会的なバッシングに打ちのめされ、地獄の中を這いずりまわり、夫婦で築き上げた社会的信頼が、砂山のように崩れ落ちた時期でもあった。本当に苦しかった。この娘を連れて、幾度死のうと思ったことか。「お母さん、私の苦しさ分かる?」「この皮膚の色何とかしてよ!」「なぜ私だけこんなにいじめに遭うの!」「生まれて来なければ良かった」「育てきれもしないのに、何故産んだ!」。

この娘の事は、涙なしには語れない。大人になってもDVに遭い、苦しんだ娘だったが、現在は、素晴らしい男性と、その家族に受け入れられ、幸せな育児中である。

962 里子の将来に使える社会資源が、整ってほしいと希望する。

982 里子として元気に育ってくれて、うれしいです。

1005 うちにいる17才男子は、高機能自閉症ですが、うちに来て1年で、とても成長しました。親元に帰すまでに、もっともっと成長してほしいと思っています。親御さんにも、受け止めてもらいたいと願っています。9才男子は帰る所がありませんので、私が気力、体力共にギブアップしないですむように、何とか落ち着いてほしいと思っています。

② ・子どもの成長。里親が子どものために効果的であったと第3者から話されたとき。

・3年、5年、10年と経過して、元気に生活している情況を知ったとき。

・里親やってよかった。

③ 私は今のダウント症の子どもの出会いを神様に感謝しています。彼女のおかげで私の人生は想像以上に豊かなものになりました。障害児を育てる上での悲しみはふつうのお母さんと同様に、世間の人の無理解や偏見にさらされるときで、大きく傷ついてしまいます。そんなとき、私はよく泣いてしまいますが、いつも友人に慰められます。そういう人生が普通の生き方なんだろうと思っています。

④ 学校の先生方、子どもたちのやさしさ、近所の方たちの思いやりに支えられての里親です。本当に有難く思う毎日です。子どもたちも家庭に加えて環境に見守られていることを五感で感じて成長していくのだと思います。

⑤ 子どもが成長してゆくのを見るのが何よりうれしい。後からですが、作ったお弁当をうれしそうに学校の先生にみせていたことなど聞き、涙がこぼれました。

発達の心配がある子の里親 「委託を受ける前にわかつていた」

65 高校に進学させてやりたいのですが、本人は嫌がって進学する気が全くありません。学力が伴わないので当たり前かも知れませんが、母親としての悩みです。

110 私達は、このような子を預けていただき、ご恩返しの気持ちでさせていただいておりますので、これといって何もないで、このまま続けさせていただきたいと思います。

131 遅れている子供ですが、遅いなりに也能する事も増え、毎日の学校も楽しみに行っています。学校も周りの人達も、いじめなどする人はおらず、いい所で子育てができていると思います。

174 17人の子供と縁があり、楽しい日々を過ごさせてもらっています。幸い、地域や幼稚園、学校にも理解をしてもらっています。

190 里親になれたことで、家族、世界観が広がりました。自分の成長に役立っていると思う。

207 実子が大学生のため、養育里親として来てくれたことで、大人ばかりの生活よりも楽しい。里親については、私の母の希望（自分は仕事で娘に追い回され、子育てをした記憶が浅く、子育てをしたかった）で、年齢的には無理だったので、娘の私の方が里親となるが、親が予想していた以上の育ち、性格、心理状態であり、「こんなはずではなかった」という思いが強かった。里子についても、身近にターゲットがあったため、面談もなく、私自身が「その子」と決めた。当初は里子も私一人に頼り、私の前では良い子をし、口うるさい母には（祖母）反抗的な態度をとり大変だった。里子は反抗的とは思っていないが、祖母は、職業柄感じるものがあった。

209 ・里子を通して私自身が大きく成長させていただいたと思う。

・ストレスは多く（夫からの協力があまりない）、この生活は仕方のないことだと、自分なりに理解し、おさめるまでに3年かかった。

・精神的、肉体的な負担はかなりある。

258 私は、長期で子供を委託したことはほとんどない。しかし、十数名の子と関わってきて、成り家庭を持った子などが、今の活動を応援してくれている。実子よりも大人になった里子達は、とても良き理解者だ。一人息子にとっては、複雑な思いもあつただろうが、一般家庭の兄弟のような存在のようである。

271 児童、家族がパニックにならないことを心掛けて生活している。既に社会人となった子供は、今は普通の社会人。一緒に生活していた高校生の時は、反発の連続であったが、今は「お父さん」に会いに来てくれます。委託前は、施設内暴力を働き、精神科へ強制入院。

286 不幸な子供達の顔を想像しなくて良い社会にしたい。そのために役に立つなら、生涯を通じて関わっていきたい。子供達は何も知らずに生まれてきます。笑う顔で一生暮らしていく権利を持っているのです。

295 出会いがあって、一緒に暮らし始め、少しづつ変わりながら成長していく姿に、一喜一憂していく中で、本人達に対しても、実子を含めた家族皆にも、「本当に良かったのかなあ」と考えてしまうのは事実です。

367 ・家族の協力があるので、大変助かる。

・子供の成長が、少しでも感じられたとき。

428 本人の将来の事が一番心配です。社会人としてやっていけるか。

440 いつか、産んでくれたお母さんに感謝できる子に育ってほしい。事件に巻き込まれないように、心配しています。

463 発達に心配のある子供については、軽い知的障害B1区分と聞いている。16才（男）について、児相からは、暴力的でキレやすいなどと説明を受けていたが、現在1ヶ月が経ち、振り返っても、まったく知的に劣っている様には見えず、家族との人間関係が深まるにつれても、キレやすいような言動も全くなく、ただ、ネグレクトによる学校不登校、非行により、中学時代に勉強をしなかったことによる遅れや不安によって、先のような区分になっただけではないかと思う。又、里親家庭での現在の生活を続けていけば、体と心と頭の成長は、十分取り戻すことができ、自立することができると思っている。

472 ・養育中には色々と苦労したことも、子供が成長して自立していく姿を見ると、それまでの苦労が消えていく。

・自立した子供達が、自分達の子供を連れて、盆や正月に帰ってくると、とても嬉しい気持ちになる。

484 ・喜び

健やかに育っていくのを、側で見ている時。受けた傷が少しづつ消え、寂しそうな目が次第にやさしい目になっていき、眞の笑顔が始め、やがて不満や疑問があれば、眞っ向から向かって来るようになった時。

・悲しみ

受託した子と、どうしても気持ちが通じ合わなかった時。実親の理解と協力が得られず、受託した子が悩んでいる時。

・その他

周りの人達の協力なくして、この大切な仕事はできなかつたと、いつも思っています。いろいろな所で、いろいろな人達に助けられて、教えて、やってきた事を、子供達も理解していて、振り返ってみると、その結果、誰が（大人か子供）、誰を（大人か子供）助け、助けられているのかは、分からぬのが現状です。

522 里子を迎える、やっと当たり前の生活ができるようにな

り、毎日が発見と驚きの連続です。子供達と接すると、こうも体力がいるものかと、痛感させられます。それゆえ、十分に遊んであげることができず、寂しい思いをさせているかなと思います。

536 長い間、児童養護施設に勤務していました。その子供達との付き合いは、35年になりますが、実子や里子達と親類のような不思議な関係です。実子は小さい頃を振り返って、どこまでが家族か分からなかったと言っていますが、家族のような気持ちで、今は付き合っていると思います。施設職員として、子供達を育てる親が、何度も代わるという不幸に、耐えられない思いで、退職するにあたって、3才から育てていた子供達を、里子として引き取りました。その時の児相の関わり方には、今でも怒りを禁じ得ません。私が母親で良かったかどうかは分かりませんが、少なくとも施設で育っているよりは、多くの人に支えられ、多くの経験ができる、私達が死んだ後も（もう年ですので）、見守ってくれる人達にめぐり会えたと思います。

543 専門里親として、私自身は苦労はあっても、ある意味で充実していると感じている。しかし、家族の負担（精神的含む）を考えると、迷いがある。

547 子供との関係で、困難にぶつかる事があっても、それを乗り越えることが、自分にとっても成長になると思っているので、すべてを喜びと思うことができるが、身体が反応して、体調不良を起こすことがあると、休養も必要と考えている。里母（妻）が支えてくれるので、感謝している。

550 とにかく毎日が楽しくて、喜べる事ばかりで、里子が来てくれたことが、幸せいっぱい有り難い毎日を過ごさせていただいている。まだまだ親の愛を知らずに施設の中で、職員の方々に育てられているお子様がいらっしゃるようなので、1人でも多くのお子様に、家族家庭の温かい愛情を、たっぷりかけてやりたくてたまりません。

564 リハビリをしていくうちに、言葉が出てくれれば良いかなと思う。自分で色々出来ないので、頑張ってほしい。

586 まだ里親として新米で、2才の男の子を養育してもうすぐ2ヶ月ですが、1才の息子とはすっかり仲良くなり、ふつうの兄弟のようにケンカしたり、一緒に遊んだりしている姿を見ると、お互いにとって、里親をしたことはプラスだなあと感じます（一番心配していた事だったので）。

・我が家で生活してから、言葉もたくさん増え、表情も豊かになつたことが、とても嬉しい。

595 喜びとしては、子供の笑顔。心配事は、子供の将来。

630 里親という選択を理解して、応援してくれる家族に感謝しています。委託されている子が、思った以上に大変傷ついた体験を持つ子で、専門的知識のない私には、この1年が不安と悩みの毎日でした。初めのうち、児相に訴えても、なかなか理解してもらなかつたのが、辛かったです。今現在は、理解していただけたようになってきたので、楽になってきました。

652 七五三や誕生日を迎えるごとに、子供の成長を見守る喜びを感じ、日々、子供の無心の笑顔を向けられるたびに、日々の忙しさの中にも、ハリやうれしさを感じています。しかし、子供の過剰なまでの競争心や、自己顕示欲、他者を思い通りに動かそうとしたりする行動で、子供同士の輪から、子供がはづれていく姿を見るのは、とても切ないものです。又、「子供=親のしつけ」という近所やお友達のお母様の反応は、里親として頑張っている時には、涙が出るほど厳しく孤独を感じます。そんな時は、子供にも「なぜ分からんんだ!」と怒りと悲しみが湧きます。

656 県職員でも、福祉関係の職員は、里親について職務上交流のある者は理解しているが、現在、普通の小学校に通学している里子は、教職員に対して、里親制度や発達障害について、里親から教育の仕方について説明をしている。困った事である。日本社会全体で、里親制度をもっとPRするべき。

666 子供のいない私にとって、里子を育てていることこそが、生きてきた証であり、自分の宝物だと思っています。しかし、子供達が「里子」ということだけで、劣等感を持ち、様々な場面で引け目を感じていることに、残念な思いがあります。「里親」「里子」という言葉に誇りを持ち、胸を張れるような里親活動をしていきたいです。

737 家庭のぬくもりを知らない子供達に、家族の愛を知つてもらうことの喜び。

・自分の立場を知りながら、里親から受ける愛を利用して、反抗的になる時の悲しみ。

・実子に対する様に、同じ気持ちで愛情を注いでいます。

・家族には、とても感謝しています。

761 障害があろうとなかろうと、子供は愛おしい。

・身内の理解がなかなか得られないところが悲しい。

・日本は、健常でない人が生きていきづらい。健常でないことへの偏見がある。

798 児童養護施設に3才違いのお姉ちゃんがいるのですが、本来ならば、姉妹が家庭で仲良く暮らすはずなのに……。姉と妹の生活環境が違うことや、いいずれ実親や姉のことの真実告知を考えると、不安になります。「ママ大好き」「ママがいい」とよく抱きつきながら、言ってくれます。そんな時はとても愛おしく、可愛くてたまりません。主人が仕事で忙しく、母子家庭のような生活でしたが、今年の春より保育園の年少に通うようになり、私の負担が減り、同年代やお兄ちゃん、お姉ちゃん達と、たくさんの関わりを持ち、かわいがってもらい、日々の成長が著しいなど驚き、嬉しく感じています。園の先生方には、子供だけではなく、母親としての私にも支援していただき、精神的にも支えてもらっています。里子を通して色々な人との出会いがあり、生活パターンが変わり、楽しませてもらっています（苦労もありましたが）。

814 子供の成長、振る舞い等、楽しく子育てしている。将来自立し、社会人として家庭を持って、責任のある生き方をしてほしい。

817 里親としての使命を感じ、結婚してから20年、子供達を育ててくることができ、心から感謝しています。夫と2人の生活には考えられない程多くの喜びと悲しみ、苦しみを味わうことができました。又、自分自身も様々な試練を通して、育てていただいております。弱さの中にある子供達が、本当に大切にされる世の中になつてほしいと思います。子供達が大切にされることとは、当然のことなのに、なかなかまだそうではないところがあります。これからも里親の大切さを伝えつつ、1人でも多くの子供達の幸せのために、仕えていきたいです。

837 勉強をしっかりやるようになってきて、成績も上がっている。最初は嫌がって、5分と机の前に座っていられなかつた。粘りと我慢でここまできたが、本人が自信を持ち、手を挙げて発言しているという。陰山メソッドの音読は、素晴らしい効果があると思う。諦めずにコツコツと一緒に生き善悪を教えたり、社会のルールを教えているが、ムダではなかつたと思う。「よくここまで頑張ってきたね」と、里子の2人の女の子にも言いたい。これから、実親がどのようになっていくか分からぬのが、2人の将来に希望を託したい。周りのみなさんにもお世話になっています。

861 実子6人の養育経験から、子育てに不安はないが、これから年齢を重ねて、里子であることへの本人の不安や認識によって、里親も共に悩むことがあると思う。その時を迎えることの心配が、今からある。

869 専門里親として、虐待児といわれる兄、妹の2人を受託しましたが、自分の今までの知識、経験をはるかに超える問題が、毎日のように起こり、頭の中は驚き、戸惑い……ありとあらゆる感情が交差していました。愛着形成が足りないため? アスペルガー? 環境? うそ、ごまかし、暴力……手を出し、

足を出し、かみつき、万引き。ひとつの事がなかなか積み重ならない。信じても信じても、毎日裏切られる生活。とても書ききれるものではありません。ですが、1年過ぎた今、子供達は確実に変わってきています。お互いに、流した涙の分だけ、笑顔の日々が増えてきています。

905 体力がないことが大変。でも、とてもかわいいので、幸せです。

917 子供達が今まで経験していない、一般家庭の生活を体験していく中で、心身の成長、発達が見られた時、里親をやつて良かったと思う反面、実子なら悪い事をした場合、厳しく叱っていたが、それができない。その子が親しくなった子の親が、他人の生活の中に入り込んでくる、無理解な人がいる。

921 一般家庭では想像できない子供で、学校に馴染み、皆と遊べるか、かなり心配しました。一番大変なのは学力です。7才でしたが、幼稚園児のようで、つい最近まであまり変わらなかったと思います。何度も挫折を夫婦で味わい、近頃では、里親を辞めたくなってきております。でも、最近、子供がやつと変わってきて、普通っぽくなってきました。二度大人に捨てられた彼の人生を思うと、これからも何度かの挫折を味わいながら、頑張ろうと思います。

946 無我夢中で育てているうちに、それぞれ成長し、反抗期を通過中で、親代わりの自分達が、胃が痛くなるような思いをしつつ、日々を送っていますが、笑顔や時々しか見せない思いやりを感じた時、ここまで育ってくれて良かったと思います。

964 周囲の人が、子供の成長を感じてくれた時に、とてもうれしく思います。その子を取り巻く兄弟にも、負担があることに申し訳なく思うこともある。

⑧ 1対1のかかわりで成長は感じられるが、どこまで頑張らせるのが子どもにとってよいのかがわからない。児相のケースワーカーは「普通学級に行っているからいいでしょ? 何が問題なの」と言う感じだが、今後も里親として子どもをどれくらい「コーチ」していくのかわからないときがある。

⑩ 団体としては10代の自立支援団体を里親と別に経営しておりますが、5年前に比べると子どもの状態が大変難しくなっております。里親になる人を探すのも大事ですが、預かる大人の質を高めるための研修が必要だと思われます。また、家族の協力なくしては絶対に出来ないことです。

障害のある子の里親 「育てていく中でわかった」

17 軽度知的障害の里子を、知力より思いやりの気持ちを持つことを第一にと育ててきましたが、愛着障害もあるためか、高2になった今でも、他の人にも里親に対しても、つらさ悲しさの感情を思いやることが全くできません。家族を亡くした人の気持ちは、自分は亡くしたことがないから分からぬと言います。もう私が出来ることは、この子が成人したら早めに死ぬことだけなのがと絶望的になりました。ただ、人なつっこく明るく元気なので(外では)、大人(年長者)との関係が良いのが救いです。

88 子供の成長が元気のもとです。幼稚園に発達障害として受け入れてもらっていて、安心だったのですが、障害が分かりにくく、支援が必要な時にしてもらえないという事が起こり、イライラして親にだけ反抗するという事態がおこりました。専門機関、プレイルーム、療育の場で、分かってもらえる話し方がとても難しく、悩みました。コミュニケーション障害と子供は言われていますが、親もそうだとつくづく感じしております。専門里親の研修で、連携の取り方を学びました。それが役に立っています。

182 生後10日で我が家に舞い降りた子は7才。小学1年生になりました。多くの方々の手を借り、気持ちをいただきながら、

今日まできました。真実告知もし、障害を持ちながらも、1人の人間として当たり前の生活をし、自立を目指し、日々成長しております。この子が18才になる頃、優しい社会になっていてほしいと願います。

189 現在養育している子供達が、少しでも長生きしていくことに、思いを託しています。又、子供達の実の親が出来ない教育、国、そして私達里親が、全協力の下、子供達を育てていく今の社会が、本当に素晴らしいことであると思っています。

199 今養育している3人の子供達は、とても愛しく思います。悪い事をした時は悲しく、その反面、楽しく喜ばせてくれました。近所には、里親を理解してくれる人もいれば、金儲けのように見ている人もいるようです。私自身も他人様に育ててもらいました。幸せだったと思います。3人のうち1人が脳動脈瘤になって、今、医大にかかりています。今年の冬休みに、手術をしてくれればいいなと思っています。これが、今一番の心配事です。

208 小学校2年生の3学期頃より、身体のあちらこちらが痛いと訴え、医療機関や整体等に通ってみたが改善されず、不登校気味になっていました。やる気が全くうかがえず、何をかもどうでもいいといった様子だったが、この度、注意欠陥の発達障害、受け身のアスペルガーと分かりました。現在は特別支援学級に通級させていただき、元気に登校している。何がどうあれ、その子がその子らしく、いきいきとし、喜んでいる姿を見ることが、一番嬉しいです。

224 小学校へ通い、毎日の授業や行事に意欲的に取り組む姿。又、地域行事や習い事など、社会で伸び伸び暮らす様子を見るたびに、里親としてのやり甲斐や喜びを感じています。家族(特に同年代の実子の協力)への感謝はもちろんですが、地域の方々が温かく迎え入れてくれ、障害を理解してくれている事に、深く感謝しています。今後、私達里親が、里子の持っている力を最大限の成長させる事が出来るよう努力し、少しでも社会にお返し出来るような子に養育することが、周りの方々への気持ちに応えることです。

239 初めは愛着障害だと感じていたため、自分自身の育て方に自信がなくて、時には手が出ることがあった。どんなに説明しても理解しようとしない子供の態度に逆上して、感情的な態度も増えていた。いつも落ち込み反省しても、同じ事を繰り返していた時、障害であることに気が付いた。思わず神仏に頼って祈り続けて、淨靈がなされた結果、生まれ変わったように手を出すことがなくなった。不安定な心身を薬で管理していくば、性格が変わって穏やかに接してやれるようになった。早急に集団生活を経験して、生活の建て直しを図るため、児相への一時入所を予定し、説得中である。かなり厳しい子育てではあるが、親子の絆が深まり、家族の理解が得られるようになったので、少しづつ乗り越えていけるような手応えを感じている。

267 · 喜び

話してくれる内容に、充実感があった時。

チームプレーで貢献した時

目上の方々から、よく育ててくれたと褒められた時。

· 悲しみ

再々の不祥事を発生させた時。

不祥事発生時、頼りになる相談相手、又はリーダーがないこと。どうして良いか分からぬ。冷静さを失ってしまう。子供を困らせる。

268 障害があるということを知らない方に、子育てが悪いと指摘され、とても傷ついた。誰も地域の人には話せないし、理解されないし、どうしたものかと頭を悩ます。

311 受託にあたり、長期は想定していませんでした。でも、実母は他の里親や施設での養育を望んでおらず、加えて、私共も里子への愛情が強く、健康が許す限り育てたいと思っているところです。障害があるため、小学入学以降は、養育に更に困

難が増すものと思われますが、実子が保育士でもあり、その子の協力を得ながら、育てていきたいと思っています。養育の継続は、実子の強い希望もあるためです。

327 近所の方には、「なぜ障害を持っているのに育てるのか」と、いつも言われます。母も亡くなりましたが、私達夫婦が苦労すると、口癖のように言っていました。

330 ・子供がかわいい。実母がいるのに、私を、自分のお母さんは1人と言ってくれる。

・先は自分1人では無理かなと思うと心配。それまでに自立できるようにと考えているか疑問。

395 本当に手の掛かる子、困った子（困っている子、救ってほしい子）でしたが、3年目にしてやっと落ち着きを見せてきました。少しづつではありますが、成長してきたなと嬉しく思います。やはり、長く付き合い向き合うことで、溝が埋まっているのかなと実感しています。

448 里親として、気持ちは毎日のように起伏があり、楽しい日があれば、つらい日があります。しかし、一緒に暮らして7年になると、血のつながりを越えたつながりを感じ、この子のことを一番分かっているのは自分だと自負しています。愛着障害がひどく、身体に触られることを極端に嫌いますが、最近は、子供の方からくっついてきます。

461 里親になる前に、子供の事を学んでおきたくて、31歳で保育学校へ入学。2年後に卒業してすぐから、里親になりましたので、長い長い年月、里親を続けています。6人の里子のうち4人は成人して、2人が専門里親として、障害を持っている子です。やり甲斐のある仕事ですが、年齢が重なっていき、一昨年、大きな病気をして、病気と共存しながら続けています（家族の支えがあって）。

492 子供の成長を感じる時、共に生きてきたことに感謝して、喜びでいっぱいになります。しかし、日々の生活はそうとはいきせず、イライラしたり、怒ったり、泣いたりの繰り返しです。同じ里親の仲間が支えてくれています。ご近所の方々にも良くしていただいているので、有り難いです。

504 いたらない私を、お母さんと呼んでくれる子供達。毎日子育てに不安と楽しみを感じさせてくれる、当たり前の生活。子どもを産み育てる事のできない私に、子育てのチャンスをくれた周りの人に感謝です。

506 この子を養育して3年弱ですが、日々成長は遅いですが、この子なりの成長の早さで、私達に感動を与えてくれています。発達が遅れていることが分かり、初めから養子縁組を希望していましたので、正直ショックでした。でも、この子は私達の所へ来るべくして来た子なので、これからもずっと私達の子供として、育てていきたいと思っています。この子を育てるにあたり、主人のお姉さん夫婦、義父には、とても協力していただき、感謝しています。私の母、妹も、年齢や身体の事を心配し、反対していたのですが、今は、私達夫婦と子供の事も理解してもらい、今では「この子を育てる人は私達しかいないのだから、しっかり育ててあげなさいね」と、励ましてくれます。気持ちがとても楽になっています。職場の皆様にも協力していただき、クリニックに勤めているのですが、先生もとても子供を可愛がってくれて、子供のために今後の事を考えててくれて、本当に我が子は幸せだと思います。

510 固い心が次第に開いて、自信を取り戻していく過程に関わって、喜びを感じます。これから思春期を迎えていきますが、乗り越えていける力ができます。小さい時に、ケアができて良かったと思います。

517 里親となり、子供達たちより、「ママ?」と呼んでもらえるのが、一番の喜び。頼りにしてもらい、世話して話して、特別の生活ではなく、普通に毎日が生活でき、ケガして、病気して、心配して、子供の声がキャーキャー聞けて幸せです。しかし、子供との別れ（短期、一時保護）は辛い、心配、とても

心配です。

518 慢待等の親子間連鎖をいかにくい止めるかが、我々里親の大きな使命ではないかと思います。里子がいざ普通の生活（行政等の支援に頼らない）をし、できれば結婚し、子供をもうけ、今度は社会に貢献できるように、育ってほしいと願っています。

556 現場の里親を支える機関、法整備、仕組み作りを責任を持ってやってほしい。そのようなバックアップがあつてこそ、里親は力を精一杯発揮できる。

574 軽度の発達障害であるが、高校生になり、すぐ怒り反抗的で、壁を叩いたりする。穴もたくさん空いている。又、朝、なかなか起きないので困っている。働いていけるか、自立以前の問題だと思う。

604 現在、小5ですが、幼稚園の時、里子の様子が変だと児童相談所に行ったが、親身になってもらえず、今、大変なことになってしまった。児童相談所は、何のためにあるのか、腹が立っている。だから、個人で病院に行った。それまで、小5までは普通学級だったが、里親が精神科に通った。今現在も不調。だから、今まで、大変な思いで小学校へ通った。そのため、里母が今不調である。これから、子供は特別支援学級に行く。

623 二重、三重の困難を抱えている子供達が、希望と回腹の道を歩み始めた時には、大きな喜びを感じる。

693 どんな子供でも、子供は子供。縁あっての子供ですので、私の宝として大切にし、少しの成長でもいいので、楽しい人生を互いに過ごすことが、子育ての目的です。悔いのない人生を送れることが、幸せと信じています。

709 里親をすることで、失ったものも数多くありますが、それに見合う、得たものもあります。私自身が、里親をする前と後で、ものの見方や考え方、受け止め方、対処の仕方等、違っていると思うことが一番でしょうね。周りの人達、自分の考えとは違うけれど、理解しようとしてくれる人も含めて、理解してくれない人からも、私は何かを得たと思っていますので、感謝です。中学3年男子を養育中ですが、彼が、自身の人生を振り返った時、あの母親に育てられてラッキー!と、思ってくれれば最高ですね。

721 現在、委託している児童は、それぞれの個性があって、「次は?」「何に?」と、ワクワクしながら、「未知の世界を持つ宇宙人」として、楽しんでいます。地域での理解もあり（ない人もいますが）、支えてくれて、声を掛けてくれているので、今現在は、困った事はありません。

733 血のつながりはありませんが、実子同様家族です。

745 上の子は結婚して、家の跡を継いでくれています。2番目の子は21歳になるけれど、ゲームばかりで仕事もせず。家のお金を持ち出して、私の頭の痛いところ。これからどうなるのか。次は19歳の女の子だが、仕事は続かず……。小さい時の楽しい思い出がいっぱいあるから、まだ大丈夫。下の小学5年生は発達障害。まだ小さいからいいけれど……。

753 里子から学び、共に育つ喜びを感じている。

788 子供といふと楽しい。

823 自立に向かい、目途が立った時が嬉しい。

898 子供のいなかつた時に比べ、家族は子供に振り回されながらも、充実感はあります。子供は、社会で育てるものと言われますが、最近、地方は過疎地が多く、子供の数も少なく、基本的に社会（地域）を形成することが困難な所もあるので、気軽に近くの信頼できる仲間と、相談しにくくなっているのは残念です。又、奉仕する団体や行政サービス、施設等も、人の多い所に設定されており、地方が地域社会を形成するに足りる、人が集まる施策があればと、常に思います。

915 子供が好きだから里親をしている。里子が自立して、社会で生きて行ければと思う。実子、孫、近所の方、知人等、出来る限り制度を知ってもらうことと、協力していくことを考

え、人と接する。

929 障害児である事を、周りに理解してもらうのが難しい。
944 現在、子供達と格闘しながら、あっという間に1日が終わるという毎日です。軽度の障害ですが、本人の頑張りで、来年小学校に入学出来そうです。先の事を考えるとまだまだ不安はありますが、障害を持っている子供特有のピュアな心や行動に、感動する事も多く、人生が、違う部分で豊かになり、勉強になったのは、この子に会ってからだと確信しています。

958 養育する喜びを感じる反面、現状の社会的支援を考えると、将来への不安は消せない。

1013 子供のいなかつた私達に、里子としてでも子供ができた事、共に歩むことができた事は、とても幸せな事だと思います。

11 初めての里子が身体障害児で、われわれ養育者夫婦の愛情で最大限の可能性を伸ばしていってやりたいなどと考えていたが、今から思えばまったく無知な人間の思い上がりでしかなかつた。障害は一番軽度の一級だったが、それまで自ら何かしなければならないことはまったくない環境で、すべてを他人にやってもらっていたことによって自立心がまったく育っていないくて、小学3年生で我が家に来たときはすでに時期が遅すぎた。中学3年生までの約6年間我が家で過ごしたが、今思い出しても痛恨の極みだ。自らの努力で何かを成し遂げようとする心はついに育てることが出来ず、彼の心とのギャップが大きくなりすぎて中学卒業と同時に措置解除となり、彼はその後養護学校に入った。卒業後は某一流ソフトウエア会社に障害者枠で入社できたが、数年間は頑張ったものの続かずに退職し、現在は彼を支援してくれる施設に面倒をみてもらしながら職を転々として、どこも長続きしない人生を送っている。

13 とても書ききれるものではありません。

14 長期養育の場合は一般家庭の子育てとほとんど変わらず、一保護者として地域の中でママネットワークに支えられて暮らしている。

15 ・子どもは可愛がれば可愛くなります。里親の信念や期待に必ず答えてくれると信じています。

・子育てペテランの7~8名のスタッフチームを作つて、毎月必ずミーティングをやっています。

・子どもへの期待を共有し対応を同じくするように研修を重ねることが重要と思います。

16 一緒に生活していると自然に愛情を感じるようになってきました。

17 現在一人しか育てていないので「困っていること」を聞かれても困る。こんなものなのかなあ~と思い、毎日生活している。子どもの発達（言葉の遅れ）については、他の子と保育園で接したときに感じており、家庭内では成長しているものだと思い気がつきにくい。今後も気をなが~くして成長を見守りたい。

18 里子が4歳よりきて現在小学1年生。来たとき大変暗くさびしそうな顔だちだったが、現在ではとても明るく活発な子どもに育ってくれ、大変可愛い。時々手がかかることがあるが、それらを通し使命感を感じ、なおさらよかったです。

発達に心配のある子の里親 「育てていく中でわかった」

2 初期馴染むまで、何年も時間がかかってましたが、子供が可愛く思えると、肩の力が抜けたようで楽になった。心配事よりも楽しいことに重心を置くように気持ちの切り替えがとても必要で、自分の成長に役立てられていると感じる。家族や周囲の人も、温かく迎えてくれてるので、あまり心配はないが、これから成長していくにつれ、どれだけ問題が起きてくるのか、普通の家庭とは違った形で表れるのか不安。

19 もっと幼い子供を希望していたが、少し大きい子供だった。しかも、乳児院に4才2ヶ月いたため、年相応に成長していないように思われて、少し心配である。里親の先輩達には、赤ちゃん返りをすることは聞いていたが、あまりにも行動が幼すぎて、大丈夫なのかと不安になる。

20 子育ての成長が見えてきて、お互い信頼しあいながら進めるのは、とても育てることにやり甲斐を感じます。しかし、不幸にして里子になる前施設に行ったり来たりの繰り返しで、子供は常に不安を感じていた様子がよく伝わってきました。安心して勉強ができる、生活ができると心も安定してきます。学習習慣もままならなかつたため、遅れることが（他の生徒から）、日に日に差が付いていることに気付く。穴埋めをするのにすごく時間がかかるということ。児相にいる時から、学習習慣を身に付けてほしかった。

42 地域の人々の障害に対する理解がまだまだ希薄で、親や家族が悲しい思いをすることが多い。障害であっても、1人の人間としての尊厳を認め合う社会づくりが必要である。小さな事、身近な出来事から始めよう!

55 子供が少しずつでも成長していくことが嬉しい。ただ、学校や社会では、いやでも優劣を付けられてしまうので、その時に本人がどう受け止めるか不安になることがあります。しかし、本人が「我が道を行く」なりに生活を楽しみ、喜びを感じて暮らして行けるのであれば、何も悲観するものはありません。本人の心の中の在り方がとても気になっています。この子は今楽しめているのか、将来が楽しく暮らせるのか、そういう事を判断の元にしています。

63 養育に関わる全ての関係者に、その児童の特性などを理解していただくことが、スムーズに養育できるきっかけとなるのではないか。

81 ・地域の住民、特に民生委員、学校関係者の深い思いやりや協力に感謝しております。

・たくさんの人達の支援を受け、心から有り難く思っております。

91 ・実子が5人おり、もう成人していますが、その子供達が里子を大切にしてくれるので、誠に有り難い。

・里子達みんなに、将来は素晴らしい楽しい家庭を築いてもらいたい。

98 過去の養育里子が社会人に成長したこと。又、素行不良で少年院に行った里子など。

117 自分が変化出来て楽しい。里親になって、今まで自分が考えていた事が、線としてつながった。里子のトラブルを考える中で、「人の発達」と「人類の発達」は同じであると理解し、人は将来、平和の構築が大切だと分かった。よって、人は平和になること、互いを認め合うことの必要性があることが分かった。「ワクワクした生活」と「もっと笑顔で、笑顔を」を目指してやっています。笑って暮らせたらいいですね。「あっそうなの」「そうだったの」と言える自分でいたいと思いつつ、怒っているばかりの私です。

140 我が家に里子が加わってもうすぐ1年になります。すでに家族の大切な一員となっており、以前出来なかった事が、どんどん出来るようになっており、我が家に来てくれたことで、私達にとっても、里子にとっても、良かったと思っています。

145 私は里親になる時、とにかく早く早く子供を預かり育てたいと思い、主人を説得し、主人の親の反対にも遭いましたが、子供を預かろうと必死でした。乳児院から3才の子を預かり、その頃は児相もあまり様子を見に来ることもなく、主人も仕事で忙しく、あまり相談できる人もいずに、1人で頑張っていた気がします。里親さんは特別養子にして、里親をやめていく人が多かったので、私は取り残されたような気がして、寂しかったです。子供も小さい頃から素直な方ではなかった。でも、それは私達も接し方が悪かったのかなとも思います。今は毎月、

里親サロンに参加しているので、情報交換や悩み相談ができる助かっています。これから子供が高校を卒業するので、進学の事や就職の事など、悩みはありますが、負けないで頑張ります。

148 里親は大変ですが、それ以上に子供の笑顔が嬉しい。

155 大変な事が多い。手が掛かったり、精神的にパックアップしたり、我が子以上の手間暇がたたるが、子供の優しい言葉、遅れながらも少しづつ成長していく姿、子供らしいハツラツとした動きや、逆に統一のとれない動きなど見るにつれ、里親がいなくなったらこの子達は……などと思うことの中で存在感がある。

156 里子が来て6ヶ月間は大変でしたが、療育センターに通いながら、ほぼ高機能自閉症と分かってからは、悩む事もなくなり、とんでもない事をしても、理解（納得）する事ができるようになり、怒る時はしっかり怒りますし、逆に優れた発達も見られますので、楽しみも増してきています。見向きもしなかった（集中できなかった）本読み（読み聞かせ）も、目を見張るものがあり、毎日保育園から自分で本を選んで借りて来させ、作者も覚えていたり、シリーズものも分かったり、私達も楽しんでいます。

158 子供達の元気な声に囲まれ、毎日慌ただしい中にも、楽しく過ごせていることがとても嬉しい。里子が立派に成長し、自立できるよう支えていきたい。実子は、里子との中で、いろいろな葛藤を感じていると思うが、この経験を宝にして、成長していってほしいと思う。家族がひとつになってきていると感じる。親族の支えもあり、恵まれていると感謝している。

192 障害とは言えないと思いますが、排便において、したいに我慢して、出ない出ないと泣き叫んで拒む。結果、長い日数便秘に苦しむ。男の子2人共、その傾向にある。長男（7才）は特にすごい。里子として受け入れた当初、19日間排便がないことがあった。その後もだまっていると、1週間無いことは普通である。

200 表情が豊かで可愛いが、粗暴であるのが心配。こちらも何度も言つても、聞いてもらえない、理解してもらえない、ついついイラ立つてしまうので、その点が気掛かりです。物ではいたいたり、ぶつけたり、咬んだりしてくるので、こちらの方（他の里子も含めて）がケガするのが心配。実際、小さなケガは結構ある。言葉の発達が、表情に遅く感じられ（同年令の子と比べると愕然とする）、入学時、それ以降が心配です。言葉もそうですが、字が書けるか、計算が出来るかなど、将来不安です。

206 子供の成長を感じられる時は、おおいに喜びを感じる。実親との面会、宿泊により、多大な影響を受けて帰宅するので、その後の養育で非常に困る場合がある。又、養育が終了し、実親のところに帰宅する時に、里子と実親が良い関係を保てられるのか心配になる（少し事情が複雑なため）。

210 我が子に多大な苦労を掛けていると思い、その事を考えると胸が痛みます。

222 ・悲しみ

反抗的な態度（思春期）。理解しよう、理解してもらう態度がないこと。

・喜び

怒りを抑え、少しづつ話しかけてくる態度がみえる時。数々の障害を家族と共に克服していったこと。

225 何か社会の役に立ちたいという思いから始めた里親です。家族、学校、地域の方々に支えられ、ここまで来れたと感謝しています。子供達が自立し、幸せな家庭を作るのを見届けるのが今の私の夢です。

227 色々な心的障害を受けながら、育ってきた2才～16才の子供達が何人も我が家にやって来て、家族として一緒に生活している中で、兄弟、姉妹になって、日々色々な事が起き、泣いたり、怒ったり、笑ったり。この年（私66才、夫67才）になっ

て、賑やかすぎる毎日の生活。楽しくもあり、嬉しくもあり、疲れもしますが、子供達は普通の生活の中で、少しづつ人間らしく、可愛い子供らしい子供になっていきます。

238 ・25年以上も前に、養育里親制度があることを知り、いつか自分もやってみたいと望んでいました。自分も養父母に育てられた生い立ちから、家庭で育つことの意義があると思った。

・実子は息子3人で、成人した後、里親を始めましたが、子育ての経験がなければ、ここまで出来るかと思う。

・プライバシーの面から、子供は里子だと言うことができず、物好きな人と思われているのが、ちょっと負担に感じた。米国は、ごく普通のことのように里子は一般的です。日本も、広く理解されればいいと強く思います。

・私の場合は、学校の先生、学童保育の指導員に恵まれ、特に、タクシーで通った隣の学区の学童は、助かりました。指導員はペテランばかりで、ずいぶん助けられました。

274 里親会で話を聞くと、学校での友達関係、先生との関わり、学習の進み具合等、當時何かしらの問題が起こっていることが分かる。毎日同じ注意をし、言って聞かせ、つい怒鳴ってしまう自分が嫌になる。夫婦で、「障害があるんだから仕方がない」と納得しながらも、大学に進学すれば、将来の選択も増え、困る事も少なくなると、「勉強しなさい」とうるさく言つてきた。最近は諦めも出でてきているが、将来を不安に思う気持ちはなくならない。どの里親宅も同じ気持ちだろうと思う。

292 実子ができなかったが、子供を育てることができ、心の底から子供をかわいいと思って、子供が理解でき、愛情を持てるようになったことに、喜びを感じています。そして、そうなれるように支えて下さった人達に感謝をします。子供が言うことを聞かないで反抗的になつたりした時に、理解できず、愛情を感じなくなったり、他のお母さんなどを慕っているように感じた時に、私よりも良いと感じているのかと、悲しくなったことがあります。そうした時に、自分が産んで、そのまま育てていくこととのギャップを感じて辛くなりました。

300 忘れていた育児、色々な発見、喜びなど感じることもある。他人からは、「えらいねえ」「普通じゃ出来ないよ」などと言われるけれど、全く偉いとは思わない。里親をしていても、時にはイライラしたり、叱ったりする時もあり、その都度後悔しています。これからの素晴らしい人生を感じるための手助けができるよう、自分自身も毎日勉強、努力の日々です。

310 里父が亡くなり、2人だけの生活の中で、お互いの存在が生活の励みになっています。里子がいてくれて、本当に良かったと思います。

312 子供はかわいいけれど、親族（夫側）が認めておらず、子供の前で不適切な言葉を発したりするが、そんな問題を相談できる所がなく、里母である自分が、時々苦しくなることがあるが、児相にはなかなか相談しにくい。

316 子供の成長は、大変喜び溢れる毎日ですが、高機能広汎性発達障害であるがゆえに、常に学校での友達関係でトラブルがつきまとう。学校、保護者の理解力が乏しい。結局、里親としては、謝るしか手立てがないのが、非常に苦しい。本意ではない場合があります。

318 ・喜び

子供が元気に楽しく過ごしていると実感できた時。優しさや賢さをチラリと見た時。○○くんは、かっこいい、やさしい、かわいい、お母さんの宝物!

・悲しみ

繰り返しの指導をしても、変化が見られない時。

・家族

365日のうち、数日お休み。自分のためだけの時を過ごせたら嬉しい。

332 実子がいないので、2人の子供の親になれて、大変うれ

しく思います。つらい時や大変な時もあるけれど、子供の笑顔を見ていると、忘れてしまうくらいです。

347 ステップファミリーが増えているので、血の繋がらない家族の繋がりも、一つの形態として有りだと実感しています。

369 子供の成長が心配で、将来が不安である。

381 特養予定の男児と、季節週末の女児がいます。男児の方か特に何もないのですが、小4の女児については、かなり不安の強い子で、他の里親さんを受け付けなかったと聞き、うちに来て笑ったりふざけたりしている事に、喜びとやり甲斐を感じます。こだわりが強いので、これから彼女を思うと心配です。

404 高機能性自閉症と言われているが、やはり集中力がないので、途中で投げ出す。

424 主人60才、私57才の時から、里親として、1才5ヶ月の子を預かりましたので、自分の子と同じ気持ちで接して育てている。私達の子供4人も、理解し協力してくれている。2年生の時に、本人へ、ある程度の「告知」はしてある。ただ、私達が高齢になった時、この子は独り立ちして、社会人として生きていけるよう支援したい。

426 普通の親子として、普通に生活できる喜び。

427 6才の里子（男）ですが、元気をもらっている。

469 乳児の時に来た里子と、数ヶ月～1、2年で別れる時、子供を取られるようでとても悲しく、いつまでも忘れられないのが辛い。発達障害は、ともすると、見落としがちになりやすいのか、中学2年になる里子は、保育所に通っている頃から、保育士より、「おかしい行動をきちんと察す」と言われました。発達障害という事を言わされたのは、中学2年になる春休みです。その間にしてあげられる事がいっぱいあったのではないかと、悔やまれます。

477 子供の成長や笑顔を見るのは嬉しいことであるが、年々苦しい時が多くなりつつある。精神的疲労がたまっている。

478 我が家に来て、みるみる成長が見られ、とても嬉しく感じるが、実子への影響が大きくなり、実子の不安定な状況に、里子をこのまま育てていく自信がない。今とても悩んでいる。もしかすると、家庭崩壊？ しかし、里子の成長には、我が家は心地よい。

479 頑張って育ててきたのに、思ったような成長が見られないと感じる時の虚しさが重たい時、つくづく子育てが嫌になる時があります。疲れ果て、子供を愛せない自分さえも嫌になる日があります。こんな日々がいつまで続くのかと、何もかも投げ出してしまいたいと思う時もあります。けれど、私が投げ出したら、この子達はどうなるのかと思うと、今はしんどくても、乗り越えるしかないのです。

486 子供の心を大切にしています。

487 里子を預かる上で、またその関係性において、全く血の繋がっていないがゆえのリスクは確かにあるが、潜在的な里親側の「家族力」を呼び起こし、互いに成長していく手応えは感じてはいる。これも「ストレングス」と言えるものであろう。

489 将来、今の経験、生活を善意に理解してくれることを祈りつつ、苦労もさせています。家族は兄（実子の末子）が若干、子供の騒々しいことにイライラすることがあり、その理解に悩んでいます。他の祖父母、姉2人はよく理解しており協力します。18才で自立してくれるでしょうか。その時、「おまえらのせいで……」など逆恨みしたりする誤解が生まれないよう、祈るばかりです。暮らしていると、やさしいことばかりではありませんから。

507 とても楽しいです。どの子も幾つかの課題は持っていますが、できるだけ分かりやすく、具体的に話して聞かせ、それを子供なりに努力して、頑張ろうとしている言動を見ると、とてもかわいくなります。どの子も良くなろうとするので、私

の方が励まされるというか、エネルギーをもらいます。

516 里親になるまでの様々な気持ち、不安、高齢では無理とのキツイ言葉にもめげず、やっと3才の息子が来た時は、とてもうれしく、この子のために何をしてやろうかと、毎日楽しく子育てをしていたが、幼稚園入学に合わせて引っ越しをしてから、土地柄の近所づきあいの難しさ、知人のなさ、子供が何か違うと気付き始め、頼りない若いケースワーカーに憤慨し、悩み、苦しみ、夫からの協力もなかなか得られず、ノイローゼや鬱になりました。自殺や離婚も考えました。しかし、自己中心的で、3才児頃からの行動のほとんど変わらない子供に、いつか自分で気付き、まともな社会生活ができるよう日々願い、自分なりに前向きに努力してきたつもりです。これは、他人に話しても、すごく理解してもらいにくい事です。里父でさえ、この2、3年でやっと気付き、最近少し変わってくれたは嬉しいですが、里子との間は、依然難しく、半家庭内別居の様な状態（里母）です。気が休まるサポートをしてもらえないのが辛い。

521 今、里子として預かった子は、早7年になります。小1年時、この子も不安と悲しみに遭ったと思います。私達も同じ気持ちでした。虐待と自閉症の心を持っていたと思われ、それは大変でした。発作的に出てくる不安と苛立ちだと思われます。手が付けられないくらいでした。5年くらいまでは繰り返していました。今中1年生。今度は反抗期と、まだ続くと思うと不安ですが、今から学校大変だとと思われます。でも、この子がいないと、本当に淋しいですね。学校からの呼び出し、不登校、何が出てくるか分かりかねます。

523 日々の生活の中に、子供の笑い声があり、成長があることが喜び。いつかは別れがあるという思いが、悲しみ。今の一瞬を大切に思っています。子供への気持ち、生まれてきててくれて、ありがとう。私をママとよんでくれて、ありがとう。家族や周りの方へ「感謝」。里親になることを許してくれて、子供達を受け入れてくれて……。

533 対象の子供は5才から委託され、現在小学校5年生です。トイレのしつけから始まり、日常生活全てを、本人が得意とする視覚に訴える、理屈で説明するやり方で教えてきました。家族、近所の方、学校の先生、お友達に支えられながら、ひとつずつ出来るようになってきています。出来ない事が多い分、成長の姿を見られることに、喜びを感じています。学習面にはとても能力があり、読書、漢字等にも自信があるようです。ボーッとしている、注意力散漫なことが多く、1日24時間では全く足りない状況なので、個別支援級で、本人のペースで学習できるよう、望んだこともありましたが、普通級でもトップクラスの学習能力では無理と断られました。現在は、友達も沢山いるため、普通級で良かったと思っています。まだまだ出来ない事も心配事も多いですが、見守っていきたいと思っています。

535 大勢の人、機関との繋がりができる喜び。子供に関しては、いじめられないか、いじめないかという不安。気兼ねをしていないか等。

545 今は、家以外では何事もなく生活していますが、成長するにあたって、いろいろ周りとの問題も出てくるのではないかと不安はあります。少しでも自分を理解していけるように、頑張って教えていくつもりですが。

555 喜びは、私の両親が、他の孫と同じように可愛がってくれること。又、悲しみは、学校の父兄の理解がない時。

577 最近では、特に家族が疲労しきっており、そういった面では昔の長屋生活のような、隣近所の届託のない付き合いの中で、子育てができないものなのかと自問する昨今です。昨年NHKの朝ドラ「瞳」で、東京の月島が舞台となり、下町情緒の中で、里子が養育されていましたが、現在「品物」はどこに行っても溢れているが、それに伴う経済基盤のない家庭の増加。今こそ昔に帰って、米や味噌を貸し借りするような社会、

及び、近所付き合いをしないと、いい子供が育たないと思う昨今です。

578 短期の里親のため、慣れた頃に子供が親元へ帰るので、淋しい時がある。元気に走り回る子供の姿を見ることは、とても嬉しいし、子供自体が預かっている間に元気になってくれることは、非常に嬉しい。

582 一緒に居られる、成長を感じることができる喜びを、5才まで毎日一緒に過ごせなかったことに、淋しさを感じます。里子の存在が、家庭内を明るくしてくれていると思います。里親が単身のため、家族の協力あっての現在ですので、「感謝」の日々です。

590 実子が5人いたので、里親ができたと思います。実子がオシメやお風呂やらと世話してくれる。里子のいるお陰で、生きた勉強をさせていただいている。ただ、里子を預かったことで、実子と向き合う時間（1対1での時間）がなくなり、結婚して20年になりますが、この間、ほぼ常に赤ちゃんがいるため、家内の自由な時間、一人の時間、癒しのひとときを与えることができなくて、申し訳なく思っています。

621 平成15年4月、生後18日の新生児を病院から引き取り養育する。母親は精神障害。児童相談所より引き受けするが、45日目で、親権者の母親が育児をするというので、子供を母親の元へ戻した。反対したが、親権は強かった。その5日後に、子供は死亡した。ふとんによる窒息死。母親は力が弱いので、いくら反対しても、役所は中味を深く考えず、親権者に戻すことが第1だと。国は、もっと里親の意見を聞くべきだ。

631 多くの悲しみ、苦しみ、また喜びを味わったが、弱い立場の子供達や社会の不条理を知り、人間として、豊かな人生を生きることを知り、本当に良かったと思う。

646 里子が成人した際に、独り立ちできるかが一番の心配。

655 2年半一緒に生活している子だが、家庭というのを理解し始めている。時間はかかるが、長い目で見て、積み重ねを喜びたいと思う。周りのみんなに良くしてもらっているので、有り難い。

660 家の協力なくして、子供は育ちません。本当に大変です。その子に理解してもらい、又、いろいろと理解するために、多くの時間と経験が必要です。自分自身がしっかりと生活習慣を見直し、身に付けることが望れます。当たり前の事ですが、気持ちが若返り、自分自身が背筋を伸ばし、シャンとしなければと心掛けます。里子を育てるというより、自分みがきになります。反省と喜びと忙しさの毎日です。

662 子供は可愛くてたまりません。とても良い子です。何でも話をしてくれます。本当の事もきちんと話しているので、その事によって、子供がひねることはないと思いますが、母親が恋しいのは、どうしてやりようもありません。

670 子供と巡り会えたことで、子育ての経験をさせていただき、共に喜んだり、笑ったり悲しんだり、成長の過程での思い出がたくさんできたこと。大変なこともいろいろありました。近所やいろいろな方々に助けられて、子育てできたこともたくさんあります。

714 現在小5男子、心臓にペースメーカー装着。人間関係がうまくとれなくて、いじめを受けています。私達家族は、環境を変えて、毎日楽しい生活にしてあげたいと思っているが、新しい環境に対して不安があるのか、受け入れてもらえない。本人に対して、どうしてあげたら良いのかを、毎日涙と手探りの日々を過ごしている。

718 児童相談所から、話を受ける時に、もと発達障害があった場合の心構えや、相談相手など、支援が十分にあることを話してほしいし、その可能性の方が高いことなど、本当のことを話しておいてほしい。

730 2才半で我が家に来た時は、「少しゆっくりめですが、おうちでじっくり見てあげて下さい」と言われてきました。と

ても強い不安感を持っている子でしたが、上の3人の実子にかわいがられ、たくさんの刺激を受けて、すくすくと育っています。小1の時、時々起こすパニックが、なかなかおさまらないので検査を受けると、知的にはボーダーであることが分かりました。小2の秋から特別支援学級に移り、先生とも連携ができるようになり、本人の気持ちも伸び伸びし、不登校もなくなりました。多動で忙しい子ですが、いろいろなものに興味を持ち、いろいろな知識を吸収しています。確かに漢字には苦労し、計算もゆっくり順序だった指導が必要ですし、強い不安感もいまだに続いています。でも、この子を理解するために、いろいろな研修を受け、私自身の視野や価値観も広がり、上の実子達が学校への不適応を示した時、その子達も強い特性を持っていることに気が付きました。今は、家族全員がそれぞれの個性を認め合いながら、楽しく過ごしています。

741 育ちの経過の中で生じた発達の偏りで、子供達はとても辛い思いをしています。このような調査が行われていることを、嬉しく思います。今後に生かしてほしいです。

760 1人っ子の実子（男子）が14才の時に里子を迎えて、実子も里父も、かなり葛藤があったので、保育園に入れることで善処できた。2人目の子育てで、私も45才になっていたので、精神的にゆとりのある子育てができ、子供のやりにくさに、早めに気が付いて、取り組めた事は良かったと思う。経済的にゆとりがあったことも、本人にとって良かった。高校生になって、見違えるように変わったと思う。笑顔が増えて、友達が増えて、対話がスムーズになった。高2になって、自分で探してきたバイトも8ヶ月目に入り、夏にはバイクの小型免許も取得し、バイクで通勤している。親子で自信を感じられるこの頃。IQ85と言われたのは、検査の間違いにちがいないと思う。小学校の頃から学校が大好きで、休まない子である。

783 家族の協力、周りの方の理解、温かい支えもあり、日常の暮らしは特に問題なく、有り難いです。市の行政の里親、里子に対する正しい理解が、まだまだ得られないのが残念です。

802 あの時はごめんなさい。本当の優しさとは、何かが離れて初めて分かりました。ありがとうございました。措置解除後（実家庭復帰後）に手紙をもらい、いろいろあった時に帰さないで良かった。今までのことは全て忘れ、また頑張れると勇気をもらいました。

832 若い時（里親）は感じなかった年をとることについて、考えるようになる。男2人なので、遊びや行動について、いけない事がでてきた。又、思春期の対応も疲れてしまう。

842 子供の成長する姿を実感できた時は、うれしいですね。子供の行動の一つ一つが喜びです。

844 子供のおかげで、親にさせてもらったと思います。大変な事もあるけれど、大笑いすることも多々あります。里親をして良かった。アンケートの封筒の表書きは注意して下さい。子供が見たらショックです。

871 実子と共に、家族として生活しています。大変ですが、実子含めて、3人の子供の恵まれたことに、感謝しています。今は、毎日の生活に追われていますが、子供の成長を楽しめることは、喜びを感じています。

今回、児相からの連絡もなく、突然送られてきたアンケートに驚きました。封筒の表紙については、もう少し配慮していただけたらと思いました。趣旨には賛同します。

883 周りの子供さんが素直でしっかりして、その親はイイナアと羨ましく感じます。まだ家の子は幼児なので、「個人差があるから」という言葉で、自分をなぐさめていることが多いです。こだわりが強く、ハッキリした性格の子供なので、外出先で手こずることも多く、疲れます。でも、年月と共に、それなりに成長していく、子供から求められているという母親としての充実感（？）や、大変でもそれが決してイヤではないので、子供と生活することに満足しています。

897 子供のいない私達が、2人の子供を育ててみて、自分の時間が少なくなる、お金が掛かる。うるさかったり、汚したりで、ストレスが溜ります。でも、それ以上に子供の成長に喜びを感じます。幼稚園や小学校の親、地域の人達、子供を通じて知りあった方々。世界が広がり、毎日が楽しいです。

930 委託が終わっても、帰る所のない子に関しては、一生関わる気持ちでいます。学校を出て就職して、結婚して子供ができる、普通に親からしてもらえるサポートをしてやれたらと、思ってきました。ただ、高校へは行けないかも知れない。普通の人生を歩まないかも知れない子供に、私達は、どんなサポートをしてやれるのか、社会的にどんなサポートが受けられるのか、何の知識もないことに、不安な気持ちでいます。

949 喜びは大いにあり、生き甲斐になっています。しかし、もし自分が子供の面倒を見ることが出来なくなった時、どうなるか不安があります（特にこの男の子に関して）。室内と下の男の子にやや不和があります。子供に対しては、絆を育む事に力を入れたいと思っており、それが生き甲斐にもなっています。室内だけじゃなく、お姉ちゃんも、下の子に対して心証を悪くしています。

955 姉妹仲良く、いろいろな事が起きた時、ゲーム、縄跳び、パン作りをした時の、とても良い笑顔を見た時は、一緒に暮らせて良かったと思いました。小さい時から施設で育っていると、一般家庭の子とは違うということは理解できるが……。児童福祉センターなどに良い事を話し、悪い事の問題で相談すると、決まって、「施設の子はね……」と言われてしまいます。でも、私達養育する者は一般家庭です。日常生活で基本的な、「返事をする」「あいさつ」「言葉使い」は、常識的な事ではないのでしょうか。

957 毎日、精神的に楽しい気分で過ごす方が、肉体的、健康面に良い効果をもたらす。親密性のある人と人（親と子）の関係があってこそです。児童養育の美風が広がってほしい。

965 家族がよく協力してくれます。委託して2年になりますが、初めはどうなるかとストレス大でしたが（思いの他手こずった）、今は、里親の指示はしてもよく受け入れができるようになり、共に生活しやすくなりました。独特のアンバランスさはありますが、保育園の特別支援や、毎週通っている民間の訓練教育での積み重ねも、成果が見られています（ぱっと見は、全く普通）。正直、私（里母）自身に専門的な知識や技術がなかったら、とても大変なことだったと思います。専門家と里親の責任感で、乗り切っているのが現状。

983 普通の子より元気で、かわいいと思って生活していたら、普通ではなかった2人へ……。許してあげられる要素を持っていてくれて、ありがとうございます。母はたくさん勉強して、もっとかわいがってあげられるように、がんばります。

998 子供や実親に、お礼を言ってもらおうなどと思っていては、里親なんて出来ないと思います。子供はやってあげたこととは何も感じずに、自分にとってイヤな事だけを主張します（実子も同様）。私は自分の信仰があるので、里親をやっていくと思っています。自分の家族の犠牲はあるけれど、少しでも福祉の役に立っているということが、自分の救いになっています。

障害あるいは発達に心配がない子の里親

- ・近所、周囲、学校関係の理解と協力に感謝。登校拒否が1年程度あったこと。
- ・子供は可愛いし好きだから、親として接すれば、だんだん分かってきてくれているとの感触がある。
- ・里親として、特別なことは出来なくても、子供が大人になった時に、少しでも分かってくれて、感じることがあればそれで

十分満足。

・実子（男2人）では体験しなかったこと、考えられなかったことを沢山しました。

4 現在、思春期の子供を預からせていただいているのですが、その子は現在日本名を使用しているのですが、父母はベトナム人で、父は5才の時亡くなつたそうです。反抗期、思春期は体験上覚悟はしていたのですが、家庭生活、特に、日本の生活が身に付いていないのに苦労しています。最初はあいさつ、食事の仕方、全て一からだったので、本人とも何回も何回もぶつかりました。でも、その時々に本人が納得するまで、話し合ってきたのですが、まだまだ難しいのが現状です。

6 市の夏休み、冬休み、春休み（小5）に漢字、算数のテストがあるのに、一生懸命勉強させて、100点を取った時、とても嬉しく感じました。又、生き甲斐のある暮らしが出来て、本当に良かったと思います。

7 幼児は可愛いので楽しい時間が多く、里親になってとても良かったと思ったが、今は高校生。18才で養育が切れてしまう事と、今は大卒が当たり前の時代。うちの子はあまり勉強が好きではないので、無理に大学（4年）を勧めないが、実力のあるお子さんを預かっている人は、残念な思いをしているようです。

8 6年生の修学旅行の朝の出発が6:30だった。少し早めに学校に行き、バスに乗るまでの間、友達の方に行ったり私の方に来たりを何度も繰り返し、他の子どもたち同様に、自分もちゃんとお見送りしてくれる人がいるという事を喜んでいるなあと感じました。こんな私でも子供に安心を与えられる存在でいられることに感謝しました。

9 家族の理解がないと出来ない。家族には感謝している。地域においても、注目的であると思う。上手くいって当たり前、何かと気を使わなくてはならない。学校でも、担任の先生の理解と協力が必要。学校でも、支えがないとやっていけないので、目をかけていただける先生でなくてはならないと感じる。

10 うちの里子の実母は知的障害が（重度）あり、子育てができずに、里子として預かっています。実母のお母さんも子供が成長した時、実母の障害を知ったら傷つくなると心配しています。私は実の母だと言うには年がいっているので、実母の障害の話をするのが難しいです。

13 自分の子供達も色々結婚して子供を持ち、夫婦二人に戻った時、やはりこの家には子供の声が似合うと思い、里親を志しました。小5で預かり、大人不信、現実とのギャップ、養護学校と普通学校との差、色々なハンディを乗り越えて2年目の里親宅での生活。彼も大変だろうと思える今日この頃です。少しづつ彼の不信感、不安を取り除いてやれたらなと思います。夫や子供達家族（孫達含む）、友人達、地域の人々の理解等、有り難い事です。これからもよろしく。

14 養子縁組を希望して、3人の子供を養育しました。1人は親元へ、1人は養子へ、1人は現在養育中です。別れを経験した後の2人の子供の養育でした。一人目と違い、愛情いっぱい、育てているという自信は全くありません。

16 里親に登録しようと思い立ったのは、中学生、高校生等の支援を、養育家庭としてやってみようとの思いでした。私自身長年中学校教員として教育現場にいたので、退職を機に何か社会貢献できることがあればとの思いでした。しかし、現在委託されている子供は生後40日の幼児でした。本日で満1才を迎えますが、実に可愛いものです。当初の思いとは異なる里子でしたが、やり甲斐を感じています。

18 第一に、愛情を与える事を考えますが、その愛情が伝わった時の喜びは大きいと思います。又、愛情を与えるだけではなく、逆に愛情をもらったり、一緒に成長していく環境を作つていただきたいです。

23 里子の将来への不安の大きさが心配である。出来る限り

サポートするつもりである。

24 ・養育里親になって7ヶ月になるが、里子が里親を施設の職員と思っている。

- ・地域、学校が温かく見守ってくれて有り難い。
- ・養育になって半年位から、里子の生活が落ち着いてきた。
- ・主人がとても協力的なので、夫婦で協力しながら養育している。

・里子に問題点があると、里親が相談所へ相談すると、担当者が親身になってくれて、とても心強く有り難いです。

25 子供との生活には、楽しみを感じられて毎日普通に生活しています。主人の母は里親制度等に不理解のため、親戚や近所に子供の個人情報を詰まくり困っています。同居しているからなのです。3人で家を出ようかと考え中です。子供の成長に合わせて、もっといろいろなことが出ると思うけれど、まだ2才なので、今を大切にして生活していきたいと思っています。

27 弟のために……。

28 ・学校に行っているので、勉強を自分でするようにしてあげる喜び。

- ・和会人が家族で言葉をかけるようにしているが、時に、言葉が返ってこないし、行っている事、片付けが出来ない。

29 彼が中学入学と同期に受託しました。そして今日18才の誕生日を迎えました。就職内定もいただいて、無事に卒業できることを願っている昨今です。校則違反も何回かあり、処罰を受けた事もありましたが、何とか巣立ってゆける見込みです。しかし、本人はもとより、私達も急に手放すのは可哀想という思いがあり、仕事に慣れるまでは、我が家から通勤する予定です。実子は2人ですが、どちらも既に家庭を持っていて、いろいろ相談にのってくれます。又、近所の方々も温かく見守って下さり、感謝しています。将来、妻子を連れて来てくれたら、どんなに嬉しいでしょう。自分が淋しい思いをした分、子供にはそんな思いをさせないように、明るく楽しい家庭を築いてくれる事を願っています。

33 実親と別れなければならないという出来事があり、子供達の心にどういう形で出てくるか心配はありましたか、子供達は強かった。私達里親の方が勇気をもらったくらいです。私達の親戚、地域の人達も、私達の子供として見てくれた事も、大きかったなと思います。今は本当の家族みたいに楽しく毎日を送っています。

34 子供を育てながら、自分も親として一緒に成長できる幸せを日々感じて感謝しております。

35 大分落ち着いてくれて、年齢の近い実子とも普通にケンカし、仲良く遊んでくれます。親の方が育ててもらっていますね。

37 里子を養育することで、改めて家庭大切さを実感しています。施設でずっと生活していると、社会に出て困難になるであろう事が沢山あります。実子と同じに愛することは難しいですが、常に我が子ならどうするだろうと、自分に問い合わせながら接しています。

38 子供は可愛い分、子供の友達、その親に里子と知れた時の子供の心が心配です。自分の年齢を考えると、子供って言うよりは孫に近いので、その事で子供が友達に何か言われてもと考え、もう幼児は預かれないのではと思っています。

39 非血縁養育は、苦しみながらやるものではない。楽しみながらやるもので。養育者が苦しみ悲しんでいる。その後ろ姿がそのまま養育子に伝わるもので。

40 現在養育中の子供が、愛着障害のため問題行動があり、一児保護ということで、保護所にいます。面会もできず、話し合いも進まず、里親というものは何なのかを考えています。今後、子が大きくなっていく中で、何が起こるか分からず、難しい子育てになることも考えられます。しかし、我が家の場合、

一度実親との別れがあり、傷ついた。又、私達との別れをさせることはいい事なのか、誰に問い合わせ、相談すればいいのでしょうか。今はまだ、子供の幸せを祈ることしかできません。

41 里親として先は嬉しい言葉を子供から聞きました。それは、「私が大きくなったら、お母さんみたいになって、私みたいな子を面倒見てあげたいの。私はお母さんみたいな大人になりたいの」と言ってくれたことです。その気持ちを大切に、育ててあげたいと思います。

43 養育里親の仕事は委託されているが、成人して社会に送り出すのが本来の任務です。一応、高校までは児相の委託がありますが、大学まで行かせてやりたいと思っています。

44 日々いろいろな事はありますが、楽しく子育てをしています。

45 女の子が若いうちに育て上げて、今の年齢、本当の親子関係を作り上げたかったが遅すぎた。でも、他人の生んだ子は他人の子と今思う。皆に感謝。

47 見た目は金髪、青い目、白い肌で弱視。学校でのいじめが心配。担当教師や学校の深い理解が必要である。目が不自由で、止血不全の他にヘルマンスキー・パラドック症の疑いもあり、初潮や出産が心配。又、40代で重病（HPSのため）にかかり、亡くなる場合も予測されており、日々心を痛めている。笑顔を見ることが喜びであり、この子の親である事に生き甲斐を感じる。

48 ・乳幼児の養育はとても楽しいものですが、実親引き取り後のフォローをしっかりしてあげないと、親、子共につぶれてしまう危険性がとても大きい。

- ・中高生になっている子達を受け入れると、18才の壁がとても大きく、解除後の精神的ストレスが辛い。幼い時から育てているのならば、経済的に積立など出来るが。受け皿のファミリーホームなどの充実を切望しています。

49 実子がなく子供好きで、子供に関わる仕事をしていた私は、初めて家族として赤ちゃんを育てて、本当に毎日幸せをかみしめています。日々の成長が楽しく発見があり、本当に苦になりません。それでも予想外に大きな女の子に、私の腕が限界を超えるました。そうした時のサポート体制があると、里親普及拡大へ繋がるのではと思います。

50 小学校、子ども会、地域の方の理解は良い。協力的である。学校カウンセラー、児童相談所等との話し合いが持て、里親として生きていく力をもらっている。里子の性格、その場の場の対応に戸惑いもあるが、合わせていく努力、考え方の切り換えを学びつつ対応している。

51 病気を持ち、障害もいくつも持った子の養育は大変です。知的障害だけならば何人か養育していますが、発達障害を伴うと、大変難しいことです。何を考えているのか予想もたたず、家族で出かけたりしても、いきなり暴れ出したりすると、何度も投げ出したりする事がありました。未だに手探り状態ですが、「いつでも児相に返すことは出来る、もう少し」と思ってやっています。

52 家庭の中かが賑やかで良い。親類、ご近所等の理解もあり、問題はない。私立英和女学院へ入学したが、教師がとても良く関わって下さり、面倒をよく見ててくれているので、大助かりです。

56 子供を育てているつもりでも、子供に育てられているような時もあることです。4才児なので、手が掛かる時もあり、嫌になる時もありますが、自分の生き甲斐にしたいと思います。

58 実子がなかったので、最初は養子縁組を考えていたが、制度を知ることで、他人の子を他人の子として育てるのも「あり」と思うに至ったが、やはり委託された子供はとても可愛い。2年半経って、互いに主張できるようになり、これからも良い関係を保っていきたい。9才だが、実親ではない事は認識しており、養護施設時代のことも普通に話している。

59 実子が2人いました。1人が重複重度身体障害児でした。18年3月に亡くなりましたが、その子のケア、子育てがものすごく大変で、下の子に十分手を掛けて育ててあげることができませんでした（現在中1女子）。そのため、以前預かった子も今いる子も、「ああ、この年頃はこうだったんだなあ……。こんなにしてあげられなかった……」と自分の育ててきた道を振り返り、反省もし、実子に十分な相手をしてあげられなかった事を詫びました。ですから、預かった子のお陰で、これが当たり前と思ってきた自分の子育てが、実子にとっては、手を掛けてもらっていない子育て（障害児がいてできなかった事も事実ですが）だったと、ちゃんとできていなかった。そう気付けて本当に感謝です。

62 不幸にも実親に育ててもらえない子供を養育するには、家族はもとより、周りの人達の理解や協力が必要あります。実子でも親の通りに育っていかないのが常なのに、預からせていただく子供は、大変なのが当たり前であると思います。いろいろな問題にあたる事に、子供も私達夫婦も乗り越えることによって、ひとまわりもふたまわりも大きく成人できると思っています。

64 全く知らなかった里親家族、そして環境、生活に突然飛び込み、実の家族と別れた悲しみの中、よく子供なりに頑張って耐えてくれたと思います。生活習慣もかなり乱雑なところもありましたが、この1年を通して、とても改善し、素直な良い子になりました。里母として、里子との二人だけの時間を、毎日少しだけ作ることに努力しています（お風呂、寝る前の本の読み聞かせ等）。

66 家庭復帰を考えると、実親との交流がいかに大事なことが分かっていますが、実親の自分勝手、わがまま、約束を守れないなどで、里親、子とも振り回される。

67 他の親と比べると、年齢の差が大きいので心配しているが（していたが）、今のところは全く気にする様子もなく、普通の自分の子として接することができる。子供の性格が前向きなのがうれしい。

68 最初のうちは、近所の見方や子供に対してあったのだが、引っ越しを決めてからは、子供との信頼関係も深まり、時が親子の関係を少しずつだが、深めてきていると思う。

69 特に何か問題がないので、楽しく普通にやっています。普通ということは、腹も立つ、イライラもする、実子と同じです。

70 私共の子供は3才で、我が家に来た時に、近所や友人に紹介をし、最初から皆に助けてもらっています。どんどん前に出る、どんどん外に出て、人の優しさや思いやりを有り難くいただいております。ご近所ぐるみで可愛がってもらっています。

72 私達には実子がなく、子供がとても好きだったので、里親登録をして、子供が我が家に来て、他人様のお子さんではあります、自分の子供のように可愛くて愛しいです。ですが、いつかは実親の元へと離れて行く日が来ると思うと、分かっていても切なくなってしまいます。

73 1才3ヶ月でうちに来て、この11月4日で4才になった。来たばかりの頃には、しょぼくれた顔をしていて無表情だったが、2~3ヶ月経つと、児相の担当から病状が豊かになったと言われた。今ではうちの主のような顔をしている。老母も「うちの子にしちゃえば」と言う。息子も娘も嫁も親族も近所の人も大事にしてくれる。月に1回などの実親との面会があるが、「お兄ちゃん、お姉ちゃんと遊ぶんだ」と言い、親との認識がない。実親の家庭に本当に戻れるのか不安である。この子を媒介として、夫婦の会話を増えた。老母にとってもいい刺激となっている。1才半の孫の行動様式が、里子の後追いをしているので、発達段階が分かって面白い。今の生活が気に入っている。

74 今は、日々成長している子供を見ているのが楽しいが、委託を受けた当初は、うちに来て良かったのか、他の家や養護

施設の方が今より幸福ではなかったかと、子供をつい強く叱つてしまつた時など、不安に思いました。

75 これからも、どんな環境に置かれても、まっすぐ生きてほしいと思います。そう努力していれば、周りの人も必ず温かく見守ってくれると思うから。

76 2才から育てて、今は16才（高1）ですが、未だに食べ物への臆病さがあり、食べ物の幅を広げる事ができないでいるのが心配。野菜、魚はほとんど食べない。果物も、リンゴ、みかんだけ食べる。

・高校卒業後の事がとても不安。学力もあまり良くないので。・まだ「抱っこして」と言ってきて、2才までの不安がなくなつてない。

・私と主人の年齢が高いので、将来が不安。

・日常では、夫婦二人と里子だけの生活なので、里子がいると話題も広がり、わがままや反抗はあるが、充実感があり幸せと思う。

79 ひとりでも多くの子供が、少しでも幸せな乳幼児期を過ごしてくれることを、願っています。安心して、たくさんの笑顔に囲まれて大きくなることが、その後の人生においても、とても大切なことだと思います。里親になって改めて、大人の何も考えない行動で、生まれる命の多さに驚いていますが、そうやって生まれた子どもも、その後長い人生を生きていかなければならぬことを、考えてほしいと思います。

80 実子の子育て時期は、共働きだったこともあり、全てに 対してゆとりがなかった（20~30代）。現在50才代になって、2才児の里親になったが、いとおしさは格別である。まだ里親を始めたばかりなので、視野は狭いと思うが、家族、まわりの人々との協力をいただきながら、自分を成長させていきたい。

82 私達は里親になり6年位になりますが、長期の委託を受けたのは初めてで、最初はうるさいばかりの男の子（2才1ヶ月）の行動、言動のうるささに、かなり振り回され、疲れてばかりでした。実親と離れているからか、私達への試し行動、言動も多く、逃げ回るのをつかまえて着替えさせたり、家の用事をしている時、家中を散らかす、自分の好きなテレビ、おもちゃでないと泣いてしまうなど、子供を育てていない私は随分戸惑いました。今でも、どこへ行っても落ち着きがない子ですが、元気なのと、人見知りをしないので、いろいろな人に可愛がられています。

83 現在30才になる元里子は、療育手帳A、障害者手帳1級と合わせ持っています。生後1ヶ月から養育しましたが、現在のように専門里親の制度もなく、精神的、経済的に大変な苦労がありました。現在も私達と生活しておりますが、平日の昼間は作業所へ通所しています。委託期間が終わった後の障害のある子供への養育には、大変なものがあるとつくづく感じています。機会がありましたら、他の里親さんにも経験談などを話してみてもいいと思っています（名前を伏せていただけるのならば）。

85 喜び。

父、母と毎日呼んでもらえ、親として信頼してもらえ、頼りにされていること。

・悲しみ

1名は実子となったが、その後に受託した子供は（女児）、実親との再統合を目的にしているため、数年後には我が家から巣立っていく。長期間での里親家庭での親子関係にタイミングミットがある点は、心情的に淋しい気もする。

・子供への気持ち

受託児童本人が背負ったリスクは計り知れない。本人にとって、一番最良な人生が歩めるよう、今後も精進したいと思う。又、親と思ってもらえ、本当に幸せである。

・家族、周りへの気持ち

家族、周囲の協力あってこそその里親家庭。連帯していただける点で、何度も危機を救われている。本当に有り難い。他の事で

周囲の方々に恩返しがしたい。

87 世の中に通用（普通に生活していける）するようになるのが役目と考えて、面倒を見ています。実親が出来なかった事を、厳しく躰るつもりです。社会に出て苦労しないように。又、家庭の暖かさ、家族の在り方なども、教えていきたいと思っています。

89 子育て初体験のビギナー親ですが、日々子供の成長と共に、家族になっていっている自分達を感じます。近所や親戚、家族、友人など、たくさん的人が助けてくれていて有り難いです。子連れで友人と会いたい時は、保育士さんがいて、プレイスペースのあるカフェレストランがあって、よく利用していましたが、2軒ともつぶれてしまいました。とても便利だったのですが、託児まで行かなくても少しの時間、子供を見ててくれるの、とても助かります。

90 この子達を育てる上で、多くの事を学ぶ機会を得て良かった。子供の目線を学ぶことの重要性に気付き、周りの人の気持ちをくむ楽しさも学んでいる。

92 我が家で暮らすことが、本人にとって本当に良いのかは分かりません。でも、縁あって家族になったのだから、少しでも楽しく暮らしていきたいです。

93 施設が足りないと言う話を聞いています。里親として登録しても、子供を預けてもらえない人がたくさんいるようですが、これは、里親の教育が足りないからだと思います。里親自身が不安定な人間であれば、子を簡単に預けることはできないと思います。教育の充実を目的としていくことが大事だと思います。

94 普段は里親として……と考えている程でもなく、普通に生活している実子は、産まれてすぐ育てたが、里子は、2才まで困難な生活（重度なネグレクト）だったため、委託当初は普通の2才児に対する子育てではなかったが、あっという間に普通の2才児になり、子供の力を感じられずにいられなかった。児相で保護されなければ、もうなかった命で、施設での集団養育では、どこまで普通に育ったか分からぬが、里親制度で、この子は今の姿になれたのではないかと思い、制度と力を尽くしてくれる児相と普通に生活してくれ、里子も含めて家族全員に感謝し、日々暮らしていければいいと思う。

95 里子として我が家に来てくれた子には、何らかの縁を感じ、本当の家庭の生活を体験してもらうよう、最善の事（今できる）を考え、生活しています。近年は、適切なヘルパー的な支えがないと、体力が持たない。又、精神的にも追い込まれていくような気がしてきます。行政における経済的な援助と同時に、公的な機関の先生方など、里親に対する理解不足で、対応に苦慮する事が多いです。

96 自分がこの子の立場だったら、そう思うとやりきれない気持ちでいっぱいになります。自分に出来ることをしているだけです。この子には何の罪もないですから。

97 里親（母、50代）、実子長男30代、長女20代、婿30代、孫長女2ヶ月と子供達小学3、4年の男児の7人家族です。家族みんなが協力してくれて、それぞれの得意分野を發揮してくれて助かっています。母親として、子供達が「おかあさん、おかあさん」と呼んでくれ、喜びを味わっています。子供達は、長男をこの家の大黒柱と一目置き、長女は、私が仕事で忙しくしている時などは、家事面を手伝ってくれたり、勉強も見ててくれています。婿は、長男と違い、友達感覚で接してくれて、囲碁将棋などで遊び相手をしてくれるので、楽しみにしています。孫が生まれたことで、2人にとって、赤ちゃんに接する体験の最中です。毎日の生活が2人の子供達にとって、身となり肉となって大人に成長してくれればと思います。

99 学習能力があまりなく、学校での宿題などさせるのが大変です。忘れ物が多く、学校へ届ける毎日です。

101 里親をするようになって、年数はかり経ちましたが、

未だに育て方など日々悩みながら（自分の接し方等）生活しています。15名程の子供達と生活を共にし、中には障害を持つお子さんもいましたが、相性（里親と里子）も大きく影響すると思います。

102 ・里親、里子としての地区では、常にオープンをして、地区とのつながりを大切にしている。

・実子と里子との分け隔てをつけないで育てている。

・地区からは里子として見られないで、家族の一員として、地区で活動している。子供は住みやすいのではないか。

104 小学4年生の時に里子として迎えたが、自分の生い立ちを知らないので（母親が亡くなっていること、不嫡出子であること）、いざれ自分のルーツ探しをした時に、事実と向き合うことを思うと、胸が苦しくなってきます。その時が来るまで、お互いの絆を強くしたいと思います。

107 実子5人+里子の養育をしてきたが、現在は実子も来年で大学卒業と育ってくれ、手伝ってくれるので、助かっている。地域にも理解があり、あまり困ったことはなかった。ひどい虐待やネグレクトを受けて家に来た子供が、成長していってくれている姿を見て喜び、やり甲斐を感じている。

108 ・家族はもちろんだが、周囲の方が好意的で助けられていると思います。

・実子はいなくても、子育ての楽しさを味わうことができて、幸せだと思います。里親を続けていけたらと思います。

109 里子が私の所へ来てから、実親と一度も面会もなく、姉妹には一度しか面会したことありません。本当の親がいることは、話して聞かせているので分かってはいますが、絶対に私達と別れるのは嫌だと、何かの時に言っているのが可哀想です。何があっても子供を第一に考え、生活していきたいです。

111 里子が来たことで、社会に目を向けることができ、娘の子と一緒に子育てすることもでき、体力的に大変なところを助けてもらえるし、楽しく過ごすことができている。他の家庭の子供さんを預かるのには、就学前の子供ならば、一緒に育てることが出来そうな気になっています。

113 ネグレクトの被虐待児を中2年生で受け、1年経ちます。性格はいい子なのですが、日常生活にはいろいろな行動面が出てきて困ったりもしますが、専門里親として、大変良い勉強になっています。

114 実親との再統合で、実親が虐待をしなければと心配しています。

115 子供がかわいくて、子供のいる事で、子供に関わる人間関係が広がったのが良い。今、実子にする手続き中で、今後も子育てに頑張っていきたい。

116 実子がなく、仕事上夫婦共々子供と関わる事が多いので、里親になる前は、いつも家庭の中でも子供についての話は少なくなっていたのですが、今は、毎日子供の成長発達の話や、子供の声で家中が明るくなりました。近所のお母さん方の理解もあり、いつもアドバイスや不安を教えていただき、とてもありがたく幸せに思っています。毎日必至な自分がですが、それなりに手を抜き、楽しい子育てをしていきたいと思っています。子供は天使というのは本当だと思います。

118 高校生を養育していますが、万引きをしていても、あまり反省もないのには呆れてしましました。何事に関しても、感謝の気持ちがないように思われます。

119 40年以上子供のいない生活に、1人の子供を預かったことで、180度子供中心の生活になり、4人の祖父母と共に、笑うことが多くなった気がします。4才の女の子なので、何をしでかすかハラハラする時もありますが、日に日に可愛くなっています。そして、一番感じたのは、周りの人達が、思ったより本当に温かく迎え入れてくれたことに、大変驚き感謝しました。違う反応を想像していたので、もっと早く里親になれば良かったと思いました。

121 社会の預かりものという気持ちで見ております。子供が善き道へ進めるよう、自分で選択できる位置にいられるよう、努めてやりたいと思っています。

122 教職にいたので、どうしても子供の将来を考えた時、この事は大切にしてほしいというものがあった。そのひとつが、鉛筆と箸の持ち方であった。学校にいる時、目の前の子供、その保護者、そして、テレビの料理番組に出てくる芸能人の箸の持ち方、全くめちゃくちゃであった。食に対する感謝の念も含め、箸の持ち方も日本文化の一つと考えて、褒めながら現在、下の子供（5才）に対応中である。

123 60才にして、子供達を養育する喜び、毎日が充実して本当に幸せな毎日ですよ。これから思春期を迎えますが、それが少し不安かな？

124 現在、実子になった子供1人と里子1人を育てています。家は姑さんも居ますが、とても協力してくれ、子供もなついているので、助かっています。

125 養育して1年、ずいぶん関係もできたと思っていたが、運動会の後、練習に付いていくのに疲れた子供と、一時的に来ていた母や家（ホーム）の中での人間関係に疲れていた私とで、一時的に関係が崩れ、これまで積み上げてきた生活が崩れてしまった。必要以上に私に反抗的な態度をとりながらも、私から離れない不安定な里子に疲れ、関係が泥沼化しかけた時、ことばの教室の先生にアドバイスいただいたり、幼稚園の先生の積極的な関わりで、やっと関係が戻りつつある。折に触れ感じることを、それぞれの方に話し、理解いただけたことによるものと思っている。

126 私自身2人の実の子の母親で、自分の子育てが終わり、2人共社会人として働きだした時に、里親ということを初めて知り、養育里親になり17年が経ち、今、里子は専門学校に通っています。この子が独り立ちできるまで、まだ頑張らなくてはと思い、旦那や家族皆で、大変だった事より、楽しい事を思い出し、今では実の子供達も、里子の男の子を兄のように思っているのが、一番の幸せです。

127 子育てには大変さがつきものだが、それが苦悩となることはない。子供には、うちに来てくれてありがとうという気持ち。子供が喜んで生きていく様子に、社会（保育園等）、児相の方々と、特に支え合うことができる所以がたい。里親会の存在はちょっとうすい……。

129 現在養育している4人のうち3人兄弟は、5年が過ぎました。施設から移ってきた当初は乱れた生活で、勝手な行動が多くたのですが、年と共に私達の家庭にも慣れ、学校でもいきいきとしています。切れる、対人コミュニケーション不足、盗癖、生活マナーが学習できない、授業中落ち着きがない等諸問題が多くたのですが、今では多少のジョークも交わせることができ、生活全般に和んできたような気がします。これらの子供達が自立して、立派でなくとも不遇の環境にめげず、前向きに生きてほしいと願い、又、私達もできるだけ後押し了出来ればと考えています。家庭に恵まれない子供達が、少しでも幸福になれたら、私達家族の養育生活は報われます。

132 里子と一緒に生活することによって、家族共々毎日いきいきと、楽しく元気に過ごしております。

133 自分の子供を育てるのと同じに、いつも何らかの問題がない訳ではありませんが、特に問題なくやっています。近所の人、友人等も理解してくれているので、普通にやっております。

134 小学6年の子供ですが、生後7が月から里子として育て、18才で養子縁組をした娘が保育士をしているので、お姉ちゃんに憧れて、大学を出て保育士になるのだと、ピアノ教室へ行って勉強も頑張っています。母親の所へは帰らないと言っています。

135 大変な事、難しい事もあるが、子育てとは元来そういう

ものであるし、それだけに、喜びも大きいものがあると思う。

136 実子が小学生、幼稚園生の時に里親を始め、その時の子が今は27才になり、私達を自分の家族と思っていると語ったりするのを、嬉しい気持ちで聞いています。里親さんは、自分も含めて年配の方が多いのですが、若い家族にこそ、ご自分の子供達と一緒に育てるなど、計画的に取り組まれることをお勧めしたいです。子供は子供の立場で、親は親としてすごく学べるからです。

137 心臓に重い病気を持ちながらも、いつも笑顔でいてくれる事は、とても幸せにしてくれます。家族で言葉を一つ覚えたといつては喜び、歩き始めたといつては拍手して……私達を笑顔にしてくれます。何より感謝しなければいけないといつも思っているのは、義母が、里親として子供を預かった事を、喜んでくれた事です。いつもその感謝を忘れずに養育していきたいと思います。

138 大変だと感じる子ほど、私達がこの子を守って行かなければと思われます。彼らが「居場所があつて良かった」と心から思っているのを感じる時、里親としての喜びを感じます。

141 中学生という思春期の難しい時期ですが、実母との生活より、私達との生活を、本人の意思で選んでくれたことに喜びもあり、頑張って育てていきたいと考えています。

142 里親をやっていて良かったです。里子に教えられる事がたくさんありました。喜び、また悲しみなど。

144 委託され子供の幸せと健康を考え、育んできました。いろいろな事がありました、今自立していった子供達からの連絡（生活の様子）などある時、良かったのかな……と反省（人を育てるの大変さ）と喜びを感じます。

149 実親が引き取るか否かについて、里親の意見をその過程に反映しないため、子供の意思を（特に小さい子の場合）考慮しないで戻そうとする児相に対し、不信感を覚える。里親に権利がないため、どうしようもなく悲しい。

150 ・仕事として子育てをすることができる。

・年をとってもできる、収入がある。喜びであり安定する。
・第2子、第3子も公的な第1子里子並の手当が付くと良い。
・愛情を注がれない子達が、里親さんの所に行き、基本的信頼感を持って、人生を生き抜いてほしい。基本的信頼感が人にとって、いちばん大切です。

154 里子を実子にした子供が2人いますが、社会人になって、ようやく肩の荷がおりつつあるところです。でも、里親である以上（元気でいる以上）、私達には一生続くと思います。

157 里親としての喜びは、やっぱり元気に明るく育ってくれている姿を見る時です。これからいろいろな事があるとは思いますが、すくすくと育ってほしいです。家族は大変協力的で、実子と変わらずに接してくれるので、安心しています。里親がもっともっと増えて、1人でも多くの子供達の心の育成のために。

159 親の身勝手により、子供を置いて行方不明になって困っていた。祖母の私にとっては、親族里親の制度には感謝しております。困っている私に対して、親切にいろいろ教えて下さいました役所の方々には、頭が下がります。

160 子育ては関係機関も大事ですが、地域社会の協力なくしてやっていけない。感謝しております。健康で成長し、学校を終えて自立し、社会の一員として活躍してくれると思うと、苦労も忘れます。

161 愛着障害で悩まされることがとてもつらい。

162 我が家は1才児を養育しています。子育ては初めてなので、分からぬ事がたくさんありますが、毎日がとても楽しいです。毎日成長している子供の様子がよく分かります。子供を諦めかけていたところへ、この子が来てくれたおかげで、親としての喜びを味わう事ができ嬉しいです。この子の未来が、安

全て暮らしやすい社会になっていること、無事に20才になれる
ことを祈っています。

163 子供を授からなかつた私達にとっては、この子が実子
のように可愛く、愛おしく思える日々です。この子に出会えた
ことを、心から感謝しております。子供がいるだけで、こんな
にも日々、充実した時間を過ごすことが出来る。子供の笑顔を
見るだけで、こんなにも心癒されるものなどと実感しております。
成長の過程である反抗期も迎えたようですが、身内や知人、
友人からのアドバイスもあり、特別な悩みもなく、日々幸
せな時間が流れています。この子となら、どんな壁も乗り越え
られそうです。

164 里子は小3の女の子と、小1の男の子の姉弟です。実親
(母)がいるので、戻してあげたいが、義理の父親の事が心配
です。

165 私達は、子供を授かる時に決めた事は、里親という言葉
から一歩離れて、我が子として接することにしました。何が
起こっても親の責務として、又、愛情一杯に育ててきました。
子供も素直に育ってくれて、私達にはもったいなくらいのい
い子に育ったと思います。子供での苦労より、世間の偏見の方
が大変苦労でした。特に、病院に連れて行った時など。でも、
それもう終わろうとしています。

166 子供ができなかつたことが、できるようになった時、
友達と遊んでいて、助けてあげることができたり、小さい子に
優しくしてあげている時、悲しみのことは深く考えません。子
供への気持ちは、とにかく成人して、社会に出た時に、自分
の力で生きていけること、人に迷惑をかけたりせず、自分なりに
一生懸命努力できるようになってほしい。

167 50才で委託(1才5ヶ月の男の子)、現在は小学校2年生
です。高校へ行くまでに、本人の気持ちを確認して、養子縁組
をしようと思っています。周りの反応は、年齢的に孫くらいの
年齢差なので、「お孫さんですか?」と言われるのがしんどい
です。

169 いろいろあるけれど、里親をして良かった。

170 大変ですけれど、子供が居て善かったと思います。生
きていく中で、この子に出会えた事に感謝しています。

171 私には、高校中退で、里親としての関係はもうない子
供が2人います。でも、今その子達は私の側にいます。一度出
ていった子なのに、自分から戻ってきてくれて、大喧嘩もする
し、毎日いろいろとあります。でも、独身の私にとって、有り
難い事がたくさんあります。大変な事もあるけれど、子育てと
は大変なものだと思うので、楽しみながら暮らしています。子
供達に感謝です。

172 現在、里親会で定期的にサロンを開いてくれています
ので、その中でアドバイスをしていただいた事が、次へのステッ
プにつながって、前向きな気持ちにさせてもらっています。個人
情報という特殊な内容も持ち合わせているので、お互いの信
頼関係が唯一大切だと痛感します。

175 里子(小6女子)が里父(私)に全くなつかない。常に
反抗的な態度をとり、あいさつも全く返答がない。7ヶ月とい
う限定養育ということで、最初からこの子は我が家に居たいと
思わないのではないかと思う。実父との関わりなど、大変興味
が湧いている。

176 実親の元へ帰れることを祈っているが、親への支援が
もう少しあれば、子供を支える里親との関係が良好となると思
われる。家族はよく支援しているし、養育している子も自分ら
しく発達していると思われる。行政に対しては、もう少し国が
力を入れるべきであり、特別な支援が手厚く必要。

177 とにかく、理屈や常識が通用しないような出し方を、
いっぱいしてくれる子供……。それを受け止めて、受け止めて
いく中で、長い年月をかけて、少しづつ理屈や常識的なことを
教えていくことは大変だけれども、少しづつ、確かに成長して

いっているなと思える時が、一番の喜びである。

178 里親としてより、母親として、どこの家でもある美味
しそうな、満足そうな子供達との食卓や、安心した毎日の平凡
な生活。それが幸福です。欲を言えば、主人(里父)が平日し
か休めないので、子供達の行事はほとんど私1人です。子育て
の協力が、時間的に望めないのが少し不満。しかしその分、経
済的ゆとりが体力的補強をしている(外食、マッサージ等)。

179 里親としての経験では、喜びと苦しみが相拮抗して
いると思う。喜びは、日々成長する姿を実感できること。苦しみ
は、反抗的な態度や言動が常に見え隠れすること。ただ、父母
の看病等で、子供の純真な心に、いつも助けられていたと思う。
今後も長い気持ちで見守っていきたい。

180 里子を見ているため、子供と一緒に色々な行事(運動会、
祭り)に参加できることが楽しい。

181 子供の親が亡くなる1年前から、子供達を預かっていた。
親が亡くなり、子供の養育を断ることはできにくかった。子供
は現在中学2年、1年で、思春期にもなり、私達と考え方(価値
観)も違うところがあるので、自分の思うようにはならない時
もあるが、友人の話や中学校での親の講座などに出席して、少
しづつ理解できるようになってきた。神様が与えた試練、又は
運命かと思うこともある。

184 家族全員(私達夫婦、祖父母4人)、委託され子供を育
てていることで、子供から幸せの実感をもらっています。又、
生きる張り合いをもらっています。家族の関係も、その子の影
響で、良好になっている事はすごく実感しています。ただ、育
てていく中で、実子として認められないため、育休がとれない
事や、ある期間の助成金があればなど、法的に見直しをして
もらいたい項目もあります。

185 暖かい家庭の中で、たくさんの愛情と経験をし、大人
になってほしいです。

186 28年間里親をしております。6人の子供と巡り会い、共
に生活してきました。4人の子供は自立して、社会人となりま
した。1人は現在専門学校保育科に通っています。委託は解除
になりました。もう1人は、私が専門里親ということで、虐待
を受けた男子で、現在高校1年。委託されて1年10ヶ月になります。
基本的生活習慣がありませんでしたが、気を長く持ち、
対応しています。少しづつ改善し、表情も豊かになってきました。
私はあまり焦らずに育てていますが、高3の時には、就職
についてどうなるのかとは思っています。賑やかな家庭で、楽
しく暮らしています。

187 引き取り、養育する事はこの先もないが、不定期に面
会を重ね、その度に物やお金で子供を喜ばそうとする実母の存
在に、困惑しています。好きな物をどんどん買い与えてくれる
実母は「やさしい人」と……。里子のファンタジーボンドがふ
くらんでいくばかり。

194 近所の方達、親族関係は皆さんとても協力的で、とても
可愛がって下さいます。子供は親だけではなく、地域、その他の
いろいろな方々と一緒に育てていくのがいいと思います。

196 3児の母ですが、赤ちゃんが大好きで、通信教育で保育
士の資格を取りました。これまでのべ13人を引き取って、短期
里親として養育してきました。実子3人は、いつでも新しい家
族を喜んで受け入れてくれましたが、親や周囲の人は理解しが
たいようで、最初はずいぶん偏見を受けました。生まれてきた
赤ちゃんには、何の落ち度もありません。生きて生まれてきた
からには、生きる権利があると思います。経済的にゆとりがある
なら、親と暮らせない事情の赤ちゃんを、どんどん引き取つて、
大事に育てていきたいと思っています。

202 子供の成長があつという間であり、楽しい事、悲しい事、
困ってしまう事もありますが、大人も社会に出て、子供の環境
を知ることができて、楽しく感じています。

203 私の子供の頃は、外で遊んでいると、町内のおじさん

やおばさんの目があり、いたずらをすると、よく叱られた思い出があります。子育ては、地域社会の好意的な目が必要だと思います。私もおじさんと呼ばれる年になったので、何か社会の役に立てればと思っています。

204 0才児から育てさせていただいたので、子供に対する愛情がとても強く感じます。3才頃から少しずつ里親である事を教えてきました。5年生の時急に、本当の親の所に帰りたいと言われた時は驚きましたが、好きなだけ帰っていいよと送り出しましたが、2日で私達の所に帰ると電話があり、急いで迎えに行き、それから二度と本当の親の所に帰っていません。今8才の女の子にも、同じように教えています。上の子とは9才離れていますが、二人ともとても仲が良く、元気に育っています。毎日がとても楽しいです。

205 子供の成長が、手を掛けただけのことはあるので、張り合いを持ってやらせてもらっている。

212 中学1、3年の姉妹を預かっていますが、喧嘩が激しくて、いつも頭を悩ませています。姉の方は感情の起伏が激しいので、妹も困っている状態です。姉は、時々産みの母の事を思い、辛いようです。私も、二人とも反抗期なので、出来るだけ気持ちは高ぶらせないように、気を使っています。欲しがる物も、出来る範囲で買っています。時々、これでいいのか? と悩みますが、子供達が喜んで、精神的にも安定するのならと里親と話し合っています。

213 里親は、障害児を養育するのに、とても適している思います。実の親は、生んだ罪みたいなものを感じます。里親はそれがなく、受け入れのできる人なら、情緒豊かに育てられると思います。但し、18才、20才後の受け入れやいろいろな機関の協力、いろいろな方の理解が必要の上の事だと思う。やさしい人間に……。

214 今は自然に接しているが、実親を知る年頃になった時のことと思うと不安。

215 被虐待児6人の養育をして、虐待という行為が、人の発達にいかに大きく影響し、人生そのものを変えてしまうか目の当たりにしました。虐待という表現は、普通の人にとって何か別の世界の、我が身とは遠いことのように感じますが、普通の生活者が当然の文化として認識していたり、自分もまた心に傷を持っていることに気付かずにいたりしています。人の発達や成長の理解を、一般知識として伝えることが必要だと感じます。同様に、自分や家族だけが幸せになることを当然とする社会において、互いに支え合う文化は何故薄らぎてしまったのかと、皆が気付いてくれるような意識も立て直さなければ、日本の国は滅びてしまうと思います。里親は、特別な人がすることではないと理解してほしい。

219 今の子が来た当初は、家族がギクシャクして大変でした。初めての経験でしたので、プライベートとの区別ができない、夫婦間でもどうして良いか分かりませんでした。3年が過ぎました時、日本人の気質から考えても、グループホームの形がより良いと思っています。1日も早くグループホーム、ファミリーホームの形として、お許しいただきたいと思っています。

221 里子を養育していることによって、「感情のおもむくままの利己的な養育者」から「客観的に見守れるゆとりある養育者へ」と変えられてきているように思われ、むしろ、里子に感謝したい気持ちです。実子も、このような気持ちで育てたかった……。里子はとにかくかわいいです。これから思春期を迎える、難しい時期を迎えるかも知れませんが、自立した1人の社会人に成長していくと、心から願っています。その時々で、何をしてあげることが良いのかを模索しながら、でも、やっぱり出来ることは、「愛してあげる」ことだけのように思えます。

230 夫婦だけの生活の中に、小さな子を受け入れ、家の中が明るくなりました。1、2才の兄妹を受け入れ、愛着障害などあり、最初は戸惑い苦しましたが、本や研修で色々な事を知

り、又、夫の、女性とは違う見方、支えを得、困難も乗り越えてきました。今は子供の成長に目を細め、本当の家族のように力を合わせ、共に育ち合っていけることに、喜びを感じています。

231 ・近い将来、我が家の戸籍に実子として入る予定なので、私達夫婦には里親、里子という実感がなく、実の親子です。しかし、事実を知っている近所の方々がいる以上、これから成長していく中で、自然に噂が広まっていき、本人には真実を告知しているものの、それを知らない同級生にまで知られる事もあるのではないかと不安です。可能であれば引っ越したいです。

・反抗期なので、全く言う事を聞いてくれない時、本気で「可愛くない、憎らしい」と思ってしまうのは、産んだ子ではないからなのか? 自分で産んでいれば、どんな場面でも可愛いものなのか? と悩む時がある。出会えた時の感動を思い返し、乗り切っています。可愛いし、いないと困ります。

232 里子が、楽しい、充実した人生を送れるよう、最大限に協力してあげたい。

233 障害を持っている(障害1級)の子供と、弱視の子供が委託されていますが、全く普通に生活している現状の中で、里親である親より子供の方が、いろいろ悩み、苦しんでいる面が多いのだろうと、日々感じています。面倒な事が毎日の生活の中では多いのですが、親子、家族としての生活が、日々展開されていることに感謝しています。

234 初めての子(小3年)を委託した時は、年齢の発達とのギャップや基本的生活習慣が身に付いていない事などに戸惑いがあったが、子供の成長と共に、私達も親として成長してきたように思います。家族の理解、協力や、近所の方々の温かい心遣いなどに助けられ、この4年間を過ごしてきました。これからも、私達を必要としている子供と共に、生きていきたいと思います。

236 家庭あまり幸福でなかった里子達が、明るくなってくれるのが、とても嬉しいです。大変な時もありますが、周りの人達の協力があるからこそ、今の子育てが頑張れるのだと思います。

237 里親1年目の私達も、6ヶ月が過ぎ、子供も自分の意志を少しずつ言えるようになりました。今は幼稚園に行っていて、「小学は、お母さんのところから行く」と本人は言っているし、最初の段階で「母親の面会も多いと思います」と児相に言われていたので、そのつもりでいたら、現実は無理と分かり、「この子はどう思うんだろう」、私達が里親を辞めたら、養護施設へ行くのか……と思うと、里親だけれど、本当の親以上の責任が重すぎると、ありすぎると考え出した今日この頃です。

240 里子を、我が家の一員として暮らし始めて1年半が経ちました。日に日に愛情を感じ、色々な不安材料はあっても、この里子を本当に幸せにしてあげられれば、私達も幸せだと思っています。周りの人々にも大変可愛がっていただき、里子も里親も周りの方々に感謝感謝です。今の里子を、将来にわたって見守ってあげたいと思っています。

241 里子は里親宅で生活することで、一般的で普通の生活を実感し、穏やかに暮らしている状況を見て、養育して良かったと心から思っています。里子が健気に頑張っている様子を見るにつけ、こちらも勇気づけられています。里子の健やかな幸せを祈るだけです。

242 学校では、里親、里子の事があまり理解されていない。

243 最初は、育った環境の違いで、こんな状態で社会人になら大変!だと思い、一般常識など注意することが沢山ありました。わりあいうまく飲み込んでくれて、2組み目のこの子達は、7年目に入っているが、すっかり我が家の子供になり、地域の皆さんとも仲良く接することができて、ほっとしています。又、子供がいることで、家の中も活気が出て、良い事もあります。今は小2、小5で来た子が、中3、高3になり、高3の子

の登校の時間が早いので、弁当を作つて間に合わせるのに、ちょっと大変。来春はW受検です。

244 里親として生活している事について、まわりの方達も理解を示して下さり、里子も大変なついてくれ、自分の子供と同じように感じています。

247 4年間養育後養子縁組し、現在、元気に小学校へ通つてゐる長女ですが、当初3年位は、いつも試し行動、情緒不安、こだわり固執、生活リズム障害、過敏性に悩まされ、言葉の練習、手あそび、身体の柔軟と遊びを通して、発達を促してきました。民間の子供教室、地域、子育て支援センター、里親会、児相の方々はもとより、親族、近所の方々の支援があつて感謝しています。男の子（年中）は大変快活で、私達と姉ちゃんの刺激になっています。この子達に会えて良かった。3年、4年、5年と時間がかかったけれど、父親、母親になったと思えるこの頃です。

249 人の痛みが分かる人になってほしい。優しさ、思いやりの分かる、表現出来る人に育ててやりたい。自分も一緒に成長しなければいけないとも思う。

252 母親だけ実母なので、里父との関係が上手にとれなくて（幼児のため？）、里母の負担が大きい。実子が成長して、私としては里子がなつくのは楽しい経験ですが、里父は淋しそうです。

253 子供が来てから、いろいろな事を子供から学ぶことが多かった。母親になった喜びが一番嬉しかった。これからまだまだ色々な事があると思いますが、自分で選んだ事なので、頑張って、一つ一つクリアしていくしかないと考えています。

255 私達家族にとって、とても有り難く、生活や会話に幅が出てきています。子供にとっても、安定した生活環境が与えられていると思います。思春期の頃に不安がありますが、今を精一杯やっているところです。

259 自立していただきため、私達も頑張ってやりますが、まず本人の努力が大切です。毎日毎日の繰り返しに頑張って下さい。全部自分のためです。

260 14才で家に来たので、悪い方の躰がついています。それを直そうとしているが、無理のようなので、今はがっかりしている。春までなので、早く春にならないかななどと思っている。

261 よく研修会などには参加させてもらうのですが、小さい子ほど、施設で生活させるのではなく、里親の元で愛情を育むべきだと思う。それから施設で、多人数生活に慣れさせていくのが良いのではと、いつも話を聞いていて（問題行動をする子供の話）思っています。小さい頃ほど、たくさん抱っこされたり、家庭のぬくもりが必要と思いませんか？

263 ・里親という感じではなく、親という意識で子供に接しています。

・挨拶、整理整頓、清掃を徹底して実践させ、大人になってから必要な事を教えています。

・勉強ができないても、人から愛される子供に成長してもらいたい。

265 高校では部下に熱中しました。思い残す事はないでしょう。就職も内定して、嬉しい限りです。

266 一人の人間として生を受け、実親の身勝手から、何の罪もない子供が被害者となり、不幸な人生を歩くことになるのは、社会（大人）の責任だと思う。施設などではなく、家庭、家族が子供には絶対必要である。できるだけの事をさせていただくなつてある。虐待、ネグレクトなど、親として、それ以前に人間として、どうあるべきかという教育的な部分を、子供時代から学ばせるようにしないと、ますます無責任な親が増えるのでは。德育、心の勉強、心豊かな人間に育つ環境が、社会、学校、家庭に必要なのでは。

269 「なぜ、この子を手放すのか？」私としては、親の気持

ちが分からぬ。しかし、そのおかげで、この子と里親としてかかわっている、その事が嬉しい。何の難しい事などない。人は血のつながり等を大事にするが、心のつながりの方がもっともっと大事だと思う。福祉福祉と並び立てているが、特別な仕事でなく、誰かがやればいい事で、専門的とか専任とかではなく、もっともっと心のある人が、自然な気持ちでやれば良い事と思っています。

270 とても元気に働き回っています。近所の皆様にも声をかけられ、温かく接していただいております。大変ですが、自分達も一緒に成長させてもらっています。

272 里親として、最初の子供が我が家家の門の前に捨てられ、泣いていたのが、今から48年前のこと。現在、結婚して市役所に勤いでいる姿を見ると、未だに涙が流れる。言葉には表せない程の悪ガキで、色々な事がありました。祈りと愛に支えられ、楽しく助け、励ますことが出来ました。やはり、愛情は一番と心に決め、1人1人を大切に育てました。子供と共に悲しみ、喜び、楽しく子育てに励んでいます。

273 ・実親家庭に問題があるということで、どのように対応すればいいか、今は悩んでいる日々である。

・児相、他の里親さんに相談する事が多く、助けられてるところである。

・問題があるがゆえに、各種相談機関に相談する事も多く、色々な経験をさせてもらっている。子供がいなからたら、このような経験はする事もなかったと思われる。

279 虐待児を初めて養育して、2年が過ぎましたが、乱暴な行動や嘘をつく、過食、1年のうちの2/3は風邪をひいているなど、振り回されている日々です。1日でも早く、私達の生活に打ち解けて、普通の小学生に戻れる日がきますように、祈るばかりです。

280 希望はしてるが、ある日突然子供を委託され、右も左も分からず、子供も発達なのか、子供の特殊な経験なのか、考えながらの日々の生活の連続。試行錯誤と喜び中で、乗り越えて行っています。

281 家にやってきた当初は、私も慣れないことばかりで大変でしたが、いつも家の中が明るくなり、笑いがいっぱいです。この子に出会えたことに、感謝しています。

282 現在養育している女の子は、2才で我が家に来ましたが、最初は子育ての経験がない夫婦にとっては、悪戦苦闘の連続でしたが、少しずつ我が子のように接し、又、子供も両親のように心を開いてくれるようになり、その苦労もすべて吹き飛んでいきました。子供は宝物です。今は本当の親子のような毎日です。ケンカもし、笑いもする。一日一日を大変充実させてくれます。里親になり、良かったと思います。

283 里親としての覚悟も十分でないまま、引き受けましたが、試し行動が最初は続いたり、一日一日が大変でしたが、今は前ほどムチャクチャはしなくなっています。我が子のようになんて無理です。小学3年、4年の男子なので、一線を引いて接しています。おばちゃんらは親じゃないけれど、親の代わりをするのだと言っています。

287 現在お預かりしている子供と共に、成長していかねばと。もっと人の輪の中に、自由に入っていくように。小さい時に、できるだけ差別を作らない関わりをしていきたいです。

288 2人の里子を育ててきましたが、親、親戚、地区の方々に支えてもらった事がとても力になり、本当の親子のように生活しています。上の子も今年から社会人になり、少し安心しています。大変な事もありますが、親としていろいろな事を経験させてもらっているので、ありがたいと思います。これからいろいろあると思いますが、頑張って育てていきます。

289 8年間で18ケース、28人を養育していますが、当初は緊急避難的な短期のケースが多かったが、現在は、全く引き取り手がない（あっても親族が忌避）長期のケースが多くなった。

290 1人で生きてゆくことの厳しさは、想像以上です。保証人がいないと、車を買うことも、アパートに入ることもできません。騙されやすく、お金の使い方が分からぬ。1回失敗すると、容易には立ち直れないのが現実です。少しでも力になってあげたい思いでいっぱいです。社会全体で援助する、見守る体制がもっともっと充実することが急務です。

294 里親となって23年目ですが、いろいろな事がありました。今過去を振り返ってみると、楽しかった事より苦しかった事や、困った事の方が、その時は大変でしたけれど、里親としての良い思い出と経験として残っています。何よりの喜びは、悪かったあの里子が大人になり、自分が分かり、里親の有り難さが自分自身実感して、時々電話なりかかってくる事が、何より里親をやっていて良かったと感じる時です。今後共頑張ろうと思います。

296 幼児の時期から預かって育てたいと思うが、その児童達は、施設の入所が多く、少しきなくなって（中学～高校生）から、里親へ依頼してくることが多いように思う。特に、問題のある子に関しては、尚更里親としては大変。家庭の愛情を小さい時から与えられたら、早く健全に育つのではないか。精神が屈折する前に、素直な間にお世話をしたい、そんな子を与えられたらと思う。

297 被虐待児の逸脱行動に対して、心理状態が理解できにくいため、対処に苦慮する。

298 子供が物を壊す、物にあたる、嫌な事を言う（まずくて食えんとか）には、子供の内面の深い不満の表れだと理解しても、心苦しくなる。ただ、時間の経過の中で、行為の頻度が減り、小さくなる姿に触ると、成長が分かり、喜びになっている。子供は親から離れ、放棄されて、「なんで親は見てくれない」の不満が大きく、そして、それを言えない辛さは理解できる。家族も子供を通して、話し合えるので、家族の理解も互いに深まっている。

299 初めての子育てですので、一つ一つの出来事が初体験です。子供の視点で接しています。相手は9才の子供です。人並みの人間になれるように、甘やかせず、しかし、可愛がることを忘れずに、育てたいと思います。最後に、地域の人々のご協力で、あたたかく見守っていただいております。

302 短期の子が多い中、1人だけ1才から17才まで、今もいてくれる子がいて、一生親子でいられそうで有り難いと思っています。甘えたり、反抗したり、大変な時期もあったのですが、高校生になった頃から、将来を考えたり、私共の老後の面倒をみると言ったり、心身共に大きな成長を感じています。この子が社会の一員となり、幸せを感じる生き方をできるよう、願っています。

303 弟兄がいない我が家に、どうしても寂しい思いなどさせたくないといったことから始めた養育里親でしたが、実際は思い通りにいくこともなく、反面、苦痛に感じることが、今のところ多い我が家です。1人っ子で育てきている我が家もわがままになりつつあり、自分の物は自分の物、人の物も自分の物といった行動が、今はなくなりつつあります。これはやはり、里子が我が家へやって来たことでの行動だと確信しています。一緒になって遊んでいる姿など見ると、喜びもあります。まだまだこれからです。私達も忍耐強く、気長にやっていくつもりでいます。

304 子供を育てていくことに、喜びもありますが、中学生になり、思春期をうまく乗り越えられるか心配です。

305 グループホームを地域に一つと決めずに、できる人には、門を広げるようした方が良いと感じる。

306 里親、里子として、実際に生活している私達にとっては、無用な単語でも、周囲の目は里親、里子と見るのは、日本の里親制度の認知度、理解度の低さを物語っているようです。今後、里親制度が特別なことではなくなることを、切に願います。

307 ・里親をさせていただいてから、世間からの私達に対する見方が変わったと思います。大変ですね、えらいですねと、褒めていただくことが多くなった。

・町の御用（民生児童委員）も依頼されるようになった。

317 喜び、悲しみ、楽しみ、不自由……色々とありますが、今は日々たんたんと、音として精一杯のことをさせてもらう。これを、一番に心掛けています。子供達のがんばりに負けないよう、精一杯愛情をかけてあげたいと願っています。そのためにも、里親は元気いらないと！

319 今、お預かりしている女の子は、今までの食生活、親の遺伝もあり、極端に太っているので、短期間の養育ですが、規則正しい生活と食事に気を遣い、ダイエットに励んでいます。少しでも素敵な女性になれるように、うちの娘と同じように駆け、心づかいなども、時々話して教えていただいているところです。とても明るく元気な子で、家の中も明るくなり、夫婦とも喜んで、毎日楽しく過ごさせていただいている。

320 他人の子供を育てることは、他から見れば大変そうだが、実子の子育てと、大差はないと思います。これからも、子供の成長と共に、自分も成長していきたい。

321 現在高2（男）が寮生活をしています（6才時、特別養子縁組）。親元を離れて、子供の成長にびっくりしている私達です。長男の将来の事を考えての、私達と長男の気持ちでした。親は寂しくても我慢です。次男は現在中1です。柔道を楽しんで、校区内の中学校を選び、部活動をして頑張っています。友達も沢山できています。子供に私達は楽しみをもらい、笑顔をもらい、友人を作れたことなど、感謝感謝です。私達夫婦がこの子達の将来に、少しでも助けになるのであれば、今の苦労は苦労と思いません。むしろ、楽しんでいます。親子が自分に無理な感情を持たず、普通に過ごしている毎日です。これからも、普通の親子でいたいと思います。

322 子供を養育して初めて、親の気持ちが分かりました。

323 現在は、地域の協力を得られ、ずいぶんと成長が見えてきて、何となく希望が見えてきたかなあ……？ と頑張っているところです。

324 主人、私の親や親戚は、理解してくれているが、主人の親は、「他人の子、どこの子とも分からぬのに」と理解してくれず、疎遠になってしまった。

326 長年の不妊治療にも関わらず、子宮に恵まれず、特養子希望で子育てしています。そのため、里親自体、介護と養育が重なる年齢になり、心身共にきつく、疲れ切ってしまうことがあります。でも、家族みんなが子供をかわいく思い、癒されることも多々あります。今後、定年してから子供が成人することになるので、金銭的にも不安になります。

329 自分達が当たり前のように持っている愛を、子供達に分け与えることは、大変な事ではなく、むしろ、有り難い気持ちでいっぱいです。子供達は未来の宝です。人間すべてが、もっと関心を持ってほしいです。

331 実父が、月に一度、泊まりがけで面会をするが、その後落ち着きがなく、愛情を確認するように、1週間程べったりする。子供のために、これは良いのかどうか難しい。

335 実子が4人おります（長男21才、長女20才、次男17才、三男14才）。昨今、子供の協力を求めることが少なくなりつつある中、里子は、どの子も生後1ヶ月以内に我が家へ来た女子ばかりで、気分的には実子同様です。本当の妹のように世話をしてくれて、私の手伝いも進んでしてくれることに、我が子の成長を見ました。里子には、ありがとうと頭の下がる思いでいっぱい。我が家に来てくれた子の子達に、家族をまとめてくれた里子達に感謝しています。そして、この子達を届けてくれた、この制度に感謝しております。

336 子育てについては、今のところ心配していません。周りの環境も、お陰様でとても良いです。成長するにつれて、悩

みも出てくるでしょうが、生き甲斐を感じています。

337 ただ、自分の子を育てている時と同じように生活しています。今までの生活を崩してまで、するものではないと考えています。

341 2才で我が家に来た子は現在8才に、1才で来た子は6才に、一日一日があつという間です。ごく自然に、周りにいる親子と何ら変わることのない生活を送っています。話の成り行き上、里親であることを告げたママ友達の反応も、「別にいいじゃない! 今どきいろいろあるんだからさ」と、こちらの気持ちが楽になる返答で、精神的にとても安定して、親子共々生活しています。

343 縁あって、6才の女の子が家族の一員となって3年。何もかも初めての経験で、1年はあつとう間に過ぎていった。慣れてくれるだろかという心配もあったが、生活を共にしていると、性格も次第に理解できるようになります。喜んだり、怒ったりして、それなりに楽しい生活を送っている。息子達家族も、里親制度というものは関心はないようだが、里子はとても可愛がってくれるので、お互いのためにも、良かったと思う。里親制度は、友人、知人には知られていないので、話はできないが、里親仲間は何でも相談でき、頼りにしている。

344 退職後の生涯の目標として、里親になることを家族と話し合いました。家内は毎日、世話や幼稚園対応で忙しくて大変だなあと思っています。子供好きで、決めた事については、一生懸命する人ですので、感謝しています。一緒に生活することによって、生きるエネルギーを子供からもらっています。私達に与えられた価値観によって、人生の目標や人への愛を伝えいけたらと思っています。

346 里親と名乗る前に、1人の親として、自分が完璧な親ではないかも知れません。ですが、里親制度に出会い、里子さんを養育するチャンスをいただき、本当に感謝しています。私は、看護師として、多くの死と向き合ってきました。命の大切さを身にしみて感じます。子供達も、1人1人大切な命だと思います。1人でも多くの子供達を、家庭の中で育ててあげられたら……と思います。

348 一緒に暮らし始めて2ヶ月ですが、ずっと前から一緒にいるような気になります。日中、2人でいる時間がほとんどなので、少しでも離れる時があると（下へ洗たくに行く時、夜に電気を点けずに暗い部屋へサッと入る時、なかなか寝ない夜は先に寝たフリをする時）、「寂しい時がある」と言う。ここ最近、指しゃぶりが寝しなだけではなく、日中どこでも見られるようになったので、この寂しい思いが原因かなと、反省しています。近所の友達は、とても温かく接して下さり、幸せに思っています。ただ、日中は皆、幼稚園、小学校へ行ってしまうので、子供同士の遊びをさせてあげたいなと、中途入園を考えています。

349 里親として接しておらず、子供も自分の家として暮らしている。まったく普通の親子で、まわりの人達も、同じように接してくれる。

350 現在、養育している子供は高1の男子です。小学2年の新学期より預かり、小学校では6年生の時に、PTA会長等やらせてもらい、子供も自分の夢に向かって育ちましたが、中学3年の最後の中体連前に、手首を骨折して、試合に出られなくなり（野球部）、それでもランナーコーチとして、ギブス姿で試合に参加した。人前では気丈にしていましたが、本心は辛かったと思います。その頃、秋の陸上大会があり、学校選抜で、走り幅跳びの選手に選ばれ、それは大変喜んで練習していましたが、担当の先生と気持ちが合わず、「（少しツッパッてる）お前なんかやめろ、明日から練習にも来るな」と言われ、夕方、顔面蒼白で帰ってきて、「やめた」と一言。それから段々と悪くなり、眉ソリ、喫煙、深夜徘徊、暴言等々、卒業式当日には、学生服を改造して、5~6人同じ恰好で学校の玄関前で大騒動。高校は進学校に合格はしましたが、休みがちで、児相に

相談したり、小学1年までいた施設の先生に来てもらったりして、最近は少しづつ落ち着いてきましたが、出席日数不足で、留年を心配しています。夫婦で考えられることは、全て試している現在です。ただ、子供の現在の担任の先生もとてもいい先生で、他の先生方も親身になって応援して下さり、何とか高校卒業まで頑張ります。高1の子供が学校を休みがちになったのは、複合的なものがあると思いますが（考えすぎ他）、一般的に、里子が必要としているものは、「本当に安心できる家庭」だと思うのです。

352 学校での出来事、友達等の話をよくしてくれる。本当の親だったら、ここまで言わないだろうな……と思う事が多々ある。その反面、マイに触ると火がついたように怒る。反抗期のせいか、暴言がひどく、どう対応したらいいのか分からなくなる。

353 夫63才、妻59才で、現在3才の子の養育をしています。1才の時に我が家に来て、パパ、ママと呼んで、今は本当の親だと思っていますが、いずれ違うということが分かった時、子供がどんな気持ちになるかを思うと、不安になります。最初は、愛情が持てるか心配でしたが、今は、手放すことなんて考えられません。あまり先の事は考えず、今を最高の愛情で接していくたいし、近所の人達もみんな可愛がってくれて、幸せだと思います。自分達の年齢を考えた時、もう少し若いときに引き受けいたら良かったと思います。

354 現在は、お互いに色々な話ができるのですが、思春期を迎えていくこれらの時期を、共に良い関係を築いていけるよう、努力したいと思っています。子供達の存在そのものを、感謝できるような子育てが出来ればうれしいです。

356 子供が、学校の中で偏見なく育ってほしいと思う。

357 里子への気持ちが伝わり、里子に変化が見られた時、地域方達が協力して下さり、地域の一員として、里子を受け入れて下さったことが、とても嬉しかった。里子達より教わる事が多くあり、里親として、成長させていただいている。

358 子供を育てていくことで、子供に愛着を感じるようになります。子育てはとても楽しいものだと思えるようになったことは、私の人生を、豊かなものにしてくれました。これから先、どんな事が起こっても、子供と共に考えて、乗り越えていく自信がつきました。里親サロンで、自由に何でも話をし、どうしたら良いかアドバイスしたり、自分の経験を話してもらったことは、とても心を安らかにしてくれるものとなりました。又、里親研修もいろいろ参考になり、児相の人達よりも、仲間の方が、私にとって助けられることの方が多かったと思います。いろいろな人の協力で、ここまで来れたと思っています。

359 里親をするようになって、経済的に楽になりました。配偶者が優しくなり、子育て、家事にも積極的になり、熱心になりました。実子も援助的になりました。

362 現在、里子として委託されている男の子は6才で、幼稚園の年長です。周りの方々にも、弟として認知していただいて、4才の時より、姉弟として育ててあります。紙面では伝えられない、色々な細かい問題があります。集団の中では、何でもそつなくこなして、明るくてしっかりした子と見られるようですが、育ちの中で身に付けてしまった「嘘やごまかし、怒られまいと取り繕うこと」等の問題で、悩みは続いています。児童相談所のセラピーも受けていますが、少しづつでも良くなるようにと、毎日頑っています。

363 私達の住んでいる所は、田園地帯にあり、周囲は昔ながら。近所の方達も、共に支え合いの気持ちの残っている地域ですので、気付かなかつた事も、近所の方々が助けて下さるので、本当に助かっています。

364 実親の身勝手で、自分では育てられないが、里子に出すのは認めないとお聞きします。育児放棄している時点で、親の資格はないと思います。里子に出るかは、子供さんの意志に

任せてはどうなのでしょうか。温かい家庭を味わう機会を与えてあげたいです。我が家のは、特に障害があるとかではなく、普通なら誰でも簡単にできる事（服を脱ぐ、食べた弁当を毎日きちんと出す、身のまわりの片付け等）が、何度も教えてもらえないで出来ません。出来ないのでなく、やらないのです。こんなことで、来年から就職して、社会に通用するのでしょうか。家庭での小さいルールが守れなくて、これから旅立つ社会のルールを守れるのだろうかと心配しています。

366 里子がいるから、日々規則的な生活ができる。若い両親と接する機会が多いので、気持ちも若く保てる。会話ができる楽しい。

368 1人目の子が生後6ヶ月から交流。8ヶ月で委託され、すごくかわいくて、家族で幸せに育てていた。7ヶ月後に、その子の年子の姉が委託されたが、私は体力、気力がついてゆかず、甘えさせてやれなかった。命令口調で、自分の事は自分で出来るようにさせたため、私を怖がり、ほとんど口をきかない。里父にはバッタリで、赤ちゃんがえり、試し行動、密着、後追い等で、夫婦間で温度差があるため、口論が多くなり、実子にも辛い思いをさせている。引き取った事をずっと悩んでいる。

372 子供は親の持ち物ではありません。自分で産んで育てた子供でも。その子の気持ちを尊重してあげたら……と、毎日思いますが、親はつい、「〇〇したらいいのに」とか「××したらうまくいく」など、自分の経験を押し付けてしまいかがちです。日々反省。子供が伸び伸びと、いろんな事を経験し、自分で感じ、学んでいけることを祈っています。私は、その手助けをしてあげられたら、幸せに思います。

373 個人的には自己満足。

374 皆、健康で元気いっぱい、明るく生活しています。

376 子供が今の生活の中のすべてです。めぐり会えて良かったと思います。子供の顔を見ると、里親になって本当に良かったと思っています。

378 現在養育している子を含め、長期に養育した子は4人いましたが、そのうち3人が虐待を受けた子で、1人は発達障害の子でした。障害がある子を預かって分かったことですが、障害がある子は、一般家庭での養育は無理だと思います。専門的知識や経験があっても、24時間休みなしの養育は、かなりの重圧になります。

379 里親として、毎日が精一杯の日々です。子供を育てる喜びよりも、ただ1日を過ごすのが精一杯で、心配ばかりしています。数年後には、元の母親へ子供をもどす予定のため、その事を頭に入れて子供と暮らしております。元気に毎日学校へ行っている姿を見て、それだけで感謝でいっぱいです。こんなに子供の状態が良くなつたのだから、お母さんの元へ帰つても、今のように暮らしてほしいと思います。お母さんをサポートする人や機関（行政）が必要だと思いますが、いったいそのようなシステムがあるのでしょうか？

380 現在、中学3年生と高校2年生の2名男女を預かっているが、進学の問題や経済的負担が大です。高校2年生（男）は、成績優秀にて有名国立大学を志望しているので、卒業までの経済負担が気になります。里親である私自身が母子家庭であり、過去8名の養育里親をしてきたが、限界だと感じています。実子3名は、それぞれ独立しています。

382 生後7日目から預かって、現在に至っていますので、子供について困っているとか、どうしようという事はありません。親とのいろいろな事がありますので、私達が里子に対してどうしたいという気持ちを、あまり持たないように心掛けています。今を大切に、子供の成長に少しでもプラスになるようにと思う気持ちで育てています。

385 家族、特に実子の協力、理解が、我が家ではとてもやり難いし、実子達も良い経験をさせてもらっていると思っております。

387 私達の友人が亡くなり、子供が私達と暮らしたいと強く望むので、里親として預かることにしました。今のところ、子供は何の問題もなく、高校生活を送っています。私は、里親になって辛い事も沢山あるけれど、私達が子供を守ってやりたいと心から思います。

388 今まで子供がいなかった頃と比べると、里子を中心に家族が一つになってきていることに、喜びを感じています。ただ、里子の本心がどこにあるのか分からぬこと、時に、激高すること等が不安です。元気なやさしい子供に育ってほしいと願っています。

389 だんだん、年齢と共に健康になっていることが喜ばしい。言う事を聞いてくれない時は、少々しんどく思う。

390 里子と一緒に里親も成長していくことが喜びです。

391 子供を初めて見た時から、私の39年間は全く変わりました。不妊で悩んで泣いた日が懐かしく、よくがんばったねと自分を励ましたり……。でも、もう自分のことは後回しに考えなければならないことに、戸惑いながらも、「子供の立場になり、考えてあげたい」それのみです。

393 現在、3才の男の子を預かっていますが、母親と暮らした記憶は全くありません。父親については、多少覚えているようですが、母親を、常に暴力的に接していた事はよく覚えています。ですから、母親の事が私と（里母）とオーバーラップしているようです。いつか、実親の事を知らせなくてはならない時、自分を置き去りにした実母について、どのように説明しようかと悩んでいます。それにつけても、ご近所も、接する方々のやさしい気持ちに頭が下がります。

394 今、児童相談所より預かっている女子は、高校2年生の17才。1年8ヶ月育てました。知能は優れています。クラスでの成績も6位と、一応の評価ができます。しかし、1ヶ月前、高校3年生の男子生徒と性的交際のある事が露見しました。これは、私共が預かれる時の約束と相違します。将来自立への目標を持って、1年8ヶ月育ててきましたのに。彼女の生涯に触れる神聖な役目と心得て、努めてきましたのに。私共夫婦は目下失望し、児童相談所と対応を話し合っています。

396 子供は実子であろうとなかろうと、同じ屋根の下で寝起きしている限り、愛情に差はなく、いとおしさが出てくるものです。成人になれば、独立していくまで、血縁はなくても、最大限の愛情を実子と同様に、注いでやりたいと思います。愛情を注げば注ぐほど、子供はちゃんと応えてくれます。

397 ・子供達が成人になるのが楽しみだが、我々の生命が心配。

・親が早く立ち直って、子供達と生活してくれることを、一番望んでいる。

・子供達の好きな事を十分にやらせたい。

400 8年、家族として生活しているので、周りの方も、今は自然な形で受け入れて下さるようになり、子供の成長と共に、地域の行事等にも活躍の機会が多くなり、期待される事が出てきた。又、それらの事が本人の自信にもつながり、青年期に入る時期であるが、問題行動もなく、素直に成長してくれることに、喜びを持って見守っている。こうした中で、自立できるようになるまで、里親として、責任を感じつつ、出来るだけの支援をしていきたいと思っている。

401 ・子供がいることで、家庭が明るい。

・子供が今のまま素直で成長してほしい。

403 日毎にたくましく成長してるので、うれしく思うが、里親の言う事が、言った時には出来るが、すぐ忘れてしまうので、厳しく注意はしているが、なかなか直らない。

407 里子から、母の日や誕生日などに、ありがとうの言葉と手作りプレゼントをもらったりする時など、養育里親として、良かったなあと思う。4才半から預かり、現在小学6年。いろいろ成長段階ではあったが、現在は買い物の重い物などを持つて

くれたり、家の手伝いをしてくれたりで、本当に有り難いなと思っています。

408 やはり、良い支援者に恵まれることだと思います。養育への適切なアドバイスが、きちんと受け入れられることが大事です。ひとりで頑張るのではなく、常に家族が支え合う体制を作ることに努力することが、ストレスを軽くし、子供への影響が良い方向になると思います。里子がいることによって、家族のバランスが上手く保たれるように思います。

409 障害のある子を引き受けましたが、具体的な情報が事前に知らされていませんでした。障害のある子を引き受けるにあたり、もう少し公的支援が必要と考えます。

414 「家族」が成り立つためには、お互いに思いやったり、少しずつ我慢したり、それなりの努力が大切だということを、里親をしていて、再確認させられます。「ありがとう」や「大好きだよ」等の言葉掛けを意識的にすることや、家族と一緒に何かを体験する時間を持つことに努めている中で、その気持ち良さ、楽しさを感じさせてもらい、むしろ、一般家族の人達へ発信できるのではとさえ、考えてしまいます。そんな中で、養育制度が正しく広まり、1人でも多くの子供達が「家族」というものを、家庭で学んでいける社会になっていくことを願っています。

415 里親になり、子供を育てることができ、とても嬉しいです。

417 良いか悪いか分かりませんが、自分の子供達に混ざって、全く自然に生活が進んでいますので、特別に、その子だけに心をかけることもなく、過ごしております。目に見えない部分で、もしかしたら、何か問題を抱えているのかも知れない……と、ふと思うこともありますが、そんなことも忘れてしまうほど、今のところは順調です。ただ、これから、本人の年齢が大きくなっていますので、今まで通りにはいかなくなるだろうと、覚悟している今日この頃です。

421 実子がないので、里子のおかげで、親体験をさせてもらっていることに、大きな喜びを感じます。今、小3ですが、実祖母に会いたいと言いますし、そのうち、実母の事も話さなければならぬので、不安があります。又、やはり自分は実親ではないという淋しさもあります。毎日の生活では幸い、親族や学校の担任、近所の人々も良くしてくれて、問題はありません。ただ、私の年齢的に、子育て親達とのギャップが大きく、普通なら何の事はない、いとこ付き合いとか、家族ぐるみの友達付き合いができないのが、難点です。

422 現在、17才の有職少年、自立支援ホーム出身、今春より預かっている。過去3年間、里親としてはブランク状態でしたので、里子を預かって、我が家の生活環境が変わる、刺激が与えられ、孫達（3人）にとっても、良い傾向。一種の緊張感があって良い。

425 少しの手間、時間をかけるだけで、子供が喜んで保育園へ通ったり、安心した日々を送っている姿に、こちらも喜びを感じる。両親の愛情に恵まれなくても、縁あって、一緒に暮らす人々に愛され、本人もそれに応え、その子の良いところが伸びていく様子を見ていると、小さい時のマイナス面が、大きくなつてプラスに変わることを願うばかりです。

429 現在、夫婦共74才。それに中型犬3匹と里子の家族です。里子とは、赤ちゃんの時から乳児院、2才からは児童養護施設へと移されてからも、週に1、2回必ず面会に行ってました。小学校入学時には、私共の家の近くの小学校に入学させてあげたいと思うようになりました。それ以来、その里子を囲み、変わっていく時代と、里子の小学校での若い親御さん達と、楽しく、まったく実子の時以上に、子育てを楽しんでいます。お陰様で、健康で生きておれます。感謝しています。

432 7年以上一緒に生活していると、里子と思わずに生活しています。多分、実子でも成長の早い、遅い子がいると思うの

で、その子の個性だと思い、あまり気になりません。子供達が大人になった時、思いやりのある優しい人になってくれれば、親として嬉しいです。私も子供達も、将来の夢は、子供を大切にするやさしいお母さんです。

433 子供のいない家庭に、いきなり子供が来たので、戸惑いがある。子供を叱ってしまう。ぶつてしまう時もある。今までの生活がガラッと変わって、自分の時間が持てないので、ストレスがある。忙しい生活で、ゆっくりした時間が持てない。家族が増えたので、かけがえのない喜びはある。

438 昭和50年より、知的障害児（者）問題に取り組んで、施設整備等に全力で取り組み、当市の事業団設立より、入所施設、通所施設に関わり、活動家として、障害児（者）問題解決に力を注いできた中での里子との関わり、別に変わった事はなく、今まで施設の子供達が、正月や盆などに自宅に帰れない時、長年預かり、生活を共にしてきたので、深く考えずに日々を過ごしています。普通にマイペースで暮らしています。周りの人達の理解と家族の協力ありで、現在は市議会に入り、障害者問題や介護問題に取り組んでいます。

441 日々の成長が楽しみです。周りの人達にも愛されています。健康で、元気に明るく育ってくれるだけで十分です。1人でも多く、家族、家庭の暖かさを知り、幸せになってほしいと思います。

443 一緒に暮らし始めて7ヶ月なので、まだまだお互いに遠慮があります。もっと気持ちをぶつけてくれたらなと思います。預かっている子というより、子供が1人増えて、喜び、悲しみも1人分増え、家族みんなが成長できると思います。

444 喜びは、一緒に家族の思い出が（行事）できること。悲しみは、子供には言えない実母の事。問われることがある。地域毎、学校、児童相談所、児童施設、皆さんが見守って下さり、いつでも相談にのって下さることです。

446 里親として2年。預からせてもらった子供さんは60数人で、どの子供も可愛く、懐かしいものがありますが、私宅を離れても、実親と上手くいかない子供、生活が出来ない子供、児童矯正施設に入っている子供等の話を聞くと、なかなか子離れが出来ず、又、実子にも多くの苦労をかけたことだと思います。

449 子供は元気でやさしいところもあり、運動能力も高く、将来が楽しみです。実親さんが一日も早く生活を安定させて、預かっている子供が戻れるように祈っています。

450 里親は、親から離れて暮らす子供達と暮らしたく、養護施設を辞めて里親になりましたが、まあ大変で、何もかもひとりで、近所の人や同じ年頃の親に助けていただいています。それでも、もっと大変な思いをしているのは、子供達ですから、頑張るというか、何となく一緒に暮らして行ければ、自分も幸せなら子供達もいざれ、幸せかと思っています。

451 命は誰にも作れない。命を滅ぼすことはできても、作り出せません。私達の幸せは、尊い命を皆で尊び、助け合うことなのではないでしょうか？ 私の幼い頃の日本は、隣近所の皆がお互いに心を通わせ、助け合っていた。私は、そんな日本の社会に、再びなってほしいと思います。文明の利器も悪いとは思わないが、人は間違って、その奴隸になつてしまうのではないか？ 幸せは1人ではできない。自然に目を向け、自然の語らいに耳を傾け、里子と共に生きていきたい。

453 里親双方とも仕事を持っているが、お互いに協力し合って子育てを楽しんでいます。忙しくて、十分話したり遊んだりできないこともありますが、無理せず、できることをして、一日一日を重ねています。だんだん大人になってきて、いろんな事を理解していくのでしょうか。その時、里子である子の力になってくれそうな人の輪を、広げていってください。

454 子供が現在高校3年生です。委託期間は終わりますが、将来、結婚し子供を産み育てる時、協力してあげられればと、楽しみにしています。

457 子育ては、楽しく生き甲斐となっている。

459 15才の時から預かりましたが、すでにしっかりした子であり、特別な苦労はありませんでした。もう1人、一時保護で1ヶ月位預かった14才の女の子がいました。精神的に不安定で、家族全体が振り回されました。共働きの家庭では、支えられないと思いました。結局、万引きをした事がきっかけで、代家を離れました。養育環境から見ると、とても気の毒な子供でした。県外から転入した子供で、児童相談所でも詳しい情報がなく、私のような共働き家庭で、一旦は預かることになりましたが、それなりの覚悟と体制を作った家庭でなければ、難しいと思いました。

464 里子が他人に褒められたりすることが、一人前に育ってくれた喜びのひとつです。又、高校に無事入学した時も、あと少しだと思いました。本人は動物を可愛がり、猫達にもなつかれていますことは、本人の心のやさしさではないでしょうか。普通の子供として高校を卒業して、一人前の社会人に対するのが、里親の役目ではないかと考えています。

466 日々の生活の中では、いろいろありますが、支えた下さっている多くの方々に感謝しております。

467 私達は、初めてで高校2年生をお預かりしていますが、一番難しい時にもかかわらず、相談にのって下さる人もなく、先生方は、預ければそれでお終いですね。何もアドバイスや色々な話をして下さらず、子供にどう接して良いか分からなくなってしまいます。子供もウソが多いですし、私達も優しくなれないと。どうしたらしいのでしょうか?

468 ・小2から養育していた子供が、措置解除後現在20才になつておらず、休日などに帰宅しますが、現在委託されている子供に対して、長期の委託を嫌う様子がうかがえる等、里親の状況とは別に、元里子（養子縁組）との兼ね合いも考慮されます。

・受託後、家庭に馴染み、顔つきも穏やかになり、施設以外の広い世界を経験し、心身共に成長していく姿を見るのは、とても嬉しい事ですが、思春期を迎える、難しい年齢の時期に措置解除。自立せざるを得ない子供の不安や悲しみはいかばかりであろうかと思います。上手く自立してくれるのかどうか、親としても心配です。

470 家族が1人増えた思って、楽しく無理をせずに楽しんでおります。里子さんと意識せずに、家族が1人増えた、自分の子供だと。困った時にはどうするかと考えて、対処しております。

473 突然、1才と2才の男児と女児を2人委託し、生活は一変しましたが、周囲の家庭の理解も得て、楽しく子育てしています。「衣食足りて礼節を知る」といいますが、障害のある、なしにかかわらず、施設から家庭中心の養育へと方向転換するべきだと思います。

475 社会的養護の観点から、里子への質が求められてきているようだ。里子が少年野球に入ったり、英語教室や水泳教室へ通ったりなど、我が家に6人の子供がいますと、私達も一緒に参加する機会が多く、周りの方々から励まされたり、またその逆もあり。里親を20年やっていますと、最近では、我が家子供達を見てきた方々が、里親を始めたり、里親登録をしたりした方が3軒も。1人でも多くの子供が、里親で育つことが願いだ。

476 子供がおしゃべりできるようになり、意志の疎通がとれるので、子供の気持ちがよく分かるようになり、毎日日々楽しいです。家の中がすごく明るくなって、今まで行ったことのない色々な場所へ行けるようになります（子供がいることで）、知らない世界へ連れて行ってくれます。これからも、元気で優しい子に育ってくれることを願っています。

480 今現在、養子縁組をしています。戸籍上でも真の家族になれるのを嬉しく思います。

481 ・子供がいることで、毎日一日が楽しい。

・私達がいろんな事を話し聞かせても、なかなか子供は分かってもらえないのが寂しい。

485 4才の子がいろいろな言葉を覚えるので、楽しく会話がはずみます。15才の子は、よく家の手伝いをします。本当に助かりました。

490 我が家に来て8ヶ月で、すっかりなついていますが、泣くとすごい大きな泣き声で、話を聞こうとしないところが、今一番の悩みのひとつです。

493 8ヶ月から預かった里子が、現在3才前になっています。実子のいない自分達夫婦にとっては、子供の成長を通して、親の喜びを味わわせていただいておりますが、いずれは実親の元に帰るであろう淋しさや、不安などがあります。

494 田あり山ありの自然の多く残っている地域での子育てです。里子を養育することで、地域の人々との触れ合いも多く、祖父母を含め大家族なので、人への思いやりも育ちやすく、我が家で経験したことを大事にして、自立した後も、自分の人生をしっかりと歩んでほしいと思っています。

496 私達夫婦は実子がいないため、迷って家族に相談し、里親になることを決めました。養子縁組を目指して頑張っています。引き受ける前は、地域の人や職場の人がどう思うかが気になりましたが、引き受けたみると、周りの人は温かく対応してくれて、良かったと思っています。まだ、実子ではないことに、自分は戸惑いがありますが、育てていて、子供の笑顔を見ると、頑張って生きていこうと思えます。

497 特別学級に通学していますが、本人は学校が大好き。友達が大好きですので、今のところは安心です。地域、友人に助けていただきながら育てていますので、今のところは、あまり心配がありません。プール、日本舞踊と習い事に一生懸命がんばっていますので、とても嬉しい事です。

499 子供の成長していく姿を見ると、受託して良かったと思う。

501 1才の子供を4ヶ月程前から預かっていますが、実母に帰す時が来ると思うと、とても辛くて寂しいです。今は、私が見えないと、泣いて探していく、そんな姿を見ていると、とても愛おしく感じます。今は、この子に精一杯の愛情を注いでいます。

503 里親を始めてまだ半年なので、喜びや悲しみといったことは、何年も先になって、里子が成長した時に感じることかもしれません。とにかく、今は無我夢中で、子育てをしているといった感じです。私自身は若い時に志した里親という働きをすることができ、使命感で関わっていますが、家族が皆そういう思いではない訳ですから、里子に対する思いや理解の深さは違ってきます。家族間でもめる事も多々あります。

505 いろいろと大変な事はあると思いますが、平常心で日々暮らしていなければと思っております。社会で独り立ちでき、国民として、責任ある納税者になってもらいたいです。

508 まだ経験が浅く、知識もないのですが、私共がお預かりしている子は、手が掛からず、健康で、とても育てやすいと思います。周りの方々にも、あたたかく受け入れをいただいて、とてもありがとうございます。

511 里親、里子がいつでも、土日祝日でも夜でも、相談できる場所がほしいです。第三者として、子供センター以外に。

512 子供のいない私共、又、孫の顔が見たかった祖父母、里子を受け入れ、戸惑うこともありますが、家族全体に笑顔が増えました。里子は元気いっぱい。わんぱく盛りです。

513 里親になり、約8年の月日が経ちますが、いろんな事があり、喜怒哀楽を経験しております。上の子供は少し大人になり、いろんな事がある毎日です。下の子供はまだ手が掛かり大変ですが、少しずつお兄ちゃんになってきている様子がよく分かります。これからまだ大変な場面があり、訓練にぶつかり悩む日もありますが、前進のみ。2人の子供を無事育て上げるまで、

頑張っていきたいと思います。

514 実家族が多いので、みんなで普通に暮らしているので、あまり家族が乱れることはない。子供が感情をぶつけるのは、私へのものなので、一つの過程と考えている。

515 小学6年のお子さまでしたから、養育が大変ということはありませんでしたが、生活習慣の違いや、ズレが少しありました。例えば、食事時間を守るとか、休みの日には共に行動するとか、全ての必要を家族で分け合い、ゆずり合うということが難しかった。初めはわがままを言って、独り占めをしようしたり、次から次へと新しい物を欲しがったりしました。でも、少しずつ学んで適応して、良い関係づくりができてきました。今は、可愛い良いお嬢さんに成長したと喜んでいます。

519 里親としての喜びは、子供達の成長です。実親と暮らせないというハンディは抱えているかも知れないが、将来、「だから里親と出会い、いい子供時代を過ごせた」と思ってくれ、自信と誇りを持って生きてくれば、様々な苦労も大きな私共のエネルギーになります。里親をしていると、家族が同じ目的を持ち、同じ方向に生きていくので、親子、夫婦間での助け合いの心が、より強くなります。里子を育てさせていただいているが、私共の方が育てもらっています。

524 長く里親をさせていただいているが、昔は、今よりももっと里親制度があることすら知らない人達が多く、色々な面で大変でした。今では近所の人達にも支えられて、助かっています。子供を育てるということは、とても大変なことです。色々教えられたり、楽しいこともあります。時には、こちらの意志が通じなくて、悲しいこともあります。その都度、夫婦で話し合ったり、子供に何度もこちらの思いを話して聞かせて、急場をしのいきました。里子には、思いやりのある子に育ってほしいと、いつも願っています。

525 子供が我が家に来る前は、一緒に暮らすようになったら、「あれもしてあげたい」「これもしてあげたい」と思っていましたが、実際に暮らし始めて、私達が子供にしてあげる事よりも、子供を通して私達が受けれる喜びや楽しみの方が、はるかに多いことに気付かされ、感謝しています。

526 養育里親としての喜び、願いは、何といっても里子達がもう一度実親と一緒に暮らし、その生活が幸せだと感じられることです。そうなってもらう過程の一時期を、我が家で提供しているのだと思います。子供達には、「普通」の家庭を味わわせたいと思っています。何でも子供の意見が通ることが、幸せだとは思えません。社会のルールを覚えることも大切です。それらを日常の生活の中で習得させることは、思ったほど易しいことではありませんが、我が家に来るべくしてやって来た子供達。出会うべくして出会った私達だと思うと、何とかせずにいられないのです。

527 子供の笑い声が、家を明るくしている。実子のように愛し、愛されている。

528 子供が今は分からなくても、大人になった時に、私が関わってきた事を分かってくれれば良いと思っています。

529 実子（高1男）があるが、何のわけへだてもなく普通に育てられます。

530 我が家にいる里子は、本当の兄と妹です。なので、とても仲が良くて、ケンカもよくします。年子なので大抵の事は同じようにしてきました。良いのか悪いのか分かりませんが、どちらかの子1人だけ何かを買ってあげたり、してあげたりすると、もう1人の子がすねます。今まで大変だと思っていましたが、個々の人間だという事を分からせないとダメだと思い、改めようと試みます。もう少し子育てを楽しみたいです。将来は全く分かりません。ずっと一緒に暮らしたいですけれど、実親が引き取りたいだろうし、子供達も、どちらの親も大好きです。

531 家族全員特別な気持ちや扱いもなく、普通に生活して

いるので、特別な気持ちはありません。本人が里親、里子であることを、真剣に考えるようになった時、どう受け止めるのかが、少々心配です。

532 現在、当家において、5人家族として生活を共に営んでおりますが、この5人は（私達夫婦はともかく）全く血縁関係がありません（夫婦2人、里子2人、解除後の男子22才1人）。言い換えれば、いわゆる他人同士の集まりです。しかし、こうして里子達と生活を共にしていますと、何の違和感もなくごく普通に暮らしています。こうして日々を共にしていますと、特別思いもなく、いるのが当たり前の感じです。他人にはどう見えているのか、どう思っているのかについて分かりません。周囲の方々も、ごく普通に接して下さっているように思っています。

534 里親として、今預かっている子供の幸せを願います。日々、年々、成長する姿が、老いていく大人の喜びと励ましになる子供の力はすごいです。夫婦の協力は不可欠で、お互いを尊重しあい、又、お互いの両親からのサポートには、感謝しています。養育里親ということは、いつか実親のもとへ、子供が帰っていくことを前提としています。正直、その日がまだ先であってほしいと思いますが、子供の気持ちを考えると複雑です。子供が大人になった時に、私達と生活していた事を、肯定的に思い出してもらえるように、生活していきたいと思っています。

537 何度も何度もセンターに、子供を預かりたいと申し出ても、なかなか預からせてくれず、今は2人預かっていますが、私達の年齢が過ぎていくだけに、体力もなくなってくることを思えば、もっと早くに切れることなく、預からせていただけたらと思いました。どういう基準で預け先を決めているのかと思います。

538 ・通常の社会常識が不足している。

・自我が強い。

539 我が家に来た時、ほとんど笑わず、大人しかったが、今は活発で、大声をあげ笑って過ごしている。子供に幸せな人生を送ってほしいです。

540 実親ではない私達を、本当の親だと思って、毎日接してくれていることに感謝します。ただ、「私の本当のお母さんは、仕事が忙しくて……」と、言葉にも出していますし、思っている子の気持ちを考えると、複雑な思いです。周りの方々の、里子に対する理解がないというのが、本音です。もっと里親、里子の事を知っていただきたいです。

541 現在、7才10ヶ月の子供を養育して、約1年経ちますが、当初に比べると、出来ない事が出来るようになった。子供の発達の過程に驚き、感心しています。私の行動範囲も広がり、ずいぶん楽になってきました。いずれは、養子縁組をと考えていますが、現在50代、成人した時は70代過ぎてしまうので、経済的な面、健康面のことを、すごく考えてしまいますが、それと同時にがんばろう！と、前向きに子供と成長していくたらと思っています。

542 実子養育と比べての里子養育の喜びや悲しみがどういうものか、正直私達にはよく分かりません。実子がいないので、子育てそのものがまったく初めてだったからです。毎日が戦場のように大変な毎日ですが、時折、深い充足感を感じことがあります。この充足感は、私達に生きる活力を与えてくれます。又、私達の父母や私達の家の近所の方々にも可愛がられ、私達と同じように、この子は周囲の方々皆に元気を分け与えてくれているようです。子供は、そこに居るだけで、周りの人々に元気を分け与えてくれる存在なのだということが、この子を養育するようになって、初めて知りました。これからも様々な大変な事があると思いますが、このことを胸に刻んでおけば、おそらくどんなことも乗り越えていけるのではないかと思っています。

546 6年間やってきたこととはいえ、今も無我夢中でやって

いる状態で、今の子供達が巣立った時に何かが見えてくると思う。ただ、子供達のために、良いと信じて思いを貫く日々です。
548 子供がいなかった私達夫婦に、里親、里子という関係で、子供を養育できまして、実子のいる夫婦、親子と同じように色々な楽しみを与えてくれ、又、色々な事を教えてくれました。親子共に成長することができて、我が家において、里子は宝物です。又、親族、地域の方からも可愛がられ、見守り育てていただいて、感謝に堪えません。

551 今高校1年の里親をさせていただいているが、親の心子知らず、子供の心親知らずで、意見の行き違いはあります。お互い本音で言い合い解決しています。高校生を持つ親として、こんなものなのかと覚悟しながら、ちゃんと大人になってほしいとの願いで、頑張っています。私の場合は、児童相談所に助けていただきながらですが、喜びの方が大きく、子供と会話をしたり、ああしてこうしてと考えて、子供の成長していくのがとても楽しみで、生き甲斐を感じています。年齢も60代ですが、できる限り里親をさせていただければと思っています。

553 私達に子供がいませんでしたので、何とか1人でも手助けできないかと思い、乳児院に半年通って、とても元気な子供との出会いがあり、里親となりました。幼稚園～高校まで、いろんな事に（習い事、舞踊、習字、そろばん）頑張って、高校入学してからは、特に、1日も休むことなく勉強、生徒会、部活動と頑張っております。又、大学進学を希望しており、夢に向かっています。人に対してもとてもやさしく、友達付き合いも良く、私達は本当に、子供から元気をもらって、毎日楽しく過ごしております。

554 本当の親と一緒に暮らすことができない子供が多くいますが、その子達と本当の親子の様な関係を築ければ良いと思います。

557 この頃は、高年齢の子供が多く（今は高校生2人委託）、何とか社会でやっていけるようにと思うのですが、本人はとても幼稚です。私達が関わっても、どうにもなりません。子供達にとって、通り過ぎていく所でしかないと言われながらも、里親を続けています。愛着を築くことが、養育の基本というならば、里親には乳幼児にいる子供達を委託してほしいと思う。里親を上手に活用するなら、3才以下の子供の委託をするべきと思う。近頃では、どこも引き取り手のない中学後期の子供と高校生を、里親に委託する傾向にあって、「里親は、高校卒業するまでの道具」と言われ、ため息をついている。

558 我が家は、8人目で初めての長期委託の子供の養育が始まって1年。。とても健康で元気な2才児の子育て真っ盛りです。まだわずか1年ですが、早期の乳児委託を経験して痛感するのは、毎日の大変さは、普通の子育てとまったく変わらないということです。「里子だから」という部分が全くなく、100%普通の子育てをしています。「障害」や「発達の遅れや歪み」の根本的な解決、予防には、乳幼児からの早期の家庭委託が、非常に重要と痛感させられます。

561 わずか4才にして両親と離れ、私（祖母）の所に来ました。両親と暮らしていた時より明るい顔になり、笑えるようになりました。初めの頃は、自分の気持ちを外へ出せずにいました。自分の思った事、考えた事を言葉にして話すように、何度も何度も言いました。今15才になり、私の揚げ足を取るくらいになり、又、私の事を心配してくれる、優しく、明るい子に育ってくれました。私は、この子と一緒に生活できることで、自分も元気になったように思います。

562 地域の目が、私の実子と里子では、かなり違っているような気がすることがあります。田舎ゆえの問題だと思います。私達にしてみれば、血のつながり以上に家族の絆の方が、強いようにさえ思っているのですが、残念です。

566 受託後半年程度は、子供の多面性が開花されるのか、振り回され、疲れ果てることも少なくないが、その時期を乗り

切ると、結果的に安定するような気がします。愛情が持てないと苦しむより、自然に愛情が湧いてくるのを待つ方が賢明なようです。個別の困難については、その出来、不出来にあまり目を奪われず、子供そのものを丁寧に見ることが、大切だという気がします。

567 子供が産めない私に娘ができ、とても嬉しく思います。この子自身幼少より自我がとても強い子で、どうなるかと思いながら、私的な子育てをしましたがやはりダメで、イジメっ子になり、心身共にやらされました。でも、それは私達の接し方が悪いのだと気付き、変えていくようになりますが、なかなかです。私と同じ性格ではないので、戸惑っていますが、この子なりに、やはり幼い時のトラウマ（取り残される）というがあるのか（本人は分かっていませんが）、不安なんだと思います。その不安を取り除いてあげられたらと思います。本当に両親や友人が居てくれて、とても助かっています。

568 日々の生活の中で、子供から楽しみ、驚き、喜びをもらっています。又、大人ばかりの家庭において、家族間も穏やかになりました。ご近所の方達や地域の方達にも、可愛がっていただき、現在は孫と住んでいる方が少ないので、皆さんのマスコットになっています。病気とか、その他いろいろ大変な時もありますが、現在は私達の生き甲斐となっています。本当に里子には感謝です。

569 我が家へ来るまで登校拒否5年で、学業が遅れていたが、私と妻で特訓した。現在は、学校でトップクラス。全然泳げなかった水泳も、トップクラス。宿泊を伴う旅行も、月に1～2回位行き、家族風呂も一緒に入ったりしている。今では友達もでき、一緒にカラオケに行ったり、友達とゲーム機を買いに行ったり、日に日に成長している。親元へ近日中に戻るが、その後が心配である。

570 自分達の孫なので、義務感も手伝って、苦痛とか感じないで働いております。近所の方々も、「大変ですねえ！」と言つてくれて、孫達に声を掛けてくれたり、子供達にいろんな物をいただいたらしく、逆に、「悪いなあ、すみません！」と有り難く感じるくらいで、喜んで育てております。

572 子供を委託した時は、本当に嬉しかったです。養育は大変難しく、一般家庭で生まれ育てば、自然に身に付くことが分からぬ。例えば、お父さんお母さんを反対に言ったりなど。又、周りの人が偏見で、何か悪い事があると、家の子のせいにする。学校の先生にも同様に見られたことがあります。子供を持って、友人も多くなり、とても視野が広くなった気がします。教えられる事も多々ありました。最初に預かった子が、今は20才になり、まだまだ苦労はありますが、とても充実しています。周りの人からも、素直に育ったねと言われると、本当に嬉しくなります。

573 過去に巣立っていった子供（男）の結婚式に養父母として出席しました。感無量です。現在の子の実母が、昨年までは「会わせてほしい」と言ってきたが、今年は連絡が取れません。何とか高校卒業迄に（現在高1）、実母に会わせてやりたいと思うのですが……。

575 ・里子同士でケンカをしない。

・毎日元気で、楽しみに学校に行ってくれている。

576 もっと早くあなたの経験が少なく、そのカラもやわらかい小さな時に、せめて、もう5年早く出会っていたら、私達はたっぷり時間をかけて、愛して楽しい経験がもっと出来たのにと思うのは、傲慢でしょうか。

579 子供の成長が楽しみ。

580 同居している両親との意見の違いから、里親に到るまで、年月が過ぎ去ってしまいました。そして、自分達の年齢も高くなってしまいましたが、今、思い切って里親として、子供の委託を受けて、2年が経ちました。2才の頃は、ただもう一生懸命でした。子供の命を守らなきゃ……という義務感みたいな

ものでいっぱいでしたが、半年ほど経って、少しづつ子供に対する愛情が生まれ、今はもう、子供と一緒にいることが、一番うれしい時間です。もちろん、仕事をしながらなので、大変さもあります。これから先の大変な事を思うときりがありませんが、「おとうさん、おかあさん」と呼んでくれるこの子を、立派な親ではないけれど、一生懸命育てていきたいと思っています。

583 子供が愛されていることを、身体で感じている時、その子の行動や表情に笑顔や元気が感じられる。

・日進月歩の成長が楽しい。

・多くの周りの人に、喜びを与えてくれる（2才児）。

584 現在中学1年生になります。水泳に通って選手コースにも入って頑張っていましたが、コーチから強く叱られると、もう通えなくて、丸1年ムダに月謝を払っています。でも、またいつか行くと言うだろうと思うと止められない。でも、中学ではクラブを頑張っているので、夫婦で応援しています。

585 最初に預かった里子が長期委託であり、兄の方は知的障害、弟の方は勉強が苦手と、やり甲斐のあるお子さんを預かり、私自身元気を出さずにはいられない状態です。特に、体調を崩すこともなく、元気をいただいているような気持ちです。この子達が成長して、親になった時、少しでも感謝してくれればと思っています。

588 自分になついてくれていることがうれしい。家族や学校、地域の人達が理解してくれているので、助かっている。

589 様々な事情を経て里子となった子供達が、私達と共に普通に当たり前の生活をする中で、人としてこの社会を自らの力で、そして、周囲の人々に助けられ、協力し合って、生きていくために必要な大切な事に気付いて、少しづつでも、力を付けている姿を見ていると、縁があって良かったとつくづく感じます。

591 子育てを始めてからの人生は、本当に素晴らしい日々です。引き取って半年くらいは、今から考えると、右往左往しながら必死の毎日だったと思います。その後の方が生活のリズムもでき、子供の自由な発想や感覚に感動し、毎日があつという間に済んでしまいます。子供を迎えたことで、広がる人間関係に、自分自身も支えられ、今日に至っています。今後も養育里親として、できれば数人引き取って育てたいと思っています。

597 子供達が元気で生活しているので、私も元気になっています。身体に気を付けて、これからも一緒に頑張っていきたいです。

599 子供が家にいることに、大変喜んでいます。明るく元気になれるもとです。悲しみはまだないです。気持ちとしては、子育てはこれでいいのかな、と思うこと。私達はうれしいですが、子供本人に伝わっているのかなあ。周りの家族も協力的に、孫ができたと喜んでいます。これから、社会の中へ出る人間として、しっかり育てて幸せになってもらいたいです。

600 娘と一緒に笑ったり、泣いたり怒ったりしていると、ふと、「ああ、夫婦の娘なんだ」と思い、愛おしくなります。主人にもよくなつき、遊んでくれていますし、両家の祖父母、兄・妹夫婦もよくしてくれてなつき、面倒をみててくれています。周りの人達にも恵まれ、助かっています。

601 里親として、子供らの成長していく姿を見ていると、里親をして良かった、楽しい思いをいたします。又、里子を通して、家族の幸せであることを、再確認が出来た。

603 里子、実子という差別意識は、ほとんど感じていません。社会が一丸となって、子供達の将来に向かって支援すること。及び、その一端を担っている現在に感謝しています。

606 里親になって20年で21名（長短合わせて）。子供の頃から手助けしてくれた3女と同居。娘達は里親歴7、8年目。目下、孫3人、養女1人、里子が2名、そして、この2名の弟を私が預かるということになり、合計11名。3姉弟は皆1才違いの年子。3

才9ヶ月、2才9ヶ月、1才8ヶ月。養女は3才6ヶ月。そして、下の孫が6才。この2年間はもう戦争でした。姉弟は、心に大きな傷を持っているため、大変でしたが、今は、少し落ち着いてきたかなと感じています。親子で助け合いながら、これからも子育てできるのは、幸いだと思っています。育てた子達が、顔を見せに来てくれたり、孫を連れて里帰りしてくれるのも、楽しみにしています。又、娘の友人達も、次々に里親になり頑張ってくれているのも、頼もしく思っています。

607 老夫婦2人の生活より若返り、日々子育てを楽しんでいる。若人のパワーをいただいている。

608 最初に引き受ける時、養育費等の支援の知識がなく、これまでやっていた仕事を辞めることの家族への不利益（孫のお小遣いや私の外出その他）を心配した。又、59才という年齢で、2才の子をずっとみることの心配があつたが、実子達が私や夫に何かあれば、里子を自分達で続けて育てると言ってくれ、以来2年間、彼らや連れ合いが、心からその子を愛してくれている。又、連れ合いの家族や、本当にまわりの愛と関心に驚いている。

613 上の中3の男子です。友達が多くて、我が家は集合場所になっております。お陰様で、私も子供を通して、若いママ達とお付き合いさせていただいている。

614 現在高校2年生の女の子と生活しています。小学校6年の1学期より、一緒に生活していて、高校生になって、日常生活の当たり前の生活が、身に付いてきたのがよく分かるようになりました。普通の生活が里親家庭に来て、身に付いたことが一番安心です。

615 親族里親になり1年位ですが、幼児の時から養育して12年になります。仕事も定年になり、年金生活になり、里親制度に助けていただいている。娘も亡くなつて12年。今年は高校受験。来年も高校受験と続きますが、高校だけは卒業させてやりたいと思っています。このような里親制度は、とても有り難いと思っています。孫を引き取って、良かったと思っています。

617 子供がいる生活に感謝しています。妻との関係も良くなつた。

619 現在の里子は施設より来ましたが、家庭の味を初めて経験。しつけより始めているが、高校生ともなると、なかなか難しい面が多々ある。

620 里子の成長が見られる時や、笑顔を見ると、生活の大変さから解放されて、里親も嬉しくなります。実子がいないので、里子の養育方法が難しく感じます。家族が増えて、喜ばしく思い生活しています。将来、18才になった後の進路等が心配です。18才では自立が難しく、20才まで養育期間を延ばしてほしい。

626 小学校2年生の時から養育しています（現在5年生）。ずっと施設に入っていたため、初めは慣れない部分もありました。現在でも、時々何を考えているのか、分からぬ時もあります。

628 地域の方達も理解があり、普通に怒ったりしてくれているので、安心なところはあります。子供は人に言われると、反抗期の年齢であることもありますし、すぐに怒ることもありますが、あとで考える子になってきていると思います。

629 子供の笑顔を見ていると、とても明るい楽しい気持ちになります。

632 26年間、養育里親として、色々な事が数多くありました。今振り返って考えると、里親をできたことを大変感謝しています。我が子が誕生し、引き続き里子を養育し、今年で子育て40年になりますが、子供と一緒に生きる人生は最高でした。

633 女の子の母は、16才で結婚。17才で出産。男3兄弟の母は、2才児より養護施設で育ち少年院への入所歴があり、二度の結婚歴。今は覚醒剤の後遺症があるとのこと。緊急処置として、5日間の預かりということでしたが、今に至っています。親が子供を育てられない=児相=里親でいいのでしょうか（虐待、

ネグレストは当然の処置ですが)。

635 不登校で死にたいと言っていた子が、今は毎日ハツラツと学校へ行く姿を見ると、こちらも励みになるのと、今までやってきた事の満足感、自信につながります。高校生になって、周りは悪くなっている子もいるのに、「悪くなる理由がない」と言ってくれた時は涙が出そうでした。もうひとりの子は、「自分は守られている」と言ってくれました。兄弟の変な心配や押し付けの感情が負担で、放っておいてほしい時があります。子供達に勝手に色々な話をして、言ってほしくない事があったりします。又、近所の人、同級生のお母さんの偏見には悩まされます。少しでも子供を尊重すれば、「甘やかしている」「おばさんが育てているから」と言われます。誰ともつき合えません。中には理解してくれる人もいますが……。

636 ・里子のおかげで、交際が広がり感謝している。

・色々問題もあるが、そのことで勉強したりして、理解が深まり感謝。

637 里子の成長が感じられた時、喜びを感じ、里子が反抗的な態度をとった時、悲しくなる。毎日の世話が大変。夫婦の時間（旅行）が取れないことが困る。

639 試し行動が正直きつかったです。家族と里子の間にいる私が愚痴をこぼすと、家族から集中砲火を浴びるし、皆きつかったです。今は、あの頃がウソのように落ち着いていますが、思春期が心配です。

640 実親に戻した時に、将来の見通しができない不安があります。出来れば、手元で育てたい。しかしながら、毎日里親であることの意義、役割のことを自分に言い聞かせています。子供の世界のことを学ぶにつれて、底辺にいる子供達のことを心配しています。その現状を、一般の人達は知るところでないことも憂慮しています。

641 里親となり5年。養子縁組はできないが、自分で育てられないという実親に、不安を感じています。すっかり家族の一員となり、同居していた里父の両親が亡くなった今も、「おじいちゃん、おばあちゃんが空から見ていてくれる」と言っています。幼稚園、近所の方々、沢山の人達に可愛がっていただき、有り難いです。来年4月から小学校になります。先日、友達のお兄さん（小4）から、「○○君は、可哀想な子なんだってね! お母さんが話していたよ」と、子供の前で言われ、「可哀想な子じゃないよね!」と答えました。今まででは、何の問題もなく、明るく過ごしてきましたが、これから色々な事にぶつかっていくと思います。「何があっても、パパとママが君を守ってあげるよ」という強い気持ちを持って、頑張っていきたいと思います。

642 まだ1才で、何をしても許せる範囲で、かわいくて仕方なく、支援センターや保育園などにも行き、一日の時間があっという間で、とても楽しく、家に来てくれて嬉しく思います。

643 実子が7才、9才になり、子育てが少し楽になってきたところで、0才の乳児を預かりました。生活は一転し、また一からの子育てが始まりましたが、子供の成長を毎日見て、生活できることは、実子の小さい頃を思い出す機会にもなり、とても楽しいです。又、周りの方も好意的に見守って下さっているので、生活に不都合を感じることはあります。色々な事が分かれる年齢になった時に、どのような問題がでてくるか分かりませんが、前向きに対応していきたいと考えます。

645 真面目な女性になってほしい。手に職を付け、一生食べていけるように。学齢期になったら、きちんと勉強させたい。私達の愛を感じて大きくなってほしい。いつも大好き。

647 ・幼稚園や小学生の時に、父の日、母の日に里子からお礼の手紙やプレゼントを貰った時、嬉しくて大事に今も手紙はとっています。

・今高2になって、反抗期で、携帯電話ばかりして、月に4~5万円の支払いが大変です。「解約したら高校を中退する」と言

うので困っています。

649 ・子供を通して、学校のお母さんや先生との出会いや、得られない経験はできる。その反面、今の学校の現場に少し不安があるため、子供の将来に不安を感じる時がある。

・実子が成人してしまい、淋しい部分を里子が補ってくれる。

651 現在里子は7才になります。たとえ里子とはいえ、やっと天から授かった子供です。女の子ですので、お口が達者。反抗もします。叱っても、言う事を聞かない時もあります。でも、親と子。ケンカしながらでも、楽しく生活していることに、幸せを感じます。子供は家の中を明るくしてくれます。和ませてくれます。

653 里子の成長が楽しみ。家族の一員になっています。

654 我が家には兄妹2人いて、それぞれの個性を大事に育てています。本当に子供には感謝しています。とても心身共に健全な子供に育ってくれてありがとう。縁あって11年。4才と5才。全く知らない土地へ行き、あいさつ回りの時、「乳児院から來ました」と言う堂々とした姿に大人が驚きました。過疎の地域ですが、2人子供が増えたことで、地域の方は喜ばれたと思います。子供は実親でないことを承知で、堂々と幼、小、中、高と学校へ通っていました。小学校まではいじめにあっていました（一般的なトラブル、親子関係とは全く違う）。加害者の親（いじめをする子供の気持ちを、親が理解していない。他人をいじめるというのは、淋しい思いがあるのに気付いていない。ちゃんと見ていない。親を教育したいと思った。いじめをする子供の方がかわいそう。加害者の親の心ない言葉に、里親となった私は侮辱されたと思いました。加害者の親数人は近所なので、近所付き合いも上手にやらないといけない土地柄なので、昔よりは良くなりましたが、私の心の中には、まだわだかまりがあります。でも、表面上は笑顔で、子供にも笑顔で付き合っています）までも、私に向かって意見をし、その度に先生方に助けていただきました。辛い経験があったからこそ、先生方と仲良しになることができ、親子関係や理解ある地域の方々と、上手につき合えることができ、人間としても成長したと思います。今は2人共高校生。措置期間終了がもうすぐやってきます。反抗期のまっただ中で、時々元気のいい反抗をする姿は、ホッとします。毎日、学校の話をしてくれます。家族で楽しい食卓を囲み、笑ったり泣いたり、時にはケンカしたり。年に1回は旅行をする。部活の応援（遠くでも行って）、体育祭等の行事にも出かけ、とにかくこの11年は忙しく（もう少し続きます）、親の活躍の場を与えてくれてありがとうございます。ケンカはコミュニケーションのひとつと捉え、トラブルは勉強の場と思い、本当に辛く苦しい時期があったけれど、それでもいつでも明るく楽しく笑えた。妹の方は笑いをとる天災。優しい兄ちゃん。今では、地域の人達は温かい目で私達を親子として認めて下さっています。

657 実子は男子が2人です。初めての女の子だったので、戸惑いも多々ありましたけれど、毎日が新しい体験で、子供と一緒に私自身が成長させていただいています。預かった時から実子と思って育てさせていただいていますが、どこかに遠慮があって、厳しく躰たりしても、体罰は絶対に出来ません。彼女は、毎日毎日自分の愛情を確かめます。どこかで不安なんでしょう。5、10年と過ぎ思春期に入り、自分がこれくらい悪さをすれば、親はどう出るかなど、何回も私を試します。強い口調で「だめだよ」と言っても、素直に聞いてくれない時、無力さを感じました。そんな時、彼女は、私には言えない苦しみがあるから、不満を反抗という行動でぶつけてくるのだと思います。彼女が幸福になる事だけを祈って、共に笑い泣き成長を見守っています。

658 里親として3才より育ててきました。実母が精神病のため、里子への影響が心配でした。何とか無事に育てられています。色々なことがあり大変でしたが、愛をたくさんもらいました。

た。

661 出会いをいただけたことは感謝しています。実親にも産んでくれたことに感謝しています。子供が実親に育てられなかった、実親ではない人間に育てられたという事実を、どう受け止めどう折り合いをつけるのか、将来が気掛かりです。私自身はなるべく、子供の迷惑にならないよう生きたいと思っています。

664 毎日子供から元気をもらって、楽しく生活しています。おかげで、人間関係も増え、充実した日々を過ごしております。又、八王子の里親会の先輩の皆さんが、親切に声をかけてくれますので、困った事もすぐに解決できる方向にむいています。

665 特別養子の子ができてから5年。そして現在、新生児から預かって1年の子がいる。子供がいない時は、近所や地域の方との関わりがなかったけれど、子供が来てからは、近所の方が色々お手伝いや、子供をみてくれたりするので、助かっています。両親も、「孫」ができて喜んでくれているし、里親になって養子にして、今の子がいて、毎日が楽しくなりました。

667 里子と暮らし始めてから10年が経過し、現在彼は17才。当初は口が重く、意思表示がほとんどなく、彼が少しでも笑ってくれるように、甘やかしていました。でも、一つ一つの事柄が、信頼を創ってきたように思います。彼が、社会の人として、世の中は楽しく、生まれてきて良かったと実感できる人格形成のために、これからも尽力していきたいと思います。又、それが私自身にとっても幸せにつながります。

668 先天性の病気が分かったのが、1才半と遅かったため、脳に障害が出て当たり前と言われたのですが、現在、元気に成長しています。障害が出なかつたことに、家族中喜んでいます。

669 今、里子は中学1年生。ひとりひとりを大切にする学校、モットーにしている学校へ入学して、元気に通学しています。小学生の時は、理解ある先生に恵まれたり、辛い思いをして通学した時もあり、大変な時を乗り越えて、今があると本人も振り返ります。友達との付き合いもうまくはないが、幼稚園時代からずっと、中学も一緒の友がいて、親友のような存在です。家では私達老父母ですが、実子が都外にいて、土日に帰ってきて、勉強などを見てくれ、年の離れた兄のような存在ですが、他人から見たら、父子にも見えるそうです。

672 我が家は家族、特に、夫の協力がかなりあったので、あまり問題なく育てて来れたと思います。

674 親の欲目でしょうか、元気に健やかに育っているように感じてしまいます。無論、すぐふてくされる、キレやすい、じっくりと落ち着いて考えることができないなど、問題もありますが、我が家に来てまだ1年です。長期的に見れば、落ち着いた、賢い大人になっていくことを、強く期待しています。それは、可能だと思っています。

675 措置解除になった兄（18才）が、現在、就職して我が家から仕事に通っていますが、彼は、私達を親だと思ってくれており、十分に甘えてくれますので、大変ですけれど、元気をもらい、勇気をもらい、子供のいる家庭の素晴らしさを味わっています。現実に、今委託されている子供（妹のほう）は、性格的に難しいところがありますが、そう簡単に変わらないでしうけれど、仕方がないですね。

676 実親のことも話すし、もう中学生なので、世の中の事や人生の色々も分かってきているので、自分自身を大事にしたり、見失うことのないように、人生を生き抜ける根性とまではいかなくても、そういうものを、子供自身が分かってきているところまでは、きていると思う。子供も里親も、周りの人々の温かさを、感じていると思う。

677 高機能自閉症ということで、見た目は健常児と全く変わりなく過ごせているのだが、人との関わり方が苦手な事、家庭内で甘えたり、感動を共有したりという事が、ほとんどないので、どうしてもかわいいとは感じられない。又、問題行動も

多く、金品の持ち出しなど、高学年になった今は、後を付いて歩くわけにもいかず、指導には常に困っている。又、安心して留守番をさせることもできない。社会的に、障害として認められる範囲ではないので、将来の事も見通しが立たず、とても不安がある。

679 生まれてすぐに引き取ったので、我が子と思って育てています。赤ちゃんのかわいい時期から育てられて、とてもうれしく思っています。上の子は反抗期で、何でも「うるさい」の一言で、どのように接したらいいのか分かりませんが、年齢と共に、良くなってくれればいいなと思っています。子供のお陰で親となれて、有り難く思っています。

680 実子の一人娘が8才の時、弟として5才の里子を迎えた。姉弟として、仲良く楽しそうに遊ぶ光景はほほえましく、家族にもぎやかになりました。周りの方々にとっても、里親になるという選択を、好意的に受け止めて、養育を必要としている子供が多く存在するという認識を、新たにする機会となつたと思います。

681 子供が成長していく過程において、家族の愛情は不可欠だと思う。施設では決して得られない。この1点においても、里親制度が広がればいいと思う。私は、子供が中学3年の時に預かり、現在高校3年生。その間、子供が心身共に成長していくのを感じて、とてもうれしく思う。夢や希望を持ち、成長と共にそれは変わっていくけれど、少しでも手助けができれば良いと考えている。そして、自立した人間になってほしい。

682 4才の男の子で、なついてくれて、大変かわいいのですが、甘えん坊でわがままで、手に負えない時があり、ストレスがたまる時があります。主人も協力してくれますが、やはり限界があるようです。でも、子供がいる生活に満足しています。

683 将ちゃんが我が家に来てくれて、とても喜んでいます。いろいろな事がたくさんありますが、一つ一つやっていきたいと考えています。

686 溫かい愛情を受けずに育った子は、心の中に温かい、人に対する優しい心、余裕の心が育っていないと感じる。したがって、日常は自分勝手、自分を高く見てもらおうとする。つまり、子供らしい素直な心が、余裕がない。社会に出るとまず大切なのが、人ととの交わりであり、コミュニケーションを取るのが大切であると言い続けている。社会では、信頼され愛される人になるように育ってほしい。

687 子と親と。小さい頃から、いたずらしたら謝り、運動方面では褒められ、大人も育てられ、努力すると、近所の人には少しずつ認められる。でも、色眼鏡で見られることもあります。

688 ・もう少し長い間いてほしいと思う。
・子供が成長して、こういう人がいたんだと思ってくれれば、うれしく思います。

689 近所の方、友達を呼んで、ホームパーティーを開き、里子の存在をアピールしています。今まで人との関わりがなかった分、いろいろな人に会わせて、人慣れしてもらいたいと思う。地域の人達とも関わり、みんなで育てていけたらいいのですが……。問題行動が出てくると、悲しくなってなきなくなります。それを乗り越える、強い心がほしいです。

690 里子同士での会話を耳にした時、実親の話を自慢し合うところは（本当は、ほとんど連絡もないのに）、痛々しくとても切なくなる。その中で、親を全く知らない子は、自分のルーツを知りたがり、どんな親でもいい、どんな所に生まれ、どんな家だったくらいは知りたいと、訴えられた時には、心の叫びに何とかしたいと心底思った。その後、児相の園の方で、既に今は家だが、写真でかつての家を見せ、1人の子は実親の存在を知り、現実は一緒に暮らせないと分かっても、きちんと向き合い説明することで、乗り越え、前向きになっていく強さに驚いている。実子の時は、最初の子は一生懸命になりすぎと思うが、2人目は少しゆとりある子育てができたと思える。そ

んな後に里子を受託して、とても余裕のある気持ちで子育てができる。手が掛かれば、またそれも良いし、小さな変化や成長を感じるとワクワクする。子供と共に、ハリのある生活ができる感謝。思春期の里子に手を焼き、腹を立てる時がままあるが、幼い頃の心の傷を思うと、その辛さに耐えてきた気持ちに、感情移入してしまう自分がいる。すると、う～んと自分の感情を外に向けて出してくれることに、嬉しくなる。幸せになってほしい。

691 大人の責任のなさで、子供達が被害者になっている。人間として生まれ、人として生きることは、みな平等でなければならない。

694 子育てが始まって、戸惑いも多かったですが、今やっと落ち着いてきた感じです。一つ一つの行動に驚いたり、納得したりですが、これから楽しんでやっていきたいと思っています。

696 2才から我が家で生活していて、今は17才の高校生である。小さい時より施設にいたことを、時々話しており、自分が里子であることは知っている。生活態度、学校生活共に何の問題もなく、実子同様に暮らしている。実子は27才と25才で、他県で暮らしている。女の子の里子の先輩として、指導的役割を担っていると思っているのか、最近とくに、ものわかりが良くなったりきらいがある。毎日、賑やかに暮らしている。

698 高齢者家庭に来た幼児（現在5才）だが、予想以上に家族の協力、周囲の支え、里子自身の前向きな生き方に、今のところ、順調に育っている。

699 実子を育ててきた時と同じ様な気持ちで、養育しているつもりでも、やはり、実子とは同じ反応ではない。ものの見方、感じ方が違うので、基本的には言う事を聞いてくれれば、何の問題もないのに、言う事を聞かない、聞かせられない自分に、?を持つてしまう。

・地域の方々は、いつも温かく見守って下さっています。ありがとうございます。

700 沢山のまわりの方々には、大変お世話になっています。

702 現在、2才3ヶ月の女児の里母をしています。子育ては、想像以上に大変で、日々試行錯誤の連続ですが、実子のいない私達夫婦にとって、子育てをさせてもらえる喜びも感じています。里親になることは、夫婦2人で決めしたことなので、家族は反対していませんが、弱音を吐ける相手が夫しかいません。夫が休日に子守をしてくれることがあるので、気晴らしに一人で外出したり、息抜きしたりしています。

704 私（里母）が言い出したことですが、夫も実子もよく理解してくれて、家族の一員として、養育している子供のことを、受け入れてくれていると思います。子供達が私の思う以上に、将来にわたって関わるつもりでいてくれたことは、本当にサプライズでした。私も主人も、障害者施設で働いてきた福祉従事者ですが、自分達の子供3人を巻き込むことなので、今のところ、障害者の子供は、お預かりする勇気はありません（大変さは、それなりに分かっているからです）。実子に迷惑をかけないくらい、実子が大きくなった時に、それは考えたいと思います。

705 只今、預かっている里子は、大きく話せば理解できる年齢であることと、自分の意志ははっきりしているため、自立できるよう、手助けできればと思っています。私共の周囲の方々も理解して下さり、サポートして下さることは、とても有り難く思っています。

706 子供がとてもかわいい。子供と生活することができ楽しい。特に、里子だからといって、特別どうとは思っていない。

707 子供は可愛いです。家族や親戚も、家族の一員として認めて、関わってくれるので、感謝しています。喜んで里親をしていますが、近所の人には、なるべく里子であることを知られたくないと思っています（普通の生活をするため）。封筒に

大きく「発達に心配のある児童の里親アンケート」と書いてあるのは、配慮が足りないと感じました。

710 子供を育てるようになって、自分自身も成長させてもらっています。かわいくて仕方ありません。周りも皆かわいがってくれています。家が明るくなりました。

711 喜びもたくさん得ましたが、周りの方へ勧めるには、制度もサポートの少なさも、子供自身の厳しさもあり、よほどの条件が整っていないと、お勧めできません。我が家で、虐待児を2年半受け入れ、保育園入園でき、降園後や休日など、娘3人（18、21、23才）が手伝いましたが、我が家では限界になり、ホームに戻りました。今は知的障害児施設に入所しています。とにかく、24時間いきなり委託は、避けてほしいです。

713 子供を養育して、毎日楽しくやっております。子供の成長していく姿に、喜びを感じております。

715 子供と共に成長していくことが、とてもうれしく感じながら、毎日を送っています。私は、里親としての意識はしていません。この子の母親であるということだけです。いろんな事を、あまり複雑に考えない方がいいと思います。自然体でいいと思います。

716 季節、週末里親を経験し、多くの子供が、実際に施設で生活していることに驚き、自分達に出来ることの少なさに、愕然としました。1人でも多くの子供が、家庭（里親）のことで、安心して暮らしてほしいと、強く願います。里子の成長に関しては、実親の病歴や生活習慣など、分からぬ事もあるので、定期的な発育チェックや相談をしてほしいと思います。

722 子供は毎日成長しています。そこで、私の仕事（体力的）は、少しづつですが、楽になっているように思えます。

724 自分の子供がいないので、「子供がいる」ということが、どういう感じなのか、全く分からなかったが、いざ子供が来てみると、最初は「預かっている」という気持ちが強く、気を遣っていたが、時間が経つにつれて、「親」という感覚、自覚がどういうものなのか、分かってきました。子供への責任は、里親ということで、多少違いはあるところもありますが、今の気持ちは、親として子供への責任があるように思います。「里親だから」といった以上のものがあり、本当の自分の子供というか、この子が家にいることが、当然になりました。

726 里親子ということを、周囲に隠すことなく、時として、ご協力いただき、大変ありがたく思っています。いじめもありましたが、学校へあししげく通い、校長先生をはじめ、講師の方々にまで、ご協力をいただけました。

729 出入り10人、18年程の里親を経験しました。成人に達した子が2人おります。現在は、中1、4才の女の子が2人、共に生活しております。どの子も可愛さという点では一緒です。人間関係がうまく作れなかった家族の間で育った子は、なかなか人を信用できませんから、いろんな事をやらかします。他者の言葉は受け入れられないですから、未熟な幼稚な側から見ていれば、すぐ解る事でもそうせずにいられない訳が、血も含めてあるのです。自分本来の気持ちを見つめ、考えを深め、行動を決定していく、責任のある生き方になるまで、見守り続けていくのが、親代わりの務めと思っています。

732 言うことを聞いてくれる時は、とてもかわいい。根本の生活のために言うこと（ルールを守る、人との約束を守る、思った通りにならない事を受け入れる、食事をみんなと一緒に出された物を食べる等）を聞いてくれないので、どうしていいか分からぬ。優しく言っても説明しても、ギヤーギヤーわめいて悪態をつくので、怒る以外にできないのが悩み。自信がある人がいるのが不思議。実子が3人いて、一番近いお兄ちゃんとケンカしたり、遊んだり、ふざけ合ったり、影響を与え合ったりしているが、お兄ちゃんにとつても（小4）辛い時期があった。将来は良い経験になると思う。

734 とても性格の良い子で、一緒にいて安心します。この

ような子を養育できて、うれしいです。

735 子供を中心とした生活になり、早9年3ヶ月余りになります。今では、実子同様になり、いつも家庭の中心にいるのが自然な状態です。学校での出来事や友達とのやりとりなどを、楽しそうに報告してくれたり、近所の友人達と、元気にサッカーや遊びに熱中している様子を見る時、親としての大きな喜び、楽しみを与えてくれます。又、時折、反発したりもするようになります、これも成長の証と受け止めて、自他共に成長していきたいと思います。

736 委託を受けて、まず感じることは、子供達が一般常識的な事が身に付いていないことです。短期間の委託だと、マナー等をどこまで教えていけばいいのか、考えさせられます。特に、子供が小さいと、実親へお帰した時、あまりきつく教えても、戸惑うだけではないかと考えてしまいます。

739 家族が協力してくれているので、とても助かります。家族の雰囲気もとても良くなりました。

743 周りの方の協力があり、まあまあ成長したことは、嬉しい思っております。今後は、何とか自分達で自立して、普通の生活をしていってほしいと願っています。

744 親族里親として、毎月少しづつでもお金を出していただいて、気持ち的にも少し楽になりました。祖母として、母親を亡くしているので、ついつい甘やかしてしまい、おばあちゃん子になって、少し困ります。

746 子供の成長、近所や周囲の協力。

747 郊外にある学校なので、生徒数も少ないので、先生方もよく1人1人に心を配っていただき、面倒をみていただけることを、有り難く思っています。おかげで、里子も何とか順調に、成長させてもらっています。

748 実子と同様に接し、冠婚葬祭にも一緒に出かけます。自慢できる子供達で、毎日がとても楽しいです。喜怒哀楽を共にし、信頼関係を築いて、大きな心で応援していますし、夫もサポート力が強く、妻である私を誉めることも多く、理解を示してくれます。最高に幸せを感じています。子供は宝物であり、私達は、自立に向けてサポートしていく使命がありますので、夫婦の連携、里親同士の連携、子供達の連携などを深め、交流を促進していきたいと思っております。

749 生後2週間で我が家に子供さんが来ましたので、孫のようすに可愛く、又、在宅で委託も行っているので、時間帯、曜日バラバラに、沢山の子供（上は2才半、下が2ヶ月）さん方と交流があり、里子にとっては、刺激のある家だと思っています。体力的に最近疲れますが、子供達から「気」のパワーをいただいていること、子供は子供の中で育っていくことが、私自身の経験から感じています。毎日が楽しく、孫はまだいませんが、娘2人（大学生21才、社会人24才）も、可愛がってくれています。

751 現在、3才7ヶ月の男児と約2年半生活している。今後、養子縁組するつもりであるが、告知の時期、告知後のフォローなどを心配している。しかし、それ以外は、彼との生活はとても楽しいものだ。近所の人達も温かく迎えてくれた。そして、見守ってくれていると思う。彼と暮らせて、本当に幸せだと思う。彼が来てくれて、本当に良かったと思う。他の誰でもなく、この子と縁があったことに感謝している。この子のお陰で、絵本の読み聞かせを、養護施設でボランティアを始めた。彼は、私の生活、意識をとても広げてくれたと思う。

752 この2~3年は、子育てが一番大変でした。家のお金の持ち出し、昼間外出したまま家に戻って来ない（警察に探してもらう）、女の子のパンツの盗み、他家のポスト荒らし。明らかにされている嘘も、決して認めない……など。約1ヶ月保護所に入所させました。退所後は、大分生活が改まりましたが、月1回、児相に通うなど、まだまだ観察中です。

754 子供がいることで、世間との付き合いができる、又、子供がいるから、地域社会への関心が持てて、子供に対して感謝

している。

756 子供達のおかげで、今の自分があると思います。

759 乳幼児期に、実親の愛情を全く受けずに育ってきた子供は、何でこんなに難しいのだろうと、実感しています。その分、私達が愛情をたっぷりかけて、育てさせていただければ大丈夫と思っていましたが、屈折した心を埋めることは、非常に難しいです。将来、この子はどんな子になっていくんだろうと、不安を抱えながらの現状です。

762 里親としての喜びは、年老いた里父里母を、パパママと呼ぶ子供の存在です。子供にとって、パパやママがどんなに必要なかを、教えられました。親として頼られる時、本当に嬉しく思います。毎日の生活の中で、この子もいつかは親元へ帰ると思うと淋しいですが、しかし、一日も早く実親のところへ帰れることを願い、子供自身の幸せを祈っています。私もだんだんと体力がなくなり、主人の助けなしでは、里親を続けることが出来ないと思っています。主人も子供を可愛がり、遊んでいる様子を見ると、私の疲れが癒されます。周りにいる方達には、以前は私の方が気を遣っていましたが、今は、私も自分をありのまま出せるようになりました。周りの方も、私達が里親をしていることが分かっているので、説明しなくてもよくなって、楽になりました。

763 子供のいない生活から一変して、2人の子供の里親となり、子供のいる生活の時間の流れの中で、自分が戸惑う時期がありました。しかし、子供の成長を通して、一喜一憂しながら、「ああ、忙しくて大変」なんて思う時、実は、こちらの方が子供からエネルギーをもらっているのかな、と感じことがあります。周囲、地域の方々の理解に支えられながら、時を重ねて実親、里親という言葉を越え、親子になっていっていると信じています。

764 里子達は、大なり小なり、心に傷を持って里親の元へ来ています。実子の時より、子供に寄り添うことを心掛けています。甘える事が下手で、ストレートに出す事がうまくできないのです。友達とうまく遊び、うまく行かなくなると、ケンカになってしまうこともあります。園より話があったりします。夜になると、実母の事、生活して来た時の事、思い出すと言葉にします。自分は捨てられたと口にした時は、ビックリしました。

765 里子を育てあげることは、結果として素晴らしいことで、子供にとっても、養護施設で育つより良い結果になる。しかし、里親の数は増えない。行政はもっとこのことに関心を持ち、行動するべきだ。岩手では、県と里親会が一緒になって市町村を回り、各種の集まりで、里親出前講座を行うなど活動している。

767 現在、7才の女の子を養育している55才の里親です。参観とか学年活動などに参加した時、周りの人達の年齢に差があり、子供自身が恥ずかしいみたいで、私から離れるのがとても辛いです。

768 小6の時、ネグレクトの男の子を預かった。現在中学3年生。最初、30,000円、3,000円と、お金を盗んだことが2回あった。けれど、よく話して聞かせ、その後はないと思う。返事はするが、行動に移らないけれど、待ってやっている。褒めてやる、有り難うの言葉で、子供は良い子になる。恩を知る子供に育てたいけれど、今いちである。親に問題あり。

769 我が家に来る子供達は、比較的年齢の高い子で、一時保護の短い期間の子供達で、お互いに慣れ親しんできたところで別れて、二度と会えない子供達が何人もいます。子供達と出会える喜びと、別れの悲しみを、多く経験いたしました。

770 一緒にいると、里親であることを忘れ、子供に依存している自分がいます。血が繋がっていないことを、認識しなければいけないです。

772 自分の子と同じ気持ちで接している。

773 委託期間が終わり、実親の元へ帰って行く時、充実した気持ちと、里子のこれから先の生活、人生に不安を感じるのと入り混じった感情で、心の中がいっぱいになります。その子の人生を全て背負うことはできないが、いつもどこかで、見守っていたいという気持ちになる。

776 里親になる前から、友人の子供として、小さい頃からの交流があります。私は、子供好きではありませんが、一緒に過ごしたたくさんの思い出の積み重ねに、今の私達の関係があると思います。それ以上でもそれ以下でもない、わりとクールな関係ですが、この縁を大切に、一生付き合っていきたいと思っています。

778 反抗期になると、古い傷として実親が問題となり、普通の子のような問題ばかりではない。里親と実親の違い、社会問題等に頭がいき、里親ばかりでは、反抗についていけない。里親宅に来た時からの、心理カウンセラー（同性の）の目が必要となる。今は、それがないのが残念だ。

780 里親に限らず、子育てをしている親ならば、誰でも感じることであると思うが、今さらながら、自分の親に対する感謝。一緒に暮らす家族としての愛情が高まり、幸福感がふくらんだ。家に来てくれてありがとうという気持ちです。

781 まだ2才と3才。一番かわいい年齢で、とても愛おしい。泣こうが、2人でケンカをしようが、自分の子供がケンカをしていると、カッとして怒ってばかりいましたが、預かった子達のやる事、なす事、みんな愛おしいです。

784 大勢でいることは、日々その分喜怒哀楽の連続ですが、それを楽しんでいます。

785 親に見捨てられてしまった子の不信感は根強く、高校1年生から預かった子なので、期間も短く、してあげられる事も限られています。彼を支えてあげるべき私達も未熟で、彼には、「こんな家庭もあるよ」ということを見せてあげ、生活のベースを提供してあげることくらいしか出来ていません。それでも、何か事があるごとに、家族で話し合って、出来る限りの思いやりを持って、接してあげようと努めています。

786 血縁関係はなくても、家族になれる素晴らしい制度があり、私達夫婦にとって、幸せなことだと思います。里子が大きくなつて、私達夫婦で良かったと言ってもらえるよう、愛情を持って育てたい。毎日子供の成長が楽しみです。

787 親としては、喜びの方が多いと思いますが、子供の苦労を思うと、切ないです。ひたすら守られ愛されるべき時期を、施設で過ごすことは、子供の中に大きく消えない形となって残ります。実親に期待できない子供は、すぐに施設ではなく、里親のもとに行くべきです。小さければ小さいほど、それだけで子供も親も、苦労はまったくなくなると思います。

789 実子の時とは違う戸惑いもあったが、試し行動を過ぎると、実子にはなかった良いところが見えてきて、とても可愛くなつた。良い意味での距離感が保てて、余裕のある子育てができる。

790 里親登録して約7年。里子の委託を受けて5年が過ぎました。振り返ってみると、様々な事が思い出されます。児相の紹介で、乳児院で初めて会った時のこと。それから2回通い、マッチングしたものの、なかなか慣れてくれず、泣き出してしまい困ったこと。そして、妻と長男と3人で迎えに行った時の緊張感は、今でも昨日のことのように、ありありと目に浮かびます。里親の元に来てからも、緊張してか、なかなか心を開いてくれなかった。ようやく笑顔を見せてくれた時の嬉しさ、風をひいて熱を出してしまった時の看病、家族揃っての旅行の楽しい思い出など。一生懸命支えてきたことが、子供と私達のより良い関係を作り、成長する上での良い記憶になると思います。

792 子供が来てから、今まで以上に生活が楽しくなりました。子育ては大変なこともありますが、それ以上の喜びがあります。突然、我が家に家族が増えましたが、近隣、地域の方々

は、自然に接して下さり、とても感謝しています。

793 委託して5年目。小学校低学年という年齢なので、実親の存在についても、面会が全くない状況でもあり、今ひとつ自分は里子であるとは感じていないし、自分達も里親であることを感じないでいるところがあったりします。しかし、この先の事を考えて、「ほっとサロン」（里親同志の集まり）に参加したり、地域の方々には、里親をしていることは伝えています。家庭が、地域の中で閉鎖的にならないように、これからも心掛けていきたいです。

794 子供が成長していく姿を見られることに、喜びを感じます。

797 学力が低く、将来進学するにしても、受験できる学校がなかなかないので、心配しています。

799 子供はとにかくかわいい。天から預かった宝物です。子供の傷ついた魂を、少しでも癒してやりたい。

800 家族となつてもうすぐ4年。毎朝無事に学校へ行ってくれるかと、ハラハラしています。スポーツを習わせ、上下関係や努力することを学ばせながら、良い成績がとれるように応援しつつ、第1のファンとなっています。人に優しいところ、おしゃべり過ぎる程明るいところ、これから思春期に入つても、伸ばしていけたらと思っています。

801 一緒に暮らして、ひとつの家の中でごちゃごちゃ過ごすのが家族で、このごちゃごちゃを味わって、密な人間関係の体験を通して、自分というものができあがっていくと思うので、それに里子を引きこめた、この子はラッキーだと思っています。そして、私達もこの子を通していろんな関わりが広がり、人生が豊かになっています。

803 この子と出会えて幸せいっぱいです。ご尽力いたいた多くの方々に、いつも感謝しております。子供も日々目に見えて成長しており、嬉しい限りです。多くの方々に祝福していただき、喜んでいただき、何ひとつ不満などありません。

805 お母さんと慕われて、とても嬉しく可愛く思っています。親戚、近所からも家族として受け入れられて、恵まれていると思います。

807 アンケートの「障害」「発達に心配」には当てはまらなかったものの、多少の遅れを感じています。でも、里子がそのことを何とも感じず、前向きに成長していることが、とても嬉しく思います。里子と意識することなく、普段は実子と変わりなく生活しています。

808 子育てを楽しんできたが、反抗期、思春期に入り、かなり難しくなつてきている。しかし、生活の中で、たとえ1%、10%の子育てでの喜びがあれば、それで良いので頑張っていける。

809 特別養子縁組希望で、成立するまで1年間、里親という立場で子供と関わりましたが、私達の場合は、最初から里子というより、「うちの子」と思って育ててきました。生活が180度変わり、体力的には大変ですが、子供への愛情は、私も夫も同居の義母も日々増して、今ではかけがえのない、何よりも大切な存在です。今回のテーマ、障害は今のところ見られないので、それが愛情にどう関わってくるか分かりませんが、今の気持ちでは難しさは感じても、愛情には変わりないように思います。

810 委託された当時は、とても困っていたような気がします。アンケートにあてはまるものばかりでした。しかし、今では楽しく子育てをし、私を「お母さん」と呼んでくれる息子に感謝しています。これまで私を支えてくれた主人、実家の家族のおかげで、家族になれた気がします。

811 里親になれて良かった。

812 里親となり、一番思ったことは、「楽しませてもらっている」ということ。自分が子供の頃してもらったこと、或いは、できなかつたことなどを、里子と一緒に歩み、もう一度違う視点から、人生を進んでいる状態です。血は繋がっていないのに、

考え方など似ている点が多く、いとおしく可愛いです。何か問題が起きた時などは、夫と相談して解決しています。近所の方も、ほとんどが温かく見守って下さっています。

813 愛情を持って生活していれば、多少の困難は克服できる。

815 私達は、1才5ヶ月の子供を預かっていますが、毎日子供が成長していくのをみていると、楽しくて家族全員が明るくなっています。養護施設には、家庭の暖かさを知らずにいる子供がたくさんいると聞いています。もっと里親を利用して、子供達の明るい笑顔が見られるようになってほしい。

816 実子ではないが、実子のように思える。子供がいるだけで、家の中がとても賑やかになった。

820 今の里子は発達障害ですが、大人が偏った思いで見ているような気がします。普通にまではいかなくても、普通に大人が子供に合わせていています。本人は気づいてくれないかも知れませんが……。この子供に何でもしてあげたいと思う気持ちです。

821 私達の元に住み始めて、まだ2ヶ月弱の里子。私達も里親として初めての受け入れです。女の子で寄宿舎に入っており、週末、祝日等の帰宅、学校休校日の預かりですが、10月には我が家から2週間、校内学習で通学しました。学校からの指導は厳しく、しつけを行ってほしいと要望があり（卒業後、本人も自立を希望）、育て直しを強く指導されました。朝、規則通りに起きない、食事も遅く食べ終わる、食事の好き嫌いが激しい、何事も動作が遅い、整理整頓ができない等。しかし、慣れない環境の中、急に学校、舎の生活に押し込むだけの勇気もなく、本人の精神面を考慮しながら徐々に……と、私は考えていましたが、再度学校から強く指導され、私も悩みました。児相に相談しましたが、まだその後の連絡はありません。

822 孫のように可愛く、よくなついている。天真爛漫で性格も良く、子育てのやり甲斐を感じる。近所の方や同級生の親達にも理解があり、何の問題もない（里子は9才小3で、6年目の養育中）。

826 亡き妹の意志を引き継いで、我が家へ迎え、普通に生活しております。私達は子供を持ちませんでしたので、当初は大変な事もありました。忙しくはありますが、充実もしております。将来、法的関係等心配な事もありますが、出来る限り子供に不都合がないようにと、思っています。

828 今回、突然茶封筒が送られてきて、表に大きな字で「発達に心配のある児童の里親アンケート」と書かれていたのが、大変不愉快でした。ポストの中の郵便物は、養育家庭の児童や家族も見ます。「自分の事を親（里親）は、『発達に心配のある児童』だと思っている」と誤解して、子供が傷つくとは思いませんか？ 確かに養育家庭の子供達は、心に傷が多少はあり、養育困難な部分もありますが、子供自身は、「ちゃんと発達したい（大きくなりたい）、大人になりたい」と思っています。だから、少しでも子供達が誤解しないように、封筒表記に気を遣っていただければ幸いです。

829 ・「子育ては自分育て」とよく言われていますが、育児が始まつて初めて痛感しました。夫婦だけでのんびりと気ままに暮らしていた頃とは、生活環境も人間関係もガラッと変わり、新しい発見の連続です。今のところ、とても楽しく生活させていただいています。

・困っていることなどは無いのですが、「真実告知」を来年あたりにしようかと考えているので、その時に少し悩むかもしれません。

・大阪で、里母が逮捕される事件がありました。心が痛みます。彼女を救う方法はなかったのかと、いろいろと考え込んでしまいました。

830 他人の子であるため、我が子以上の気配りが必要で、責任の重大さを感じながらも、日々の成長が楽しみである。あ

る一定の期間の養育で、里子は親の元に帰る予定であるが、実親が若いことや、いろいろな条件もあり、親元でスムーズに養育されるのが、心配な面もある。

833 私と子供の年齢差が48才あります。成長するにつれて、考え方などのギャップを感じることが多々ありますが、今年6月に思いがけず、乳ガンの手術をして（今も治療中です）、改めて、子供は私の大きな支えであると実感しました。

834 テレビで、「子育ては発見」と言っていましたが、同感です。里親になってから、家族（主人、両親）の良い所、もちろん悪い所も発見。そして、感謝の気持ちを再発見。もちろん、子供達に対してもです。いろいろな発見を楽しみ、共感し、共に成長したいと思いました。まだまだこれから山あり、谷あり。このアンケートは、初心に戻る一歩にしたいですね。

835 委託された時は、発達にいくらかの遅れがありました。現在は問題なく発達し、知能、精神共に順調に成長しているようです。家族から受ける愛情や環境が、子供の発達に大きく影響することを実感しています。

836 養育家庭として受け入れされる前に、徹底的に一般常識を身に付けさせるべき。「感謝」「正義感」「挨拶」、少なくともこの三つくらいは、教えておくべきだったのでは？ と強く思う。子供の目の前で処分される残飯、どこからか入る月1の小遣い。子供達は、施設の職員が順番にお金を出し合ってくれていたと思ったそうだ。何も知らず、当たり前のように生活してきたそうだ。我が家に来て、小遣いの説明をし始めて、「そうだったんだ。みんなは知らないよ」と言われた。きちんと教えなければいけない事を、何一つ知らずに、今もその施設で子供達は生活しているのでしょうか？ 余って処分するくらいなら、最初から少なく頼めばいいものを。特に、牛乳は処分回数が多かったそう。何故、そんな無駄な事をするのでしょうか？

私は、里子が多少悪いと思われる背景には、こうした施設での生活も影響しているのではないかと思います。子供達を事務的に扱い、同情のみで面倒をみている職員にも、問題は大いにあると思っている。

838 子供を育てる責任の重さに、押しつぶされそうです。一人前になった子供を見られたら、喜びが感じられるのかもしれません。

839 毎日、子供の仕草や行動、お喋りなどで、楽しませてもらっています。笑顔はもちろんのこと、泣いても怒っても全てが可愛くて仕方ないです。私（里母）によく似ていると言われます。「本当の親子のようだ」とも。これから様々なことを乗り越えていかなければいけないが、一緒に心を通い合わせ、乗り越えていきたいです。元気に優しく、何かあったら周りの人に助けてもらえるような（この子なら助けてあげたいと思われる性格）子に、育っていってほしい。私の母は、最初私が里親になることに、難色を示していたが、いざ子供に会うと、そのような不安はどこへやら。とても可愛がってくれます。

843 子供は親が育てるのが当たり前だと思う。親の勝手で、生まれた後は可哀想。自分で産んだ子供くらいは、周りに迷惑をかけないようにして、育てて欲しい気持ち。特に、母親に対して、子供のことを大事に育ててほしいです。

845 実子がいないので、里親になり、子供にいろいろ教えてもらいました。まだ1人しかみていないので、他の子はどうかとか考えてしまいます。でも、毎日はとても楽しいです。これからも、子供と一緒にがいいです。

846 ・まだまだ「イヤイヤ」が多いのは当たり前ですが、実子に噛みついたり、つねったり、叩いたりされると少し悲しくなる（よく可愛がってくれているので）。この頃はやり返していますが……。

・大人になって、自立できる子になったらいいなあと考えます。我が子も同じように思っていますが……。

・もっともっと色々な事情の子がいることを知ってほしいし、

声を掛けるにしても、もう少し遠慮した言葉で声を掛けてほしい。

847 最初は戸惑いがあった。虐待されて、保育から児相へ、保育所から私共に。県委託は2ヶ月間での養育から、長期委託になった。今現在8年目。家族の一員として、又、自分の子として養育をしている。いつ家族の元へ帰せるのかが問題である。相談者がいない。子供の判断か里親の判断か?

848 実子のように養育をしていますが、父母の気持ちをもう少し感じてほしいですね。

852 要保護児童の委託後の養育には、色々な目的、目標があると思いますが、最終的には、1人の子供本人とその家族、家庭に対するより良い方向付けのための支援が、私達（社会的養護として関わる人すべて）の役割と考えています。しかし、現実には、そこまでの支援はほとんどできません。里親には、そのような事まで口を出すなと言われているに等しい現状があります。

853 里子を迎えて早1年が過ぎました。予想以上に生活が全く変わってしまったため、大変さもありますが、日々、子供の笑顔に救われています。彼女が一人ぼっちで乳児院に行っていたら……と思うと、私が今生きている意味があるなど、力が湧いてきます。里親がもっと広がり、普通に受け入れられるようになることを、強く強く願います。

854 最初はいろいろありましたが、今では素直で自由に、伸び伸び自信を持って成長してくれています。我が子と同様の愛情を感じています。

855 里親になってちょうど1年です。2才だった子が3才になり、どんどん可愛くなっています。昔からの友人は、下の子でも中学生になっているので、いろんな物をいただけて、助かっています。里親という言葉が、一般的になってきているようになります。

857 子供は常に「かわいい存在」という訳ではありません。むしろ、こちらの気持ちとはうらはらに、反抗的な態度をとったり、他人に迷惑をかけたり、頭を悩ませる種です。それでもきっと、そのような行動の背景には、子供なりの理由があるのかもしれません。そういう子供の苦しみや悩みにより添いながら、生活できればと思っています。そのために、自分を犠牲にするのではなく、無理をしないで、できるだけ毎日を楽しく暮らしていくことを、心掛けています。「子供は決して親の思う通りには育ってくれない」、そう思って、気楽に子育てを楽しんでいければ……と思っています。

858 実子がいないので、里子を養育することにより、「親としての喜び」を感じることができます、本当に里親になって良かったと思っています。

859 養子縁組3人、実子1人と、4人の子供達に恵まれたことに、とても幸せを感じ、感謝の日々を過ごしております。養育中は、苦しい時がなかったとは言えませんが、懐かしい思い出として残っています。高齢（83才）になり、養育が出来なくなつたことを、とても淋しく思っています。若ければ、健常児、障害児の区別無く、共に育ちあえるのにと、残念です。

863 中長期の育成計画を提出させられ、それに基づいて養育していく中に、当方のように大きな子は、実親との連絡が自由な場合が多い。里親として、「実親が守れなかった責任と今後」を話し合いたいが、それは出来ない。親の責任がほとんどであるから、母親同士または父親同士、親として同士話ができると願うこともある。又、措置解除後、独立先を全く秘することがある。児相に裏切られた思いだ（担当者にもよると思うが）。

870 子供が家に来て、やっと私達夫婦も家族ができたと実感しました。血がつながっていないことは関係ない、日々の暮らしがあります。他の家族と同じように、毎日を送っていますが、やはり、告知のことは常に頭にあります。子供の成長を楽しみながら、子供が持つて生まれた運命を、一緒に背負う覚

悟をして里親になって、今は良かったと思っています。預かった大切な子供の人生を、少しでも幸福にしてあげることが、私達の幸福となります。

873 私の養育している子は、もうまったく私の子供になって、家族として自然、天然となりました。双方、もはや離れられない家族であり、私も生きる力を子供からいただいています。

875 実親からの虐待による保護のため、委託される子供達は、親の反省（？）による引き取りでした。然し、帰った後の子供達は、教護院に入った子、再びリストカットを繰り返し、現在音信不通。又、ある子は、クラス集合写真に見られる、淋しそうな暗い表情。幾日間か、愛情をかけて生活した子供達。実親より出過ぎることのない里親。なかなか割り切ることができません。

877 誰でも子育ては大変。戦争だと言うが、やはりそう……。ストレスが溜まることもあるが、子供と共に成長できればと、長い目で見て、結果は焦らないということです。

878 毎日顔を見るたびに、笑顔にさせてもらっていることに、里子に感謝しています。わずかずつではあるが、里子の成長を日々見られることは、喜びです。将来が楽しみです。2才で乳児院から我が家に来て、5、6年はこちらの思いが通じないため大変でした。

879 現在61才になり、6才の女の子の養育をしております。世間では、「お孫さんですか」と聞かれるが、「里子です」とはつきり言います。人々は驚いて、その次には「よく面倒をしますね」と言われますが、私にとっては宝のようなものです。常に若い心と健康で頑張れます。

882 里子がこの世に生まれた時から、私達に授かるようになっていたのでは……運命を感じます。

884 養育している子は、3才8ヶ月の元気な明るい子で、とても可愛い。上に6才の長女がいるが、とても良好な姉妹関係になっている。又、夫も子供好きで、とても良い親子関係が保てていると思っています。

886 子供は親を選べない。疎まれても尚、実親を慕う里子を見て、胸が痛む思いを味わいました。保育士をしていたこと也有って、我が子もそれなりに自立し、夫も定年が近くなつた頃、自分にできるボランティアみたいな気持ちで、里親になりました。過ぎてみれば、私達の方が、里子から元気をもらっていることに気付きました。

888 ・里親制度のあったおかげで、かけがえのない子供と共に暮らせて、親になれた幸せを感じています。

・子供時代はすぐ終わってしまうので、温かい家庭や子供の居場所を、しっかり守ろうと思いました。

・子供が大人になって、家庭を築いた時、私達との生活が参考になればと願っている。

・里父がとても心がやさしいので、子供にとっては幸せだと思っています。

889 いろいろ困ったこともありましたが、今は、スポーツの話を楽しくできるようになりました。社会人として、自立してくれることを信じ、期待しています。

890 今までに、2人の里子を養育しました。最近親元に帰った子供は、約1年預かり、2才1ヶ月でお別れをしました。帰す前提で預かったので帰しましたが、別れてからの淋しさは、想像以上でした。今でもベッドに寝ているような気がして、名前を呼んだり、遊んでいた公園に行くと、遊んでいた姿が浮かんでき、動けなかったり、靴箱から、小さくなつて履いていなかつた靴が出てくると、その靴を抱きしめて、涙が出たり、しばらくはノイローゼのようになりました。しかし、児童相談所の担当の方が、話を聞いてくれて、一緒に涙され、少し救われたような気持ちになりました。私達は間違っていなかつたんだと思い、前を見る事ができるようになりました。

891 子供が2人になった時（下の女の子は2才で来た。上の

男の子は6ヶ月で来て今は4才)、周囲の方々は、大変でしょうと言っているが、私達は、子供と共に生活することで、元気をもらっていると思う。

892 養育している子供達。早く親元に帰り、幸せになってほしいと思っています。

893 里親のレスバイトの制度を徹底してもらいたい。

903 初めての子育てだが、やってみて、子育ては本当にやってみないと分からぬ。やってみると、奥が深いと感じる。

・親という存在に共感できるようになった。大変さが分かる。親の立場が、理解できるようになった。

・子供の人格があると感じた。

・子育ては体力が必要。

・意義がある。

・自分が変わる。

・落ち込むことも多い。

904 もっとゆとりのある社会になってほしいものです。辛い思いをした子供が、自分の足でそこそこ歩んでいける力を付けるのに、きちんとお金が使われるようになります。

906 養育している子供、実子(3人)について、こういう時代なので、将来の事(まだまだ先ですが)を考えると、身が引き締まる。高校、大学を卒業したら、しっかり自立できるよう、今のうちにたっぷりの愛情と、生きていく力を付けてあげなければ、と思う毎日です。下は4才から上は高校生と、少し年は離れていますが、将来お互いに助け合って、生きていくよう願っています。

907 里子として3才より養育しています。私がいつも持っている気持ちは、朝夕抱っこして話を聞いてあげること。保育園のこと、学校のこと。より良い親子の関係を築いていくことです。親子の信頼関係が大切です。家族もいろいろ応援してくれますので、助かっています。まだ告知していませんので、それだけが心配です。子供は、本当の親として信じ切っています。

910 子供を育てる喜びはあるが、なかなか思うように育ってくれるのは、自分の指導のままでだけではないように思う。通じなくて、入っていけないカベがある。例えば、ひらがな3文字の読み方だけで、覚えるのに2時間もかかる。それでもLDとは認識されない、できないという結論がテストで出た。しかも、やってもらうのに6ヶ月を要した。

911 ・子育てを通して、色々と学ぶことが出来たことは、有意義だったと思う。

・同じ育て方をしたつもりでも、子供の性格などにより、なかなか思うようにはいかなかつた。

・お金儲けで里親をしているのかとか、子供をまともにしつけられないのなら、里親なんか辞めてしまえとか、名前も知らない人から、電話で苦情を言われた。

912 私の場合、里親になっていろんな経験をさせてもらっているのと、周りの人達に恵まれていて、今のところ、楽しんで子育てをしています。実子となるべく同じ経験を、と思っているのですが、体力や実子の環境で、なかなか思うようにできません。でも、高2、中3の娘が、とても協力してくれるので、親としては、有り難く思っています。里親をしていくことで、娘達にも良い経験となり、友人の子供の将来、里親のサポートができることをしたいと、話してくれています。

914 実子がいることで、初めての子育てなので大変だが、有意義だと感じています。多弁で落ち着きがないなどの、里子に特有な症状は気になりますが、日常生活に支障をきたす程ではないので、長い目で愛情をかけて、見守りたいと思います。

918 里親としてというか、母親として、やり甲斐を感じています。体力的にはきつくなってきたが、子供を育てることがなければ出来ない体験や、人間としても成長させられたという実感はあります。イライラして子供にあたることもありますが、やはり、育てている子供達はかわいいです。かけがえの

ない存在です。

920 里親であることを、小学校や子ども会で公言しており、意外と温かく見守って下さるので、とても感謝しています。子供と本気でケンカして睨みあったり、吹き出したりして、大変な毎日ですが、自分がもっと年をとっておばあさんになった時に、小学校までの往復1時間の道のりを、子供が落としてきた上履きや、けんばんハーモニカを拾いに、何度も付き合わされて、ゲッソリと細くなってしまった今年の夏を、思い出すのではないかと思います。

922 10年間、男の子を養育させていただきましたが、今年の1月16日、児相の方がみえて、連れて行かれることになりました。今は小学校6年生です。最初は、保護所にいました。そして、施設に連れて行かれてしまいました。児相の方は、休みに子供に会わせてくれました。本人の気持ちはなんだか分からぬまま、遠くの施設に連れてこられました。本人は、児相の方に合う前に「去年は、今までママをこまらせてごめんなさい」と言っていました。「ママ、6年生になつたら、ぼくいい子になる」と言っていたところでした。これからという時に、連れて行かれるのが、本当に残念でたまりませんでした。本当は気持ちのやさしい子でした。又、里親の家に帰ってきてもらって、養育したい気持ちです。

923 大阪で起きた里母による虐待事件について、決してあってはならないことですが、でもそれは、自分にも起こりうることだと、強く感じております。自分自身がまだ未熟な里親ということはありますが、養育中の子供が、利発で明るく、とても良い子である反面、自分に対して挑発的、反抗的な態度をとる時など、大阪の事件のことが頭をよぎります。幸い、里親友達、児相のワーカーさんなどに、すぐに話が出来る環境なのが救いです。夫も、感情的な私の気持ちを理解し、適切な一言を言ってくれるので、助かっています。

924 自分自身は、家族ができたよろこびを与えてもらえたが、真実を知り、成長していく中で、子供の心の変化(深く悲しむ等)が心配です。

925 里親ボランティアの立場の時は、お客様を迎える感じだったけれど、一緒に生活してみると、子供の育ってきた生活基盤が見えてきて、摩擦も増えている(言葉がきたない、食べ方がきたない)。しかし、徐々に家族の絆ができるのも実感している。周りの人からのことは、あまり気にならない。最初は奇異な目でみられたが。

926 子供がいることで、喜びや楽しみをたくさんもらえて、里親になり本当に良かったと思う。子供がいなければ味わえない体験もでき、育てさせていただき、感謝している。子供のために、これからも頑張っていきたい。神様から与えられた使命だと思うので。

927 日々成長していく子供と共に暮らしているのは、楽しい。子育てほど素晴らしい、やり甲斐のある仕事はないと思います。

931 子供はとてもかわいく、生活は以前とは変わったけれど、子供とは毎日楽しく過ごしていますが、里父の父が認知症と糖尿病があり、子供を遠出させたり、里母の実家(長野県)へ帰省させたりができないのが不満です。

933 色々里子に対する想いというのは、里親も一緒で、今中学1年生ですが、勉学のことで頭を痛めています。塾へ行かせ、ボランティア家庭教師さんにお願いして、それでも、その場だけの勉強になる。何とか家庭でと思い閑わると、親子ゲンカとなり、どうしたらと思う毎日です。塾の講師は、「周囲がやり始める2年生くらいになったら、やる気を起こしますよ」と言われるのですが、性格的に、そうなる時には、やる気をなくしてしまうのではないかと思っています。手先が器用なので、将来はそんな方向へと本人に話しているのですが、本人もその気のようだが、「まずは基本となる勉強だよ」と説明し、受験の

時の幅を広げてあげたいと思っています。でも、親にはやさしい子です。先生方からも、私達の関わりや育て方に対して、お誉めの言葉もあります。そんな時はうれしいですよね。

934 私達が育ってきた時とは違う、子供達の生活環境があり、これらが子供に負担をかけているのかなと思います。子育てにしろ、子供の援助にも、きめ細やかな手立てが必要かなと、日頃感じています。

935 子供が来てから、近所や友達、周りみんなが、子供をあたたかい目で見て下さり、とても協力していただいている。とても恵まれている状況にいます。里親として、毎日を楽しく過ごしています。私達家族は、みんな名前で呼び合っています。どんな状況でも、本当の親に対して、産んでくれたことに感謝する心を持たせるように、育てています。血のつながりがなくても、しっかり伝えてあります。本当に来てくれて良かったです。

936 里父、里母、里子との関係で、母はしつけをきちんとしようとするあまり、口うるさくなり、子は段々聞く耳を持たず、反抗的になる。父は、そんな子を可愛がるので、父にだけ甘えるようになる。母は、しつけを父にしてもらおうと、自らは沈黙するようになる。現在の私の家庭の状況である。コモンセンスペアレンティングの研修を受けたので、改善しようと思っているところである。

937 華一輪、一輪ほどの愛、爛漫の春という気持ちです。

938 自然に子育てができます。

939 里親トレーニングが不十分の時点で委託されました。その後のフォローはありましたが、決して頻回とは言い難く、不安を常に抱いておりました。現在、特別養子で、児相との関係は全くなくなりましたが、年齢が上がっており、幼児期とは異なる問題が、次々と出てきます。相談相手が学校、児相、小児精神科ドクター、いずれが良いかも迷っており、ただ抱え込むだけで、行動出来ていません。

940 ・子供との信頼関係ができてきたことを感じられたこと。

・子供の行動などの安定が、少しずつでも見られ、良い方向に向かっているのを感じる時。

・良い事ではあるが、親元に帰す時のさみしさ。

・子供を信じる事、誉める事、自信を持たせる事。怒るのではなく、言い聞かせる事の大切さを、改めて知り、勉強しました。

941 我が家に来て1年以上経ちましたが、かけがえのない存在です。実子のいない私達夫婦に、たくさんの喜びを与えてくれます。私の母や周りの人に支えられています。周りの方々が、とても理解を示してくれて、安心して子育てができます。初めは戸惑うことばかりで（今でもそうですが）、戸惑いながら、どうすればNちゃんが安心して過ごすことが出来るかを、いつも考えています。特に、母がNちゃんを可愛がり、会えない寂しがり、Nちゃんも、「おばあちゃんに会いたい」と言っています。日々、少しずつですが、親として成長させられています。

942 養育していると、子供に教えられる事が多々あり、子供がいなかつたら、世の中に遅れてしまい、何も知らずに人生が終わる。生きているって素晴らしい。子供さんに感謝感謝です。育てるのはとても大変です。でも、心の支えになっています。

943 毎日が大変ですが、はりがあるというか、有意義で楽しく過ごせています。

945 我が家にこの子が来て、もう6年になります。最初は、少し障害があるのではとも思ったのですが、知的な遅れもみられず、現在では安心しております。ただ、母親も兄弟も知的な障害があるようで、それをこの子にどうやって伝えたらいいかと思い悩んでいました。昨年、この子が本当の親に会いたいという思いが強くなり、児相と相談して、会うことができました。

まだその時は小1ということもあり、母親の障害ということにも気付かず、その時はそれで済んだのです。しかし、将来のことを考えると、私が決めることではないのですが、例えば、18才になり、母親と一緒に生活することにでもなれば、その子が母親と兄弟の世話をしなければならないかも知れないし、その子が子供を産む時に、そういった知的な障害の子供が生まれる可能性は、普通の人よりは多少高くなるかも知れない。そういうことを、今後どうやってこの子に伝えてやればいいか。でもやはり、正確なことは言わなければならないと思います。何も言わないまま18才にさせてはならないし、18才の時は、自分のおかれている状況を考え、そこから将来のことを考えることができる人になってほしいと思います。それが、その子が我が家から出る時の、最低の条件だと思います。

948 現在、9才の男の子を育てて7年になります。とても愛おしく思っています。毎日元気に学校に行き、帰ってきます。このまま素直に成長していってくれたらと、強く思っていますが、本人は、私達が実親ではなく、里親ということは知っています。先日、「お母さんが僕を産んでくれれば良かったのに」と言われました。お母さん大好きと、毎日言ってくれますが、いつまで言ってくれるのか楽しみです。今の生活が、長く長く続くことを願って、遠慮することなく、喜怒哀楽を出しながら、子育てしていきます。

951 以前、発達障害の子供（小2年女子）を委託された経験から、

・学校や近所の方々の理解と支援をいたただかないと、大変である。

・里親に委託されるケースは、親が子供に対しての愛情が不足している場合が多いので、最終的に、親と子が一緒に生活できるまで、気持ちの方のサポートが必要だ。

953 息子夫婦に代わって、養育の難しさと責任の大きさを感じている。まず、子供達の行動規範を理解するよう、日々勉強の毎日です。

954 子供が元気に成長していく姿がとても嬉しい。まだ小さいですが、これから多感な時期になった時、養女であるということに、どのような思いを抱き、乗り越えていくのかが不安です。子供がいることで、いろいろと刺激があり、特に、同居の母は楽しそうです。

959 5人の子育てが一段落ついた頃、夫婦で登録した。心に傷を持つ子を受け入れて5年。家族一丸となって、近所の理解の中、頑張ってきた。本当に難しいと思うこともたくさんあったが、子供の立場を思うと、いじらしい気持ちで一杯になる。だんだんと信頼関係ができて、お互いに心が通うファミリーの一員となっていることが、大きな喜び。人の出入りの多い我が家。近所の方、関係者に感謝で一杯です。

960 自分の子供を3人育てて、54才から里親をやって1年ですが、子育ては張り合があり、大きな夢をもらっています。体力的に、やや衰えてきているのですが、動ける時に大いに体を使って、関わってあげたいと思います。とても楽しいです。

966 喜び、悲しみと一緒に分かち合える家族がいる幸せ。

967 里子は、委託を受けてからまだ1ヶ月半位だが、徐々に家の生活に慣れている。何より、自分達を本当の親だと思って（幼いので、事実を知らない）、頼ってくれている所はかわいいと思う。早く言葉を覚えて、意志が通じ合えるようになってほしい。家族はよく協力してくれているし、励ましてくれる。体力的に大変だが、何とかお互いを助けながら、頑張らねばと思う。

971 里親の仕事が、オープンになるような世の中にしていくように、頑張っていきたいと思う。

972 里子は、何に対しても意欲的に取り組み、友達も多く親友もいて、安心というより楽しみながら、子育てをさせていただいている。子供に対して、真実は伝えており、本人もしっ

かり受け止めています。時々、実母の話ができるくらいです。最近思うのは、私はこの子を育てるために、私自身産まれてきたでは、と思っています。私の生き甲斐、宝物です。

973 実子と一緒に育てているため、実子と里子を全く同じに……と頭で考えたり、そのようなストレスが時折感じます。そのような事がなくなったら、楽になれる気がします。とにかく、里親をさせていただき、実子があるということの有り難さ、又、親と子の関係について、色々と勉強させていただくことができ、感謝しています。

974 幼稚園の年長の夏休みから一緒に暮らし、現在は高校2年生になりました。学力的に少し心配はありますが、根が明るい子なので、助かっています。実親はおりますが、援助は期待できませんので、高校卒業後も我が家で暮らす予定です（専門学校希望）。彼女との出会いは楽しく、里親同士の関係もまた、人の輪を広げてくれました。実子（娘2人）同様、大切な娘だと思っています。

975 ・喜びもありますが、里親としての悩み事が多い。

・里親の親族、周りの方の理解、協力は重要。

・将来的問題、実父母の事など、色々な悩み事があり大変ですが、乗り越えてほしい。

976 問題行動や、こちらが一生懸命やったり言ったりしている事に、反抗的な態度をとられると、むかつく事もあるが、幼く、育ちきれていない部分を見ると、親の愛情が一番必要な時に、親がいなかった事の悲しさを見るようで、そうした部分も受け入れてあげようと思っています。

977 いつも笑ってくれて、この子に会えて本当に良かったと、日々幸福を感じています。受け入れてまだ日が浅いので、「おりこうさん」の部分が多いのですが、だんだん自分自身を出せるようになってきているように感じます。今後もありのままを受け入れができるためにも、心身共に健康でいなければいけないと思っています。

978 現在受託中の子供は、1才になったばかりで我が家にきました。実子のいない私達にとっては、この子が今ここにいてくれるだけで、最高の喜びを感じます。現在3才ですが、引き取る直前に、児童相談所での発達検査で、「3ヶ月遅れている」と言われ、将来を心配していましたが、現在は言葉も普通に出て、特に、遅れも感じていない。生活は一転し、多忙な毎日ですが、この子のいない生活は、もう考えられません。生活リズムの乱れと、少食な事が気掛かりです。又、里親という意識があるので、公園や保育園で、他の子の母親とあまり親しくなれません。

980 この世の中で、この子の事を一番分かっているのは、私だけだと自信を持つようにしています。家族や周りの人も、よく理解してくれています。

981 ・里子は、18才までは国でも社会でも、ある程度守ってもらっている。しかし、今の世の中両親がいても、生きていくのが難しい。18才以上になれば、本当に里親が必要ではなくなるのだろうか。今まで1ヶ月、3ヶ月、半年、2年、4年半と、8人の子供を養育し見てきたが、つくづく考えさせられる。

・現在、中2の双子の女の子が3年目を迎えたが、お母さんの話は一切しない。この娘達の母親になった時、本当に不安だ。初めは「おじさん」だったが、1年過ぎた頃から、「お父さん」と呼ばれるようになったのが嬉しい。

984 2人共とてもかわいく、いとおしいです。お兄ちゃんはこの頃、テレビを見ている時などに、「これ何のこと？」と、どんどん聞いてきます。勉強はあまり分からなければ、今、すごい勢いで発達しているのでは？ と思います。実験などが大好きです。弟は、どんどん自分から友達の中に入れるし、仲良くなれます。自分の気持ちもどんどん言えるように見えるのですが、繊細で、人知れず我慢したり、本当に言いたい気持ちは言えなったりします。温かい家庭で、健やかに伸び伸びと、

しっかり生きていけるように、育てたいと思います。

988 何か人のために出来る事はないかと、思い続けておりましたが、里親制度は、私達にぴったりの社会貢献と思っております。実子4人と里子は、ぶつかる事やしつくりいかない事もありますが、それぞれが少しずつ我慢しながら、毎日を楽しく過ごしております。我慢すること、周りの人に気を遣うことを学ぶのは、とても大切な事で、それが自然に出来る人になつてもらいたいです。

989 里子が家庭内で笑顔を見せたり、勉強が分かったと言つてくれたりするのがうれしい。

990 毎日の生活は、里子なしでは考えられないくらい、実に楽しくおもしろく、又、日々の成長に驚くことばかりである。たった1年しか経過していないが、随分言葉や体格も発達して、自分は男の子であると自負して、負けん気いっぽいの行動や発言に、笑える私達夫婦である。これから成長と共に、私達もたくさん経験しなければいけない、色々なこともあると思う。里親会で出会った友達や、おしゃべり広場などで相談しながら、これからも子育てを楽しみたい。

991 毎日子供の成長が楽しい。伸び伸び成長してほしいと思う。うちは女の子なので、話ができるのが面白い。主人の助けが一番の心の支えであり、両方の親の理解と助けも一番。子供との生活が、楽しく暮らせるのも有り難い。

992 11/18日、養徳院（施設）の子供達20名を、我が家へ招待させて頂き、模擬店やヨーヨー釣り、輪投げ、バザーを楽しんでいただきました。これからも、こういった交流を、深めていきたいと思います。

993 初めに受託した児は、アスペルガーと思われるような行動が多く、又、短期（1年足らず）だったので、あまりうまくいかなかったよう……。今現在お預かりしている子は3年目で、来た時に比べ、変わってくれて、先生方も驚くほどの成長ぶりで、そんな姿を見ると、里親をさせていただいて、本当に良かったと思います。又、実子の娘達のやさしさを見て、喜んでいます。

994 時に悩み、落ち込むこともありますが、私にとって、里子はかけがえのない大きな支え、存在です。優しく、愛情深い子供であると感じた時には、とても嬉しく思います。

995 障害のある里子をお預かりする時には、多くの機関の連携が必要であると共に、里子後の自立支援の方針が明確でなければ、長い間の支援は難しいのではと思う。但し、障害のあるなしにかかわらず、子供に家庭を提供していくことは、社会の責任としてなされるべきだと思う。

996 里子の将来を思うあまり、躊躇が厳しくなる里姉、里祖母に、気を遣う時がある。

997 家族に恵まれ、親族に恵まれ、地域の人達に恵まれ、幼稚園、小学校の先生方にも恵まれました。6年生の次男は、級友と共に成長してきました。次男は、今日も近所の友達と遊んでいます。2才の時、1日に何十回も泣き叫んでいた次男も、今は（11才）、1日にカッとなるのも、数える程になりました。これまでの年数で獲得できた心の安定を、大人になるまでに、もっともっと身に付けてほしいです。キレると、暴言、暴力、物を投げる次男だけれど、心は成長できると信じています。不器用でも、多少知らない事があっても、心が育てば、みんなと生きていけると思っています。夫が少々悲観的なのが、気になります。

1000 思春期の難しい時期に、共に生活するのは、結構大変です。5、10年後、子供が成長して大人になった時、何らかの「かけて」になっていればいいと思ってやっています。

1001 里子中心の楽しい生活を送っている。近所からも、とても可愛がられている。

1002 里親になって23年目に入りました。最初の子（3才から養育、現在25才女）では、赤ちゃん返り、反抗、思春期問題

等、いろいろ経験しました（自分のルーツを考え、居場所探しのための家出、反抗）。又、2番目の男の子（6才から養育、現在19才浪人生）は虐待を受け、身体にも傷があります。被虐待児特有の意思表示が上手く出来ない。身を守るためなのか、毎日のように嘘をつく。高校の時は、自分の生い立ちを考え、家出。お金の持ち出しなどもありました。これを乗り越え、今までやってこられたのは、先ず第一に夫婦の協力です。今は同志として常に2人で考え、2人で進んできました。又、亡くなった主人の両親（両親の勧めで里親になった）、実家の両親、各々の兄弟が助けてくれました。結婚前、母親になるために、通信教育で保育士の資格を取った私は、現実の子育てが思うようにいかず、ノイローゼになった時があります。その時も、家族や周りの方々が助けてくれました。だから、今があります。今も問題はありますが、何とかなるだろうと考えています。

1003 少しずつ成長していることを、生活の中で感じます。言葉でも、優しい言葉が出てくると、嬉しいですね。悲しままではいかないですが、私達の言葉がなかなか心に響いていかないので、「どうして?」と思うことが沢山あります。年齢より成長が遅いので、この先が心配です。

1004 里子との年齢差があり、兄弟がいないので、私達がいなくなつた後の事が心配である。

1007 ・子供の成長を見られる喜び。

・子供達が、日々いろんな刺激を与えてくれ、退屈しない時間が送れる。

・子供自身が、自分のおかげでいる境遇を受け入れ、力強く生きていってほしい。

1008 幼少時に、家族に恵まれない子供の心が、健全に成育していくには、時間がかかるということを、連日のように思い知らされている。でも、関わったからには、1人1人が社会の中で、きちんとコミュニケーションをとって、働くことができるよう、希望を捨てないという気持ちです。それから、今回のアンケートの封筒ですが、「障害児里親」という言葉を入れないで下さい。又、「発達に心配のある児童の里親」という言葉も入れないで下さい。私は気にしないけれど、こういうことを気にする里親は、かなり多いです。

1009 周囲や家族は、私に引き込まれたように感じているのかと思うところがあります。でも、結果が良かったら、引き込まれたことに、時折満足することもでできます。

1010 委託されすぐの時は、悩みだらけで、正直どうやって育てていこうかと思いました。でも、ゆっくりではあります、子供と気持ちが通じ合うようになり、年々心配事も減っていき、今では、日々子供の成長を楽しみに暮らしています。小さい頃は出来ない事がたくさんあり、一つ一つ出来る事が増えてきたことに、喜んでいます。今後も子供と共に成長していく親でありたいと思っています。

1011 現在小6の女の子は、まあ普通に育っていると思うが、もう少し他者への感謝の気持ちを持ってくれれば、うれしいと思う。家族は皆協力的である。近所、知人は、「えらいことしてはるな」「私にはとても出来る事ではないですわ」と言ってくれるのですが、そうではなくて、犬猫もいいけれど、人間はもっともっと大事です。一緒に苦楽を共にしてほしいと思うのです。

1012 出会いより9年目に入りました。幼い頃は素直ないい子だったのに、今は反抗期真っただ中。時々私と大ゲンカ。「そんなことをするのなら、出ていき!」絶対に言ってはいけない言葉と分かっていても、感情的に怒鳴ってしまうこともあります。主人が、10のうち8悪くとも、2が良かったらそれでいいと思わないと……と言います。世の中の移り変わりと共に、子供の養育も随分変わってきました。今は、周囲の人（主に私のウォーキングの友人）の支えもあり、元気に中学生活に励んでいます。勉強ができない子ですので、将来どういう方向に進ま

せようか、現在思案中です。間違いない人生を送ってほしい。幸せになってほしい。そのことが、私達の一番の願いです。

1015 里子の実父の面会が、月に1~2回あります。マクドナルドで食事、おもちゃを買ってもらい別れる、という面会です。子供に愛情があるのは分かりますが、子供にとっては、満足のいくような関わり、声掛けが難しく、施設にいた時と違って、里親宅へ行ったことで、全てお任せ状態になってしまっているのが分かります。子供の良さを伝え、沢山ほめてあげてほしいと伝えても、「調子に乗るだけだから、ほめない方が良い」と言う。実父自身もそうやって育ってきたのだろうと、思う事がありました。親指導の難しさを感じます。実父の頑張りなどを子供には伝え、父を慕う気持ちが育つように話をしてはいるが、こちらとしては不満も多く、逆に、期待をせずに、関わった方がいいのかと思う今日この頃です。担当福祉士に、実父との関わりをお願いしているが、ダメ。福祉士は、まだ一度も実父と会ったことがないです。親を育てないと、子供は不幸です。

10 預かった子に対し家族が出来たと思ってもらえるのはとてもうれしいが、お母さんと呼ばれるたびにきちんとしなければと肩の力を抜くことが出来ず、色々厳しいのではと思う。家族の協力はとてもある。なのでなおのこと迷惑はかけられないと思うと悩み、うつになる。

20 子どもを委託されもうすぐ10年になります。我が家の場合、家族の理解は得られず現在は委託当初とは家族の形が変わってしまいました。周囲の環境に関しては正直辛いことも多かったのですが、子どもとの関係は10年間とても楽しく私自身も助けられることもしばしばありました。子どもに対しては「ありがとう」といいたいです。

21 小学校高学年で来た里子は、親のDNA、自分の性格などしっかり出来上がって養育家族に来ているので、なれない環境での生活は大変だと思う。食事が満足になかった子、雑然とした部屋で（子どもの話の中で伺い知る）の生活。里親での生活は、最初のころはそれがよかったと思っているが、自分の過去の生活がよみがえってきた中、里親での生活が窮屈になり昔の生活が懐かしく（決してよい生活とは思えないのだが）葛藤している様子。でもでも悪いことは悪いとしっかり注意してゆきたい。あせらず、根気よく。里親業は忍耐の一言。

22 子どもを通して新しい友人や活動への参加の機会が増えて、今まで以上に充実した人生になった気がします。

24 まだ3年目なので大きな困難や苦しみはさほどありません。

25 子どもを育てるにより、私も少しは本物の大人になります。子育てで成長する&成長しなければならない&成長できるのは親の方だと思います。そういう機会を与えてくれたあの子にとりあえず感謝!でしょうか。

26 この1年間で一番感じたことは、実子と違って、今何を考えているか何をしてほしいかがすぐにピンと来ないことが多かったです。最近は会話も少しずつ出来るようになって、自分の意志みたいなものが話せるようになり、少しずつコミュニケーションもうまく取れるようになりました。まだまだこれからですが、実子と変わらないように対応していく、素直で明るく強い子に育ってほしいと思います。

27 働いているため保育園に出ています（6歳女）。私52歳。迎えに行って帰りの車の中で今日あったことなど話している時間をとても幸せに感じます。この子のためにせめてお弁当を作つてやらなければならぬ間は元気でいてやりたいと思っています。この子のおかげで私の人生は豊かになりました。

28 子どもを引き受けたときからあまりにもひどかったので、少しずつよい方向に進めるように頑張ってきましたが、なかなか良くならないので、最近は親譲りなのかな~と思っています。

29 実子の子育てのときは、生活全般に時間の余裕がなかつたが、今は二度目の子育てを楽しんでいる。来年実親の元に帰

る予定だが、本児には少々不安があり、どうしたものかと少々心配である。

30 里子が独立したときのことが心配。

31 私は親族里親ですので他人を養育したことはありませんが、年のはなれた妹を見ています。血のつながりもあり愛情は心の底からありますが、私自身の実子がいて一緒に生活をして養育しています。いろいろぶつかるところもありますが、独り立ちできるよう手助けし、自分の人生を歩いていってほしいです。

32 3歳で我が家に来て現在4歳8ヶ月。ようやく落ち着いた気がします。人懐こい男の子なので周りからも大事にされ、聞き分けも良いので大きく困ったことはありません。それでも急に泣いたりすねたり、子どもだから…と言うのとは違う不安定さが心のどこかにあったようで、私たちも理由がわからず困ることも多々ありました。私自身（里母）一人の大との時間ばかりだったのが突然子どもと二人きりで、説明の出来ない苛立ちなどもありました。1年がたちようやく心から「かわいい」と思えるようになります。今では喜びを感じながらの子育てです。皆が、新しい環境によく慣れたのだと思います。私たちは「わが子として」と言う気持ちから初めより今に到ります。それでも心の葛藤はたくさんありました。ためし行動などは学んだとおりありました。学んでなければ互いがなれるまでもっと時間がかかったと思います。ある程度の知識ある程度の心のゆとり（子どもを預けて半日一人でゆっくりできる時間など）、専門的に相談できる人（里親里子がいつでもヘルプといえる時間と人柄）etc. 里親としてやってゆくために整える環境は数知れず…と思います。全部とは言いませんが、最低限の環境を整えなければ、そこへやってくる子どもたちが大変な目にあいます。まして障害を抱えた子どもにはたくさんの世間の障害があると思います。

他の里親たちの意見として、小さい子どものほうが愛情が多くなる…素直に可愛いと思えるそうです。これは皆に共通することだと思います。大きくなつてからではなく小さいうちに里親宅にめぐりあえれば、今よりは少しは多くの子どもたちの行くべき道がひらけるのでは…と思います。

33 子育ての楽しさ大変さを感じられて楽しいです。

34 子どもはかわいい。養育里親として思うことは実親（父母）とのコミュニケーションをとっているが、引取りがあって帰つてからが心配。元の生活に戻ってしまうことが多い。

35 まだまだ手はかかるけれど一番可愛いときだと思っています。おかげで明るい家庭です。

36 子どもの成長を楽しみに毎日過ごしています。いろいろなことがあります、どうしてかな？ と思うこともしばしばですが、家族皆で話し合い、力を合わせて養育してゆきたいと思っています。集団生活の中で、先生方にも心配お手数をかけても申し訳ないと思ったりしますが、愛情を一杯受けていることに感謝しています。

37 実子のいない私が子育てを体験できたことに満足しています。

ます。

38 施設で乳児期～小1まで育った男児を小1の12月～小6の1月まで養育。低学年の間は優しい子おとなしいことで女の子からは何となく遊び相手にされていたが、高学年になるほど変な子気持ち悪い子とあまり相手にされなくなりました。小2のころから、何かおかしいことに気がつき、児相のカウンセリングを小3小4小5と受け、最後にやっと自閉と発達障害とわかり、これから将来を考えて自立できるようにと考えている矢先に実家に引き取られました。

39 2歳児の里子。私のひざの上に心も体もすっかり私に預けて泣き寝入りする姿を見ると、この子たちは私にそして私たち家族に命を預けているのだと思うと、いとおしく又里親としての責任を感じている。

40 子どもの成長の不安、里親自身もし病気をしたときの不安。

42 子どもからたくさん喜びをもらい毎日は楽しい。自分の健康にもより気をつけるようになった。実母とは時々面会しているが実母の元で暮らすのは困難そう。私たち里親の年齢が高いので将来のことは心配。大学生になるまで元気でいたいが。また本人がいろいろわかるようになつたら（思春期など）どう考えるか心配はある。

「障害のある子も子どもを里親委託へ」という運動（ぐるーぷ）があることを知り、うれしく思っています。

43 里親としてはまだ未熟で今は喜びだけをいただいています。自身の体験を生かし、どんな子でも何人でも出来る限りのことをしたい気持ちはありますが、家族の理解、協力、夫の気持ちなどを考慮すると、今以上のことは出来ないので、今いる子にせめて自分に与えられた環境を受け止め、建設的な人生を自分で築くことを伝えたいと思います。

44 子どもが最終的に自立できるようにするためには、幅広い知見と環境が必要（情熱も）。

44 他人と家族になることは大変です。私は実子、里子、実子、里子（中1～4歳）と4人の母です。実子と同じように出来ない自分を責めたり、葛藤の毎日。里親をしなければここまで辛い思いをしなくて良かったろうと思います。でも、だんだん家族になってゆきます。時間がかかりますが、家族になり成長の喜び、いとおしさ、里子にたくさんの宝物をもらっています。実子も里子も親も、みんなで育ち合っています。葛藤も減っていますが、これからもいろいろあることでしょう。

46 里子5人のうち二人は2歳から我が家にいます。二人とも可愛く、のびのびと生活しています。7歳の男子は友達も多く学校を楽しんでいます。5歳の女の子は喘息をもっていますが、毎日の薬でふつうに生活をしています。明るい子なので近所の方からも可愛がられています。

問27 現在の里親制度や里親を引き受ける・障害のある子の里親を引き受けのことについて（自由記述）

障害のある子の里親 「委託を受ける前にわかつていた」

3 養護施設のような大勢の中で生活していると、どうしても勉強の遅れなどが出てきてしまいます。生まれつき障害のある子もいるでしょうが、施設にいるために知的に遅れがちの子は、里親の元で暮らすべきです。そういう子供は性格の素直な優しい子が多いと思います。障害ということに足踏みしていないで、一度その子に会ってみればいいと思います。どんな子供でも可能性はあるのだからと、ためらっている里親に言いたいです。

15 実子がいたり、両親とも働いている所は難しいと思う。近所に支援してもらえる施設があるなどしないと、受け入れを考えてしまう。

26 ・レスパイクケアの日数の延長を望みます。年20日、繰り越して40日位。

・障害のある我が家の場合、聞き分けがないので、どうしてもその子専任の人手が必要です。

60 里親は孤独になりやすい。地域では、児童相談所へ子供が行けば、責任が終わったように思われている。児相から委託を受けた子は、生きるために一から始めなければならない。地域の要養護児童に対するサポートのあり方を考えいただきたいと思います。

71 今の若い里親さんは、今時の親です。もう少し教育（里親）が必要だと思います。

86 障害のある子供をもっと里親が養育できるようになることは、子供の成長、発達にとり、好ましいことであると思いますが、我が家のように、他に里子がいる場合など、背景を十分考慮する必要があると思います。できれば、「障害児専門里親」として関わるのが良いと思います。

106 相談事などできる病院があればと思います。大変な思いは、なかなか分かってもらえないと思います。

146 児童相談所の職員が、児童の発達障害、知的障害の特別手当の事を知らないので、申請するのに1年もかかった。里親手当の事ですが、手帳を持っている子供と、一般の子供との手当に格差があってもいいと思います。そういう事でもなければ、里親の励みと障害児の受託は難しいと思います。今引き受けている子も、とても素直で良い子ですが、それとは別に手は掛かるし、物も壊します。里親家庭が不便になっているものもあります。

193 今現在、2人の子供を預かっていますが（10才、6才）、最近感じる事は、この子供達は小さな頃から、自分の安心できる居場所がなかった事だと思う。我が家は特別豊かな生活ではないが、朝普通にごはんを食べ、夜は自分の布団でゆっくり眠れる。人として、最も基本的な生活条件さえも、今まで確保されていなかったのだろうと思う。里親として、特別な事は出来ないが、これからも食べる、眠るを大切に、安心できる場を提供したいと思っています。

217 全国の里親登録者数に対して、実際に子供を預かっている里親は、約3割と聞きます。色々な状況があるでしょうが、里子を養育したいと思っていても、なかなか実際に出会いの場が少ないと話を持ちます。啓発活動による里親数の増加と共に、委託率の増加を図る手立ても必要だと思います。

218 学校等で、人に「めいわくをかけない」ことが第1に教えられているようだが、その結果、隣近所の事毎に無関心が常

識化しつつある中、たすけあいを（里親活動を通じて）広げていきたい。

220 地域に障害児保育や障害児教育を受けられる教育機関が少なく、入所する際にも、なかなか入所できなかったり、通園する際にも時間がかかり、問題点だと思う。

264 障害のある子供を里子として育てることは、将来までの関わりを、ずっと里親だけに負わすという形では、進展させることは困難だと思う。家庭や親の愛情という環境が極めて必要な時期を託されることに意義を感じるが、子供の長い人生を先々まで背負うのは、とても大きな負担である。サポート、または負担を肩代わりする機関や機能が望まれる。

285 毎晩夜尿があり、夜中に2回起こすが、睡眠のバランスが崩れないか気になる。起きさないと、洗濯物が山積みで、本人も着替えやシーツの交換で、やはり睡眠が途切れてしまう。夜尿外来では、特に以上がないこと。冬場はオムツ（昨年）にしていたが、どうしたらしいのか困っている。どこに相談したらいいのか？ 将来の見通しについて、具体的な相談が必要だが、話し合いがない。里親に任せられている。

313 里親を引き受けすることは、一歩を踏み出す勇気がいました。障害のある子の里親を引き受けすることは、胸を張って堂々と育てることだと思います。社会には偏見もありますが、協力してくれる人もいらっしゃいます。時には、疲れることもありますが、常に前向きな気持ちで、親子共々努力したいと思います。やはり子供にとって、家庭の存在は大きいと思いますので、1人でも多くの里子さんが、里親の家庭で生活できるように願っております。

375 疑いがありと言われただけで、専門医の診断もなく委託され、1年後、専門病院で診てもらい、広汎性発達障害と診断を受けました。その間、児相から子どもについての連絡もなく、委託したら早く特養をとの話だけで冷たい。

・障害のある子供を委託する場合は、やはり手当を増すべきだと思う。

・障害があっても大丈夫という里親さんには、もっともっと委託するべき。

・実親が障害のある事を知らないケースもあり、これは知らせるべきだと思う。

412 ・障害のあるといつても、障害の程度によってあまりにも違うと思うので、軽度の子なら引き受けられても、重度の子は難しい。

・障害のある子を引き受けるための、専門里親のような勉強会があると良い。里親として、18まで委託を受けた子は、18才以後はどうなるのでしょうか？

420 ・障害があっても、家庭で暮らすのが一番良いと思いますし、一番のリハビリだと思います。

・親も自分自身のなぐさめなどと甘えずに、子供が少しでも良くなる手立てを見つけ、努力することが大事だと思います。

・うちも4才の時、機能が低下している事に気付き、ドーマン法をしたり、いろいろな事をして、お金もたくさん使って、現在があります。

423 幼稚園入園にあたって、障害のある子の枠が一杯だと断られたことがある。枠がある所はあっても、遠かたりの問題があった。そのため、普通の幼稚園でも入園できるよう、本人に様々な訓練を試みた結果、入園でき、現在年長組としては、大きな問題はない様子（里子と里母の涙の出るような努力の結果）。小学校入学にあたって（来年）、下校後、このような

子供を里親が用事がある時だけでも、預かってくれるような所があると、大変助かるのですが……。因に、幼稚園では預かり保育がありますが、小学校の児童クラブはポイント制で、仕事をしている事が一番で、その上、毎日預かる子供が利用する場所になっているようです。

434 いろいろな問題が出た時に、本当に心から本音で話をする相談者、又は相談所がないのが残念である。里親としての立場で、里親会に相談しても、答えが返ってこない。児童相談所に行っても、答えがなかなかすぐに返ってこないなどの難点が多いと思う。それに、里親の立場から申すならば、1人っ子は良くないと考えます。せめて、実子がいない所は、3名位は必要と思われます。里子を育てる上においても、教育、家庭などの点で、兄弟がいた方が、子供のためにも絶対必要と思われます。

456 障害があるとかないとか、あまり深く考えません。しかし、社会の制度の低さや、認識の低さが、命を尊ぶ上で感じられ、せつない気持ちがいっぱいです。

482 ・障害のある子を引き受ける場合には、前もってよく認識したり、里親としての資質も見直す必要があるかも知れません。そうでなければ、二次障害を招いたり、家族の分裂を招いたりしかねないからです。

・実親の関与に対して、もう少し具体的な基準かルールがほしかった（服役を終えた実親が買い与えた携帯電話での交流が、否定的な生活に変化したり……いろいろ）。親権を用いて、自らの利益のために、子供に働きかけてきた。

・障害のある子についての養育措置期間を終えた18才後、里親の後見的立場を（必要に応じて）とる可能性を制度に取り入れられないだろうか。

・米国のある州のように、虐待経験の親に対する相談機関や、子供達が家庭復帰する時の親としての是非を、チェックできる機関が、日本にもできればいいと思います。

544 ・里親宅がある市町村は、他市町村のケースに対して、責任を負っていない。

・出身市町村は、児相が介入したところで、ケースワーカーの関わりや財源が切れてしまう。

・県（児相）は、措置したところで、仕事が終わってしまうようなどころがある。

この3点から考えても、公的サービスの在り方を形成する基盤に、大いに問題がある。

565 里親制度については、「子供が家庭で育つ権利がある」との認識で、どんどん進めていってもらいたい。里親としては、障害のある子を引き受ける場合、里親本人が年を取っていくのに比して、養育が楽になる訳ではないので、年と共に負担が重くなることが現実としてある。養育期間後の対処について、安心できる制度の整備が必要だと思います。

571 養育里親制度が生き残るには、障害へのアプローチが有効と思われます。

592 今年度から、里親手当が高くなり、私としては先輩の方々に申し訳なく思いながら、いただいている。ほとんどの里親さんは、お金が目的ではなく、本当に子供が好きで、一生懸命お世話をしているので、私もその仲間入りをさせていただき、充実した毎日を過ごしていました。今年9月から、障害を持ったお子さんを引き受けることになり、何も知らず、以前のように頑張ろうとしていた時、役場からクレームがつきました。すごくショックを受けました。役場の言い分ももっともな事なので、悩みつつもそのまま女の子をお世話しています。健常児だったら、障害児だったらと、差別されたのがとても悲しいです。

602 発達障害の里子を引き受けるためには、支援が必要である。支援がなければできない。

650 やり甲斐はあるものの、相当の覚悟を持って引き受けなければならぬ。障害は一生付き合っていかなければならぬ

い。もっともっと社会的な支援が必要だと思う。気軽に利用できるサービスが少ない。特別児童手当も里親はもらえるが、ファミリー・ホームには適用されず、ファミリー・ホームの事務費や事業費にも、障害児、受託の加算はありません。手が掛かることを理解してほしい。

659 ・いくら子供に説明しても、その時は分かったと言つても、分かってくれていない。毎日同じ事を11年言い続けている。私としては、ヘトヘトになってしまいます。

・もっと子供について、関わりのある情報がとにかくほしいと思っています。将来についての事（就職、通勤寮、グループホーム等）。

731 新潟県は養育里親が少なく、実子がいなくて、里親になる人がほとんどという状態。そのため、障害のある子供達は、里子へ行くことはまずない。里親同士で、障害のある子供の悩みを話し合うことができない。養育里親を増やして、障害のある子も里子に行けるような環境になり、自由に語り合えるようにならいいと願っています。

740 障害がある子は、里子にとても適していると感じています。なぜなら、里親には遺伝的な責任がなく、子供の障害をありのままに受け入れができるからです。又、里子自身にとっても、育てていて一緒に生活する者が家族であり、親であるので、実親との問題も生じにくい。けれど現在、自立支援法において、里子の障害者サービスは、里親の年収によって利用料が決められるため、同じ里子でも負担が変わっている。同じ里子でも、委託先によって無料であったり、最高額であったりと納得がいかない。専門里親についても、我が家は認めてもらえていない（研修は終わったが）。納得いかない事が多く、もう少し制度が良くならなければ、里親に障害児を委託することは、好ましくない。

831 アスペルガーの子供を引き受け、1ヶ月位経ちますが、日に日に自分自身が笑わなくなってきてているように感じます。そんな家庭の中にいて、その子供が果たして幸せなのかどうかという疑問を感じながら、毎日を送っています。ファミリー・ホームを初めてから、まだ2ヶ月目ですが、もはや疲れ切っています。

841 今、少しずつホーム化が進んでいますが、様々な点でハードルが高いと感じます。本当に情熱がある方々がホームになれない現実に、悲しくなります。経営ではなく、昔のような生活が、私の本当にやりたいホームです。泣いて笑って、ワイワイガヤガヤ。私の育った昭和30～40年代、温かい何かが忘れられていくようで、淋しいです。古いでしょか？

849 家庭のぬくもりを知らずに育った子供に、里親の家庭で一緒に生活することは、子供にとってはとても大事なこと、必要なことだと思う。まして、障害のある子供は、施設より家庭の方が、きめ細かい接し方があるので、1対1で関わることができるので、子供は伸びるのではないか。里親をする方々が増えることを望む。

851 ケースワーカーといつても、人事異動で児相に来ると、いきなりケースワーカーになっています。児童福祉士ですと言われるけれど、素人が言うような事をそのまま言われる。家庭訪問していただいて、子供の重要なことを話しても、メモも取らない。養育におけるストレスというガスを、しゃべらせてガス抜きをやっているように感じます。具体的な指導、責任をとらなければならないような発言は、決してしない。期間もたった3年でまた異動になる。里親家庭の担当ですと言ひながら、1年で代わり、里子の顔も知らない。委託後6年目の里親研修で、その時初めて児相の職員から、愛着障害という言葉を聞きました。私達は、児相からは何の指導もないまま、必要に迫られ書物を読み、知識を得ながらの養育でした。研修の内容はほぼ全部書物で理解していました。しかし、相変わらず「愛着障害」「赤ちゃん返り」「過食」等言葉で言われても、それに

対してどう対処していいのかの説明はゼロでした。今日、特別里親制度がありますが、恐らく、特別里親の研修をしっかりとやれる職員は、失礼ですがないと感じます。障害児里親制度には当然賛成ですが、その前に児相の改革が必要だと思います。そうでなければ、特別里親も障害児里親も、そして、里子達にとっても必要な支援、指導を受けることができないまま、苦しみの生活に入ることになると思います。そこで、以下に提言を挙げます。

- ・児相職員の就業期間を今の2倍にする。
- ・ケースワーカーや児童福祉士等の立場は、研修期間を3年位はおいて与える。
- ・児相に民間人を採用して、職員を必要定員まで増やす。
- ・児相の所長の任期も、2年では責任の取りようもないし、改革改善は当然無理です。延長の必要があります。
- ・児童福祉法を順守できる児相の体制強化。
- ・里親会の事務局を、民間に移行できるように予算措置をする。
- ・施設の子供達のことをよく知るために、ふれあい家庭に加入することを、児相職員に義務付ける。
- ・児相職員のプロ化をお願いします。私達里親、里子のために。

862 今、いろんな人と関わる中、里親の事をよく聞かれます。私共の年代は、子育てが一段落して、余裕の日々を過ごす人が多く、関心のある方が多いです。啓発活動を頑張っていただきたいし、私も広く伝えていこうと思います。障害のある子供の里親としての意見としては、S君のため、自分に出来る事を、精一杯していきたいと思っています。長男が、「S君の運動会は、パパが年をとっているから僕が出るね」と言ったのには、感動しました。ちなみに、長男はアスペルガー+ADHDを持った大学生です。

874 平成18年の更新時に、年齢のこと、独居であることを理由に、近所の住人の誰か保証人を付けるよう県から指示され、意見対立した。里親登録時に、何の説明もなく、いきなり切り出すのは失礼千万であると考える。他県でも、年齢制限、単親不可があれば知りたい。

896 性虐待児、知的障害で性虐待児の2人を委託しましたが、いずれも、保護されたのが高校生であり、長期に渡る性虐待を受けていたことを考えれば、もっと早期に発見し、保護できなかつたものかと思えてなりません。年齢の高い子供の養育は、困難な事も多く、背景が複雑すぎて、周囲に相談することもできず、問題を家族で抱え込んでしまいかがちです。児相以外の専門機関との連携の必要性を感じています。

916 障害のある子を育てる事は、その障害についての知識や、特別な支援がないと、心身共に限界に陥ってしまう事が多いので、十分配慮されるべきです。

932 障害のある子、ボーダーラインの子、被虐待児を受託して、直面した問題を乗り越えながら、私自身が、人として深められたのを感じます。子供達との出会いに感謝し、共に命を輝かせ、大きな喜びの中にあります。無条件の愛がいかに大事か、それプラス心理的な知識。そして、子供達の幸せな自立のために、内面の強化。自分達が大切な存在であること、愛されているという実感の土台の上に、築いていけるよう、里親がしっかりととしたポリシーで、関わることだと思います。人としての里親が、人としての尊厳を守りながら、手本となる人生を送ることが、一番大きな使命のように思います。特に、コミュニケーションに問題の多い子供達に、手本を示す生き方をすること。共通理解、会話、笑い声、ゆるし合いのできる家族。現在、各関係機関の協力を得られるようになったのも、36年間の里親生活の中で、決して攻撃するのではなく、伝え続ける姿勢を通した証だと確信しています。里親は大事な存在。

982 障害を受け入れながら、自分の力を發揮できるよう助言し、自信を持って生活できるようにしています。

1005 専門里親ですが、福岡県では専門里親として受託して

いるわけではなく、手当も付きません。養育里親として預かっています。しかも、「障害児学童保育」の保育料は、里親持ちです。月々1万円以上かかります。その上、送り迎えが必要なので、負担が大きいです。3回火事を起こされそうになり、目が離せませんので、お金の事は割り切って、学童にやっています（私のストレスにならないようにという、夫の意見です）。早くホームにして、人手がほしいです。まだホームはできません。福岡県は遅れています。

① ・私は専門里親ではありませんので、費用はふつうの里親と同じです。

・里親自身の子育て経験が重要で、程度の差はあっても、手帳4の里子くらいはやはり育てていくことが出来ると思うし、あまり障害を意識しないで、ふつうの社会生活の中で育てていくことが大切と思う。

・何よりも、ともに育つ兄姉だったり同年齢の子どもの中で育てることが良い方向に行く

一人の子育ては特に難しい。子どもはみて育つ力があるのを実感しています。

② ・18歳から20歳までの法的な「穴」の部分を何とか繋いでほしい。

・特に障害のある子どもへの訓練、18歳以降どうするか、どうなるのかという不安→支援体制

③ 私は里親であることをオープンにして、皆さんに「いいよ～」「やってみたら？」と、本気でお勧めしています。成果はゼロですが、他の人にも里親をやってほしいと思います。

④ 相談機関のケースワーカーさんや職員が多忙で、タイムリーに相談しにくい。障害に加えて虐待（虐待により障害が重く見えている場合も考えられる）もあるなど、複雑な子に対するのには、夫婦だけではかなり厳しい現実の壁があります。

⑤ 障害児施設で仕事をしているときは障害があっても地域で生活できないものかと思い、里親として障害児を養育してみて、学校や地域との連携がどれだけ大事かということがつくづくわかりました。

⑥ 18歳ぶつ切りではなく（特例子会社に決まったので収入があるとのことで、措置を切られました。）グループホームが決まるまでは延長してほしかった。4月～の就職で一番不安で見守りたい時期に措置がきられるのではおかしいと思う。就職1年生が一番不安なのではないでしょうか？ 知的障害の子も他の子も。現在子ども家庭支援センター里親支援を立ち上げ中です。

⑦ 里親に対しての支援を充実してほしい。特に児相の里親部門を充実してほしい。委託前後のアセスメントの充実、情報の共有がほしい。施設の里親に対する理解がほしい。（逆もいえる）

発達の心配がある子の里親 「委託を受ける前にわかっていた」

65 以前に委託を受けた子も同じ。勉強嫌いで、中学2年の時に登校拒否まで引き起こしました。学校などの協力を得て、学力の回復が望れます。皆と一緒に勉強できる子供であってほしい。

131 私共は2才で預かり、知的障害は有るかも知れないと言われていたが、3才頃より保育園で、他の園児と違う所で奇声を上げるなどが増えてきたため、4才、5才は1人の先生を付けてもらいました。小学校よりは障害児学級ですが、遅れているなりに少しづつ出来る事や、特に優れている所があるなどで、優れている所は伸ばすために、遅れている所は付いていかせるために、専門の先生を付けてあげたいのですが、経済的に自由がきかず、考えるところです。

174 どの子にも問題はないのに、実親のために、里親に預けられて苦労をしているのは子供だけ……。役所はもう少し実

親の指導をし、安心して子供を帰せるようにしてほしい。学校の先生は、もう少し障害児に対して勉強をしてほしい。以前、ADHDの子がいましたが、先生の指導がなっておらず、転校するまで、子供に辛い思いをさせました。入学前に、学校へ児相から説明してもらったにもかかわらずです。

190 里親の負担（責任）が大きい。こちらが動かないと、支援センターからの情報や接見は無に等しい。里親サークルを広げたい。

207 私の希望として、我が子を一人前にしていただいたお礼として、里親を続けていきたいと思っている。現在でも、施設で育っている子を見ていて、季節里親ができたらという希望を持っている。将来的には、グループホーム的な事をしたいと思っているが、片親のため出来るのか？ 行政的な面での不安がある。専門里親を目指し、25年ほど施設職員をしていた経験、問題児ばかりの担当であった事の経験を生かし、大舎制ではなく、グループホーム的な事ができ、子供が1人でも家庭の味、雰囲気を味わってもらえたなら幸せである。

209 ・普通の子供と障害児の子育ては、大きな違いがあります。

・里親さんの心の負担を軽くするため、任せっぱなしではなく、行政としての気配りが必要だと思う。

・無責任だと思う時がある。

258 ・私の夫は3年前に他界してしまったけれど、長く里親の活動していたから、今でも継続させてもらえて、嬉しく思っている。夫は車椅子生活の障害があったので、以前より障害の子に関心があり、自宅はバリアフリーになっているので、活用してもらいたい。

・専門里親として、現在の子を委託しているので、経済的には満足だが、精神障害の難しい子は、できたら引き受けを控えたい。

271 里親登録者を増やしても、5年以上待機する余裕はなくなる人が多い。委託率を上げるとかけ声はいいが、プロセス行程表が明確に設定されていない（厚労省）ので、待機児はイライラするし、会務にあたる人も、増員していいのか動きがとれない。

286 私達は、幸いにも多くの協力機関と対応してもらっているので、心配をさほどせずに育てています。又、これから多くの事が起きてくるでしょうが、その時にならまた行動し、道を探って行こうと考えています。一日一日の積み重ねですから、あまり自分を追い込んでしまわないようにしています。

295 僱地等にすんでいて、高校通学にお金がかかったり、寮のある高校に進んだりしなければならない場合の費用が、全て持ち出しになると思うので、かなり家計の負担になると思う（実子含め6年間に3人の子供が通うことになるため）。通学のお金や私立に進んだ場合の経済的な保障をしてほしい。又、ボーダーの子の場合、高校に行けなかった場合、措置が解除になるのは、未熟な年齢の子供をより一層不安定な環境に放り出す事になり、要養護児童の再生産につながりかねない。もしくは、そういう状態で手放すことのできない里親の好意に暗に甘えているとしか言いようなく、そういう意味で、将来的にどんな経済的、精神的な負担が待っているかを考えると、とても不安になる。高齢児の自立という一番最後の肝心な部分の保障を手厚く行って、安心して自立させられる制度に変えていくことが、要養護児童の再生産を減らす大きな鍵となると思う。

314 我が子を育てているが、明日、親々に不足の事態がある時、日本には、里親制度があると胸を張って言える子育てをしたいと、日々思う。

367 里親を、沢山の人々が支えて（サポート）、里親の負担を少しでも減らせる制度があれば、もっと子育てが楽しくなると思います。

398 家族みんな同じ事を心配しています。子供は、障害手

帳があるわけでも、現在ガンにかかっているわけでもないし、大腸がないだけで、就職の時に障害者の枠で採用される事もありませんが、健康な人に比べて生活は大変です。何かハンディというか、助けがないものかと思います。又、施設で育ち、唯一の家族の母に死なれ、生きる事に積極性がないため、向上心がありません。のままでは、将来高給を取れる職に就けるとも思えません。自分で高額な医療費を払わなくてはいけないと思うと、気が気ではありません。引き受ける時に、最初から手術が必要と分かっているのだから、必要な経費全部払ってくれと約束したのに、実際手術したら、交通費、付き添いベッド代、パーキング代、おむつ代、パット代、テレビ代、食事代等、20日位かかったのに、出先には予算がなく、本庁にもそんな枠はないということで、一銭も出なかった。又、子供自身にしても、国のお金で100万以上もかかる手術で助けてもらった気がなく、むしろ、痛くもないのに、大腸を取られたと思っている。いつまでも助けてもらえるし、なるべく楽して生きたいし、命が短いのなら楽しみたいという気があるのが心配です。そして、「今年から学習塾代が出来るから、もう教えてもらわなくてもいいです」と県の人は言うけれど、自分からは行かない。家庭教師でもOKにしてほしい。私もストレスがたまる。

428 様々な援助がなければ、引き受ける事は難しいと思います。

440 18才を過ぎても、経済的援助を必要とする里子を、今後どうしていくのか？

463 私は、民間ボランティアで、10年前より「非行少年の自立支援」を続けてきた経験を生かすことができているが、障害の程度によっては、これからも多く学ぶ事が必要となると考えています。私がこれまでの少年達との関わりで学んだ事は、子育ては、親身になって向き合い、あの手この手で自立支援をしていくことに尽きると思っています。

484 ・養育里親や専門里親について学び、少し虐待を受けた子や、軽い障害のある子や普通と言われる子達と、一緒に生活してきましたが、どの子も皆同じなんだと思います。

・今現在、障害を持っている子は、他の子達の協力のもと、一緒に育っていますが、どの子にとっても、こういう経験をすることは、これから先の長い人生で、きっと何かの力になり、役に立つと思います（もちろん、私達にも）。

・問題点は、障害のある子と旅行する場合、常に大人が付き、時には複数必要となること。

522 まだ里親になって日が浅いので、日々の生活の事しか考えていないので、よく分かりません。しかし、里親の体力、精神力がとても重要なと思います。

536 今のような日本の社会で、里親制度が発展していくのは、個人的には難しいことだと思います。子供自身も社会を反映して、普通に暮らし、普通に育てるということだけでは済まない子供達が多く、そのような子供達と24時間365日暮らしを共にするということは、多くのエネルギー、忍耐、そして、時には専門的知識や技術が必要です。今のようにそういう時のサポート体制が整っていない中では、バーンアウトしてしまう里親さんも多いのではないでしょうか。手帳はとれないが、18才を過ぎても、継続的な関わり（特に生活面）が必要な子供達が増えている気がしますが、行政はその辺をどう考えているのでしょうか。

543 再統合について、もっと積極的に努力するべきです。実親を支える支援、仕組みをもっと研究するべきです。

547 里親委託になる子供には、一般よりも軽度発達障害の子供の割合が高いことが推測される。「里親支援」に「発達障害児を育てる里親への支援」につながるであろう本事業には、大変大きな期待をします。政権政党が変わっても、事業の継続がなされないと、何にもなりません。事業仕分けには、きちんと説明できる人が必要ですね。

550 うちは、自閉症の疑いがあると医師に診断されたのですが、親がしっかり愛情を里子にかけつづけ、見守り続け、可愛がり続けて4年で、ものすごく成長し、心も体も人一倍大きくなりました。乳幼児への虐待で、子供の脳の発達に与える影響は図り知れません。人間は、恐ろしいことをしてかしますね。虐待等で傷ついている乳幼児を、一刻も早く救ってやりたいです。

586 障害があってもなくても、子供達は安全な家庭で暮らしてもらいたいと思います。私達は、里親になろうと申し込んだ時、障害のある子も、里親家庭で育ってほしいという思いもあり、申し込みました。1人でも多くの子供(障害のある子供も)が、里親家庭で育ってほしい。そして、それを周りのたくさんの方々が、支援してくれたらなあと思います。

595 子供のケースワーカー異動時の、引き継ぎのなさに不満がある。

616 自立する里子の年頃においては、児童相談所は里親に丸投げすることなく(任せっぱなし)、持てる大きな力で、後押しをしてほしい。

630 障害のあるなしにかかわらず、里親が1人で背負い込んで、無理しなくていいように、児相なり専門的な知識を持つ方との相談がしやすいように、配慮していただきたい。

638 できるだけ幼い時期に、里親に委託するべきであると思う。施設とは、緊急避難的な場所で、受託児童1人当たりいくらという養育手当が支払われているのは、早急に改め、規範に応じた定額にするべきだと思う。

652 現在の里親制度では、措置解除後の子供の身のふり方に、責任を持つことになるのは、結局、実質は里親だけということになってしまふ。委託開始から終了まで、里親をサポートするのと、里子を一社会人として社会へ送り出すためには、里親以外の里子へのサポートシステムを、強力にしてほしいと思います。

656 専門里親制度の8科目の受検を、2年間ではなく、少なくとも4~5年の期間まで延ばして、もっと専門里親の数を増やしてほしい。虐待児の委託を増やすこと。

666 目標は、やはり自立に尽きると思います。まったく子供だけの自立ではなく、できるだけ里親としても見守りながら。しかし、生活の一部は、子供が自らやっていけるよう、それぞれの子供の特性に合った道が、公的、私的に用意されていれば、安心して育てられると思います。里子でなくとも同じ事です。

695 軽度の知的障害があり、何度指導しても学習能力が弱く、指導管理上の問題を痛切に思う。

737 障害のある子を受けるとしたら、自分の実子だったら、自分はどうするのだろうと思うと、出来るだけの事はするでしょう。そんな気持ちで受けるべきではないでしょうか。

761 子供を心の底から愛しいと思えるのなら、障害のありなしは関係ないと思う。愛情があれば、乗り越えていける。しかし、周りの人の支え、協力は絶対に必要。ここまで思えるようになったのは、今までいろいろあったから。夫婦2人だけの子育ては絶対に無理。色んな所へ顔を出して、コミュニティを広げ、オープンな子育てが、親子にとって一番良いと思う。1人でも多くの人に、子供の成長を見守ってもらえる人間関係が、親子にとって大切。

798 レスパイトが年間で7日間あると聞いています。肉体的、精神的に疲れた時や、病気などの時に利用したいと思っていますが、実際に利用した場合、年間7日間という日数は、あまりに少ないのでないかと感じます(まだ利用したことないが)。できるだけ乳児の時に、なるべく小さな赤ちゃんの時に、里親家庭で育てられることが理想です。赤ちゃんの時には、障害の有無はハッキリと分かりませんが、だからこそ、赤ちゃんの頃から関わっていたら、後に障害が表れたとしても、受け入

れて、共に成長していくという気持ちがつくなるのではと考えます。

814 ・里親の募集を、国レベルで情報提供できたら……。もっともっと子供に目を向けてほしい。

・実親のケア。

817 施設の中では、職員の方々による熱心な指導と養育がありますが、家庭に勝るものはありません。障害者と共に生きることは、健康な人にとっても大事なことです。でも、専門的な知識が不十分なところがあるので、里親と共に社会資源と言われるプロの方々のアドバイスを受けつつ、穏やかにじっくりと子育てできるようになつたらと願います。お互いの連携を密にして、手の掛かる子供達を丁寧に子育てしていけば、健康な人にとってもプラスのはずです。もっと里親家庭に子供達を委ねて下さい。又、経済的にも力を下さい。やる気があつても、経済的なこと、専門的な知識のこと、バックアップしてほしいです。手抜きをするには、お金が必要なのです。今はゆとりがありません。

837 最近は、1クラスにボーダーラインの子供達が3人はいるそうです。発達障害は、先生も周りも大変ですが、発達障害のために、虐待を受ける場合が多いと思う。でも、実親の長期的な絶望感から救い出せるのは、里親だと思う。実親にとっても、里子にとっても、里親は必要な人間だと思う。最近、アスペルガー症候群の子が引き起こす犯罪も、クローズアップされているが、家庭内だけで悩まず、児相に救いを求めてほしい。みんなで見守ること、助けることが必要なので、他人のこととして処理しないで、外部の人も一步踏み込んで、子供を助けてほしい。

861 子供が一番の被害者であると思えば、何とかしてあげたいと思うだけです。

869 事前の情報、マッチング期間に、本当に一緒に生活できるのか、不安や迷いは尽しませんでした。その一つ一つを少しでも解消するために、家族のみんなで話し合う時間を多くとり、学校の担任の情報を収集し、自分達家族の力になってもらえる先生なのか、問題行動を起こした時、適切な対応をしていただける先生なのかと、自分の気持ちを納得させる方向で考えてきました。受託してからは、度重なる学校でのトラブルに、連日連夜報告をしていただき、子供の気持ち、相手の気持ちを聞き取り、今後につなげる対処をしていただきました。私の話もしっかりと聞き、受け止めてもらえたこと。家族の全員を認めて、励まして下さったおかげで、この1年間を乗り越えることができたと思います。校長先生の温かな姿勢があるから、本当に支えてもらっています。

917 障害の程度もあると思いますが、休日や学校が長期休みの時など、居場所作り等の公的支援が必要です。地域の公民館を活用できたらいいと思う。

921 出来るだけ小さい時に、引き取ってあげる方が良い。大きくなるにつれて、お互いに難しさが増す。里親が、子供の反抗や赤ちゃん返りに、付いていけなくなる。子供をまた施設に戻されることが、多くなると思います。子供が、今までの子以上に、悪い意味で進化してきている。里親の忍耐は、昔よりかなりしんどいと思います。

964 一家庭に何人も障害のある子がいると、何が正しいのか分からなくなり、振り回されてしまう感じです。

⑧ どれぐらい成長しているのか、児相にある委託前の資料を書面でもらいたかった。判定結果などは2回目の時には書面で見せてもらったが、一回目は口頭のみだったのでよくわからない。

⑩ もともと通っていた保育園に受託してからも通わせてもらっているおかげで、園の先生方にはようすがわかっているので、本当に助けてもらっています。いきなり違う園に通うとなつていたら大変だっただろうなと思います。長い間通っている園

なので本当の家のような感覚があるような気がします。特に先生が付き添って自由にしてもらったせいか落ち着いてきたので、皆と同じクラスに戻った今でも、我慢が出来ず自由に動き回るところがあり、なかなか園では高まりやすいようです。あと、児相もお忙しいのだと思いますが、面会を（実の親）月一回していますが、そのときの日程あわせだけの連絡をくれるだけで、間の様子を聞かれることもありません。こちらが言い出すにも苛立たしい様子なので、「もういいか」と思ってしまい、やめてしまいます。私には他に相談できる人があるのでその都度乗り越えてきましたが、気軽にいつでも話を聞いていただける機関があれば（あるかもわかりませんが、あまり知りません）いいのにと思います。話すだけで解決することもありますものね。

障害のある子の里親 「育てていく中でわかった」

17 知能障害より愛着障害の方が、より深く里親、里子の心の負担が大きいと思うので、出来るだけ1才以下で里親委託をするのが良いと思う。軽度の障害は、大変さを周りに解つてもらえない大変さがあるが、中度では、実際に手の掛かる大変さが大きいと思う。どちらにしても、乳児から育てたら、頑張れそうな気がします。安全上難しいかもしれません。あとは、里母がパートに出なくともいいよう、金銭面の援助も必要だと思います。

88 子供を育てていると疲れがたまり、休養が必要になります。必要な時、すぐにレスバイト制度が利用できればいいと思います。年に7日間では少ないと思います。2週間位は必要です。専門家のアドバイスをいつでも受けられるように、必要に応じて家庭訪問などがあれば、心強いです。困った時にはすぐに対応してもらえるシステムが確立していたら、安心して里親になれると思います。里親にならせていただいて、毎日が生きている充実感でいっぱいです。大変さも喜びに変わるものですね。実感しています。

182 乳児院、養護施設等、実習やら見学やらで、訪れる機会があります。そこでの子供達を見るたび、「こんなこといいのだろうか?」と考えてしまいます。施設利用者としての子供ではなく、里親家族の中で、家族の一員として、普通の当たり前の生活をすべての子にさせてあげたいと感じます。障害があればあるだけ、そうあるべきだと考えますが……。

189 障害のある子供を育てるには、里親自身が障害について、しっかりと理解をしなければ、里親と子供にも大変苦労すると思っています。又、障害を持っている子供を、里親が養育することに、自分自身に誇りを持っています。我が家にいる子供は、ADHDです。子供が成人後、どうなるのか心配です。障害の区分がよく分からないです。

208 子供の将来をどのように考えてあげればいいのか、胸を痛めているところです。又、アスペルガー他障害は、本来に持つて生まれた要素も強いが、環境的な問題でも大きく作用するものだと伺い、本人にとってどのように環境を整えてあげることが良いのか考えています。

224 我が家の里子にとって、生まれてから約5年間という長い期間、乳児院という極端に狭い環境で生活せざるを得なかった、不幸な境遇がもたらした本人への影響は、非常に大きいものです。発達障害の問題以前に、里親と愛着を結びにいくという愛着障害の方が里親のストレスとなる「育てにくさ」を引き起こしていると思います。それゆえに、少しでも子供が小さいうちに、家庭にひきとられること。愛着障害を防ぐ手立てが早急に求められているところです。スムーズに委託件数が伸びるための、献身的な努力を児童相談所へ求めます。

239 里親となるためには、引き受ける前の除霊、淨霊といっ

たものをお薦めしたい。実体験をした者として、強く望むところです。いくら理性で分かっていても、遺伝子による本能をコントロールしていくことは、かなりの忍耐を要すると思います。里親による虐待を防いでいくためには、この事を抜きにしては語れないのではないでしょうか? 児相が強制的に保護措置をすることでしか、里子を守り、問題解決を図ろうとしている。しかし、里子の目線での保護や里親への支援は、果たしてそれがより良い結果を招くことにならないと思います。里子と里親の両者をいかに支援していくかは、児相としての今後の課題ではないでしょうか。

267 時代の変化とはいえ、子供ができたから結婚し、意見が違うから離婚する。本当に簡単に済ましているが、子供にとっては、本当に不幸な事。できることなら、人間教育（人づくり、仲間づくり）の部分を、100年前に戻せるものなら戻したい。

268 児童相談所は、障害の可能性を、委託前に里親に伝えるべきである。後になって分かるまでの期間、そうとう大変な思いをする。その責任を児童相談所は持っていないことは、里親にとっては、持つて行き場がないので、とても苦しい思いをするので問題だと思う。児相には、障害のある、なしにかかわらず、育てる意志があるかどうかを見ていると言われたが、実子のいない里親としては、初めての委託児が障害児だと、困るのは当然ではないかと思う。児相では対応できなかつたので、他の施設に振られてしまった。その対応にも疑問を感じた。

311 ・障害児養育の研修会、勉強会等があれば、積極的に参加したい。既に、児相主催の研修は受けているが、障害児施設、医療機関等の話も聞いてみたい。

・2年前、発達障害のある5才男児の養育を引き受け、今春の小学入学までの1年7ヶ月育てた。私共にとっては、障害の程度が重く、体力的にも気持ちの面でも、限界を超えていた。専門里親といえど、障害児は1人の養育が限度であることを痛感した。その点の配慮が関係機関に必要では。

327 児童相談所の所長さんが、「今まで障害のある子を里子に出したことはない」と講演で話されました。現在障害の子を育てている私達は何なのでしょうか。不信感ばかりとなりました。特別児童手当も児童相談所に相談したところ、「里子は別。もらえません」との答えで、高2までいただけませんでした。まったく不信感ばかりです。障害のため、毎週、町外の病院に通院、私達の気の遣い方は想像以上なのに、里親は、この様な（特児）手当をもらうことにも、嫌な思いをし、児童相談所の職員に、「またお金」と言われなければならないのでしょうか。

330 もっと多くの子が里親の元で生活できたらいいなと思うが、障害のある子を育てるのはとても大変。児相側も、もっと蜜に接して、相談にのってくれるといいのではと思う。

395 縁あって、障害のある子を委託することになり、途中で何度も私には無理だと思い、専門里親に育ててもらいたいと思ったが、県ではあまり進んでいなくて、施設に帰すことは、今までやってきた事が水の泡だと思い、専門里親になり勉強したいと思いました。2番目の子、3番目の子、障害のある子、心配な子です。3人もそういう子達なので、こちらもかなり接することに慣れて、その子達の障害も含めて、他の子達にはない愛らしさを見つけました。これからは、どんどん人数の許す限り、障害のある子達を受け入れたいと思っています。

448 私は今、地域の里親会のお世話（会長）をしています。会員が30家庭ほどの小さな里親会ですが、いろいろ問題があります。まず、今まで、養子希望の方が委託がないまま年をとられてしまったこと。須磨は若い里親希望の方には割と早くに委託がありますが、マッチングが短期間だったり、里親への研修が不十分で、委託後問題が起り、委託解除になることが起こっています。又、17才くらいになってからの里親委託では、里親さんが大変苦労されていますし、家もむちゃくちゃにされたり、お金を盗まれたりと、経済的な負担も大きいです。この

ようなことを考えると、日本の里親制度は、里親手当を上げたからといって、発展するものではないと思います。里親へのサポートが大切だと思いますが、今の相談所の人員では無理だと思います。特に、障害のある子の養育では、医者との連携がほしいですが、私の例では、学校の先生に紹介され、わが県ではトップクラスの発達障害の専門家と言われる小児科医に行きましたが、愛着障害に対する理解が全くなく、里親に対して大変失礼な言い方をし、すごいショックを受けました。二度と医者を頼らないと心に決めた程です。愛着障害の研究や周知、啓発を図らなければいけないと思います。

461 障害のある子の里親と希望した訳ではありませんが、ご縁があって、児相の方からやって来た子供達です。すごく大変な時もあるのですが、児相やお医者様方と手を取り合ってやっています。ダウン症の子（末っ子）は、楽しませてくれる事も多くて、私達が救われています。このような大きな仕事（子育て）をさせていただいたことに、感謝しています。

492 初めから障害があると分かって引き受けた場合と、ある年齢になり、気付いたようなボーダーラインにいる軽度の障害の場合では、後者の方に驚き、狼狽は大きく、自分自身を立て直すための支援が必要です。私の場合、児相、教育センター、学校などと相談しながら行っておりますが、まだまだ障害を完全に受け入れられずにいます。やはり、時間が必要なかも知れません。

504 私達が子供を引き受ける時は、専門里親制度が開始という時で、講習会や勉強会が始まったばかりでした。私には、専門里親の資格を持つ気持ちがなく、勉強不足もあったのですが、「親に無視」されてきた子供ということで、私達が愛情をかけて育てれば、何とかなると思い、引き受ける決心をしました。「親の無視」とは、虐待であると解ったのは、引き受けて半年ほどして、担当の人の話し方で解ってきました。専門里親の知識のない私で良いのであろうかと、悩んだりして、毎日を暮らしていました。この子は何かが違う、何処かおかしいと育て始めた頃から言い続けてきましたが、担当者（担当箇所）には、理解してもらうことができなかった。やっと原因が分かったのは、5年経ってからです。でも、病気の事がはっきり分かり、今は気分的に楽になりました。もう少し早く分かっていれば、子供との接し方も違っていたのでは……。可哀想な思いをさせてしまいましたが、その間も児童相談所の担当者が、人事異動で何度も変わり、その都度引き継ぎがきちんと出来ていなくて、相談していた事をまた初めから説明し、結果がなかなか出ない。定期的な子供の生活環境の確認にも、来てくれる人と、来ない人が極端であったり、苦しんでいる時に役に立っていなくて、何とか此方が諦めて、少しばかり時間が経ち、楽になってから結果を持ってくるのでは、機能しているとは言い難い思いです。

506 今回4ヶ月半位、療育センターへ精査、リハビリ目的で入院したのですが、入所退所時に、この子の親の同意書が必要で、なかなか同意書が届かず、入院するにあたり、4ヶ月以上も待つことになりました。緊急ではないにしても、やはり入退院がスムーズに出来る体制であればと、強く感じました。色々な事情があるとは思いますが、障害のある子供さんを受けるには、何回か入退院することもあると思います。この子は今回限りの入院ということで、4ヶ月以上にもなってしまったのですが、これから薬の調整、リハビリ等で入院が必要になってしまふ。この子はもう入院できません。これでいいのでしょうか、と児相に訴えても、返ってくる言葉は、私達が折れるしかない。行政で何とかならないのでしょうか？ こういうケースは沢山あると思います。小学校入学までには、養子縁組をしようと思っています。それまでは、色々な支援に助けてもらいながら頑張ります。

510 子供の処遇については、子供の利益を最優先に行われ、場合によっては、親のカウンセリング等を含めた、強制的支援

も必要な時期に来ているのでは？

517 一般のお子さんも里子も、障害のある子が増えています。相談できる機関、専門的支援をしてもらえる所、家族の協力で、私は楽しく子育てできています。障害のある子供も、もった命、人生がより楽しくできるよう、手助けしてあげたいです。

556 子供達は、18才になって終わりではなく、そこからが社会のスタートライン。社会全体で、その後もサポートできるよう、本人また委託終了後も、里親家庭で生活する場合の里親へのサポート等、今後は考えてほしい。特に、実親も存在する場合、色々と関係性、保証人等難しい。

574 子供の正常の発達段階やコミュニケーションの成長のし方などを、実子のいない人は、知識を得る時間を作つてほしい。委託の前に発達の検査等をして、分かっていることは、正直に里親に話してもらわないと困ると思う。特別な支援が必要なので、経済的に正常な人と同じ手当では足りないので、別に増額する必要があると思う。

604 とにかく、里親の言い分をよく聞き、将来の事をよく勉強してほしい。何のために心理があるか分からないが、あてにならない。結局、苦しむのは里親で、誰もあてにできない。これからもっと精神医療の面で、手助けをしてほしい。里母が具合が悪い時の一時預かりなどを、まず第1にしてほしい。

623 制度も順次改善が進んでいるが、未だ改善の余地がある。現在養育している子供に、知的障害や発達障害が全員に認められているが、今後研修等を通じて、里親家庭にも受け入れが進んでいくと思われる。

693 里親制度の普及率が良くなることを願っています。

709 里親に情報（里子の事、制度上の事等）を出してほしいと思います。私が引き受けた時と今とでは、少々違つてきていますが、公的機関の担当者によつても違うので、なぜ？ どうして？ から始まり、時には、目合点になることもあります。でも、目の前の困難な事に対して、お互いにぶつかり合つて、理解し合う状況を、子供も感じ取ると思うので、私は、理解されるだけの状態よりは、経験できて良かったと思っています。

721 共に育てる家族でありますと、常に思っています。このアンケートは、障害児を受け入れたくないようを感じる。障害児にも、軽いものや困難なものがあります。障害児という、ひとつの言葉で決めていくのは、どうでしょうか？ 支援の手や施設があれば、負担は軽減されていきます。家庭教育が可能な児童は、家族の中で……がいいと思います。私は、育てていきたいと思います。

733 バスの中等に掲載されている、「里親さんになってみませんか」等のイメージは軽くて、現実とのギャップがあり過ぎます。相当な覚悟がいることであり、又、それがなければ、「大変だ」ということで、またすぐ施設に帰されたら……その子の心にどれだけの傷をつてしまふか、計り知れません。これでは、何のための「里親制度」なのか分かりません。

745 私達は、養子縁組希望で里親になりました。3人の子供達は養子縁組し、その1人が知的障害でした。今も里子が発達障害です。子供達は、小さい時に養子縁組し、手当は今の子だけ続いています。十分な手当がいただけるので、とても有り難いです。里親さんの中には、足りないという人もいるけれど、とんでもないです。

753 ・里親制度については、関係機関が里親を増やす方向に力を入れているように思われますが、現在、里親をされている方に対する委託率を上げる方が、大切なのはと考えます。

・障害を持つ子（小学5年生）の里親になって感じるのは、制度そのものもあるが、担当者の熱意で里親、里子が救われる事が大変多い。

788 私は、これからも障害のある子を引き受けたいと思っています。

823 障害があるなしに関係せずに、段階を飛び越えての親子になるわけですから、関わり方の難しさは、生活を共にしながら、分かってくることが多い。問題が起きた時、適切な対応がとても大事で、相談できる所を使い、ずい分助けられたことがあります。児相はもとより、公的機関、里親等、里親1人に問題を抱え込ませない、里親の団体作りを心掛けています。

898 私は、平成14年に0才の子供の委託を受け、その後、1才8ヶ月で児童相談所で勧められた特別養子にしましたが、3才半の時にてんかんの発作を起こし、症候性局左関連性てんかんと診断されました。委託を受けた時も、特別養子にした時も、順調に育っており、障害は分かりませんでしたが、現在子供は小学2年生で、病気が進み、言葉も出なくなり、食事も流動食で、オムツをしなければ生活できなくなりました。ですが、現在の私は、里親という立場ではなく、障害のある子はあくまで実子となり、養育費や里親の手当等の請求をすることもできません。このアンケートに対しても、どの立場で答えていいのか、理解出来ないであります。近い将来、障害のある子供には、立場に関係なく、支援をきちんとしていただく時代が来ればと思います。ややもすると、実際に困っている所に支援が回らず、ファミリーホームの運営者や、その周りにいる人達に支援がいっているという話も聞きます。その様な事のないよう、よろしくお願ひします。

915 里親として申請した時から、里子がどのような問題を持っていても、引き受ける気持ちには変わりはないが、問題点として、実子、孫との関わりを考える必要がある。事前に知られ、心の準備をと思う。児相等のサポート、児相職員の専門性、ミスマッチを少なくする。

929 8年位前は、障害があっても、教えてもらえたかった（知らされなかった）ので、訓練を開始するのが遅くなつた。現在では、そういうことはないようだ。

944 バックアップはもっと必要だと思います。障害のある子供はもちろん、不適切な成長をした子供達は、里親の元で、歪みを治そうともがき苦しみます。本や講演で、頭では分かっている事でも、生活の中で子供と接している時に、たくさんの援助、助言は、いきすぎてもいいくらいだと感じました。ましてや、小さい子ほど、障害も分かりづらく、里親側の努力の足りなさだと思われるのではないかと、もんもんと考えた時期もありました。

958 養育期間（18才まで）でなく、20～21才までの保証とその後の支援。知的な遅れがボーダーラインの場合、公的支援が受けられず（受けにくい）、解除後も自立が難しい事も重なり、受け皿となる里親への負担がある。

1013 障害は1人1人症状が違うので、その子を理解し、その子にとって、また親にとって、何が必要かを見極めるのは、とても難しいと思います。幅広い、専門の方のケアが必要と感じています。

⑪ 以前から横浜にファミリーグループホーム制度と言うのがあって、6人程度までの子どもを養育してくれる夫婦を募集しているということで、応募したらこれが認可されて今年の4月までやってきたが、ファミリーホーム制度に移行するということで横浜でのファミリーホーム第1号となった。ファミリーグループホームを始めるとき被虐待児の養育については或る程度の覚悟もあり、開設以来いろいろと勉強もしてきたが、発達障害児のことについてはまったく無知といつてもよい状態で、子どもの状態の悪さをいくら児相に相談をしても「今こういう状態の子どもでもあるとき急激に行動が変わってよくなったりするものですよ」などという無責任な答えが返ってくる（それも児相の精神科医から）だけわけがわからず、悩み続けてきたのだけれども、それを知人等に相談したら「療育センターというのがあるからそこへ行ったほうがよい」というアドバイスを

受けで診断をしてもらったら、なんとアスペルガーだった。児相のこの診断レベルの低さ、知識のなさに何年も振り回されて悩み続けてきたが、いい加減にしろよ、といってやりたい気持ちだ。しかし、それがわかってからも養育の困難さに変わりはない。いつの間にかうちは4人の発達障害児がいる。なぜこんなにも状態の悪い子どもが増えてしまったのか？ これではとてもふつうの里親さんでは育てられないだろう。里親の数が増えることなどまず不可能な話だと思う。

⑫ 自信はありませんが、やりたい気持ちはあります。

発達に心配のある子の里親 「育っていく中でわかった」

2 気軽に相談したいと思うが、相談に適した人がいないと思う。里親会の中の噂や行政の実態等、本当に苦しい時に相談した後どうなっていくのか、とても不安になることもある。連携も必要と思えるが、その後の処遇に不安がつのる。

5 ・現実として、軽度の障害や心の発達と身体の発達の不整合による社会的不整合などは、実際に養育してみないと分からぬ。その際の対応が明確でない。

・東京との専門里親制度で、専門里親に登録している人は2ケタいるが、委託実績は0人である（ここ5年）。制度の実効性に問題があるのではないか。

19 施設の方が大事に育ててくれるのは有り難いが、愛着がありすぎるのもどうかと思う。里親制度をもっと知ってもらい、里親家庭で子供が暮らせるようにと思う。

20 引き受けるのにあたり、少し時間があった方がいい。即決定して慌ただしく1日、2日で新学期に入るのは、準備期間が短すぎて、学校側にも多大な迷惑をかけ、子供にとってマイナスのイメージしか与えかねない。

42 社会的養護によって、環境の改善や養育に最善の福祉が子供に提供されるけれども、問題ある実親に対する行政上の指導力が欠損している。法的な規定も考えて、親子共支援していく体制が望まれる。

55 里親に限らず、地域の人全体に見守ってもらうことができなければ、なかなか馴染めないと思います。障害のあるお子さんを育てている方を拝見していると、どうしても引き受ける勇気がありません。よくよく自らを考えてまた時に、そのお子さんや親に対して、やはり私も引いてしまったり、少し怯えたりしてしまいます。スーパーで暴れる様子や、公園でうちの子のパンツを下ろそうとする障害のある大人の方などを身近に感じて、ご両親に「何とかしてほしい」と思ってしまいます。毎日の生活の中でどう感じるものなのか、想像ができません。

63 委託前にその児童の事前情報を、できるだけ多く開示してほしいです。

81 本気になって真面目に全てに対処していますが、簡単ではないこともまた、たくさん挙げればありますが、総体的に社会的視野ではバランスがとれていると思います。価値観の問題だと思います。

91 レスパイアケア制度は、今まったく機能していない。余程親しい家族間のつながりがなければ、無理であります。今、私達の地域では、「里母サロン」を毎月開き、本音でしゃべれる仲間づくりをしています。障害のある里子を預かっている里親さんの愚痴を聞いてあげることが、先ず大切だと思います。真面目な里親さんほど、先般大阪であったような里親の虐待が起きるのだと思います。

98 養育里親が主たる里親となったので、社会福祉の使命感を感じる人でなければ、できなくなつた。障害児を引き受けることは、余程宗教的な信仰心がなければ出来ないと思う。

117 関わりの難しい子の受け入れに対して、1人にしてほしいです。しかし、現実には、受け入れてから虐待を受けていた

り、障害が分かったりして、難しい子が2~3人いる里親家庭がある。支援機関の充実を。

140 親に恵まれない子がいること自体、周知されておらず、里親制度の普及が遅れているように思います。もっと里親が増え、広く周知されれば、多くの人の協力を得ながら、実親と暮らせない子供達を、健全に育てられるのではないかでしょうか。みんなが知ることから、偏見や、そういう子供達の生きにくさを取り除くことができると考えます。NHKの朝ドラを1本した程度では足りないと思います。

145 児童相談所は、多くの問題を抱えた子供を扱うので、里親に子供を預けたとたん、手を抜いてしまうような感じがする。里親が子供の問題を相談しても、あまり親権に聞いてくれない。里親がサポートを受けられないと、里親自身が疲れて、子供に上手に接する事も出来なくなってしまう。里親の声を聞いて、アドバイスやサポートをする人が、児相だけではなく、市町村や地域にいてほしいと思う。又、社会的養護という立場での里親を、もっと多くの人に知ってもらいたいと思う。

155 将来が見えない（委託終了後）不安や、その先の自立していくことへの心配。社会的な認知など問題点が多い。又、支援のない中での生活が、支障をきたす子の養育（10才）には、年齢差の大きい里親には、大きな心配事である。

156 乳児院での3年間で、発達に心配がある事は分かると思うので、里親にその旨を伝えてほしいと思います。里子を悩みながら育てながら、里親としても成長できたのかとも思いますが、障害のある子とない子では、違いがあると思います。分かっていた方が、理解してあげやすいと思います。

158 親権が強すぎる。法の改正が必要だと思う。親が子育てを放棄しているのにも関わらず、親権が強すぎるため、里親への委託が進まない。里親手当を、欧米のように充実させることによって、里親が、公的に認知される社会が築かれてほしい。

200 児相の職員、制度などに問題があるように思います。1人1人の職員が忙しすぎる。又、障害ある子供を、きちんと年に2~3回専門的に検査したり、障害児に対するケアとか指導とか、多くの人、回数が必要だと思われますが、いずれも不足しているように思います。もっと児相の人達、あるいは関係機関、専門家人達と接したいのですが、人や時間、暇がなさすぎるようを感じます。

206 里子を引き受ける時に、個人情報保護法かどうかは分からぬが、児童相談所からのそれまでの経過や状況についての詳細な説明、及び、資料の開示がなかなか行われない。又、施設から里親に預けるかの選択において、実親の承認による決定を、児童相談所等の第三者的な判断による決定の方が、望ましいと考えられる。現在、18才での措置解除を、就職または20才等にするなどを考える（財政面での歳出も大変だが）。又、措置解除後の里子のアフターフォローも大切な事と思われる。

210 引き受ける際に、十分な情報がいただけなかった。もっと詳しく、その子の事や家庭も知りたかった。

222 実親は、完全に存在を拒否しているにもかかわらず、実親の保険証を使わなければならぬこと。子のプライバシーが実親に筒抜けになり、保護されていないこと。

225 児相の職員は、子供とは全く関係のない所から異動して来られる方も多いと聞きます。犬や猫の子を扱う訳ではないので、にわか勉強ではなく、専門職の方にいてほしいと強く思います。児相の職員の数を増やし、問題を持つ子供達に、細やかな対応をし、より良い育ちを支援していくことが、より良い社会へつながっていくのではないかと考えます。それから、土日祝日の対応が、何かあった時にしてもらはず、不安に思っています。

227 乳児院で育つ赤ちゃんは、遅くとも1、2才で里親家庭で育つことが大事です。0~3才の家庭での育ちが、人間として、特に知的な面の育ちを意欲的なものにすることだと思います。乳児院

は、母子一緒に生活しながら、母と子に子育てのハウツーを教える場所にしてほしいです。定年を過ぎてから、中高生になった里子を引き受ける事が多くなってきました。若いうちは、幼い子が来た時に、将来の進学のために、少しでも蓄えをする事もできだし、自分の子供だと思えばと、大学、専門学校の費用も出してやれましたが、やはり、少なくとも20才の3月までは、大学、専門学校の費用、生活費等を、国から出してもらいたいと思います。

238 私は、仕事を続けながら、養育里親をしています。又、自分から望んで専門里親になった訳ではありませんが、専門里親として活動するには、専任できることが適當だと思いますが、仕事を辞めても継続して、里子が委託される保証もない制度では、困難だと思います。又、社会保険等の保障もないので、自身の老後の収入も心配になります。けれど、委託料だけを目的にする者も出てくることを思えば、それなりの対策も必要になりますが。里子が一般的に認められるように、行政が努力してほしいと思います。

274 里親手当も上がり、経済的には楽になった。しかし、勉強に付いていけず、将来のことを考えて、中高一貫学校に入れたため、学費は高額で楽ではない。学力がないため、大学進学や専門学校を考えた時に、手当が切れた後のことを考えると色々と考えます。

300 男子達を集めて、グループホーム的な事をやりたいです（資金があれば……ですが）。

310 子供センター（児童相談所）の担当者が、数年で変わるので、その都度、子供の今までの経験を話すのですが、話しただけでは理解してもらえない部分があり、心細くなります。

312 社会での認知度が低く、いじめや偏見があるため、大きな声で里親です、この子はうちの子ですと、声が上げられる社会であってほしい。

316 子供を引き取る時に、その子供自身の情報が全くない。

318 ・里親制度を知らない方が多い。

・里親登録をして、子供と生活できていない方がいる。

・実親が実で育ててほしいと考えているから、里親には難しいという話だが、里親の所で育つことの良さを、アピールできているのか疑問。

・障害のある子を引き取ることは、経験がないので不安。でも、我が家で育てることを希望されれば努力したい。

347 実子でもそうだが、個別の障害や問題を、きめ細やかに相談にのってくれる機関や専門員が、絶対に必要。特に、核家族化が進んでいくので、切実に思います。

369 里親への支援体制を、もっと確立してほしい。

381 現在養育している児童は、去年、縁組での委託の話がありましたら、女児の家族（祖父 ガン患者のみ）が急に嫌になったとの事でした。女児は楽しみにしていたのに。これから命を育てるために、何が必要かを考えてほしかった。祖父は、面会にも来ないので、職員の方は、女児の気持ちは無視。第2の虐待をしている様です。

404 頭では大変だと分かっていても、実際は、思っていたよりずっと大変な事が分かった。自分に心のゆとりがない時には、子供も察して、上手にいかない。じっくりと落ち着いて耳を傾けると、いくらかスムーズに解決策が見つかる。その場その場で、一番良い方法を考えていこうと思う。

411 今、9才になる男の子を預かっています。学校は普通の学校です。でも、発達や発育が、全体的に少し遅れがあります。身長は、幼稚園、小学校で一番小さいです。勉強は、宿題をやらせると集中できないで、何かいじったり遊んだりして、終わるまでには時間がかかります。これから先、勉強に付いていくか心配です。

413 里親にとって、児童相談員とはどういう役割をしてくれるものなのか。

424 里親への支援、相談システムがあり、里子への支援が適切に行える機関が、手軽に利用できるといいが……。

426 障害のある子が、里親、実親から離れて生活していく環境、住居（施設等）、仕事（支援、援助、手当含む）。

452 困って相談した時に、児童相談所の素早い返答をしてほしい。本当に困った時にしか相談しないのに、その時にきちんととした答えがもらえないのは、すごく悲しい。不安になります。

469 意見や提言をする程、里親制度を理解していないのかも知れません。里親をして、里子を預かって、つくづく感じるのは、実子は何もなくても愛情が湧いてくるけれど、里子は努力しないと、愛情が持てない時があるということです。

477 ・児童相談所の支援がほとんどない。担当者が年度ごとに変わってしまう引き継ぎもあやしい。

・定額給付金も受けられなかった（子供の現住所が実親の所にあるため）。今後、子供手当はどうなるのか？ 実親が面倒をみられないから、里親が子育てをしているが、国からの支援は、実親の所に支給される仕組みはおかしい！ 市や児童相談所に相談しても、國の方針と言われ、恩恵は受けられなかった。

478 児童相談所の担当者や学校、医者、福祉関係者など、チームとして、里子の情報共有や支援方法などを持たなければ、里親の負担が多くなり、厳しい状況となる。

479 委託される場合、里子の情報が少なすぎだと思います。実親に糖尿病等遺伝的素質を受け継ぐ可能性のある病気がある場合には、それを予め知っている方が、食生活等、気を付けることができます。又、現在受託している子供と、新たに受託することになるかも知れない子供との相性はどうなのか。しばらく様子を見るために預かるなどの期間を持つことは、必要なのではないかと思います。受託したものの、先に受託している子供と折り合いが悪く、せっかく落ち着いていた家族関係がめちゃくちゃになり、家族皆が疲れ果てるというのは、どこかおかしい気がします。ましてや、発達障害があり、手が掛かる子供がいる場合は、なおさらのことです。受託してしまったら、そう簡単に戻すことはできないのですから。

486 児相にはもっと、里親さんの所に足を運んでほしいです。

487 里親自身の専門性の向上（熱意だけでは里子は育てられない）を、里親へのセーフティーネット強化が喫緊の課題を感じる。この2つをクリアしていくないと、里親制度の推進、普及は有り得ない。

489 当方は、引き受けたからの刺激で、本人の能力はとても伸び、IQも100（99）になりました。母親のIQは低いとのことなので、限界はあるでしょうが、それなりに伸び、自立も可能であると信じて、希望を持っています。しかし、家族の教養のため、1年のうちに、レスバイトを多く与える必要があると感じています。

507 里子の子は、今迄の悪い環境や発達の遅れで、1人1人に合ったケアが必要だと思います。どの子も適切なケアさえすれば伸びます。そのための費用、例えば習い事なども必要だと思います。

516 里親制度については、この財政難の中、よく頑張って下さっていると思います。しかし、アピールしているにもかかわらず、一般には深く浸透していないのが、現実かと思います。里親登録しても、ただ子供がほしい、好きだけでは、なかなか受託まで届かず、最近の子供の様子を見ると、預かるという事の責任の重要さを痛感せざるを得ません。障害のある子の里親を引き受けるにも、家族のサポート力が最大でなければ出来ません。公共機関のサポートの人（ケースワーカー、心理士、身近なサポート機関）が少ないと思いますが、どうでしょうか。色々な問題が機関や里子や里親にもいっぱいあって、詳しい事を知らないし、子供も1人を育てることでいっぱいの私には、

偉そうな事は言えません。

523 自分もなかなかできないことですが、どんな障害がある児童も、ゆっくり成長しています。他の子と比べないで下さい。生まれた時を思い出して下さい（家へ来た時）1年前と比べて下さい。そして、昨日と比べて下さい。確かに成長しています。

533 新しく変更になった里親制度は、里親にとってメリットがあるとは思えません。行政が作った里親事業のための制度なのだと感じます。障害児受け入れは、経験が豊富な里親で、人手があれば可能だと思います。

535 普通の家族が、親に恵まれない子供を引き取り、家族の一員として暮らすためには、国としての援助を多く出して、1人でも淋しい思いをして育つような子供を作らないようにしてほしい。なりたい里親と、なった家族が誇れるような國の制度を作ったら良いと思います。例えば、その家族はいろいろな事に割引があるなど。

545 子供の要望に対しての返事や結果が、なかなか児童相談所からいただけなく、その事がかえって、子供の不安になっていることがある。大切な事は早く進めてほしい。

577 現在の厳しい経済情勢、雇用情勢の悪化の中において、健常者及び障害のある子供が増える率が予想されますが、それらに対する国や各市町村での具体的な支援体制（援助費の増額等）が、充実していかない限り、里親は減少の一途であると思う。

578 児童相談所が、子供の状態を理解していないことが多々あり、マニュアル通りの対応では困る部分がある。特に、なぜこの子が虐待を受けたのかという説明がなく、問題が起きてから、そんな事もあったようなことを言われ困った。子供中心にものを言われても、現実が分からず、理解できない状態では、児相にも相談できない。もっと担当する子供の数を減らしてはどうかと思う。児相も人を増やして、労働時間も短くしてあげてほしいと思う。

582 施設で生活をしてきた児を預かり（施設の重要性も分かるのですが）、もっと普通な家族単位の中で、成長するべきではないかと思います。乳幼児期での委託を、もっと柔軟性のあるケースバイケースでの対応が可能だと良い。出来る限りを家族（里親）の中で、過ごさせてあげてほしい（乳幼児職員経験者としても）。

590 学習障害、特別学級、周りの同級生や下級生にも遅れをとっている劣等感が悲観を生み、自信を喪失し、自暴自棄になり、孤独に必死に耐えている姿を見ます。学校の先生の、里子への理解と愛情には頭が下がります。中学、養護高校までは保障されているが、その後のサポートがあるのかどうか、それまでなのか？ とても不安です。実親が引き取ることが望めない里子を、老いる里親がどこまで見ていくことができるのか。就労能力のない里子への援助はあるのでしょうか。

631 ・生まれてすぐ委託できると、もっと子供のためになるのではと思う。

・国や社会、地域の理解が必要だと思う。

・里親自身の人間性などを磨く必要がある。

・里親達の行動を、国や社会が大きく評価、顕彰していくことが大事だと思う。

・里親や里子が、地域の中にあちこちにいて当たり前の社会であれば、どんなにいいだろうかと、しみじみ思う。

646 養育してから発達障害が分かってきたが、その点、児相の対応が遅いし、その後の支援についても、里親が調べてこうしたいとの思いを告げて、ようやく動き出すというところがあり、現状に対して不満を覚える時がある。職員の方々は多忙だと思いますが、もう少し対応の迅速性を高めていただきたい。各県によって、対応がまちまちなところもあるので、一貫性を持った制度をお願いしたいと思う。

655 我が家は天理教の教会です。1人でも多くの子供さんに家庭、家族を味わってもらいたいと思います。

660 養育里親です。施設から子供を引き受けておりますが、0~3才になるくらいに、愛情がなく育てられた子は、どんな子供でも心の自閉症だと思います。なかなか養育上問題が沢山あります。小さい時から里親家庭に引き受けられる子は幸せです。今後、多くの子が里親家庭に引き受けられるように、願わざにはいられません。又、中高生の子も、少しでも家庭での生活が味わえることを願っています。

662 もっと学校の協力がほしい。市営住宅など申し込むのが大変で、里親は生活に余裕のある人がするのでしょうか。市営住宅は、生活に困った人が……。何か、もっと出来る事はないのかなと思います。一般の保護者の方にも、子育て、しつけ、指導をするべきだと思う。たてわり行政ではなく、ひとつにならないのですか？ 子供の事です。一行政でできないものですか？

670 里親は解除になんでも、後々金銭的トラブルでも、付き合わなければいけないことが、私共はずいぶんとありました。グループホームへ入所できる方は守られますが、そうでない人は、守られていません。

701 施設は、複数の職員が協力しながら養育することができますが、里親は、一個人として養育しなければならないので、障害児の場合は、余程のバックアップがない限り、長期で養育していくことは、技術的、体力的、精神的に困難であると思います。

714 今現在、里親促進委員をしています。今回の制度で、里親会の説明をする時があります。その研修会に参加した方が、障害がある時には帰してもいいのかと、犬や猫のように話をする方がいます。制度に問題があるように思う。養子里親で委託を受け、その後問題（虐待）があり、児童相談所で引き上げ施設へ。その子供をまた養子里親へ委託。養子里親は、色々な行事に参加したいが、前の里親が日々行事に参加するので、現在の里親は、子供に対して、悪い影響が出ることを心配して、参加を拒んでいる。

718 今、里子としてお預かりしている彼女は、本当に私のことを母と慕い、有り難く思っています。なかなか本当の子供のように、心からは思えませんが、育てさせていただくこと、彼女がこの家に必要な人であることを、家族が感じていますし、彼女によって、育てられていると（私達が）思います。

730 この子に引っ張られて、ここまで来ました。初めから詳しく知っていたら、引き受けられたかどうかはよく分かりませんが、前向きに相談できる所がいくつもあったことは、有り難かったです。又、実子を育てた経験は、とても大きかったです。今は逆に、この子を育てていることで、実子を客観的に見ることもできるようになりました。実子達が、この子を兄弟だと認め、可愛がっていることが、何より大きな支えになっています。

760 里子が来てくれたことで、家族それぞれ良い成長をした。幸せをたくさんもらえた。「やりにくさ」を持たない子だったら、もっと良かったのかも知れないが、強い縁を感じる。より良い自立を見守りたい。応援したい。

802 役所は、あまり規則で縛られないでほしい。

825 養育していくうち、実親からの連絡があった時に聞いて分かることなど、委託児童について、もう少し事前に詳しく知りたい時があります。委託児童に先入観を持って接することはありません。就学児童や幼稚園児は、特に学校、幼稚園にお願いしないと、他の児童や園児に迷惑をかけてしまつてからでは、遅いと思います。

842 今年の5月に、知能指数がグレーゾーンだということが分かり、これから的生活面、勉強方法等、どのように指導していけばいいのか、悩んでいます。障害児の場合は、色々とサポー

トを受けることができるようですが、グレーゾーンだと、あまり公的なサポートを受けることができないようなので、そういう子供達でも、なにかサポートを受ける機関があればなあと思います。

844 実親さんに制度を理解していただかないと、子供が里親にいけない。

871 委託当初の支援、長期的な支援、共に必要で、里親家庭の弱点である密室化を、防がなければいけない。

883 はじめは、里子として子供を迎えたが、現在は養子縁組を済ませています。この頃は、里親に対する金銭的、研修等、だんだん改善されていていますが、養子縁組をしてしまうと、やっていることは同じでも、次第に隔たりができてしまうと感じます。縁組みをしてしまっても、研修、相談等、長く支援していただけたらと思います。

909 周りの方々の協力が必要である。

913 養育里親と養子縁組里親、親族里親の対応の差が大きい。

930 身近に障害や発達に問題のある人がいた方は、そうでもないのでしょうか、そうでない者にとっては、どういう進路、就職があるのか未知の世界です。日々の生活では、子供と向き合っていれば、特別困難と思う事は少ないですが、子供が成長した時の事を思うと、もっといろいろな事を知る機会があればと思います。

949 外国、特に欧米に比べて、里子に対する意識が、日本人全体に低いと思います。里親、里子の意味も知らない母親もいます。

956 個人的には対応しておりますが、同様な子供を持った場合、苦労する人が多いと思う。里親、里子の関係は、一生涯の関係であり、仕組み上の割り切りは、不可能なものです。単純に割り切れる関係ではないことを、ご理解願います。

957 里親は、よほど豊かな心を持った人でなければ、引き受けはいけないと思う。少なくとも里母は、母親を慕う児児を受容する母の姿でなければならない。

965 これらの子供達が、社会に適応するためには、周囲の理解と里親の努力だけでは、はっきりいって無理。ちゃんとした特別支援を保障することは、不可欠かつ急務。エビデンスのある積極的な心理セラピーを受けるとか、OT、PT、ST、心理、あらゆるリハビリを、定期的に受けることのできる特権を、もらう必要が大かと思います。そのための経済的負担も十分配慮することや、通うためのサポートも必要になると思います。とはいえ、ハードなケースは、経験や知識のない家庭には、重すぎると感じます。

983 受託前から障害が分かっていると、周囲の反対が多いため、受け入れられなかつた経験があります。私自身がやる気があるとしても、他の家族の事も考えなくてはいけないので、難しいです。大変だと感じた時、すぐに手助けしてくれるシステムがあるといいです。本当に大変な時は、「助けて」と言うのも疲れるくらいになっているので、「次の日には駆けつけてくれる」何かがほしいと思います。今は、「大変になる前に、助けてもらえるように、手回ししなくちゃ」と思つて活動中です。

998 実親が子供を里親に出したことへの反省も、少しは感じてほしい。何から何まで国と他人の世話になっているということを、強く感じるような勉強会を、やってほしいと思います。今までの生き方、考え方では、又、このようなことを起こすと思うからです。

⑯ 児相の担当者は2,3年交代のため、そのとき何とか子どもを委託してしまえば後々はどうなろうとかまわないという姿勢が感じられ、問題が生じると過去の担当者のせいにして逃げることが多い。児相職員に里親をする人がいないのはなぜかと思います。

⑰ ・児童相談所や専門機関の支援体制が確立されることが重

要。

・里親が孤立しないで社会へ開かれてゆくこと。社会の無理解、差別を打破して行けるように、里親制度が社会的地位を確立する。社会的責任に見合った研修制度があって、その報酬も考えられること。

19 少し自分を見つめなおす時間が取れればきっと余裕は出来るのだが、初めての子を24時間365日ずーと一緒というのは精神的に辛い。何もわからずに児相からの希望にて幼・保に預けなかつたが、自分のことが何もできずにとても辛く、いやな人間に思えてきた。児相の柔軟な対応を望む。

20 里親を続けるにあたって児相の担当の方がころころ替つてしまつたり、担当の方の心無い一言に傷ついたり、むつすることも何度かありました。サポート体制は決して十分とはいえないのではないかと思います。

また私は児童デイサービス事業所の職員として働いています。そのため専門的な知識を持っていましたが、実際の対応、行動の予測が出来ますが、一般的に見ると今のサポート体制では発達の遅れや偏りのある子どもと暮らすということは、とても大変ではないかと思います。

21 障害があるとはっきり分からぬ子どもでも、里子として養育家庭に来る子どもは、多かれ少なかれ精神的肉体的に虐待を受けてきているので、非常に養育困難である。まして発達障害があるとはっきりわかるお子さんは、一般家庭では養育困難だと思う。万が一家庭に受けたお子さんでも、養育困難になったときは施設のほうで受けてほしい。そのお子さんをお返しすることにより、里親も責任放棄で苦しんでしまう。児相はそうなつてしまつた里親に対して「里親失格」としてレッテルをはり、次の子どもに対応しようとしないし、他にいる子どもを取り上げたりするペナルティが来る。児相ははっきり言って里親たちの苦しみをよくわかっていないし、理解しようという努力がない。

22 里親里子という立場が、自分としてはうまく消化し切れていない面があります。実親の権利のほうがまだ非常に強すぎる気がします。子の立場をもっと支えられる制度つくりが必要だと思っています。

今特にパスポートが実親でなければ支給されない点の改善を早急に何とか里親名でも支給されるようにしてほしいと思っています。里親名では出ないので修学旅行に参加しないというのは、あまりにかわいそうな気がします。

23 障害のある子が小学校に行くようになったとき、その担任の先生方の理解が得られない。

24 三日里親なので足に少し障害のある子を受けていますが、特に大きな問題はありません。

25 里親の研修を朝早くから遠くまで行って受けなければならぬので負担になる。近くで気軽に出来ればもっと広がると思う。

26 施設にいる子どもは、実親の了解がとられないため里親のもとにこられないと聞いていますが、里親登録された方々は一日も早く受け入れたい思いがあると思います。私は知人友人と会うたびに里親制度のことなどを伝えています。

27 すこやかで知恵遅れの子どもさんを10日間ほど受けたが、特に問題はない。おねしょなどあったが、それはそれでお世話をさせていただいています。

28 子どもよりも実親のほうに問題があるように思う。実親へのカウンセラーが要るよう思います。

29 里親制度について社会的にもまだ理解されていません。特に病院に子どもを連れて行ったときに感じます。

30 養育里親と専門里親との線引き(分け方)が理解できない。虐待を受けた児童は専門里親に委託となっているのに、養育里親に委託されるのは疑問に思う。

31 障害のある子を受けたことはありませんが、例えば

18歳になり我が家を去るときに将来生活していく居場所等を考えると、やはり大変だと思う。

41 障害のあるなしはあまり関係ないと思いますが、問題としては近隣の目に対して子どもが受ける心理を考えると、受けた(養育する)には、相当の覚悟が必要だと思います。軽いダウン症だったら育ててみたい気持ちはあります。

42 年齢が高くなるほど愛着障害などが多く出て大変。出来るだけ乳幼児のうちに里親委託して、家庭で育てられるべき。「大きな施設で子どもを育てるのは子どもに対する虐待であり、暴力である」と私も思う。知的障害の施設で長く働いていたので、里親申請のときから「障害を持っている子どもさんでも大丈夫です」と伝えた。「障害を持っている子どもももちろん家庭で育つべきと考えている。子ども(30,27)がまだ同居中で部屋があかないが、障害を持っている子供さんを、健康であれば受託したい気持ちはある。ふれあい家族では、春夏休み、5月連休などに来ていた。ふれあいで養護施設より来ていた小学生が知的障害の施設に移り、家庭へ宿泊も面会も出来なくなつた。希望したが断られて子どもが大人不信を持つのではないかと心配。

障害あるいは発達に心配がない子の里親

4 1つとしては、里親、里子という呼び方を考えてほしい。

・もっと子供達が生まれてきて良かった、命の重さを喜べるような、国からの指定地域ができればいいと思う。

・施設の在り方。施設があるから子供を簡単に手放すのか、本当に子供の事を思って施設に託すのか。

7 障害のない子でも、実子ではないので、考えのよく分からぬ事が、色々大きくなるにつれて出てきます。障害のある子を育てている里親さん。とても大変だと思います。私には出来ません。

8 どのような子供であろうと、問題は子供ではなく、親だと思っています。親が子供の背景をどれだけ理解することが出来るか、そのことに尽きると思います。子供の反応によってこちらの欠点を気付かされた時、どのような対応が出来るか。反省し、素直に子供に託すことが出来る関係であれば、信頼は深まると思います。

10 友人、知人達はみんな、里親になったと言うと「すごいね」「えらいね」「ちょっと出来ない事だよ」と言います。そうでしょうか? 私は里親は誰にでもできる事だと思っています。子供のためになり、自分の気持ちも満たされる。愛を与え、愛を受け取る、とてもステキな仕事(?)です。

14 今養育している子供は親に精神障害がある事例です。しかし、今まで一度も児童相談所からの健診はありません。里親自らが働き、異常の有無の確認、治療の選択をしなければいけません。もし、障害児を受けた時も同じ状況は、里親の負担がかなり強いと思います。もしそれによって、障害の悪化となつた時、精神的負担も強くなるのではと思います。医療的専門知識は持っていますが、子育てはまだ経験不足と思っているこの頃、障害児を委託は不安を感じます。

16 お預かりする子供さんの障害の有無は、正直気になる部分です。できることなら障害のない子供を養育したいというのが本音です。

18 どのような子を引き受けのもの、マイナスな考えはありません。問題点と言えば、一般の里子と障害のある子とのコミュニケーションの難しさを考えますが、それも1つの経験と考え、一緒に解決することもひとつ的方法だと思います。

23 養子縁組など、子供がいくら望んでも、実親の親権が強い。里親は大変な思いと責任を持っているにもかかわらず、権利がないと痛感する。

- 24** ・養育委託前に、里子の情報が少ないので、もっと情報がほしいです（ふれあいも）。
- ・里子が問題を起こしても、児相が里親の意見を聞いてもらえない、とても悲しかった。
- ・養育の時期は、乳児から委託にしてほしい。
- ・もっと養育の児童を増やしてほしい。
- ・初の養育里親なので、児相へ相談することが多い。
- ・児相からいろいろサポートしてもらえて、とても助かっている。
- 25** 普通の子供を引き受けることは、これからもやっていきたい。障害のある子供を引き受けるのは、自分に自信がありません。
- 28** 人生を生きてきて、少しでも福祉の仕事をして、世の役に立てるよう頑張りたい。
- 29** 私達はもうすぐ70才になります。やはり若くないと付いていけないと思い、養育里親を卒業するつもりです。でも子供が好きなので、短期の触れ合い里親は、出来るだけ続けていくつもりです。子供の心の支えとして……。
- 35** 是非にと思っていますが、養育里親としては、法の制限があって、これ以上受け入れないのがむしろ問題である（実子が5人いるので）。
- 38** もっともっと周りの人が、里子に対して考えてくれたら良いと思う。まずは、国の人立つ人が、里子制度をもっと知ってほしいです。
- 39** 乳児を引き受けくれる家庭が3,000もあれば、乳児院を全廃できるのに。里親さん、頑張って下さい！
- 41** 2人の子の里親を通して、障害のある子の里親は本当に大変だろうと、以前にも増して感じられます。うまく相談できる機関や専門医、援助のサービス等を利用する事もいいと思いますが、同じ障害を持つ里親さん同士相談できる場があれば、心の支えになるのではないかと思います。
- 43** 国、県は、口を開けば子供は家庭の良い環境で育てるのが一番と言います。しかし、今の国の施策は施設入所が中心です。少しは里親委託に関しても、改善されてきましたが、里親委託が大きく前進はしていません。それは、国、県が施設入所の考え方を捨てないところにあります。この方針を捨てるよう運動することが、世界的に見て遅れている。里親委託を大幅に増やすことになると思うのですが。
- 44** 障害のある子を引き受けることには抵抗はありませんが、近所、学校等の理解がどれだけあるのか、疑問を持ちます。
- 45** これからの社会では、子供が悪くなるばかりのような気がして自信がない。
- 47** 養子目的、里親と養育里親の目指す方向が違うので、同じ制度下での扱いは無理だと感じている。ハッキリ言えば、養子目的は委託費不要なのではないかと思っている。養子にしたら里親を辞めてしまう人が多いのも問題。養育、特に障害者児に手厚くしてほしい。一般家庭では、障害児が生まれても一生懸命育てます。選べません。子宮に戻せません。里親も縁を大事にしてほしい。そのためには、養子目的親は無理だと感じています。
- 49** 障害のない子であっても、同じような事が言えると思いますが、障害のある子となればなおのこと、更に、気軽に相談できる場所や物理的なサポートを受けられる体制が必要だと思います。とりわけ、精神的なサポートや専門家による細かなアドバイス等が重要であろうと思います。
- 50** 引き受ける前に、里子の様子を詳しく知っておくと、対応の仕方に戸惑うことが少なくて良いことに気付く。だんだんと里親宅（私の家）での生活に慣れ、自分の本性を出してきかけた時に、戸惑いを感じたので。言葉が乱暴になり、行動に乱れが生じ、急変する。時間が経てば徐々に戻ってくるが、その雰囲気のましさは、今までの生活に見られないことだったので、

驚くばかりだった。

- 51** 現在、なかなか障害を持った子を、いきなり引き受けられる里親さんは少ないと思います。施設で働いていた私でさえ、大変な思いをしているのですから。障害児を育てるのでしたら、生まれてすぐならば育てられると思います。6ヶ月は乳児園から出さないようなところがあると聞いていますが、間違っていると思います。「養育している子が障害だった」というのであれば、愛情で育てていけると思います。どうか、どんな赤ちゃんであろうとも、乳児園に入れずに里親に預けて下さい。
- 52** 里親制度も見直されているので、やりやすい。共働きでと多少時間が取れず、反省が多い。
- 56** 今は既存のままでいい。次の子供さんのことは、今のところ考えていません。
- 58** 里親制度は良いことと思うが、親権が強すぎると感じる。より多くの子供が気楽に里子になれるようにありたい。でも、人間である以上、里親が実親が恐れるほど里子に執着することも否定できない面がある
- 59** 十分に手を掛け育てなくてはならない障害児は、1人で4~5人分の手が掛かると、主治医に言わされたことがあります。でも、手を掛け時間をかけて育てていると、ひとつずつ出来ない事が出来るようになったり、喜びも大きいです。ただ、苦労は半端ではありません。ちょっと手の掛かる子くらいの意識での委託は危険だと思います。それこそ24時間、何か問題が起きた時、すぐ連絡の取れるホットラインを開設するなり、すぐケースワーカーが駆けつけるなどの体制は必須だと思います。里親自身のメンタルケアの医師も必要かも知れません。それでも障害のある子は、家族の中で、温かく育んでもらいたいと思います。
- 62** ・個人情報のこともあるのか、委託児童の詳しい情報が、児童相談所よりまわってこない時があり、戸惑うことがあった。守秘義務を徹底して、子供の成長記録、家族関係などを公開していただきたい。
- ・障害のある子供を預かる場合のサポート体制を、しっかりともらいたい。
- 66** 現在委託されている子供は、可愛く育てやすい子供達です。こんな育てやすい子供でも、生活していく上で問題は出てきます。専門里親の研修を受けていますが、そこでの勉強はとても役に立ち、考え方を見直すことができます。子供に対して視点を少し変えることで、子供を理解できるような気がして、とても愛おしくなります。障害のある子供であれば、手が掛かると思います。経済的に負担もかかってくると思います。子供に関わる他の方は、職業として認められている中、里親は手当でしょうか。この辺にも問題があるように思われます。
- 67** ・今現在、障害があるとは思われない子を預かっているが、もし障害があったら、精神的な面だけではなく、経済的な面でも大変だと思う。
- ・いろいろな経験をさせてやりたいと思い、あちこち情報を集め、実行するには、実際お金がかかる。引き受ける時の年齢が若ければ、それなりに何とか自分達里親の老後資金も何とかしてできるが、もうすぐ定年の場合、里子のためだけに資金を使うことためらいが生じる。里子にも申し訳ないという気持ちが出てくると思う。
- 68** 今のところはまだ手もかかる年なので、考えてはいないが、子供が兄弟がほしいとたまに言っているので、考える時もあります。
- 69** 県を越えてのレスパイトを強く望みます。
- 70** 私共の子供には障害のある弟がいて、どのタイミングで話すべきか、引き受けできちんと生活がやっているかなど、少し迷っております。封筒の表記に、里親とか、発達に心配のある児童という文言があり、少々ショックでした。子供が大きくなったら、こういうものに心を痛めたりすることも……。封

筒の表書は、誰が見るか分かりません。必要以上の明記はどうでしょうか。

73 心臓疾患のある生後3ヶ月の男児を2ヶ月預かったが、夫婦共々に疲れた。早朝から深夜まで、1日5回投薬しなければならなかつたからである。専門里親の対象児であった。妻がかつて、少女の里子のことで十二指腸潰瘍になったことがある。要保護児童の9割方が児童養護施設に収容されているのはおかしい。里親登録していくながら、未委託里親が多いということはどういうことであろうか。特に、乳幼少年期の子供には、特定の保護者が必要です。それをしない国家の怠慢さに憤りを感じる。韓国では、5割近くが里親に委託されている。しかも、未委託里親という概念はなく、登録すれば研修させ、すぐ委託するという。そして、ここ10年、児童養護施設を新設していないという。日本でなぜ出来ないのか。

74 来年子供が小学生になるが、周りに里子がいないので、周りの子供達の里子に対する対応が心配される。学校の先生達も、どこまで理解しているか分からないので不安です。

76 ・里親として求められる事が、どんどん家庭人としてのみならず、職業のように、しかも24時間。息苦しくなってくるように思います。

・虐待とかネグレクトの子が多くなってきてているのを感じると、里親として、耐えられるか不安。経験上、とても他の人に理解されにくい事が多い。

・障害のある子を引き受ける事については、私の年齢からして、ちょっとゆるくないと思います。将来まで見てあげられない。その子が18歳になると、児相など公的な面から見放されると思います。老夫婦と障害者では、うまく生きていけないという不安があります。19歳から自立までに、もっと力を貸してほしいです。

79 障害の種類、程度にもよりますが、やはり障害を持った子と24時間暮らすことは、とても大変なことだと思います。委託された子供はできるだけ家族で受け入れるよう、頑張りたいとは思いますが、共倒れになってしまふのも困りますので、場合に寄っては委託解除になってしまふのも、いたしかたないと思います。児相の職員さんがとても忙しく大変なので、もっとワーカーさんの人手を増やしてほしいと思います。

80 児童養護施設の保育士経験がありますが、子供が大きな集団で生活することの、不自然さについて感ずることがあり、里親になりました。子供は集団の中の1人ではなく、自分だけを時間の区切りなく、世話をしてもらえる環境を持っているのではないかと思います。時として、自分で良いのだろうかと思うこともありますが、全ては縁と思っています。人間としての器を少しでも大きくするため、研修の充実をお願いすると共に、自分も人との繋がりを大切にしていきたい。

82 私達が預かっている子供は、大きな障害のある子ではないです。しかし、病院が2ヶ月に1回、後は1日2回の投薬なので、最初はびっくりして戸惑いましたが、病院で対処方法を聞いて、後はその通りやればいいだけです。ただ、障害の強い子供を預かれば、子供の対処方法、性格、周囲、利用する機関、何から何まで分からぬ事ばかりなので、児童相談所の方がいろいろと相談にのってくれなければ、やれない事だと思います。

83 私自身は、今後障害のある子供を引き受ける気持ちはありません。知り合いの里親さんに相談された時も、すすんで勧めることはしていません。ちなみに私自身、専門里親研修受講中です。

85 初めて登録した頃より、制度も見直され、活性化されてきた。研修なども再々行われ、里親に対する専門性も求められている。実子が何人いても、里子を引き受ける若い世帯も増加して、大変すごい事だと感じている。又、里親サロンなどもでき、各地域、ブロックで意見交換や日々の悩み相談もでき、少しイメージも変わってきた。ただ、障害の有無に関しては、育

てる側は大変にリスクを伴い、気力、体力が必要となってくるので、引き受ける里親にも、相当の知識と理解力が要求されるので、判断も慎重に行われなければならないと思う。個人的には、発達障害がある子を育てていく中で分かったので、相当に当時は悩んで、結果的には自分が体調を崩すきっかけとなった。現在は、成長と共に改善されてきているが、やはり、将来が不安を感じることも多い。就学前（小1）に養子縁組をして実子となり、現在は小5。軽度ADHDも落ち着き、現在は普通児と変わりなく学校生活を送っている。しかし、まだまだ不安は残るのが現実であり、きついなあと感じているのが本音である。

87 公的機関で、子供を預かる時の躊躇をもっと厳しくしてもらったら有り難い。甘やかしすぎ。

89 里親による里子に対する虐待なども、めったにはないですが、聞いてはいます。実親の子育てのしにくさは、里親にもつながります。実親、里親の区別なく、育児をしている親すべてに対するサポートがもっと必要だと思います。障害のある子を育てるならなおのことです。具体的には、相談機関をもっと増やして下さい。児童館の開館時間を増やして下さい。又、上記のような託児付きカフェのようなものも、利用できるといいと思います。同じ立場の人と会う機会ももっとほしいと思います。

90 専門里親の場合、2人までというけれど、実際のことをいうと、普通の子扱いで、虐待のある子をもってこられることもあり、制度の問題。障害のある子の場合、手が掛かる分、里親が仕事に出られないこともあるのではないか。金銭的に手当をもっと考えても!

92 バックアップ体制を確立して、里親だけが責任を負うのではなく、社会で育てる上での一つのツールとして、里親があるくらいであります。お金で解決ではなく、支え合う、頼り合うことのできる関係を作り上げていってほしい。

94 里親制度は、世間では「子供がほしい人のための制度」と認識されていて、かつ、ボランティアで無償と思われる事が事実と違うため困る。障害のある子に対しては、現在いる子との年齢差を（実子、里子）考えなければならず、1人の子を受け入れることで、他の子の成長にマイナスになるならやらない。家族全員で受け入れられるようならば、特にこだわりはないが、寝たきりの子や入院の多い子は、現実的には無理だと思う。発達障害は環境に左右され、成長すると思うので、なるべく里親委託が望ましいと思う。

95 金銭面だけを追い求めていけば、果たして里親とは、専門職業のような形になってしまいますが（現行制度）、親も手放す養育困難児童が急増しているようにも思います。里親の最初のステップは、善意のボランティア、その延長が現在であるならば、もっと社会基盤を整備して、偏見や差別を受けないでいる、努力していただきたい（里親も里子も共に社会から）。

96 今、私達は栃木県に住んでいます。できることなら、都道府県の壁を越えて、そのようなお子さんがいるのなら、高齢にならないうちに、我が家へ迎え入れたいです。栃木県で登録してから、4年位は全く出会いはありませんでした。せっかく研修を受けても、気持ちが向いている間、待っても待っても出会いがなかったのです。

97 里親制度があったことで、また子供を授かることができ、私の人生にとって、幸福感を味わいさせてもらっています。

101 障害も色々な形であると思いますが、自分の性格をよく自身で把握して、どうしても相性が合わないお子さんを育て続けるのは、困難を極めると思いますので、お返しする勇気も必要だと思います。

102 私は常に、実子であろうと、障害児が生まれてくる可能性があるので、当然引き受けることもあって当然。

104 里親制度そのものも認知度が低いため、他の子供を迎え入れる=養子縁組と思われ、苗字が違うと、違和感のある様

子で見られる。

107 里子で委託される子供で、障害があったり、発達障害の子供が増えてきて、里親の力量が問われている。里親も力を付けていることが、急務だと思っている。

108 障害児・者の通所施設で働いていたこともあり、障害のある子供の里親を引き受けることについては、私自身抵抗はありませんが、仕事を続けながら出来るかどうかは疑問です(障害の程度にもよると思うが)。ただ、自分の経験では、障害のある子供が家庭で過ごすことができればいいなあと思います。しかし、どんな制度や援助があればいいのかは思いつきません。健常児に比べると、金銭的には、養育費がかかることもあるかも知れません。

109 前から比べると、周りの人々の偏見は少なくなりましたが、里親を続けるにはまだまだつらい時があります。もう少し優しい目で里子、里親を見守ってほしいです。

111 福島市では、障害のあるお子さんは里親には預けない、委託しないということのように聞きました。障害のある子を引き受けでみないとよく分かりません。障害の重さ、軽さもあるだろうし、障害のある子が家庭を必要としているのならば、引き受けたいと思っています。もう少し里親家庭に子供さんを預けてほしいと思います。施設が満杯な状態なのだから。

112 近年2人に1人は大学進学と言われている中で、18才高卒で送り出すことの不安、里親会の皆さんは18才で養子縁組をする人達が多く、私共のようにキッチリ養育里親を通す仲間がない(少ない)。里子も我が家を出でいくことの不安があり、子供に申し訳ないような思いがします。送り出すのがせつない。私はADHDの子供だったので、私も同じように子供とゆったり付き合いたいと思っておりましたが、年齢的に無理でしょうね。

113 今月から知的障害のある児童を委託されます。何かあつた時の児相以外の里親の相談場所がほしいと思っています。

114 学習塾費が出るようになりましたが、発達障害の子供達は、塾では付いていけません。能力的に個人教授の家庭教師が、1対1でケアしなければ無理です。ゆえに、学習塾費同様に家庭教師費も認めてほしいです。

116 一番思う事は、医療機関の応対についてです。地域柄もあるとは思いますが、沢山の患者さんの前で、毎日里親である事の説明をしなければならなくて、苦しがっている子供を前にして、受付にとても時間がかかってしまいます。もう少し理解があつたら良いなと感じてしまします。後は、児相の担当の方に連絡がなかなかとれないこと。引き継ぎや申し送りが、きちんとしていくとすれば、スムーズにいくのではと思いますが、多忙な中、いろいろ気遣ってくれているのは感じている。仕方がないのかなと、やや複雑な気持ちです。

119 昔に比べ、里親制度は大分進歩したように思います。今、2人目の子のマッチングを始めるところですが、やはり少し不安はあります。今いる子がすごくやきもちをやくと思うし、子供達が同じように私達の愛情を感じるかとか、いろいろ考えてしまう自分達がいます。もし障害のある子を受け入れるのならば、少なくとも誰か1人、必ず家にいることが望まれるだろうし、その分収入は減ると、今の世の中ではかなり難しい家が多いよう気がします。もちろん、いろいろな面で助けが必要になると思いますが、里親さんを増やすためには、行政を含め手を貸してください方を確保してくれたりと、少しでも負担軽減を呈示することで、心を動かすしかないような気がします(もちろん障害の度合で変わりますが)。

121 ネグレクト児対策の研修を、専門里親以外にも考えていただきたい。更新された制度の一方で経済性を、一方でかかりきりをとの両立を求めるのは、相反する事例だと思う。里親として、共済やら住民票請求やらの際の法定代理人でない人間の手続き上の不自由さを考えいただきたい。

122 一般的の家庭の中でも、外から見ていると何でもないようであるが、大変心配なことがある。核家族、離婚、そして、子連れでの再婚というものが、決して珍しいことではなくなった。また、子供が生まれたにもかかわらず、父になれない、母になれない(不安を抱えて生きているのではなく、まだまだ遊びの方が中心の若いパパ、ママ)人が心配である。密室という家庭の中で、子供が果たして順調に成長しているのであろうか?

123 突然の里子達との別れが最も辛い事です。理解はしていても、やはりその時が、里親になった事を後悔します。

124 私は現在、家庭では里親、仕事では知的障害児の学童をやっています。自分の家庭に障害児がいたらと考えると、とても大変だと思いますが、学童を利用して下さっているお子さん1人1人、とても可愛く、自分がかけることのできる愛情はすべて注いで接しています。障害のある方全員が、幸せに生活できることを願っています。

125 私の場合、里子であることを全面にして、色々方に話させていただくので、少しずつ子供についても(その不安定さ)、子育ての難しさについても、理解していただける環境がある。私自身、社会の子だからと(自分の育児の失敗もあるが、その責任を半分として)社会的資源を利用しやすい(我が子だとやはり自分の問題として相談しにくい面がある)もとそうした雰囲気作りを行なう中で、社会の子供として、里子を育てていくネットワークづくりをしていく必要がある。幼稚園の父母会でも、理解していただけるよう、極力話をさせていただいている。

126 私自身は障害の里子を扱ったことがなく、よく分からないです。

127 ・障害のある子でも、知的と身体では差があり、その子その子で関わり方も違う。障害別に人を区別するのではなく、その子らしく生活できるよう配慮する必要がある(社会(国)の支援は必須)。

129 私達家族で、1人でも多くの子供を養育してあげたい(ファミリーホーム申請中)と願っていますが、余りにも重度、重障の子供に対しては、養生に不安も感じます。障害児を養生するには、十分なサポートがなければ、里親家庭が崩壊してしまう危険性が高いと思います。サポートの充実が整えられれば、引き受けても可能かと考えます。

133 里子や障害者が協力しあって、一つの家族のように暮らせる社会、あるいはグループホームのようなものがあれば、できればと思います。それに、老人も一緒に暮らせることができれば、最高だと思います。たくさんの思いやりの中で。

134 最初から障害者がある子供と言われると、障害者の程度にもよるでしょうが、どこまでが障害者と認めているのか分からないところがあります。実際に預かって2年間居たのですが、多重人格になって、精神的問題の様でした。障害の基準をもっと広げてくれたらと思います。

135 あまりよく分からぬ事ではありますが、乳児をもつと里親の元へ出してほしい。乳児が特に持っている母性本能を、出させる力というものがあり、子のない方には、是非乳児から育てさせてあげてほしい。それには、沢山の支援が確かに必要であると思うが。

136 ・現在預かっている子の前に預かった子は、専門里親制度が出来た1期生として、すぐに預かり、7ヶ月と一緒に過ごしましたが、その子こそ本当に大変な経験をしました。その時思った事は、何をするにも児童相談所内で、たくさんの印鑑を貰わないといけないこと。例えば、里親宅と施設間を往き来するにも時間がかかり過ぎたり、あるいは、前例がないからという理由で断られたり、今子供にとって、必要と思う事も出来ずに終わってしまったこともあります、残念な事でした。

・措置児はいつもタクシー利用で移動するようですが、子供によっては、タクシーに悪意を持つ子もいました。タクシー利用は必要?

137 ・里親を受けるにあたって、通院している病院等の各機関が、もっと情報を共有していただき、通院がスムーズになるようなシステムがほしいと思います。

・里親となり、幸せだと思っていた反面、偏見もあるのだと知らされ、忘れられそうにありません。

138 里親制度はまだまだ周知されていません。まだまだ子供のいない大人の福祉のように、勘違いをされているようです。子育ても一段落した親達へのアピールが、もっともっとされることを望みます。家庭的な養育を必要とした子供達が沢山いることを知ってほしいと思います。「家の子」だけではなく、「社会の子」へも関心を持って、育ててほしいと思います。そんな輪が広がることを願います。

144 主人も亡くなり、自分自身の年齢、健康状態を考え、難しいと思います。

147 普通の子供を預かっていますが、最近の里親への助成金(?)が多くなったことは、とても心の中が安心するひとつだと思うように考えています。お金を援助してもらえるという理由で育てている訳ではありませんが、金額が多くなって、半分は子供のために預金していますので、心が安心します。共働きをしていて、子供に来もらってから、片方が働かなくなつて、預金をする余裕がなくなつてくると、やはり思っていた以上に、色々な事が不安になりました。障害のある子の里親になつてもららうには、心の余裕を十分に持つてもらつたためにも、経済的な援助を、行政が各家庭に配付することも良いと思います。

149 米国のように、オープンに里子であることを、周囲に周知できるような社会にするためには、里親の数を増やす仕組みを作ることが必要と思う。

150 誰でも能力の高い、五体満足、美男美女を願います。苦労する、困難な子育てに使命を持つ里親さんに敬意を払います。引き受けたから、里子さん、本当に良かったねと思います。

154 国が、子供に対する事を言葉ではなく、態度で実行してほしい。それが日本そのものが明るくなるきっかけとなると思う。最初は国自体も大変かも知れない。

157 実際に障害のある子を引き受けたとしたら、やはり、その障害に対する知識や学ぶ場があれば良いと思いますし、専門里親の数も増やして、自治体としても積極的に、そういう内容を理解して協力してほしいと思います。今後、専門里親の資格も取りたいと思いますが、何か、大変難しいというイメージもありますし、あまりにも里親任せで、資格を取るための勉強の場等も考えてほしいと思います。

160 学費について、小中学校は義務教育の場合は特に問題がないが、高校、もしくは大学等学費の面で大変である。改善をお願いしたい。市街地より遠方に住んでいる場合が多い。交通機関もなく、夜間何時間もかけて病院へ言ったり、障害がある場合、訓練センター施設に通うことも多く、自家用車のガソリン、自動車税等の免除など、是非検討をお願い致します。

161 家庭で引き受け養育するよりも、里親ホーム的なやり方で、職員と一緒にになって養育した方が、里親の負担が軽く、子供達も伸び伸び育つのではないだろうか。

162 我が家は、後々は養育している子は養子にする予定で、家庭裁判所に申請を出していますが、社会では、里子や養子についての認識がほとんどありません。学校で、家族の事について発表する時など、しっかり話すこと、発表できないことが心配です。大勢の人々にいろいろな家族の形態があることを理解してもらい、里子や養子が、肩身の狭い思いをしないで社会になることを望みます。

163 施設の職員の方も、一生懸命子供達を見守り、接しておられるとは思いますが、子供達には、自分だけを見てくれる

大人の存在というのは、とても大切なことだと思います。特に、親との接点が絶たれてしまった子供には、里親の元での生活が重要だと思います。我が家は子も、親との関係がないまま、7年間施設で過ごしていました。私達は子供との出会いを待つこと3年……。待っている里親がいるのに、そういった子供との出会いがなかなかないというのは、不思議に思います。家庭のぬくもり、家族のつながりを、幼い頃から感じることで、子供の発達にも影響してくると思います。

164 実親と接触することがない方が、煩わしい事がないけれど、里子のために良いものなのか?

166 和歌山県では、施設入所児童が減少しているが、まだまだ里親宅に、特に、乳児院からの里親委託を延ばしてほしい。障害のある子を養育する場合、ある程度の知識が必要なのではないでしょうか。又、病院に連れて行く回数も、健常者に比べて多かったり、育て方など、ストレスになる面が多いのではないかと思われるため、できるだけデイサービス、ショートステイ支援して下さる方の援助が必要なのではないでしょうか。

167 委託を受ける時に、1人目に紹介された男の子は、直前になって耳に障害があり、ことばの訓練が必要だと言われ、自信がなくお断りしました。里親会などで、その子に会うこともありますが、今は手術等を受けて、元気に育っている様子でした。その後紹介されたのが、現在委託を受けている子供です。障害があると分かっている子供を受け入れるのは、難しいと思います。

169 障害がある、なしを、委託の条件にしようとは思いません。紹介があったお子さんを、出来る限り育てたいと思っています。

171 障害のある子と暮らしたことはありません。でも、接する機会は何度となくありました。一言でやはり大変だろうとは感じます。不安はあります。でも、全てが縁だと思っています。なので、感謝して子育てさせていただこうと思います。

172 近い将来は、受けてもいいなという思いはあります、経験がないため、具体的な不安はいくつかあるので、踏み切れないのが現状です。相談を受ける窓口がたくさんあれば、やってみたいと思います。

175 児相から、最初に委託する里親に、里子に対する問題点について、あまり話がなかった事に憤りを覚える。

176 問題のある児童が多いが、里親が対応するには、あまりにも制度が未整備であって、現実に即した制度の構築が必要。行政、現場、里親との連携を、もう少し通い合ったものとすること。

177 障害のある子については、あらかじめ里親にも理解していただいて、どういうプロセスを経て成長させていくか、初めから具体的に提示しておくべきだと思います。特別支援学級や学校→手帳取得→自立支援法→20才過ぎると成年後見人制度があるなど……里親には、それに添ったサポートを丁寧にしてあげて、里親自身が安心して子育てできるように支援していただきたい。

178 障害児を受ける事には消極的です。余程の覚悟がなければならないと思います。多くの社会的養護を必要としている子供達。その中で、里親は、家庭の中で愛情を持って育て、社会に送り出す役目が一番だと思っています。最近は、障害のある子が増加しています。でも、国として、その子達の生涯を通しての受け皿とならず、里親に託すのは、長い目で見て、将来は個も國も重荷が増すと思います。それでも個と言うのならば、その子供達の生涯の生活手段を国が担保しないと、無理かと思います。

179 里親ができた子は、非常に幸運である。反して、できない子供の支援は、早急な対策が必要と思われる。

181 親族里親の手当がないので、子供にかかるお金が子供センターからの生活費だけでは、やっていけない。親族里親を

増やしていくべきは、施設に入る子供も、少しは減るかも知れないと思う。

184 委託する期間、実子として認められないことで、医療機関への受診や会社の制度が行使できないことなど、もっと実子と同等に認められるように、見直ししていただければ、引き受けやすくなると思います。又、委託される評価基準等が分かれば、もっと良いと思われる。

185 子供の横のつながり、兄弟をつくれ、安心できる場所にしたいです。

186 現在、専門里親の切り替え時期が来ますので、継続のための研修を受けています。その研修は主に、「発達障害を中心に」勉強していますので、虐待の子も障害のある子も、引き受けたいと思っています。やはり何らかの事情で、実母実父と暮らせなくなったりした子供、障害のある、なじにかかわらず、施設よりも、里親家庭におおいに委託してほしいと思います。集団ではなく、1人1人に愛情をかけられることが、一番だと思います。1~2年後には、グループホームを始めたいと思っています。

187 里親には守秘義務もあり、又、一般には理解を得られにくい悩みも多くあることから、安心して吐き出しが出来る場がありません。子供の問題点等を見相に相談すると、委託を解除されてしまったというようなケースも聞きます。特別なケアを必要とするお子さんを養育するにあたっては、知識、技術面のサポートはもちろんのこと、心理面でのきめ細やかなサポートを切に求めます。

194 確かに障害がある子供を育てるのは、色々な面で考えてしまう部分もあります。でも、その障害をマイナスとして考えるのではなく、むしろ、その子のチャームポイントとして、受ける事ができるようになればと思います。

195 親権について問題を感じる。養育もしない、面会もしないのに、親権があるというのは、納得がいかない。子供がほしくても授からない、養子縁組を希望する里親はたくさんいるのに。親権のために、里親に行くことができず、施設で育つ子供は本当に幸せなのか……分からぬ。親権を主張する以上は、面会や親自身の自立に、期間や規則の圧力をかけてでも、義務を果たしてほしい。親権を失う規則も必要かも（法律）。

196 里親制度も改定されて、金銭的な公的援助が増えました。短期里親として登録したため、いつも緊急で短期の委託が多くありました。委託の要請があつて1時間後に委託とか、1泊2日で措置解除もあり、結構受け入れる際に、振り回される事もありました。でも、それも仕方のない事ですよね。それぞれの家庭の事情がありますので……。私事ですが、11月末で離婚することになりました。保育士として仕事をしていますが、今後は、里親としての資格に値しないのでは……と、里親から降りる事も考えています。

202 障害に対しては、いろいろな子供を見て來ています。社会制度の活用、相談等、多方面にわたっての支援が必要だと思います。その部分がカバーされていると、家族として頑張っていけると思いますが……。

203 障害のある子供については、専門的な知識も経験もありませんので、引き受けける事は出来ません。現在、里親を引き受けているのは、自分の子供4人を育てた自信があるからで（実際には家内が育てたのですが）、普通に生活している家庭の中で、子供が普通の生活をしていくべきはいいと思っております。

204 障害がある子供を育てるにあたって、病院や障害福祉などがあるのは知っていますが、支援センター、子供の送り迎えができる機関や、里親が病気になった時に、子供を預かってくれる所など、児童相談を教えてほしい。私達はいろいろな人から障害者団体など、施設や団体を教えてもらいました。児童相談所がそういう団体を、パンフレット等で知らせてほしい。

205 あまり制度や周りの環境よりも、普通の家庭で当たり前に出来る事を考えるべきだ。守秘義務を遵守しますので、実

親のこと、これまでの経験をよく知り、できれば、交流まで行えればと思う。

211 児相に対し、里親の心得に反すると思いながら、健常者、年齢の制限を、希望を伝え申し込んでいる。

212 今の気持ちとしては、普通の子供でもこれだけ大変なのに、果たして、障害のある子の里親は、尚更大変だと思うから、はつきり言うと無理かと思います。障害のある子の里親になられる方は、精神的にも体力的にもハイレベルな方ではないと、務まらないのではないかと思う。

213 18才を目の前にして、一時保護で預かった。18才になり、近くに住みながら、家に泊まつたり、食物を運んだりして面倒を見たが、親にお金をとられるので、私の故郷に連れて来て、家事手伝いをさせていたが、かなりの虐待児であり、生活もしにくかった。18才の誕生日前で、学校へ行っていなければ、里親も委託もされず、その後、児相は関わりが全くなかった。虐待児だということすら、聞かされていなかった。里親が丸抱えとなつた。

214 重身施設で働いていたので、引き受けたいと思うが、更に年をとっていくこと、又、腰の痛い時もあること等、不安もある。虐待を受けて育った等の子供については、まだまだ未熟な里親なので、対応できないと思う。

215 里親は、「保育係としての社会資源」と扱われている。人の人生に深く関わり、その育ちに影響させる立場にいながら、発言する場はなく、措置の方針や計画に係わる事ができない。これでは、良い養育を望むことが出来るのか疑問である。数人のケースワーカーと係わったが、日常の子供の様子や変化を里親に聞いてくれたワーカーの時の子供は、その対応に恵まれていたし、里親も不安を感じる事がなく、養育に集中することが出来た。ワーカーの個々の技量によらず、里親養育により大きな意義を持たせるためにも、里親が児相職員と同じ立場に立つことが（ケースカンファレンス）できるシステムを必要と思う。特別養子縁組里親の手当をはずし、養育里親のみに手当を充てたが、「我が子にした」のではなく、最上の養育（子供にとって）をかって出たのだから、特別養子縁組手当を出すべき。子供手当もない。自力で勝手にやれというような制度はおかしいと思います。

219 国や地方の行政は、大規模施設から、里親委託を進めているようですが、一度に移行していくのは無理があると思います。小規模施設やグループホーム、ファミリーホームの形が良いと思っています。それも、リタイヤした人では無理だと思います。里親が若いうちに、グループホームやファミリーホームの許可をお願いしたいです。

221 ①里親、里子の関係を隠さずに、公にできる社会システムになつたらいい。

②里親の権限が、もっと拡大していいたらいい。

230 お預かりしていた子は、実の両親がそろっています。戻してほしい意志があるようですが、私達と実親は接点が全くなく、再統合がどのように進むのか、児相の考えも見えてきません。子供の現在を一番把握しているのは里親なので、三位一体となって、進めていかなければならないのではないかと思います。ただ、子供を預かれば良いではなく、同じ土俵に上がり、共に子供の事を考えていきたいです。

231 自分が産んだ子が障害児であった場合は、ためらわずに愛し育てられると思うのだが、私の場合、子供が産めなかつたため、里子→実子という手段をとったので、障害があると分かっている子供を引き受ける自信はありません（今のところ）。

233 内部障害者、外部（目に見える）障害を持っている子も、普通の家庭で暮らすことが当たり前だと思います。私の家の子供達は、皆何らかの障害、病気を持っていますが、子供は子供なりに普通に暮らしていますが、それなりに生活できます。親子としても、兄弟としても、きちんと心の絆が出来ていると思

うので、手がかかるから、お金がかかるから……いろいろな理由は有るでしょう。しかし、当たり前に親子として、兄弟として暮らしていくことが何よりだと思っています。

236 障害のある子の里親さんの場合は、家族の協力が必要です。又、何でも相談ができる友人もいると良いと思います。

237 養子なら、長い時間かけてのマッチングでしょうが、里親は、なかなかすぐとまでは言わないが、早い判断で決まるので、生活してから合う合わないがあると思う。又、仕事をすることが今の世の中当たり前の方が多いと思うので、仕事をしていても良い条件など、幅を広げた方が良いと思う。里親をしている人は、ある程度高年収の人が多いのだろうが。

240 今のところ大きな問題もなく、療育センターの担当医さんも、大変改善していると驚いている状況です。幸運な例だと思います。でも、何の特別な知識も持ち合わせていない里親が、障害のある子を家庭に受け入れるのは、大変なことだということに、変わりはありません。後々、何らかのトラブルの原因になるような、大きな障害を持つ子の養育は、里子として育てるのは大変だと思います。

241 障害の程度にもよりますが、私は正直、自信がありません。研修制度や児相のフォローアップ、行政のバックアップが不可欠と思います。

242 里親をもっと増やしてほしい。家庭の温かさを知らない子供達に、温かさを感じさせてほしい。

243 実の親ならば、命を懸けても子供を育てると思うが、今の人達は育てられないという現実を見て、変だなあと感じる50代後半の私達です。自分の子ならば、障害のある子ならば心配で育てると思うが、里親として、いくら一生懸命話をしても、理解してもらえなかったり、意志の疎通が出来ないとしたら、大変だろうなあと感じます。やはり、そういう子供を引き受けたなら、まず、勉強をしてからでないと、自分自身がおかしくなってしまうのではないかと感じます。

246 今年5月22日に一時保護委託、7月22日より養育里親となっています。3年生（女）、1年生（男）、5才の3人とも、児童相談所の心理士さんが付いて下さって、1ヶ月に1回心理士面接を行っています。保護所と同じ場所で、心理士面接するのもどうかと……。「今日も泊まるの？」といつも心配顔。又、実親への支援をする人と、子供の援助をする人が同じ人というのも、矛盾が……と思います。

247 私共は、養子縁組希望の里親でしたので、養育里親さん達の子供達への愛情には、頭が下がる思いです。障害のある子の里親となると、愛情と熱意だけではなく、専門知識、行政支援、地域サポート、障害の程度毎の自立に向けた、細やかな支援が必要だと感じます。

249 留学生を受け入れるホームステイのような感覚で、子供を引き受ける事は無理だと思いますが、少子化の現在、どんな子供も、日本の将来のためにも温かく見守り、育していく義務が、私達にはあると思います。

251 児相の担当者は、子育て支援の経験のある方で、担当を3~5年は変えないでほしい。

252 専門知識と経験。とても大切だと思います。現在、我が家では、障害のある子（身体）ならOKですが、精神の方は自信がありません。

255 里親、里子など、地域社会に受け入れられ、更なる理解が広まっていくと良いと思います。子育て講演会や、気軽に相談できる所等、子育てアドバイスなどがあると有り難いです。

260 今来ている子で分かるとおり、私は里親を卒業しようと思っている。なぜかというと、もう気力と自信がなくなってきたようだ。問題児が来ると、あまりに多くの事があるので、そこから逃げたくなるのかしらね。

261 1人の子を預かってから、2人目の預かりがなかなか縁がないのですが、1人の子に愛情をたくさんという考えも分か

りますが、今、この子を育てて思うのが、今まで、沢山の子供達と育てられていて、いきなり1人にさせられて、遊び、学び合う友がない環境は、不安になるなど無理があると思う。せめて、半年くらいでその子の状態に合わせて、次のマッチングをしてほしい。なるべく同じ年頃の子と育つ環境が望ましい。

263 現在2人の男子小学校4年と4才の子がいます。4才の子は、今から1年前に話があり、その母方には障害があり、父方はいません。母方は育てる事ができないので、児相に子供を託しました。子供にも障害があるかも知れないけれど、里親になった現在、何もなく楽しく過ごしています。父、母、子2人で、これ以上はない幸福感を味わっている、今日この頃です。

265 児童相談所は、児童を里親に託すに際し、その適否を現職の若い職員さん等と相談して決定されているようですが、退職された優秀な方々も、それらの会議に出ていただいて、建物が立派などの表面的な見方ではなく、「キモッ玉母さん」のような素養も見られるような方々をも、加えてほしいと思います。

266 里親手当が増額された。ファミリーホームなどは事業所となった。里親制度の根底にあるものは、奉仕の心だと思うが、経済的な面が強調され、ある意味で、お金のために里親をやっている的な事になれば、怖い感じがする。ファミリーホームなどは、事業となればもっと怖い。奉仕の心、社会への恩返し、一人でも多くの子供達を助けたい。そんな里親制度であってほしいと願う。

269 親権（未成年の保護）は、親の義務の方が大きい。その義務を履行しなければ、早く剥奪することだ。そうでなければ、前へ早く進まないし、子供のためにならない。子供のために、早く家庭へ（里親へ）。人間の一番の基本組織は家庭。そこから始まるのです。色々な事で協力していきたいです。

270 身近に話し相手がないと、大変だと思います。

273 自分達だけでは、とても対応できなくて、児相等の相談機関の一層の充実を望みたい。児相の方が、夜遅くまで仕事をされており、申し訳なく思いながら相談している。行政の予算についても、子育てはすぐには成果が出ず、削減の対象になりやすく、今後に不安がある。

280 孤立しがちな里親の状況の改善。なかなか心配事を周りの人に相談しづらい状況。告知の問題。成長に伴う友達との関係。やはり、アドバイスを受ける体制が必要と考えます。

281 未だ障害のある子と暮らしたことがないので、実感はわきません。ただ、以前幼稚園で、障害児を受け持ったことがありますが、大変でした。でも、健常児も共に成長させてくれ、互いにプラスになったことも事実だと思います。ただ、現実の生活の中で、まして、里親となると、「うーん、どうかな」という感じです。里子さんは障害児が多いと聞きますから、国なり自治体などが、何らかの政策をするのも大切なことだと思います。

282 現在の里親制度も数々の課題があることだと思いますが、国民の里親になることに対する意識の方に、多くの問題があると思います。経済的に余裕、時間的余裕もあり、子供もない夫婦も数多くいることと思いますが、社会の中で里親を欲している子供達の養育を、担っていこうとしない価値観を変革しない限り、制度を変革しても、拡大望めないように思えてなりません。里親に対する周囲の目も同様ですが。

283 物を与えられて育ってきているので、金や物への執着が強いようです。金があればすべて幸福なんだと思っているようです。どこまで自分等の要求を聞いてもらえるかと、いつも計りながら接しています。何でもしてほしいの気持ちが強く、自分から人にしてあげる気はないようです。自分のことも自分ではしません。

287 もっと障害のある子のケース会議に、児相だけではなく、里親さんも出席して、関わっていきたい。そして、施設の

先生達とも交流をして、1人の子供に対して、多くの人で育てて、里親さんの負担を和らげていただけると有り難いです。

288 里親になって、里子を待っている人に、早く委託させてあげたい。待たされる時間が長いと、だんだん気持ちが薄っていくからです。

289 個人情報保護条例の影響で、必要最小限の情報しかなく、特に、メンタルの部分について、専門的な指示のないまま、対応に戸惑うことが多くなってきた。里親としての専門知識の習得と共に、その具体的な社会資源の活用が望まれる。

294 里親制度自体の地域社会の理解度が、以前に比較して、自分達も年をとったせいもあるかと思いますが、大変良くなってきたと思います。以前は、周囲の目を気にしながらの養育でしたが、今は、何か1人の人間として、ある面ではハンディを持っている人を、周囲の人達の協力を得ながら、養育していくことに、自分達自身、教えられる事が多く、感謝しております。

296 専門的知識を聞ける援助があれば、受け入れの幅は広がるのではないかと思う。費用の援助も必要だと思います。

297 ・守秘義務があるため、相談するところが限られる。

・児相の職員の異動により、里子の養育相談がスムーズにいきにくい。

・里親会で運営できるような組織が望ましい。

298 里親制度そのものは、地域の中で普通の家庭で行うので、良い事ですが、子供自身がトラウマを持っているので、ストレスがたまることが多い。里親同士のチーム化が必要だと思います。来るまで20~30分以内に、3チームくらいで互いに相談したり、共同里親をする。レスパイトを増加する施設生活を経験した子供は、施設の豊かさ（殊に食事）を比較します。財源を増やす。

299 私の周りでも、里親制度の事を知っている人は少ないです。事実、私もその1人でした。子供のためにも、家族の中で暮らしていくことは、本当に良い事だと思います。9才の男の子も、少しづつではありますが、私達にも慣れてきました。でも、時々怒りを出したり、変わった行動をします。もっと多くの人に知ってもらうことが、必要かと思います。私達もオープンに人に話し、理解を得るよう努めています。

302 生まれて1~2年間でも、大変な生活をしてきた子供は、多く年月をかけて、その心のケアが必要です。どの子も多少の差はあれ、重荷を背負ってきてます。幸せに生まれ育っている子供さんと、少しでも同じように、安定した生活ができるよう、里親家庭で楽しく過ごしてほしいです。まっすぐ子供に向かい受け止め、一緒に生きていきたいです。大人になり、社会人になれるまで、国は力を貸してほしいです。障害のある子供は、尚更里親家庭で育った方が良いと思います。

304 もっと児相が家庭を訪問してほしい。

307 障害のあるお子さまを育てた経験がないので、お預かりするには少し不安がある。自信がないです。

308 里子であっても、里子だからこそ、十分な習い事などを受けさせたいので、児童手当、子供手当がほしい。

315 子供を委託するだけで、障害がなかつたり長期だと、児童相談所もあまり顔を出さない。何かあって里親から連絡があった時だけ……。子供は物ではないのだから、委託したら、きっと見回りするべきだと思う。そうでないと、里親が子供をいじめると思う。それから、子供の委託は、どのようにしているのか分からぬけれど、来る人にはびっかりして、里親同士がぎくしゃくしているので、もう少し考えてほしい。

317 里親制度は、子供がおられない家庭だけの制度と思っていましたので、私のように、実子がいる者には無関係だと思っていました。もっと、広く制度への理解が不可欠ですね。まして、障害のある子の里親……考えてもみませんでしたが、子育て経験のある方々ならではの受け入れは必要ですね。今、ホームにすごく関心を持っています。地域に同志を集めて、皆でお

世話をできたらいいですね。

321 世の中の子供達が、皆生きてて良かった、毎日が楽しいと思えるようになってほしいと思います。そして、親と子について、低学年の頃から分かりやすく、話せる場があるといいなと思います。障害児を引き受けでみたいとは思うのですが、勉強不足で残念です。

323 実子の有無に限らず、子供は国家の宝。社会全体で、心豊かな子に育てていきたいものです。

326 今、委託されている子供が、妹がほしいと言い出しました。この子を特養子にするつもりでいますが、2人目も……というと、里親の年齢的、金銭的に特養子は無理があります。せめて、養育里親として、金銭的補助を受けながら、育てることができるのか、実子にした子と、委託の子との間に不和が生じるのか不安です。

329 将来は、ホームのような施設を作り、子供達の家族という存在になってあげたいです。人は皆平等に愛を手に入れることが出来ます。しかも、無償です。その事を子供の時期にできるだけ早い時期に、子供に気付かせてあげる、与えてあげることが大切です。ルール作りも子供の側に立って作る。大人のエゴや勝手な都合で、子供が犠牲になってはいけない。

331 実父とこちらの意識の違いが大きく、その狭間にいる子供の影響が気になるが、それをたくましくはねのけて生きていける人になれるよう、育てていってくればと願う。

336 里親を増やすわりに、未委託の里親さんが多いのは何故？ 子供には、温かい家庭という場所が如何に大切か。親御さんにしっかり説明して納得させて下さい。米国には、一時預かり所はあっても、児童養護施設はないと聞きました。子供の人生を左右することだから、慎重なのは解りますが、限度があるのでは？

339 高校を卒業して、里子が独立する時、公的機関の援助が足りない。独立する里子が問題のない子ならば、公的機関で就職の受け入れを積極的にしてほしい。事務職が無理ならば、労務職でも良い。

340 将来のこと、実親のこと、保証人の問題、就職のこと、結婚・異性関係等々。

341 我が家の子供達は、2才、1才の時に家族になりましたが、そこへたどり着くまで、約1年かかりました。子供の成長、発達というのは早いので、少しの時間だけでも、ものすごい変化を感じます。2才の時に来た子供は、当初、家の中をグルグル見回し、こちらの顔を「この人は誰？」という表情でながめました。1才で来た子供の方は、まったくそのような行動はありません。あっという間に我が物顔でした。どんな人に、どう子供を任せるかという難しさも分かりますが、子供はどんどん育っています。早い対応ほど、子供のためになると、2人の子供を見比べて実感しています。

343 結婚するまで、養護施設に勤めていたので、ある程度、施設養護の事は、他の人よりは知っているかも知れないが、里親制度については、殆ど知らなかった。新聞で里親の記事を見て、自分達でもできるかも知れないと思って、児童相談所に電話して、縁あって、現在6才の女の子の里親となっている。養護学校で高等部の寄宿舎で寮母をした経験もあるが、障害のある子供を育てるのは、本当に体力と時間がいると思ふ。地域の理解はまだまだ低いと感じる。

344 手探りのような里親3年間でしたが、児童相談所や里親協議会に相談や参加をして、少しずつ里親制度の重要性を確認してきました。障害のある子供の里親のことを思いますと、負担軽減の政策や命の大切さ、子供の可能性等の意識向上が必要だと思います。

345 現在、小3年の男児を養育しています。4才で家に来ました。その時、知的障害や発達の診断が正確にできないとのことで、ボーダーの子供と言われました。将来とても心配しまし

たが、祖母に、この子は大丈夫と言われました。現在、普通に小学校へ通っています。施設にいる時と、家に来た時の脳の発達が違うのだと思いました。

346 障害のある子の里親=専業主婦でなくてはいけません。私は、実子4人を育てながら、同じように里子さんも兄弟のように育てています。仕事をしながら子育てしている家庭が多いと思うので、若い里親さん（子育て現役中）を増やすためには、経済面のフォローが欠かせないと思います。今の現状では、私も専業主婦は厳しいです。

348 里親になるための資格がある訳でもなく、これは、気持ちがあれば、誰でも出来るものと考えております。障害のある子には、更なる愛情、労力が必要と思われます。

349 私の長男は筋ジスですが、家族で暮らしていれば、そのスタイルが普通になります。他の子供達もやさしくなって、良い子供になっていくと思います。ただ、親はそれなりに勉強してから、受け入れることが大切かも？

352 病院に行った時、子供の保険証を見せる時、すごく気を遣う。医療費の説明なども、受付が変わる度にしなくてはいけなくて、病院によっては、里親があることすら知らず、理解してもらえない。

354 養育費の援助などがあるので助かっている。

356 児相の方には、よくしていただいていると思う。

358 里親になっても委託されずにいる人も多く、何らかの形で、早く子供との接点を持つことができるようにしてほしいと思う。子供と接することにより、里親は学んでいくのだから。障害のある子は、より愛情を必要としていると思うので、そこに理解のある人で、周りの人がより支援を増やしていく方向で、どの子供達も幸せになってほしいと思う。

362 仕事上（現在は働いていないが）、障害を持つお子さんを見て接しておりました。長期はなかなか難しいですが、例えば、家庭体験や、障害を持つお子さんの母親のレイバイト目的などの短期であれば、様々な条件も考慮しなければならないが、引き受けられる時もあるかも知れないと、考えたことはあります。周囲の理解や、やはり緊急時の対応が整えられているのか、サポート体制等、細かな点を整えないと、安心して引き受けることは難しいと思います。

363 祖父が障害を持っていたので、あまり気にならないです。共に暮らしている母も（主人の母）病気ですので（障害が少しある）、引き受けてもあまり問題になるとは思っておりませんが、大変は大変でしょう。

366 難しく構えないので、どんどん里親になれるようになれば良い。あまり里親制度が社会に知られていない。

368 自分は、親に冷たくされる子供の気持ちが、誰よりも分かると思っていたが、生身の人間相手に、生理的に受け入れられない事があったり、実子との関係もあり、思ったようにはいかない。歯をくいしばって世話をしているが、誰も幸せではない気がする。又、1人目の子は、姉が来てから喘息発作で入退院を繰り返し、その付き添いも実子に迷惑をかけてしまったり、主人の仕事にも影響した。自分達の生活が守れないと、人の世話は難しい。安易には受けられない事を実感した。

371 ・現在の制度では、社会的貢献、ボランティアの大切さを必要と考えても、他の人に勧めることはできない。無責任。・行政のサポート体制が全くない。児相の職員の転勤等、継続なし、努力もしない。入院時の対応なし、里親軽視、児相はやる気なし。

・里親側の問題も大。自己のため、家のための養子縁組が多い。養子と養育里親は基本的に違う。

372 自分の子は発達障害児と診断されています。小さい時から、保育所以外の所には、預けたことがありません。普通の人（専門以外）には、この子はみられないと思うからです。障害のある子を里親に出すということは、かなり里親への負担が

かかると思います。今の行政では、障害児も里親に出すのですね。驚きです。障害児は、専門家の手引が必要かと思います。

373 色々な面で偏見が大きい。障害の有無にかかわらず、子供は子供。里親であろうが、子供に罪はない。周りに協力や専門機関があれば、受け皿次第で、引き受けても増えるのでは？

374 現在、小学校3年生のお兄ちゃんと、2才の娘がいるので、障害のある子を引き受けるのは、ちょっと難しいです。

378 普通の子でも、養育には苦労が伴い、長時間と口では言い表せない労力が必要です。障害児を受け入れるには、専門のサポーターが、常時そばにいる必要があると思います。まして、複数の児童を預かるには、相当なバックアップが必要です。

379 現在里親制度で、障害のある子の里親を引き受けることはできません。どんな子供達も、里親家庭で生活できればいいと思いますが、里親になる方が少ないので現在、障害のある子供を受け入れてくれる方は、少ないのではないかでしょうか？ 私自身、発達障害のある兄妹2人の子供達に会ってみて、やはりその意志は変わらなかったので、お断りしました。今、小6年生の子供を養育しておりますが、あの時、お断りして良かったと思っています。里親は24時間365日休みがありません。児童相談所では話を聞いていただけますが、専門的にアドバイスを受けることはできません。里親会はありますが、皆さん養子にしたばかりの方で、養育されている方が少なく、里親同士のコミュニケーションもあまりありません。もっとオープンに里親制度を広めて、そして、もうちょっと里親をサポートするシステムがあればいいなと思っています。

382 私達の年齢を考えると、あまり障害の大きな子を預かるのは……という気持ちがありますが、もし、そういう機会があれば、考えても良いとは思っています。

385 ・里親を引き受けるには、家族の理解、協力はもちろん、関係機関とすぐ連絡が取れる体制、又、障害のある子を引き受ける場合は、特に身近に専門知識を持つ相談相手がいることが必要だと思います。

・里子を籍に入れたいと思う時、経済的な問題が発生することに対して、もう少し何らかの公的援助を考えてもいいのではないかと思います。

388 実際に里親を経験してみて、正常な子供を育てるだけでも大変なのに、自分には、障害を持つ子を育てるのは無理だと思います。又、18才を過ぎた時の対応がどうなるのか、1人立ちできるのか不安です。

389 現在の里親制度に感謝していますが、矛盾を感じることは、親族里親には手当がないこと。成長と共に、子供に必要な費用もかかってくる。子育てのしんどいのは、親族でも専門里親でも一緒だと思います。現在の制度で、年金生活の里親がいることも考慮していただきたいと思う。

390 公的機関の理解が大切だと思います。特に、福祉の中でも、子供に関する専門的職員の養成が必要です。

391 子供の実の母親の気持ちを聞く機会があり、私共は、養子縁組を希望しているのですが、「良い里親さんに恵まれた」と喜んでくれているみたいです。複雑ですが、この子供は、沢山の方に導かれ、幸せになろうとしている人だと感じます。

394 40,000人を超える、親が育てられない子供達。その殆どが、施設で成長することは悲しいことです。これからも、里親として努めて参ります。児相、施設等の専門職の方々が、ギズアップする愛着障害を持つ子供のために、日本国は専門の治療施設を持つべきです。これは、緊急の課題として、今後活動して参りたく、お力添えをお願い申します。

396 病院などによる養育ができない場合は、親権について問題ないと思うが、虐待等による理由で育てられない親の親権を、もっと制限して、里親に実親以上の権限を与えるべきであると思う。子供をいかなる理由にしても、養育できない者の親権がある限り、救える子供が増えていくなくなるように思いま

す。1人でも救える子供を増やすべきである。

397 里親手当金の増額になって、とてもありがたい。年と共に、収入が減っていたので、とても良かった。

399 子供を産んでいないのに、子供と暮らし、実子のように子育てさせてもらえて有り難いです。唯3才位から育てているにもかかわらず、他の子といると、悪目立ちするような行動も多く、その事で本人も嫌な思いをすることが多い。それを直してやるよう指導したいが、あの手この手を使っても、なかなか難しい。ちょっとといいなと思っても、次々なので、疲れてきてしまい、愚痴を言っても（言う相手は選んでいるが）、何故か皆、「自分の子供ではないので、愛情不足ではないか」と偏見の目で見てくるのが辛い。児相の方は、今まで相談すれば、早急に親身になって対応して下さったと思います。ただ、行政ではしょうがないのでしょうか、2~3年で、担当がコロコロ変わってしまいます。今年も担当の変更があったけれど、半年、顔合わせもまだしていない。やはり、ある程度里親の知識のある方に、長めに相談できるシステムがほしいのと、乳児のうちに、里子や養子に積極的に委託するようにしてほしい。家族以外に、心を開いて相談できない。

401 施設より、子供は里親の方が自由度もあり、良いと思う。施設を少なくして、里親委託を多くしてほしい。

・子供に対する愛情を持って育てるのは、里親だと思う。

403 現在、女の里子をお願いしているが、あまりいないようですが、もう1人くらいいるといいなと思う。

408 喜びとしては、やはり、どの子も我が家に縁を持って来ていると感じること。我が家は家族の一員として暮らしている中で、後に考えると、マイナスと思われた部分が、プラスに働きかけていたということが、よく分かる。そういう意味では、里親活動の苦労は全部生かされていると思う。しかし、子育ての道中は、そう思えない事も多々起こり、精神的に強いストレスにさらされることも体験する。身近な人に適切なアドバイザーを持ち、支えていただける関係を常に大切にすることが、大事だと思う。今は2人の里子、元里子の成人した子の3人がいます。過去に発達障害ADHDの子を、丸5年養育した経験があります。いろんな事がありましたら、今は、大変落ち着いて、来春から実母と暮らすことになりました。里親活動は、私達家族にとっては、とても良い影響を与えていただけると思います。

409 いつかは、親元へ帰ると思うと悲しいです。もう少し、里親の意見も聞いてもらいたいです。

410 いつでもどこでも必要とあれば、里親であることや、里子であることを、話すことができるので、安心して伸び伸びと、普通の生活をることができます。

414 里親間のネットワークもなく、地域の父兄とは年代の差もあり、ちょっとした相談の場所がありません。子供の問題点がネグレストを受けたり、施設にいたためなのか、今の子供の一般的な特徴なのかも、よく分からぬ現状です。障害のある子の場合、より、そのような場所が大切なような気がします。話ができるだけで安心するという事も多いと思います。

・里親手当の額が増えることよりも、子供に掛かる費用の全てが、正しく支給される事の方が大切だと思います。

415 子育ては大変なので、障害のある子供は、育てるのが難しいと思います。

416 養育里親ですが、障害のある子の里親は、私個人としては、受け入れにくいです。とても自信がないです。

421 里親制度の事は、詳しく分かりませんが、今までに困った事を書きます。まったくの素人で、子育て経験もなく、周りに話しても、分かってもらえる人が少ないので困りました。やはり、里親経験者の、しかも、私と同年令位の人との接触が、数人ほしかったです。その点、名古屋市の子育て広場は良かったです。私より若いお母さんばかりでしたが、共通の世界にいるというつながりを感じました。

422 もっともっと里親への障害児の委託を、積極的に勧めてほしい。又、里親もしっかり研修を重ねて応えていきたいし、里親さん自身にも力量のある方が育っている。

425 里親は、常にこれでいいのだろうかと葛藤の日々である。小さな諸処の問題解決、指導をしてくれる、細やかなケアがほしい。児相は、事が起きてから（こちらからの疑問を受けて）、一つ二つ説明下さるが、前もって、「こんなこともある」「あんなこともある」を教えてもらえないだろうか。

429 生まれてくる子どもに罪はありません。なのに、可愛いく希望いっぱいに生まれてくるのが当たり前だと思っていましたが、近頃、我が子を虐待する、とても恐ろしい親が増えていたり、親になる人の教育、生命の大切さ等をやさしく教えてあげる事が大切だと思います。又、色々な事情で施設に預けた子供を、再び親元へ帰した時、その後の様子を、児相の方は大変でしょうが、子供の状態を色々な角度から見届けてあげてほしいと思います。

433 認定されてから2年半経って、子供がやっと来た。年を重ねてしまった。もっと早くほしかった。やはり、子育て休暇、育児休暇など、里親も同じように子育てをしているので、制度が利用できるようにしてほしい。子供のために、年休をかなり使ってしまい、年休がもうなくなってしまう。里親への偏見が、一般の人にはまだあるので、あまり人には言えないことがある。

438 もう少し、里親の意見を直に県、国に聞いてほしい。

439 里子を預ける児童相談所や行政側に、子供のいない家庭（現在は実子がいらっしゃっても、里親になる方が増えてきたが）に、子供を提供（言葉としては不適切かも知れないが）したのだから、多少の苦労や大変さは我慢して、養育するのは当たり前というような雰囲気があるように思います。我が家では、障害のない子を預かったが（現在19才男子と11才女子、どちらも4才の時から）、上の子は思春期にいろいろ問題行動を起こし、児相に何度も相談したが、児相は子供のサポートはするが、育てている親のサポートはしてくれませんでした。精神的に落ち込み、この子も私達もどうなるのだろうという、不安な日々を過ごしたことを思い出します。この男の子は、現在委託解除にはなっていますが、高校も中退し、職を転々とし、未だに自立できていません。実親は離婚し、どちらも行方不明の状態なので、我が家以外、帰れる家はありません。障害のない子でも、我が家で預かった子のように自立させ、社会生活に適応させていく事は大変です。まして、障害のある子供を預かるのには、里親の相当な覚悟と、周りのサポート体制（適切な情報提供と援助、医療機関との連携）が整っていかなければいけないと思います。

442 性格など、どうしてもわかり合えない点があります。でも、自分の子供でもありますので、そのまま受け入れてやりたいと思います……が、イライラしたり、自分を冷静にしておかなくては……と、日々考えています。今の子は、気弱な点がかわいそうなくらいあるので、何とか自分を出して、生きていってほしいと思っています。

443 障害のある子を育てたことはないのですが、実子であっても、並大抵ではないと思うので、大変だと思います。全てを里親さんに任せのではなく、例えば、学校の送り迎えは他の人がするとか、代わりができるところはしてもらったり、出来ればいいと思います。

444 進学する時の補助金や（金額アップ）、奨学金の範囲を広げてほしい。障害のある子の里親は、知識がないので不安です。

446 善意で里親を受けられた里親さんが、ちょっとした不注意で、虐待の罪で起訴された仲間が多数出てきております。社会の思い、実親との関係、へんに権利を主張する子供達。3年弱で担当が変わる行政、児童相談所、一時保護所の下請け

等の実態の全てを、普通の家庭の里親さんの善意だけで、丸々解決するのは無理です。

450 以前に比べれば、制度も良くなっているのかも知れませんし、里親になる人も、多くなっていることでしょう。一番思うことは、大人が「やってやっている」という態度の大きさに、「金」「物」などが付いてまわり、愛情に欠けていることが、時々見られます。まずは愛情で、子供達は救われると思います。

451 専門里親の講習を、義務付けするのではなく、養育里親だって、障害児など育てることができるのだから。施設にばかり預けるのではなく、里親に預け、心が通う家族の絆、愛を与えるべきと思います。鈴木里親会の専門里親には、1人位しか来ていない。私は、専門里親制度そのものを見直すべきだと考えています。

454 障害のある子の里親にも興味はありますが、現実は、問題がたくさんあります。自分が仕事を持っている、同居家族(夫の母)が高齢で、今後介護が待っている。定年後の楽しみがある(旅行等)など、難しいです。

457 私は、社協の障害者の作業所で、8月よりパートで短時間働いていますが、実際に働くまでは、障害についてもよく分かっていなかったし、どう接していいかよく分かりませんでした。今は慣れました。この経験から、障害者の里親になる方は、障害者について、よく知識や経験がある方が必要になると思います。又、未経験の方は、2~3回の研修ではなく、1ヶ月位の長めの研修をし、理解を深める必要があると思います。

459 私達夫婦は、仕事では障害者の支援をしています。とてもやり甲斐がありますが、ストレスのある仕事です。他の仕事を含めて、仕事とはそんなものなので、と割り切って行っています。

・障害のある子を自分の家庭でみるということは、相当の覚悟と夫婦のいずれかが仕事を辞めるか、パートの仕事に変わる等の体制が必要だと思います。その分は、経済的な保障も必要となります。もう50代ですし、仕事を犠牲にしてまで、障害のある子供さんを預かるという気持ちにはなれません。体力も必要ですから。

・社会の体制としては、施設で育つよりも、里親家庭で育つ方が、障害のある子供にとっては、メリットが大きいと思いますので、そのような体制づくりは必要だと思います。

467 園などでの生活を、もう少し家族のように育ってほしいです。もっと先生方もたくさんで、1人1人を見てあげてほしいです。

468 措置解除後のフォローがなされない現在の制度の手直しを望みます

・専門的知識のない里親が、どの程度まで養育できるのか?障害の程度も含めて不安です。

・障害のある、なしに関わらず、自立の問題は大きな課題と危惧されます

471 我が家が里親に登録したのが、昭和30年。母(85才)も現役の養育里親で、親子2代の里親として、恵まれない子供を、1人でも幸せにしてあげたい(自立支援)を合言葉に、家族一丸となって頑張っています。児相等公的機関も里親の必要性を認識しているわりには、子供優先で、三者一体となって子供を育てていこうという気概がない。ことなれ主義が見え隠れしているのが現状。ファミリー・ホームが話題になっていますが、未委託里親を少なくする方が優先課題。

473 これまでの新潟の里親は、実子がないための養子制度という面が強いようでした。子育ては、社会が行うべきというのが、私の考えですが、しかし、実際には多くの困難があります。経済的な問題、子育てに伴う問題(例えば、幼児の予防注射一つとっても、医療機関の窓口で、未だに様々な問題が起ります)等に、具体的に対応できる体制がないと、難しいのが現状ではないでしょうか(個別具体的な人の配置)。

475 現代社会の中で育つ子供達は、個々複雑な社会であり、又、里親に委託される里子達にあっても、より複雑になっており、里親制度もまた専門的になり、里子に障害があれば、里親にあっても難しく、研修が不可欠なようだ。

476 里親になるにはまず、夫婦の仲が良い事が一番の条件だと思います。そういう家庭でないと、子供が可哀想です。

480 委託前に十分な説明をしてほしいです。

493 実親が会わせてほしいと願い、里子が会った後の心の動揺や不安があり(ケースによると思うが)、会わせてほしいと願う実親さんには、写真やビデオで見せてはどうかと思う。

494 現在、被虐待児の高校男児2人を養育しています。障害のある子についても、同様に養育すればいいと思いますが、その子に関わる時間が十分に必要だと思いますし、多くの障害のある子供を育てられる。親同様、専門機関との連携が大事だと思います。

497 いつでも、身近な方々がいることが、子育てには大切だと思います。我が家には3人の実子がいて、皆結婚しています。私達には、孫のような子供ですので、楽しい子育ても、私達には元気でいるためのように思います。毎月、身内の方と面接していますので、幸せな方だと思っています。将来の事は心配ですが、先の事は分かりませんが、今のところは楽しい子育て中です。

499 現時点では、環境的に受託は考えていない。

500 里親の重要性を考えると、やり甲斐がある。

501 現在、私は里親になりましたが、里親登録して良かったなと思います。子供が好きで、自分の子供に愛情を注ぐことはもちろんできるけれど、里親になって、自分の子供ではなくても、愛情を注げるか心配でしたが、全然問題なく育てられて、安心しました。

503 身内の理解を得ることも難しい場合があるのですから、支えとなってくれる関係機関が必要です。里子の日々の様子を、どのように方向付けていけば良いのか、助言できるカウンセラーやスーパーバイザー的な人物が必要だと思います。現在の児童相談所の里親担当だけでは、専門的な知識、経験を身に付けた人はおらず、頼りになりません。

505 仕事で、障害児のお世話をさせてもらっていますが、親御さん達のご苦労を見るにつけ、何かにつけ努力されているのだと心配しております。体力と根気がいるのでしょうか。

508 世の中には、苦労している子供がたくさんいると思います。里親に委託されている子は、実親の身勝手な気持ちから、少ないと聞いています。もっと委託されやすい環境ができれば良いと思います。障害のある子については、里親にも専門知識と経験が必要だと思います。

512 実際、働いている中で(不規則勤務)、初めて受け入れた時、職場を長期間(1ヶ月)休むことができなかった。子供と親が、初めての生活に慣れる大切な時期だと思います。休暇制度があれば、もっとゆとりを持って接することができたと思う。

513 現在2人の子供を育てている最中で、自分達の年の高齢のこともあり、新しい里親を引き受けすることは考えていません。申し訳ありません。心にゆとりができたら、考えていきたいと思います。

515 特殊なケースで里親となりましたので、よく分かりませんが、経済的援助をいただき、年に数回来てくださって、色々なアドバイスをいただき、大変感謝しています。

519 今まで、健常者の里親の経験しかないので、障害のあるお子さんを預かることは私達にとっては、とても高いハードルです。でもそれは、知識がないからではないでしょうか。里親研修等で、もっと情報をいただきました。

524 以前、障害のある子供さんを、短期ですが預かったことがあります。里親は、ある程度の専門知識をもっていた方

がいいと思いました。当時は、若かったせいもあり、知識もなく理解できず、障害の度合も分からず接していたので失敗もし、お互に分かり合えず、悲しい思いをしました。専門的に支援してくれると良いと思います。

526 現在の虐待、養育放棄などの問題は、今最近の問題ではないと思います。親が子となり、子が親となり、代々続いてきた「子育て」という作業のどこかにひずみがあったのだと思います。かといって、今さら悪者探しなどする気は更々ありません。問題となってきた「今」が、問題を解決していく時期なのだと受け止めて、少しでも良くなっていくようにしていくのが、私達の世代の仕事だろうと思います。みんなが我が子、我が家の幸せに固執せず、もう少し広く大きく長い目で、となりの子育てに協力していくような社会になるよう、里親がその役割を果たせたらと思います。

527 養護施設内のイジメ（長野はひどい）。早く子供をそこから助け出したい。

530 現在養育している子供は、別に大した問題もなく、障害もありません。私達夫婦は未熟なので、障害のある子を養育するのは、親の方がパニックで、難しいと思います。何も障害もない子供を育てていても、大変だと思うことはよくあります。そういう専門里親さんは尊敬します。でも、同じ人間なので、大変な事、困った事は多々あると思うので、行政とか色々な人の手助けが必要。その点を、もう少し理解していただきたい。

532 制度としては分かりませんが、里親について、養子、養育と2通り存在していますが、養育については、福祉の心の持ち主が多いと思いますが、反面、里親会等で感じる事は、養子希望については、私の思いすぎかもしれません、ややもすると、子供の事よりも、その家庭の問題解決の方向にあるような気がしてならない。これは、行政としてはどうなのかと思う。私の思い違いかも知れないが。

534 障害のあるお子さんを引き取り、家庭で育てる。簡単で当たり前の事のようになる日を望みますが、実際、里親になりたいという人の数自体、増えているとも、委託数が伸びているとも、又、里親同士のつながりが持てているとの実感が、あまりありません。もし、障害のある子どもさんを、私が引き受けるとしたら、孤立しない環境があり（その子供さんへのサポートが十分にあり、同じ立場の里親家庭が夫婦のレスパイトケアが確実にあること）、行き来できる範囲に住んでいて、家族ぐみるでお付き合いができるなどを望み、又、その努力をしたいと思います。1人でも多くの、家庭で過ごせない子供が、家庭に引き受けられますように。

537 26年前に姉妹3人を預かった時に、真ん中の子が知的障害で、養護学級の先生等に助けられて、育ててきました。その時に困った時でも、公的な所に相談しても、何もしてくれず、戸惑いましたが、その時に、こういうアンケートがあれば、自分の気持ちも整理でき、何をしてほしいのか、相談するすべが分かっただろうと思いました。公的専門的に、気軽に電話なり手紙で相談できる所があればと思います。

539 共働きが多い中、里子を受けるのには……。以前、1日3時間のパートをしていて、里子を保育園に入れたかったが入れず、幼稚園に入れたら費用の援助がなくて、毎月3万円払ったのが大変でした。県にお願いに行って、やっと今年から援助してくれるようになりました。障害のある子供は、将来のことを考えると、引き受けることは難しいと思っています。私は、預かった子は自立できるように育てていますので。

540 実親に、里親制度の理解をもっと働きかけていただけたらと思います。里親に取られるから施設がいいとか、よく聞きます。

541 1、2才の子供を引き受ける場合、発達障害などは引き受ける時は分かりにくく、養育していく過程で気付く場合もあると思います。その場合、里親の心理的負担は、かなりのもの

だと思われます。子供はもちろんのこと、里親のサポートも大切になってくるのでは。

542 子供はいないが、子育てをしたいと思っている夫婦、又は、子育てが終わったが、子供好きの夫婦は、世間に多くいると思いますが、その割りに「里親制度」が世間に周知されていないので、もっと様々なメディアでPRをするべきではないでしょうか。里親になることについて、「壁」を感じている人がたくさんいると思う。私達は、知り合いなどに（話せる範囲内で）、自分達の経験を話したりはしていますが……。又、障害のある子の里親を引き受けることについては、更に大きな「壁」を感じます。おそらくどんな子であっても、引き受けてしまえば、一生懸命育てることに専念すると思いますが、経験談やどのようなフォローがあるのか、まったく分からなければ、やはりためらってしまうでしょう。ですから、そのようなPRも十分に行う必要があると思います。

548 社会福祉、社会貢献のためにも、今後、機会があれば、障害のある子でも養育を引き受けたいと思いますが、障害の程度が重度になれば、専門的な知識も必要だし、体力も必要だと思いますので、まず出来るのは、ある程度までの障害の子だと思います。またその時でも、何か困った時、相談できる機関があれば、障害のあるお子様を養育する里親が増加し、里親間の理解も深まるでしょう。

549 2人の里子が受託しています。うち1人は来年高校卒業と同時に措置解除になりますが、大学進学が決定しました。養育里親ですから、本人（男）は国民健康保険に加入。でも収入がありません。色々壁にぶつかります。18才以降の支援が必要です。

552 色々なケースがあり、最終的に情報（専門家やその他の情報源）提供してくれるものが役立つかどうかは、各ケースにより違うと思う。個人的能力（里子、里親、家族）の違いにより、取り組み方、展開は違ってくるのでは。その判断は、里子の良き理解者としての里親の最も大切な責任であると思っています。

553 里親制度で、1人でも多くの子供を引き受けてもらいたいです。私達ももう少し年が若ければ、1人でも2人でも里子と生活していきたいですが、ちょっと無理かもと思います。子供のために、1人でも多く里親になってもらえるように、いろんな活動は続けたいと思っています。

554 実子が障害があるので、今までの経験が役立てばと思いますが、なかなか実際、引き受けることは大変なことだと思います。

557 現在の里親制度は、里親に社会的地位もなく、報酬もなく、尊敬されることも感謝されることもありません。けれども、この4月の法改正で、責任が重くのしかかることになりました。事が起きると個人が責められ、賠償の問題が生じます。善意で里親するのには、限界があるように思います。この頃では、委託される子供の殆どがネグレストですが、児相は普通の子だと言います。認めてもらえないネグレストに比べれば、障害のある子だからと、さほどの差はないのではないかと思います（委託したことはないが）。ただ、サポート体制を整えることや、まわりに理解してもらうことなど、考えなければならないことが沢山あるような気がします。

558 以前、一時保護で受託した、何人かの子供に思い当たる子供がいました。あの子達は、あの後どうなったのだろう。今、適切な養育を受けられているのだろうか……等、気になります。このアンケートが、あの子達の育ちにも、生かされるよう期待しています。

560 私共は高齢になり、自己の健康状態を考えると、もう限界に来ていると思いますので、この子供が親元に帰れたら、里親を終わらせていただこうと思っています。

561 私がもっと若ければ、引き受けたいです。呼吸器疾患

という持病を持っており、多呼吸になったりして少し大変ですが、里親制度によって、子供の手助けができる事は、良い事だと思います。ニュース等で、子供の虐待など見ると、心が痛みます。もっと里親になる方が増えるといいと思います。この仕事をされている皆さんに感謝します。いつもありがとうございます。

562 世間に広く里親制度を理解してもらい、社会全体で子供を育てるという意識を、多くの人に持ってもらいたいと思っています。

566 現在育てている子供は、「障害の可能性もある」と説明されました (実親の知的障害)、子供自身は順調に発達しており、今後は障害のある子の受け入れも検討しています。ノーマリゼーションの不十分な社会のため、里親に限らず、障害者や家族には、多角的なサポートが必要なのでしょうね。

567 もっと自分の年齢が若かったら、もう1人と思っていたのですが、年が年だし。

568 里親、里子というネーミング (言葉) に抵抗を感じます。

569 子供についての知識、障害児への理解や情熱がないと、厳しいかも知れない。

570 最近、里親が里子を傷つけたり、挙げ句は死亡されたりする事件にまでなっている。自分の子供ですら虐待行為の多い今の親達。血の繋がらない他人の子を育てる中で、「なつかない!」と言うのでは、里親としての資質がない様ですね。私たちの時代では、親が子を殺すなんてことがなかった。今は、自分が嫌なら(気に入らなければ)、たとえ我が子であっても殺す。これは、人間としての情がなくなっているのでしょうか。なきではないです。愛情、友情といった感情の情で、それが現代人には欠けているのです。

572 児童相談所の担当者があまりにも形式的で、相談事があっても、話ができません。2、3ヶ月に一回位は様子を伺うとか、あっても良いのではないかと思います。又、現在預かっている子は両親がいますが、その親の方へ気を使っている。2、3ヶ月に1回面会をしますが、親の方がいろいろと要求てくる。子供を育てる事の大変さ、苦労を分かってほしいと思います。

573 児童相談所職員の担当がすぐ変わってしまう。里親は2~3年では終わらないので、もっと長期間付き合っていける制度があっても良いのではないか?

580 障害のある子を引き受けてみたい……という気持ちは、私自身はあります。ただ、簡単なものではないし、向き合っていくことが大変なんだと思います。今は、受け入れた子供だけでいっぱいです。兄弟をつくってあげたいなと思いますが、自分達の年齢だと、これで精一杯なのかとも思ったりしています。制度については、きっとまだまだ勉強不足なので、よく分かっていない点もたくさんあるような気はしています。

583 今年から補助金の助成が増えたので、とても助かっている。本人の将来にも備えてあげたい (預金)。

584 少しおかしいなと思っても、この子はLDかと思っても信じがたく、家庭教師と話をしながら、入学してからオール1だったのを、少しづつ上に上げられたらと思い、本人も頑張っています。又、本人も出来た時、とても喜ぶので、それが楽しみに頑張っています。

585 初めての里親は、理想と現実が違っていて、不安が多いと思います。児童相談所の方もよくして下さいますが、里親さん(先輩)との関わりも大事だと思います。

587 登録をして9年になりますが、なかなか子供の紹介をいただけないので、答えになるような経験がないままです。このまま登録を続けるべきかどうか迷っています。

589 全ての事情のある子や、障害のある子供達が、里親制度のような家庭的な環境の中で、養育されることが望ましいと思いますが、現実には、認知度、地域の理解度、経済的問題等

があり、容易ではないことを実感しています。

591 障害のあるお子さんを引き受けるということは、本当に勇気が必要だと思います。特に、我が家では、主人の仕事柄その点を話し合いました。赤ちゃんから引き取った場合など、障害の有無が家庭の中で発見され、どのように対応すればいいのだろうなどと、考えました。我が家には、そのような経験者がいないので、今のところは引き受けは、困難ではないかと思います。

599 利発で活発な子に巡り会えて、私達が親になれたこと、幸運です。しかし、障害のある子となると、経験のある方、専門的な勉強が必要と思います。

603 障害のある子を受託した経験はありませんが、もし、お手伝いさせていただけるならば、協力させていただきます。

606 私達が、里親になった27年前から比べると、制度は随分と良くなったと思いますが、障害のある子を長期間育てるのは、やはり大変な事だと思います。短期では、7、8人預かりました。身体障害とは別に、今預けられる子供達は、少なからず心に傷を持った子が増えていると思います。昔の様に楽しんで子育てするのが難しくなったのは、時代のせいでしょうか?年に何度かの研修会、及び里親の集まりには、出来るだけ参加しておりますが、これから里親は、たくさんの勉強が必要になってきていると思います。

608 精神障害によるおそれがあるというだけで、今は全く普通の利発な4才児を育てている。周囲にそういう病の人を見てきたので、そういう病が出れば仕方がないが、我が家ユーモアや適当さの中で、その発症が抑えられればと思っている。私のまわりには、里親希望者はいる。もっと小さい集まりで、里親自体が発信元として、里親の機会の素晴らしさを訴えていなければ良いと思う。

614 障害のある子供と30~40才までくらいい生活したことがあるが、若かったので、生活できたと思う。家に1人でおくことができず、男の子で身体が大きくなり、自分だけでは生活ができなくなり(里母だけの力)、施設にお願いした。

617 もし、自分の実子に障害があったとしても、多分受け入れるでしょう。現に、家の子も親に精神的な障害があると言われましたが、それは、その子のタレントとして受け入れています。

620 里親としては、健康状態が良ければ引き受け可能である。年齢的、精神的に大変さがあり、大人しい子、やさしい子であれば、受け入れてもいいが、暴力的な子や障害のある子、気が強い子、問題のある子は、精神的に疲れるとと思うので、無理があります。

626 家族も理解してくれて、里親になることに、とくに抵抗はありませんでした。ただ、障害のある子供となると、少し考えてしまうかも。

628 もう少し、一般の私達母親が、多くの子供達を育てる事や、育てやすい状況になってほしいと思います。

633 文章でこれらの事について書くのは、難しいことですね。子供を産み育てる親の意識を変えていくような、教育が大切ではと思います。4人の子供の父親が、皆違う現実があるのです。

634 里親とは、普通の家庭で普通に育てることだと思うことから、今年度からの研修は、行うべきではなく、各児相が普通の里親と認定するべき。

635 最初の手続きが大変でした。住民票を移したり、社会保険や子供の手当の事など。役所の人が里親制度を知らないで、訂正に行ったりしました。役所の中に、里親係のような部署があって、すべて教えてくれたら助かります。いろんな事を抱えている子供なので、あちこち病院へ通わなくてはならない。3人いますが、3人共心療内科や、体の不調を訴えて耳鼻科、皮膚科、眼科、接骨院等。そして、メガネを買ったり、足首が弱

いので、しっかりした靴を買いたいと、走り回っています。外出すると交通費もかかるし、外食もします。金銭的に余裕があれば、もっと外食できて、少し休息が取れます。

636 障害があると事前に知っていたら、引き受ける自信はない（度量が小さい）。

637 里子が家の物を壊しても、保障がないので、出費がかかる時がある。生活費のみの保障だけではなく、プラスの保障が必要である。子供と離れるレスパイトが、1週間とは少なすぎる。毎日苦しい思いをする。月1回は休暇がほしい。

639 きちんとしたスーパーバイザーがほしいです。聞いてくれるだけでも、うれしいですが、納得できるアドバイスがほしい。自分に合った納得できる話が聞けるまで、何人でも尋ねたいです。

641 家庭の暖かさを味わうために、里親制度は必要だと思います。しかし、何年待っても子供が委託されず、悩んでいる方などの話を聞くと、矛盾を感じます。私も里親となり、「夢に見た生活」でしたが、実際は、「こんなはずじゃなかった」と悩んだ事もありました。障害のある子の里親さんから話を聞くと、「私には出来ないな」と思ってしまいます。いろいろ勉強し知識を得て、子供の行動を理解しなければいけないと思いました。

643 障害のある子を里子として預かった時、実子がいた場合、年齢にもよると思いますが、どうしても里子の方に手が掛かると、実子が淋しい思い、ひがみはしないかと、少し心配になります。又、里親の年齢によっては、体力、気力がもつかどうか。私には自信がありません。

645 親は育てる気がないならば、子供を手放してくれた方が良いと思います。世間体を考え手元においても、大切にしない親よりも、とても立派だと思います。不幸は虐待されることですから、血縁などいらない。子供は優遇されるものです。私は、うちの子を産んでくれた方に感謝しています。児相にも。私の人生がグッと楽しくなりました。

653 周知徹底に欠けている。

654 養育里親を経験して、里親になろうとする人が少るのは、イメージとして、「大変」という気持ちが先に働くからだと思います。「大変」「苦労」、この言葉が浮かんだら、里親は続けられないと思います。周囲は「大変でしょう」「苦労して」と勝手に決めつけて言いますが、人によって価値観が違うので、どこからどこまでが苦労なのか、私には分かりません。一般的に辛い、苦しいは人生につきもので、それを越えるから楽しいことがやってくると信じています。確かに、里親は子供の事情がそれぞ違うので、それに上手に対応してやらなければならず、忍耐力や度量も必要です。周囲の人に理解してもらうにも、事情を考慮してどこからどこまで話していいのか、と悩むこともあります。一般の人は、生まれるとすぐ親子関係を築いていけますが、里親は子供を受け入れてからが出発点で、周囲とは何年もの差があります。なかなか周囲はうるさく厳しく、理解しようとする人は少数です。里親は里子（この言葉は、私自身は子供に使ったことはない）に安心感を持たせて、学校等へ送り出す。何かあれば任せなさい、という強さを見せられることも必要で、色々考えれば、安易な気持ちでは引き受けられないことだと思いました。田舎なので、交通が不便。今は私達が若いから、雪道でも運転して学校へ送り出せるし、経済的に苦しくても頑張りがきます。2人が自立した後、もし話があったとして、果たしてその子供に今の子供のように、きちんと丁寧に育てていけるかどうか。年齢が上がると無理がきかなくなるのでは……と、考えたことがあります（経済的に苦しい、補助があっても不足）。1人でも多くの子供が、幸せな家庭生活を送ることができればいいと思います。

657 現在より10才若かったら、里親を続けさせていただきたい。今の子は、お嫁に行くまで我が家にいると思うので、そ

の子と一緒にファミリーホームでも出来ればと思います。子供が20才になるまでは、里親制度が必要なのでは？ 子供達にこれと同様のアンケートを採ってあげて、子供の心の訴えを、もっと聞いてあげてもらいたい。それによって、里親はどうあるべきか考えましょう。

658 里子には問題はなかったのですが、実母には多大なる迷惑を受けました。児相の対応は酷いものでした。職員の質の低さが、問題を大きくしているとも言えます。

661 児相には、もっと里親の気持ちに寄り添うケアを望みます。サポートについては、昔よりはるかに充実していて、一見やりやすそうですが、社会全体が個人主義が進んで、寛容ではなくなり、閉塞感を感じます。障害の子供のことは、実子でも、ある割合で障害の子が産まれるのですから、より好みはするべきではないと思います。里親としての覚悟が試されるのだと思います。

664 担当の児童福祉士が、毎年変わってしまうので、また最初からの付き合いとなり、何か気になることができても、すぐに対応してもらえない。児童相談所との連携プレーが上手くできず、困ることがあります。

665 新生児から預かって思ったことが、その子はまったく実母の顔が分からぬのに、児相の方は、実親の意見をすぐに取り入れて、外泊を言ってくるけれど、たいした面会もしないで、実親の言うことを聞いていたら、里子の精神面に悪いのではと思うので、もっと、里親に預けた子のことを考えてほしいと思います。

667 欧米では、里親の申し込み時に、障害のある子を希望するご家庭が多いと聞いたことがあります。我が身を振り返ると、そこまで踏み込むことはできない……というのが本音です。バックボーンとなる宗教観なども、差があるように思えます。でも、より大きな救いを求めている相手に対し、手を差し延べなくてはいけないはず。里親としてだけではなく、子供をとりまく社会の成熟が必要だと考えます。

668 病気もあり、子供の将来については、とても家族中で心配しています。

669 虐待を受けた子は、言葉に表せない程、心に傷を受けていて、色々な行動は発達障害と同じ様な症状であるが、薬を飲んでも効果はないということを、講演会で聞き、今まで10年間育てて、その通りだと思いました。問題を起こした時、その気持ちを理解し対応していくけば、必ず良い方向に歩み始める事を実感しています。学校の先生の理解が必要不可欠です。先生とのコミュニケーションが大切かと思います。

674 障害がある子もない子も、「良い環境で育てられる」権利があります。それには、里親制度が最適です。障害のある子でも、より厚い支援があれば可能だと思います。

675 今、我が家には2人の里子がいます。個人的にはそのようなお子さんの里親を引き受けることは、とても大事なことで、力になってあげたいとは思いますが、やはり家庭の協力がないと、できないと思います。我が家2人の子供達も、普通に育ってきたわけではないので（うちに来た時は、中2と小5でした）、今は2人の里子に、たくさんの愛情をかけてあげたいと思います。

676 現在、引き受けている子供は、障害のある子ではないので、「困る」ことはほとんど感じていない。多少はいろいろな事があるって、普通の子育ての悩みのようなものだ。障害児であれば、里親を引き受ける自信はないと思う。

677 里親制度はあまり一般に知られていない。障害のある子を育てるには、知識とか経験が必要だと感じる。

679 里親さんの中には、障害を持った子供さんを育てている方もいらっしゃるようですが、その苦労は大変だと思います。児童相談所と連携を取りながら、育てていってほしいと思っています。

680 現在、実子4年生、里子1年生で、2人共小学校に通っていますが、少子化の影響で、学校や子ども会の仕事も多くなっています。又、防犯の面からも、習い事の送り迎えなど、親の関わることも増えていると思われます。宿題や持ち物のチェックなど、昔は子供任せだったと言われますが、結構負担も多く時間をとられる中、里親、ましてや障害のある子の里親になるということは、大変だと思います。このようなことを配慮して、学校や児童相談所などと、もっと連携を密にして、公の働きとして認められていてほしいと願います。

681 里親は、今後も続けていきたい。又、周りにも理解を広げていきたいと考えている。障害のある子を引き受けることについては、障害の程度などによって異なると思う。実子であれば受け入れざるを得ないことだが、その点は、その時点の家庭環境や実情によって、どうしても引き受けられないこともある。したがって、専門里親を増やすことも大切だと思う。実際には、子育て中の若い世帯は、共働きが多い。そのような中では、リタイア（退職）した方、少々年齢のいった方でも、興味のある方には、専門里親になってもらえればと思う。団塊の世代の退職がある、今がチャンスかも知れない。

682 ・里親としての経験が浅く、障害児の養育はとても自信がありません。

・現在預かっている子には、兄弟がいるのですが、兄弟またはその里親さんとの交流が、今のところ全くないのですが、兄弟を年に1~2回、会わせてあげたいと思うのですが、難しいのでしょうか。

685 私共夫婦は、不妊で実子が望めなかったことから、特別養子を迎え（幸運なことに0才の）、ほとんど0からの子育てを経験できたことは、本当に幸運であったと思っています。現在の里親制度が、養育里親重視の観点が強い（福祉の精神からすればもっともなこと）ですが、私共のような「子供がほしい」という動機が主と思われる養子里親の方も、もっと力点をおいてもいいと思います。養護するべき子供が、可能な限りなるべく小さい時から里親へ引き取られた方が、施設養護よりも、より望ましい家庭的養護の期間が長くなり、安定した育ちが期待できると思う。私自身の経験からは、今の子を迎える時に、「もし、その子に障害があったら」ということに関して、事前の研修、相談等の環境もなく、自分なりに「もし、本当にそうだとしたら」という自問に対して、確たる答えも持ち合わせてないまま引き取ったのですが、一緒に住みだしてからは、日に日に「赤ちゃんで、こんなに可愛いのか」と思うようになり、「もし、この子に障害等が出てきたとしても、絶対に手放さないぞ」と強く覚悟のような気持ちを持ったことを覚えています。養子縁組にしろ、里子を迎えるにしろ、子供をえり好みできないということは、現状では余程の広く深い心の持ち主でないと、難しい面が多いのかも知れませんが、そのような人達が確実に存在することも、事実だと思います。そのような事例をもっと取り上げ、多くの人に知ってもらうことが、そのような動きを進めるにあたって、必要だと思います。やはり、知ることは超えることであり、「こういう人達（生き方）がいる（ある）のか」と、感じた人のうちその何%かの人が、そういう方向に動き出すことになると思います。具体的な制度や支援も当然、準備されなければいけませんが、その前に、障害のある子を迎えるということに対して、社会や世間のハードルを下げるために、里親研修会などのあらゆる機会に、具体的な事例紹介（当事者の体験談等）を行い、知ってもらうことが、大前提として不可欠かと思います。

686 引き受けることは、精神的にも肉体的にもとても大変である。私も、ストレスから何度も体調を崩している。しかし、子供にとっては、とても必要な里親だと思うので、多くの方が、里親になって下さることを願います。

688 その地区でなければ、引き受けがだめという制度は、

止めた方が良い。子供のためというならば、地域は関係ないのではないかと思う。お金とかではなく、やる気がある人には、もっと子供がきてもいいと思う。今の制度では、せっかくやる気があるのに、ただ待っているだけの時間の方が長いから、やる気がなくなる。期間が短いと、ただ利用されているだけのように感じる（うちには、何回も子供が来ているが）。私自身も、辞めようかと何回も思った。

689 施設などの集団生活より、家庭生活が分かる里親。施設にいる子供達を全員、里親に預けられたら、どんなにすばらしいことか。親が子に教えるべき、社会で生きていく知恵を、里親が代わりに教えてあげる。里親がたくさん増えることを望みます。今は、心に余裕がないので、障害のある子の里親は、とても無理です。何十年後はできるかな……。年齢的に無理ですね。

690 私共の里親会も新会員がなかなか増えず、高齢化するばかり。少子化と世間は言うが、問題を抱える子供が多くなり、施設も作らないといいながら、今年度も2ヶ所にできている。里親中心といいながら……。もっと里親自身も専門的知識を勉強する機会が必要だと思う。児相での研修も、形式的な事ではなく、専門里親研修のようなものを、どんどん取り入れるべきと考える。私自身は、専門里親として、2回研修を受けて4年になるが、虐待児を受けてはいるが、専門里親としての扱いはない。身体、知的を問わず、障害がある子供の受託も、心して希望を出しても、実際にはない。里親として、信頼されていないのかと疑問を持っている。児相に担当者が来ても、2年位（1年の人も）で異動。全く福祉に関係がない人が短期間担当になり、ようやく信頼関係が築けるかと思う時には、また新しい担当で0からのスタート。里親個人の特性を知り、受託児の状態をトータルで把握する専門の担当者がいてくれると、より密な関係が築けると思っています。福祉に関わる人も専門研修をしっかり受けて、対応してほしい。

696 上の里子が高校2年生で、自分でも高校を卒業したら、自立（別に暮らす）するつもりでいる。中2の女の子だけになるので、次の子供を引き受けたい気持ちはある。その時、障害があるとかないとかは、考えたことはないが、障害のない子の方が負担が少なく、助かるとは思う。健常者の子供で、里子で出せる子供は、どんどん出すべきである。

700 今のところ、大きな問題もなく、普通に生活しています。焦らず、少しずつ出来ることを喜んでいます。

704 はっきりと病名が付く障害がなくても、乳幼児期に、集団で生活したことがプラスにはならず、マイナスになり、その後の発達や人格形成に障害をもたらしてしまう可能性が高い。子供には、自分がどこで誰と暮らしたいか、十分に意見を言えるわけではない。そんな子供の弱い立場を擁護できるシステムを、法律上も、実際の上でも確立される必要がある。子供は何も言えないまま、乳児院や養護施設にて、暮らさなければならぬのは、子供の人権が尊重されていない日本だということである。里親をもっと広げていくべきであるが、里親をサポートするシステムが存在しない。児相も虐待がないかどうかという視点でいるだけで、問題は、他にも多々あると思っている。養育の相談機関ではない。里親は、児相が子供を丸投げするところになっている。障害児の里親推進以前の問題の方が、大きいと思う。

705 里親申請をしてから、審査結果が出るまでに、時間がかかりすぎるように思います。里親制度の認知度が、まだまだ低いようにも思われます。障害のある子供に対しての、私共の知識不足のため、引き受けることに対して、不安を感じます。接し方など、色々と教えて下さる場所等が必要だと思います。又、サポートして下さる方々がほしいと思います。

707 制度や予算の付け方を変えて、もっと里親委託を進めるべきだと思います。障害のある子の里親は、普通の子の里親以上

に難しいと思う。行政のバックアップが不可欠（継続的に）。まずは、里親委託の割合を、大きくアップする努力が必要。

708 子供が思春期を迎えた時、あるいは、障害のある子が問題を起こした時にに対する対処、応対が、今の状態では、まるで無いに等しいと思います。制度だけが大きくなつて、中味は昔のままで。相談にのってくれる実力のある人がいません。子供の心のケアをしてくれる器がないのです。非行、犯罪を起こした子供達は、帰されれば、また施設の空きを探して入れるだけです。問題点の解決は、いつになったら着目するのでしょうか？

710 今年の4月から、手当が上がりましたが、財政的な面でもう少し援助があるといいと思います。

711 グループホームでパートをした経験があります。社会福祉法人で子供6名、正職員3名ですが、交代勤務で職員も足らず、障害児や被虐待児がおり、対応が厳しく、子供達の行動範囲も狭められています。個人、ファミリーホームで障害のある子、虐待児を受け入れるには、もっとサポートがないと、単に安上がりのためとしか思えません。せめて、養護施設入所の子供達と同じ費用をかけて、サポートしていただきたい。

713 児相と里親の連絡をもっと密にし、里親のレベルアップを願いたい。委託する子供に対しては、障害のあるなしにかかわらず、育てるのが里親の使命だと思います。

716 私達は実子がいないので、里子（縁組み予定）との出会いが多くの喜び、出会いをくれました。子供との縁を応援してくれた、そして、今も支えてくれているこどもセンター、家庭養護促進協会、里親会、友人、家族全ての方に感謝しています。

719 同じ年の実子がいるので、やはり難しいです。今、進路で悩んでいますが、不登校になっているので、どうなるか心配です。

722 もう少し里親に対するメリットがないと、里親は増えないので……。我が家でも、来年から里父が海外出張になりました。そこで、里子を連れて一緒に行こうと思っていたのですが、海外に里子を連れ出せないという問題にぶつかり、結局、里父だけで行くことになりました。

726 子育ては里親に！出来ることなら、乳児園は1年未満で、里子に出していただきたい。グループホーム的なことも、賛成ではありません。父母がいて、家庭だと思います。

729 新たに1人を迎える体力、気力、金力、協力者、知識、知恵など、どの点も不足で、自分としては考えられませんが、子供達の心を聞く仕事はしてみたいです。

732 里子であるという事が、既に一つの障害と考えてもいいくらい、実親との関係というのは、人の人生に深く関わっていると思う。実子も発達障害かもしれない、あまり変わらない。

734 乳児院での生活が長かったためか、知恵が少し遅いです。学習面でも周りに付いていけず、学習塾に通わせる費用を負担していただきたい。

743 現在の社会制度の中で、せめて、20才までは公的補助があつてほしいものです。

747 実孫と里子と共にその成長を見ていると、里子にはこういう経験がなくそだったんだろうなと思う事が沢山あり、里親の役割の大切さというか、少しでも預からせてもらっている子供の成長にプラスになれる事を願って頑張っています。

748 私自身が幸せなので、今後も取り組んでいきたいと考えております。夫も長女も大賛成で（ボランティアとして）、参加できることには、前向きに行動していこうと考えております。家族が増えるということは、私にとって、幸せがたくさんになることと思うからです。学習面でも努力をし、嬉しい事も多いですし、笑って明るく話題も多く（悲しい場面もありますが）、一緒に取り組む姿勢が大切で、里親日々勉強しなければ

いけないことも、子から得たことがあります。未来に向かって、楽しく過ごすことが一番ですね。

751 血や遺伝子に固執する傾向にある日本では、里親制度が、欧米のように広く浸透するのは、なかなか難しいと思う。どのようにしたら、意識が変化するのかよく分かりませんが、自分達の家族関係を身近に見てもらい、認めてもらっていくことしかできないと思う。障害児の里親になることは、とても大変なことだと思うが、実親とは違った、それでいて施設のような所とは違って、とても人間的な関係が築けると思う。障害児を産んだ母親として、自分を責め、立ち直れない話などを聞くと、里親であれば、少なくともマイナスの関係から始まるのではないから、もう少し冷静に、客観的に子供と接することができるのではないか？

752 私にとって子育ては、この里子が初めてだったこともあり、慣れない子育てに加え、私自身の時間がなくなってしまったなど、相当イライラした。今もう一度、幼い子供を育てるのであれば、心に余裕があるので、楽しいだろうなと思う。初めて子育てをする里親さんの心のケアもしてあげてほしい。

756 障害のある子を引き受けるには、自信がありません。引き受けている子供が障害児童になったのなら、頑張ると思います。自分の事は自分でできる児童以外は、一般里親には無理かと思います。

759 自分達の子供が、地域や社会の中で、お世話になりながら育ってきました。いじめや登校拒否にあう子もいましたが、家族が支え合い、周りの方々に助けていただいて、色々な問題も乗り越えてきました。お父さん、お母さんと呼べる人がいないお子さんは、こんな時どうなんだろう？と思った時に、里親登録を決心しました。実際、里子の力にどれだけなれているのか分かりませんが、続けさせていただきたいと思っています。

762 私は、保育士をしている時に、自閉症の子やダウン症の子と接していました。私自身は、障害があつても引き受けたいと思うのですが、私自身が疲れやすくなつたことを思うと、子供の送り迎えをしながら、養育できるかどうか、自信がありません。又、障害があると、親自身の負担が増え、児童クラブなど、利用できなつたりもします。今、実際に障害を持つ子供さんの親御さんが知り合いにいますが、小学校、中学校、高校と進学する度に、いろいろな問題が起きています。障害のある子供さんも、児童クラブの利用や高校進学への道が容易であり、広い門であるならば、育てやすいと思っています。障害がその子の個性として、社会が受け入れてくれるなら、どんなに子供達は生きやすいでしょうか。

763 里親として登録した後、里子が委託されるまで、十分な情報がなく、不安な時間を過ごす方が多いように思います。

764 里子達は、心傷ついて来ています。私は、そんな子供達も心に障害を背負って来ていると思います。里親が知的、身体的障害を持った子供達を引き受ける時、家族、専門的機関、多くの支えがなければ、里親家族の崩壊につながりかねません。現在の児相では、手が回りきらないのが実情です。手厚いバックアップが必要と思っています。

765 里親は、専門里親といえど、心理的特殊行動等に対しては、素人と言える。専門的知識を持つ、養護施設職員とのネットワーク作りなど、里親支援制度の確立が重要である。

767 8ヶ月で我が家に来た男の子が、大学1年になりましたが、R1の知的障害で、学習面、いじめ等いろいろ悩みました。現在も自立に向けて心配です。7才で特別養子縁組をしましたので、里子ではなくなつたのですが、同じように悩んでいる里親さんがおられるのですが、養子縁組をされたので、レスパイアが利用できないので、何か利用できる制度があれば、うれしいのですが。

768 実孫（外孫）に多動性自閉症児がいて、現在5才です。大変なことです。障害のある子供を引き受けることは、普通の

養育里親には、無理だと思うけれど、これから私の全ての心と金を捧げたいと思う66才です。家内も66才です。あと何年できるだろうか。

769 1年前に、児相から2才の障害のある子供を紹介されました。私の考えは、子供は選んではいけない、育ててみようと思い、何回か面接に行きました。しかし、私達は60代。保育所が必要と考え、区内の保育所を全て調べましたが、何十人待ち、待っても無理と言われ、泣く泣く諦めました。

772 専門知識がないと不可能です。

773 常々感じることだが、0才児の乳児を乳児院ではなく、里親に委託するようにしてほしい。乳児院から施設を経て、委託される里子は、本当にやりにくく、がさつ、声が大きい、オーバーアクション、嘘をつく等々で、同じ様な子供が多い。愛着障害と言われるような行動、性格になる。それから、一般家庭に里子として出されると、里親も里子もお互いにしんどい。私の両親は専門里親もしているが、長期で委託されている小学3年生の男児は発達障害で、乳児院、施設育ちである。言葉では言い表せない程、大変な毎日である。障害の度合は軽い方であると思うが、日常生活の中での細々とした事で、トラブルが絶えない。いくら専門里親といえ、発達障害児に対する対応などは、本当の専門家でないとできないと思う。やる気と根性だけではできないし、軽々しく障害児を委託するものでもないと思う。高度な専門知識を身に付けた上で受託しないと、お互いに辛いだけである。

776 児相の方には、本当に助けられています。里親をしっかりと支えていこうという気持ちを強く感じ、心強いです。でも、ひどい職員もいます。職員の質の向上は、絶対に必要です。あと、児童心理や福祉を専攻する学生へ、里親制度をもっと宣伝するといいと思います。仕事として、里親に取り組む人を増やすといいと思います。

778 障害の程度にもよるが、精神的なフォローが一番大切と思われる。各専門分野の補助の大きさが、里子にも里親にも必要です。児童相談所ひとつではなく、親子相談所を設けることを希望しています。

780 あまり血のつながりにこだわらない、新しい「家族観」の教育。ひとつの家庭に負担が集中しないように、キミの父母は○○家、おじいさんおばあさんは△△家と□□家、などのように、人工的な親戚をつくって、世話をするようにできたら楽しいのではないかでしょうか。

782 私達夫婦は、里親の登録をして22年が経ち、長期の幼児養育から里親の姓を名乗り、我が子同然に育てきましたが、取り合いの里親さんなどは、ファミリーホームなる前から、4~5人の子供を養育されているので、大きな子が下の子をみて、オシメの取り替えまでさせていて、他の里親から見たら、とても楽しそうに思われる。それで養育にゆとりがあるのか、里親はバチンコに毎日のように通っているし、又、養育されている里親に対して、好き嫌いが激しく、その子だけが虐待に通じるような、怒られている場面に何度か遭遇した。里親相談員に説明したが、何ひとつ解消されていないどころか、養育里子の依頼が行くのが不思議で仕方がない。私達夫婦が1人っ子では可哀想なので、その子のために妹がほしいと何度も児相に話をしてきたがだめで、結局は無視された状況でした。里子、里親のために、少しでも役に立てればと思い、児相から事務局を移し、事務局長を引き受けましたが、里子の養育依頼については、児相で判断するのが当然ですが、当里親会の事業に一度も参加していない里親のところに子供がいたり、又、里親である父母が共稼ぎで、おばあちゃんがみているところに依頼がいたりしていた。上記で説明した里親にいたり、何を基準にして養育をお願いしているのか、理解に苦しむ。当里親会と里子のためにと思い、頑張ってきましたが、会の行事にいっさい参加しない里親さんのところに、養育依頼がいくのですから、頑張っ

ている方がバカみたいで、現在の事務局長を自己解任させていただきました。ただ一つだけハッキリ言えることは、児相職員に嫌われたら、子供が来ないといた噂があります。仕事が終わってから、夜遅くまで里親会の里子のために少しでも役に立ちたくて、一生懸命事務仕事をしている里親の要望に応えてもらえないし、何を基準にしているのか分からぬ。一般的に考えると、子供のため、会のために一生懸命頑張っているところに、養育の依頼をするのが一番の条件だと思いますが、児相では違うみたいです。児相が養育依頼について、里親会を無視した状況があり、児相職員の意識が変わらない限り、今年の2月に起きた里親の虐待などは、なくなることはないと思う。子供の養育を、収入と考えている里親さんが数多くいます。そんなところに子供が行くのが不思議だし、児相職員と養育依頼した里親との間に何があるのか? 又、児相職員が里親さんのところに訪問しても、普段の里親さんの生活など、何も分からぬと思うし、当会里親さんの日常生活などを一番知っているのは、事務局だと思っています。それを無視している限り、里親さんの養育に関する真実の情報は、児相に入らないと思う。最後に、各地区に里親会はあるけれど、いったい里親会って何なのか理解できないし、又、児相と里親会とのつながりは何なのかも理解不能。

784 里子の自立後の住居、後見人、保証人等の公的制度化を希望する。居住地がしっかりと確立できていれば、それまでの期間を集中して養育できる。

785 高校3年生まで措置解除で、社会に放り出してしまうのではなく、せめて20才まで、もしくは、学業が修了するまで、経済と精神のサポートをしていただけたらと思います。

786 里親になることは、かなりの決心がいることだと思います。でも、踏み込んでしまえば、実子でなくても子供がかわいく思えるのではないかでしょうか。子供の将来を背負っているという責任はありますが、残りの人生を捧げるだけの生き甲斐になっています。しかし、現実は関心はあっても、いざ里親にというと、なれない友人もいます。テレビ等でドラマにも取り上げられていますが、まだ身近に感じられないようです。私達もあまり公にはできませんが、近い人に里親の良さを分かってもらえるような、親子関係を築くことをしていきたいと思います。

787 障害のあるお子さんほど、小さいうちから育てることが必要かと思います。愛情が生まれれば、多少のことは乗り越えられます。

790 私達夫婦は、実子1人を育てた経験がありましたので、子育てにはあまり悩むことなく、性格の違いは仕方のないことと割り切って、育児にあたることができました。反面、育児経験のない人にとっては、大変かと思います。その点を含めての提案に以下の点を挙げます。

- ・委託前の研修、マッチングの際には、育児の実践等をしっかりと体験していただく。里親の資質の向上が大事。
- ・子育て中のストレスは、里親も同じであるので、良き相談相手が必要と思われる。同じ条件である里親同士の集まりである、里親会の役割は重要かと思う。
- ・障害や虐待を受けた里子については、専門里親制度があるが、事前研修については障害、心理等について、十分な学習ができるよう配慮すると共に、マッチングの際に、里子の状況や関わり方、児相のこまめなアフターケア等が必要だと思います。
- ・ファミリーホームを含む里親家庭において、ストレスによる虐待が起きていないとは限りません。里子の権利擁護、安全確認も大切かと思います。
- ・障害児の成長を見守る上では、学校や地元の障害児、施設への通所も含めて、専門機関と協力が欠かせないと思います。

791 里子の親のサポートが全くないので、親への対応で苦労した。子供だけではなく、親もきちんとサポートするシステ

ムが必要です。子供の面倒よりも、する必要のないはずの親の面倒の方が大変でした。

792 我が家は共働きですので、里子を家に迎えるまでの過程（乳児院での面会等）が大変でした。又、委託になってから、保育園を探すのが大変でした。待機児童の問題で、簡単に保育園へ入れない状況の中で、共働き夫婦が里子を迎えるのは、大変だと思います。

793 障害のあるお子さんを委託するのであれば、それなりの知識を学ぶ機会を、今以上に持たなければ、やはりいけないと思います。そして、里親同士でもっともっと話し合える場所を増やしていくことで、悩み、感情を孤立させないようにするべきだと思います。

797 委託期間が終わって、社会人として生活していくかなければなりませんが、自立していくための自覚が、まだまだ薄く、職場や生活場所の確保が必要になってきますので、その方の心配があります。

800 里子の人生は、その子のものである。全ての選択、決定をしてもらうためには、およそ18才程度の年齢は必要である。6才までの特別養子縁組を、県は推奨している。何故かと問うと、「その子のため」との答えであった。大きな間違いに気付いてもらいたい。

801 里子を引き受けるのは嬉しいことですが、児相の担当がコロコロ変わり、無知な方も多く、里親とのバランスが悪いと思います。里親担当になるならば、それなりの経験（実際に子を産み育てた等）、口先だけではない、子供の気持ちを優先できるような、人間性を持った方が必要です。

805 今の我が家の中では、障害のある子を引き受ける余裕はありませんが、時間の余裕、家の広さ、気持ちの余裕など整ったら、可能かもしれません。

807 子供には何も責任はないのに、問題を起こすとすべて子供の責任になってしまう世の中に、何とも言えない思いです。子供は小さいうちに、一般家庭にて育てられることが大切だと感じます。親の親権より、子供の将来を考えた制度になってほしいです。

809 里親制度、養子縁組について、日本でももっとオープンになり、自然な親子関係のひとつの形として、受け入れられたらと考えます。その一方で、里親、子供それぞれの考え方、環境もあるので、隠したい方もいて当然だと思います。そう思うと、今回のように、封筒に「発達に心配のある児童の里親アンケート」「障害のある人」等と刷り込むことに、違和感を覚えます。字の読める子供がこれを見たら、「自分は障害があるのでは?」と不安に思うのでは? 立派な研究だけに、残念に思います。

810 障害のある子供を引き受けられるかどうかは分かりませんが、しかし、そのような環境になった場合は、いろんな勉強をしたり、大勢の方の力を借りて頑張っていきたいと思います。

812 たまたま障害のない子であったため、それ程苦労はしなかったが、里親で障害児を引き受けることは、相当の覚悟と、周りのサポートが必要と思います。

815 児童相談所の考え方と、私達里親との考え方食い違うことがあるみたいです。子供のことを考えて、みんなで良くしてほしいです。

821 障害の程度によっては、一見分からない程の障害を持っている我が家の中の里子のような場合、社会的な理解を得るのは難しい面が多々あり、長年の生活環境が大きく影響していることを考えると、今後、長い時間をかけて、ゆっくり育て直しをしていくことが大切だと、つくづく感じさせられます。しかし、再来年の卒業、進路と時間が足りない。ゆっくりのんびりできない大切な日々を、どう指導していったらいいのか、どこで相談にのってくれるのか、どんな社会資源を使ったら良いのか、

分からぬことばかりです。

822 私共宗教家（天理教）として、現在は1割余りの里子を預かっているようですが、もっと多くの仲間に理解してもらい、里親を増やすべく努力したい。

829 ・里親制度は、まだまだ一般的に知られていないので、医療機関に受診する際に、説明を求められたりしました。不審者のように見られ、目の前で確認するための電話をかけられました。幼稚園に入る時も、制度の説明をしたり、苗字が違うが、里親の名前で通わせることなどを、受け入れていただくために交渉しました。幸いにも、園はとてもよく理解して下さいました。

・もっと一般的なものになればいいとは思いますが、お金目当ての人間も出てくるから、難しいのだという話を聞いたことがあります。資格を得る基準を、更に厳しくすれば、多少はふるいにかけられるのではないかと思います。

・障害のある子を育てるには、プロの技術が必要だと考えます。里親を支える行政側のプロの手が足りません。里親に全部お任せの状態では、いけないので。

830 夫婦2人だけの養育で、他に同居人がいないため、養育者的一方が入院等した時に、同居人でない近所の人や知人に、里子を預かってもらえないことが分かり、現在の里親制度はおかしいと思いました。里親同士のレスパイトの方法はあるが、近くに里親がいない場合、遠くの里親に頼まないといけない状態では、不都合である。養育者が、体調不良で動けなくなつた場合は不安である。近隣や知人の力を借りて、社会全体で子供を育てるという里親の趣旨から、離れている制度だと思います。守秘義務の厳守やトラブルの防止という観点もあるかも知れないが、里親同士の狭い世界にとらわれてしまいがちです。それ故、里親の啓発が推進されにくいやうにも思います。

833 実子に恵まれずに里親になったので、最初は私だけの子供がほしいとの想いでしたが、里親会などの活動を通して、社会的養護の気持ちも芽生えてきましたが、夫の理解がなかなか得られず、次の養育までは、踏み切れないのが残念です。

834 ・社会全体で子育てを応援しようという世の中になりつつあるのでしょうか、現状は、まだまだ里親制度は浸透していません。里親といつてもピンとこない人が多いし、変わったことをしているような目で見られる。

・子供達の通っている幼稚園にも、障害のある子供さんがいますが、親御さんに頭を下げる程度のあいさつしかできない。何と言って声を掛けたらいいのか、難しいです。健常者と障害者の間には垣根があると思う（遠慮している）。

・親の介護や、もし自分が病気になったらと不安もある。相談できる専門家に、メンタル面でのサポートなど、気軽にできたらいいなあと思います（構えずに）。児相のケースワーカー担当はいますが、委託の時に一度会っただけで、声かけ支援等がないのが現状。月1回の里親会で、経験を聞く方が勉強になります。

836 軽い障害のある子供は、自分でその障害を隠そうとする。我が家の中の里子がそうだ。他人の前では大女優になる（今はバレている人もいるが）。私達家族の前ではパニックを起こし、手当たり次第物を放り投げたり、人の手を噛んだりするが、児相の方の前では常に冷静で、おっとりと話をする。全くの別人。物事が思い通りにいかないと、カッとなり自虐行為をする。担任からは、被害妄想の気があるのでは……と言われたりした。今は化粧に目覚め、ド派手な化粧で何度も笑われたことか。本人や私の目の前で、「化粧が溶けて、顔まで溶けだしているよ」と他人に言わされた。彼女とレストランに行けば、彼女に聞こえるように、「何か空気が変わったわね。気持ちが悪くなってきたわ」と、年配の2人連れに言われたりと、精神的にめげてしまうようなことばかり。化粧が派手すぎるせいで言われるのだから、直そうと言っても、「全く気にしない」と言いつつ、我

が家の物に当たり散らす。電化製品はほとんど壊された。何を言っても直らない。

838 老後は静かに暮らしたいです。

839 現在共働きなのですが、実子の場合は、子供が2才6ヶ月になるまで、育児時間（1日90分）の取得ができるが、里子の場合は制度がないため取得できず、有休（時間休）を取るほかない。共働き夫婦の里親は少ないとは思うが、今後は、共働きでも里親を引き受けやすくなるような制度を望む。専業主婦なら、障害のある子を引き受け可能だと思いますが、共働きだと難しい面があります。中軽度の障害で、集団保育が可能なお子さんなら、保育園に入所できるので、可能かと思います。

845 子供のプライバシーのため、過去が分からぬのが不満です。実子に早くしていただきたい。障害のある子の経験がないので、気持ちがついていけるか心配です。子供に会いたいだけで、里親は悲しすぎるなあと思う時があります。

846 小さな事ですが、仕事やリフレッシュのために、保育園へ一時預けたりする時、何も援助がないのですが、限定でも良いのであると助かります。

847 ・病院への受診券の問題。受付が困難。保険証。

・貯金がない。

・傷害保険の加入。

852 委託を受けることについて、受け入れ条件的なことはほとんどなく、これまで養育してきました。しいて言うならば、子供のタイプによって、手の掛かりようや目のかけどころに、大きな違いが存在しますので、一家庭生活の枠を超がちなことには、それ相応の外部の手助けを必要とすることになりますが、現実には、そう簡単に助けを得られないため、自力で頑張るという生活を続けています。これまで、聴覚障害、数種の重複障害、軽度の知的、精神障害の児童、成人と生活した経験があります。

853 不妊治療を7年間しても授からなかった子供を、全く別の形ですが、やはり神様から授かったと思っています。今でも、子供が授からず涙している多くの知り合いにも、勇気を出して里親に、一歩を踏み出してくれればと願っています。

854 委託時には（4才）、知能調査で、境界線レベルであると言われたが、現在（8才）は、学習面でも生活面でも、何の問題もありません。

855 社会的養育ということから考えると、障害の有無で子供を区別するのはおかしい。けれども、自分の年齢、預かる子の一生を考えると、成人して自立するためのサポートが、限界だと考えている。障害がある子というと、ずっとサポートし続けなければならないというイメージが、自分の中にある。

858 里親のシステムが、もっと社会的に認知され、より多くの里親が、里子との出会いの機会を与えられることを望んでいます。

863 児相の里親支援のないこと。子供と360日は暮らしを共にして、息づかいまで分かる関係だが、児相の決定が里親の意見を受け入れない。又は、理由を明らかにせず、会議での決定で、上から目線で措置されることは、里親の心に傷を残す。せっかく里親に名乗りを挙げてくれる家庭を潰していく、もったいなさがある。里親サロン等で支援していくが、ほとんどが児相との1対1で、ビビッてしまう里親が多い。今年度も2組（千葉君津地区）の里親が、児相とのトラブル、支援のなさで消えていく。里親の獲得運動に空しさを感じる。

866 2人目の子は統合失調症で、家に来てから妄想が出たりしたので、おおよそ病気のことが分かった。児相は、心理士とドクターが度々面接したが、その内容は全く知らされない。丁度担当の異動時期にあたり、次の担当が、「ドクターの診断がくだらない」ということで、ただ面接を続けるだけ。そのうち、子供は声が出なくなり、学校へ行くことも、更に負担となる。声が出ない状況で、ドクターの面接が筆談で行われたが、この

状況でも全く処置がない。担当者に、「これ以上、ドクターの面接の必要はない。これ以上待てない」と、電話で怒鳴りつける。そうすると、「ドクターの診断が出ていない。病名が確定していない」との返事。「正確な病名は知らない。精神病であることは分かっている。それで十分だ!」。やっと昭和女子医大へ行き、投薬が始まる。その後、1ヶ月程で実親に引き取られた。児相は、外部への依頼や協力を嫌う傾向にあるのか？児相の心理士やドクターというナゾの人物は、面積の内容を全く里親に知らせず、職務上の記録を残すことに対応している。公務員という職務上の制約によるものか。精神病の高校生（女子）を2人預かったが、そのうちの1人には、ドクターから心理士を通じて、脳のMRIを撮るように指示があった。脳外科で撮像し、特に問題なしということだったが、後になって、一体ドクターは何をしたかったのか？ということに気付いて、全く不可解。里親は、ドクターに面会したこと、電話で話したこともない。ドシロウトの医者か？里親に、病院（どこの科が）と診察内容を、文章で指示するべきだ。とにかく、デタラメな対応だ。障害児の診断、治療は、児相では全く無理。速やかに対応できる施設を紹介できる体制を作るべきだ。子供の精神科医のリストを、小中学生、高校生以上とに分ける。絶対に必要。地区毎に、速やかに情報整備。

867 軽度発達障害のある実子の親である自分として、親は、生まれてくる子どもの障害の有無を選べないことを考えると、里親をやろうと思う人にも、子育ては障害の有無もひっくりめて、考えていただけるようになったらいいなと思います。里子は健常児ではないと嫌だという雰囲気を、日頃感じることがあり、違和感をおぼえている。我が子に障害があると分かった時、親は大変なショックを受け、障害のある子を産んだことの切なさに心が乱れ、大変な思いをして、我が子の障害を受容しようと努力していきます。社会的養護であれば、また違った立場から、障害の受容がしやすいのではと思います（推測ですが）。障害児の里親養育が進むことを願います。

870 障害のある子供を引き受ける里親さんは、素晴らしいと思います。専門的な知識も必要です。子供が好きな私達夫婦は、もっと沢山の子供を預かりたい、グループホームもしたいと思いますが、専門的な資格がないので、無理なのかなと思います。でも、いつかもっと子供達に来てもらえるように、知識を得たいです。

875 障害のある子供は、我が子でさえ難しいものです。特別里親という特別な勉強をした上で、しほれるだけの愛情を注いで育てる自信を持って、お預かりしたいものです。

877 やっぱり大変な事が多いと思うので、体力、気力が十分であることが前提では……。

878 ・里親普及に力をいれてきましたが、ご夫婦、ご家族の意見の違いで、なかなか里親登録は、日本ではまだまだ遅れを感じます。子供は社会の子。

・実子が他県で里親登録をしたため、私のような里親がますます増えてほしい。

・専門里親の学びを通して、何人でも預かれる力が与えられた。

879 里子の家系的な遺伝情報がほしい。虐待児は、親も虐待を受けていることが多く、その連鎖を断ち切るには、実親の情報がほしい。障害がなくても、発達心理学の本をよく読んで、理解することが大事だと思う。現在、専門里親研修中であるので、よく理解できるようになった。しかし、まだ里親制度の理解が不足している。親権の問題があり、里親委託が進まない。

884 子供が好きなので、何人かのお子さんを預かりたい。その場合、短期ではなく、なるべく大人になるまで育て上げ、見届けてあげたい。ただ、赤ちゃんから預かると、実親と面会などをするとき、子供が混乱し、精神的に不安定になるので、実親との関係をどうしたらいいか、悩むときが多い。

888 障害のある子の里親には、サポートがとても大切であ

ると思います。いたいけな子供を前にして、親自身の苦しみになってしまいます。里親自身も知識をおおいに得て、子供の将来のため努力したり、行動したりする必要があると思います。

889 障害のあるお子さんを引き受ける事は、たいせつな事だと思います。私の体験から思う事は、施設から引き受ける時、それまでの生活の事や成育歴等、よく教えていただくと、育てる時にとても参考になり、困る事も少なくなると思います。

891 障害のある子を養育することは、非常に大変な事だと思います。夫婦でよく話し合って、協力していかなければならない。夫婦が、この子供と共に生活しようという心になったら、通れると思います。

893 私は、3人の実子と孫もいる身ですが、1才4ヶ月の里子を養育して7年ですが、誰よりも里子が一番可愛いです。24時間拘束され、自由時間もないのですが、それ以上に、子供と毎日過ごすことが楽しいです。

903 ・里親をやっていくのには、支援が必要。児相、子供が育った施設、里親会に支えてもらっています。

・短期里親で、障害のある子供達に来てももらっているが、中長期で引き受けるのであれば、今の私達が受けている以上に、より一層の支援を受けることが必要と思う。

・里親仲間でも、障害の事を知らない方が多い。知る機会がもっと増えるといいと思う。

904 CA（体罰）の程度が重症な子供で、且つ、施設内のCAが繰り返されると、いわゆる「障害」のある子供以上に、大人していくのには、困難さがあると感じています。

906 今、家に来ている子が、軽い広汎性発達障害の可能性があると言われています。ただ、うちの子達の中で育てば、もし障害があったとしても、軽くなるのかなと、児相の先生とも話し、その事は大した問題にもならず、引き受けました。今、とても元気に育っています。時々、おそろしい程（?）記憶力がよくて、びっくりする事もありますが、なくした物が見つかったり、お茶碗が間違っていて、本人のみ「ちがーう」と言ったところで、周りの人間が、「まあいいじゃん」と関わることもなく、本人もいつの間にか、「まあいいか」と思う事ができるようになっている。

910 施設から全てを知らされないで、一部だけだった。成育ノートを見せてほしいと、再三申し出ても実現しなかった。マッチングに半年もかけたのに、本当の姿は一度も見られなかった。引っ越しをしてから、そのすさまじさ、幼さにびっくりした。それから、一つ一つ丁寧に、厳しく指導して、小学校でもやって付いていくようにしてきましたし、いろいろな表彰も受けるようになってきた。

911 まだまだ世間では、里親に対する認知度が低いように思います。これから里親がもっと増えて、施設で育つ子供が、少しでも里親に委託されれば良いと思います。障害のある子の里親には、児相や病院とか、公の機関に支援をいただきながら、共に育していくことができたらいいと思います。

912 もっともっと里親のサポートが必要です。お金の面でももちろんそうですが、今の時代、教育費にかなりお金がかかります。その上、学力が伴わず、高校も私学となることが多いので、公的資金だけでは、厳しいと思います。子供が来ると、今までの生活が違ってくるので、母親として、里子に関わる時間を優先してしまうと、食事、洗濯、掃除、買い物という家事ができなくなることがあるので、家事サポートがほしいです。健常者の子供でもこうなので、障害のある子を引き取る里親さんには、それ以上のサポートが必要だと思います。

914 乳児は乳児院ではなく、原則、里親に委託されるようになってほしいです。実親の親権についても、何年経っても家庭復帰の見込みがなければ、里親と縁組ができるように、法律を改正するなど、もう少し里子の視点に立った制度の見直しをしてほしいです。

918 医療機関や子供の入学式などで、名前の事でお願いしなくてはいけないことや、パスポートが里親名で取れない。悪い事をしているわけではないのに、他の人にうち明けられないなど、やりにくいことは沢山あると思います。うちは障害のある子ではないので、その点は書けません。

919 我が国の児童福祉が抱える課題は、あまりにも大きい。90%以上を受け入れている、養護施設などの入所施設で生活する子供達は、様々な傷を抱えてながら、適切な心のケアを受けられるには（全てとは言わないが）、ほど遠い状況におかれている。その原因は、施設というより、声をあげることのできない子供の福祉制度が、子供の生命を守ること、生活することに精一杯で、7~8割以上の子供達が虐待を受けている現状。施設が、心理療法的な環境を提供できていない。訓練を受けた専門家が、施設、里親のフォローアップが貧しい中、なおざりにされている。我が国の福祉の予算が、老人においては、30年前と比べて右肩上がりに伸び続けているのに対し、子供の福祉の予算は、ほとんどそのまま同じであることからも、理解できる。海外の良い例からも日本は学び、良い点を取り入れ、心理療法的な今のニーズに合ったケアが出来るシステム作りに、国や社会が真剣に取り組んでいかなければならない。そのような現状の中、家庭を提供したい。少しでも子供を励まして、社会に送りたいと思って始めた里親経験で、6年間いた施設で、内暴行動を起こしていた子供を預かった。今年4月に就職して、独立した子だ。今も休みには、月1回程泊まりに来て、元気な様子を報告してくれたりするのは、大変感慨深いものがありますが、そこに至るまで、否定的思考、ひがんだ心を、人を信頼し、より良い関係作りが出来る子にまでもっていくのに、あまりにも労力、エネルギーの消費は大きい。里親は、施設より同じ屋根の下で、1日24時間その子と密接に関係している。その子に障害、問題行動がある場合、愛情だけでは機能していかないことを、他の子供達も預かり経験した。もっと専門的、効果的なアドバイス、アドバイザーが用意されていかなければ、里親制度は今後も進展は難しいと思われます。これは家族、地域、友人の協力が、かなり良い環境である中で、感じたことです。

920 私共の子供は、4才の夏に3日間預かるという「ふれあい家族」で、我が家にやってきました。その後、週末里親を経て、現在の養育里親になりましたが、運が良かったのだと思います。普通は、そうトントン拍子にはいかないようです。当時、私はそのかわいい子供を見て、「この子はわずか4才にして、もう社会という荒波に放り出されちゃったのか」と、何とも言えない気持ちになって、胸が苦しくなったのを覚えています。全ての子供が、愛情のある家庭で、大事に育てられていくことを願っています。

923 児相で、私達に相応しいと判断してお話をあった時は、障害のあるお子さんでも預からせていただく方向で、前向きに考えたいと思っています。ただ、委託後、必要な専門機関への橋渡しやフォローは、十分にしていただきたいと思います。

925 ・2009年の改正で、財政的には楽になったと思う。

・もう少し落ち着いたら、障害のある子の引き受けも考えているが、家族の理解が得られるのか心配。私の生活力（食事を作ることがひとつの中）が問われている。

・ファミリーホームに興味を持っている。

927 障害のあるなしは紙一重で、頭の良さや器量、スタイルの良し悪しなどと同様、差があるのは当たり前でと、親が受け入れることが大事だと思います。

931 障害がある子どもを受け入れる場合、どんな公的サービスが受けられるか、近くに、悩みや話ができる人やサークルがあるのか、などの情報があるといいと思います。里親委託は実親の了承が必要ですが、虐待の場合は、必ずしも必要ないのではないかと思います。

934 家庭に事情あり、又は、緊急一時保護の子供達（予備

軍も沢山いると聞いている)を、家庭で養育していくことが良いと言われながら、%が低いのはなぜでしょうか? 今は里親のみに偏ってはいないでしょうか。里親が息をあげなくとも、委託できるシステムにしていかないと、増えていかないと思います。里親の地位向上を希望します。

935 障害のある子はかなり難しいと思います。やはり、そういう勉強をなさっている方に、協力してもらうべきだと思います。障害のない子でさえ、里親は大変と考えている方が多く、私の所にも相談に来ます。市に相談することなく、占い師、ヒーラーの私の所に来るということを、もう少し市として、里親のケアをしてほしいと思います。

936 虐待を受けた子を預かる里親に対しては、専門里親講習会があるが、障害のある子を預かる里親に対して、何か特別な講習会があるのか。ないのなら、必要ではないか。

937 子供に恵まれず、親になれない淋しさを持つ人達と、親を必要としている子供達が、うまくめぐり会えるシステムがあるといいと思います。

938 何でも受け入れていこうと思っています。

940 ・地域の理解(子ども会等)。

・学校の対応(先生、PTA等)。

941 先輩の里親さんに、たくさんのアドバイスをいただいているが、もっとアドバイスをいただける機会が日常的にあると、もっと助かります。子育てが初めての経験なので、パパ、ママ研修があれば、良かったと思います。

942 大変申し訳ありません。今、年寄りを2人みています。これで障害のお子さんをみるとなると、私の身が持ちません。普通のお子さんなら、楽しくさせていただいているが、これから大人になって、問題が出てくると思いますが、勉強させていただいて、皆様のお役に立ちたいと思います。

943 里親制度そのものは素晴らしい事で、その里親会に参加できている事を、誇りに思っています。ただ、養育里親と養子里親とに区別した新制度は、良くない事だと思います。

945 私は現在、重症心身障害児施設にて、心理指導担当の役職で勤めていますが、大学時代に、里親に関するゼミを受けたのが、最初のきっかけでした。里親の申請をする時も、障害児でも構わない旨を児相に言っていたのですが、現在の里子が来ています。元気で活発な子ですが、それなりに上記のなにものも含め、いろいろ問題があり、その子に関わっていると、たとえ障害がなくても、私自身が精一杯な感じがあります。初めは気楽に、「障害児でもいいですよ」と言っていたのですが、障害児も健常児も、共に共通の人間と思ったら、受ける苦しみや喜びも、共に一緒だと改めて思っています。

948 今は、他の子供を引き受けすることは考えていません。現在生活している子供が、一番だからです。でも、行き先のない子供がいるのなら……と思うと、考えてしまいます。障害があってもなくても、縁があればきっと家族になれると思います。

951 周囲の理解、支援が不可欠である。ある程度、家族が(実子達)犠牲になることを、覚悟しなければいけない。こちらも、障害児に対する知識を勉強しておかないといけない。

954 里親制度が新しくなり、養育里親と養子縁組里親に別れましたが、養子縁組里親の意義がよく分かりません。実態を理解していない人によって、作られた制度という感じがします。こどもセンターのフォローも、形式的な感じがします。里親制度を充実させるには、官の組織だけではなく、自発的に問題提起をし、解決できる仕組みがないと、難しいと感じます。

960 40、50代で子育てを終えた方々などを、里親育成して、子育て経験のある方々に関わっていただけるといいと思います。

966 障害のある子の養育は、専門的に勉強しないと、難しいのでは? と思います。

967 里親制度の知名度が低く、引き受け手が少なすぎると

思う。又、現在の里親のなり手は、極めてボランティア精神に富む人に限られており、そのため、社会制度の不備な点などのしわ寄せが、全て里親にかかって来ている気がする。自分の体験ではないが、学校の先生の無理解に苦労している里親も多いらしい。障害を持つ子供のことも含め、助けを必要とする人に、積極的に力を貸すような、心を育てる教育が、大人にも子供にも必要だと思う。

969 両親が亡くなって、私の甥、姪を受け取ったのですが、とても素直でいい子達です。この子供達を育てていくのには、今が一番お金の事で大変なところです。中学生2人を育てていくのには、とても遺族年金だけでは生活が難しいものがあります。今は、学費の方も免除はしてもらっていますが、遺族年金18才までというのが、20才まで出してもらえると、大学まで何とか卒業させることができると思つたりしています。今の世の中、高校で終わり、仕事に出る人も少ないといます。今年は高校受験があるので、前もって、奨学金の手続きをして学校に入学する。卒業後は、その奨学金を払いながら仕事をする。子供達がすごく可哀想に思う。親が健在だったら、こんな事をしなくてもすむところだ。

971 今現在、里子が次の妹がほしいと言っている。県は、里親と施設を分け隔てしているのが見え見えで、それを無くせば、里親の方へが多くなると思う。

973 施設で職員として勤めていた時もありましたが、家庭でしか出来ない事、又、家族単位で学ぶ親と子の形等、血はつながってはいないけれど、親密で深い絆が生まれ、里子さんの生きる力に、少しでもプラスになる事があれば嬉しいし、里子さんがいつか父、母となり、一つのあたたかい家庭を持って、子供(実子、里子)を育てる親となってほしいと、常に願っています。

974 東京の里親制度しか分かりませんが、法律の改正も加わり、とても複雑で分かりにくいと思います。もう少しシンプルに、軸を1本にまとめられないものでしょうか。障害のあるお子さんを預かっている方も2、3人知っていますが、やはり、皆さん将来を心配しています。成人しても、安心して暮らせる社会的サポートが充実しなければ、不安は解消されません。里親の善意だけでは限界です。親になっても、施設に頼らなければいけない。そういう親を産み出さない環境社会、教育の重要性を強く感じています。

975 ・原則として18才までですが、大学等卒業後就職をし、自立できるまで、年齢を引き上げてほしい。

・児相側から定期的に連絡をしてもらい、特に、思春期から18才までは、将来的問題など精神的に不安定である。専門知識のある方に、家庭訪問による相談をしてもらいたい。

・障害のある子に対しては、色々な面からの援助が必要ではないでしょうか。

977 経済的な支援が増えれば、更に子供のための良い環境作りが出来ると思います。厳しい政情ではあります……。

978 現在、保育園に通っていますが、養子縁組していないので、保育園の月謝は無料になっています。幼稚園については、里親制度ではなぜ補助が出ないのでしょうか? 障害児受託については、我が家では、今のところ考えられません。毎日が本当にいそがしく、日々の必要最低限の事をこなすのに手一杯です。障害児を引き取るには、やはり専門の知識と、それ以上に、家庭内の家族1人1人の余裕が必要だと思います。

981 勉強はできなくても、良い所、優れた所を持っている子供に会う。もっと専門的な事に(ピアノ、絵、スポーツ等)、お金をかけてやりたいと思う。

984 現在でも、こども家庭センターの方々や先輩の里親さんが、温かくサポートして下さっています。子供達が持っているトラウマや色々な状況を理解してあげないと、子供達がしんどい思いをするとします。一緒に暮らしているおじいちゃん、

おばあちゃん、近所の方々との関係も、しっかりとつくりついていかないと、と思います。

987 障害は、その子の性格のひとつと考え、家族の状況が許す限り、受け入れたいと思うが、様々な問題が出てきた時のサポートは、専門知識を持ったセンターが、きちんとしてほしいと思う。困った時だけではなく、日頃から細く長く付き合つていてほしいと思います。又、障害はないにしても、里子達の多くはネグレクトや虐待などの理由から、心に何らかの問題を抱えていると思うので、今まで専門里親のみに課せられていたような知識や研修が、全ての里親に必要ではないだろうかと、考えています。

988 里親の手当は、今年度から引き上げられましたが、私としては、あまり多く頂くことが、かえって、本来の私の意志とかけ離れてしまいそうな気がします。少ないより多い方が良いと言われる人は、たくさんおられるでしょうし、私も多い方がとも思うのですが、多いことが、障害となることもあります。

989 里親制度は、誰でも利用できるということ（条件が合えば、里親になれるということ）を、もっと国民に広報したらいいと思います。

990 障害のある子供さんについては、どの程度の障害かによって、引き受ける側もかなりの覚悟がいると思う。支援を十分に受けたとしても、どこまで自分が喜びとして、育てることができていいか、私達夫婦にどこまでを求められるかなど、心の問題がおおいにある。共倒れにならないよう、体の健康面もケアされないといけないと思う。

991 現在、4才の女の子と暮らしていますが、我が家へ来てくれたのは3才7ヶ月でしたので、障害の有無は最初から分かりましたが、赤ちゃんから育てていたら分からぬし、育てていて分かったからといって、養育を放棄したりはしませんが……。最初から障害が分かっていたら、赤ちゃんから育てていなかつたら、難しいかと思います。

992 私の子供は知的障害者です。現在は、クリーニング店で勤めさせていただき、毎日喜んで働いています。又、私の妻は、10年前から天理市障害者（児）の相談員をさせていただいている。そういった障害を持っている子供さんなど関係なく、大いに受け入れさせていただきたい。

997 委託を受ける時点で、育てにくそうな子だとは分かっていたが、乳児院からの情報は少なかった。多少の遅れはあったのだから（母子手帳で分かる）、心理職の方の説明（2才2ヶ月だったから、はっきり障害があるとは言えなかったかも知れないが、里親にはその事を伝えるべきだと思う）がほしかった。既に兄（長男）を受託していたので、迷わなかったと思う。今まで様々な機関に相談に行きました。今後、中学校等の進学、将来のケアは、一体何処でしてくれるのかと、里親としてだけではなく、障害のある子の親として、不安があります。

1000 ・現在の里子は、小2で委託されました。愛着関係を形成することは、とても難しいです。なるべく低年齢で、ひと月でも早く、施設等から適切な関係を作れる所、里親に委託されるべき。

・いろんな問題が出てくるので、時々に対応してもらえる相談機関が必要。児相だけでは無理だと思う。適切な助言ができる所。

1002 里親を引き受ける事には迷いがあり、なかなか踏み切れず、占いの先生に見てもらいました。子育てをすることによって、「共育」してきたと思います。子供によって、私達も育てられたのです。娘が体験発表で、「里子であろうとなかろうと、思春期はいろいろ問題があります。その時、あたるのは親しかいません。親は我慢のため所です」と申しました。又、表彰を受けた時は、「それって、私のお陰だよね」と。明言です。3人目の子（小4～中2現在）も被虐待児ですが、この頃子育てを楽しんでいる気がします。主人の今の趣味は、「健全育成」と申し、

地域の青少年委員、地区対策委員、学校評議員等をして、「社会で子供を育てる」と考えて行動しています。

1003 私達は24時間無休です。レスパイト制度がありますが、すぐに使えないのが不便です。1年間で1軒7日しかないので、少ないと。職員の方々は、数十日休暇があるのですから、私達も増やしてほしいです。又、子供を委託する時は、個人情報ということで、あまり子供の生育歴を知らずに預かり、私達は大変な思いをします。子供の情報をある程度知らせてほしい。里親に委託される子は、発達障害の子が多いと思います。委託後のケアをもっと考え、里親に丸投げ状態は、止めてほしいところです。

1008 愛着障害が、障害として認知されていない。平成10年の厚生白書にある「三つ子の魂は百までは神話である」というのを、修正してほしい。愛着障害がどんなに恐ろしい障害か、余りにも知られていない。長期にお預かりしていた子の中では、・現在26才女子は、重度の愛着障害。

・20才男子は、幼少時虐待経験があるが、今は立ち直りつつある。

・19才女子は、幼少時虐待、ネグレクト、まだ愛着障害の傾向が強い。

・14才男子は、中学生の時に虐待、まだトラウマ的現象あり。という状況です。もっと臨床心理士や児童精神科のフォローがほしい。

1009 子供達は色々な背景を持って、現実体験をしてきております。外見的には、重度な障害があったとしても、社会の一員です。少しでも、その子なりに自立が出来るように、家族養育は必要不可欠です。のびのびと子供らしく生きていける場を、子供の数だけあつたならば、大人になっても、一般の社会人と同様に、共存していけると思っております。嫌な事にはフタをした社会では、生きていきにくいくらいです。

1010 現在の里親制度は、子供のことだけ考えているように思います。しかし、親が幸せな気持ちで子育てしなければ、子供も幸せを感じることが難しいと思います。又、障害のある子を引き受けるのは、それまでに相当の勉強が必要だと思います。引き受けたからも、すぐに相談できるような所を設け、安心して子育てできるようにしてほしいです。

1011 なぜ里親の委託が増えないのでしょうか。里親が信頼されていない。いや、養護施設なら、入所させれば一件落着なのではないでしょうか。里親はケアするのが大変でしょう。人間同士の絆を築くには、やっぱり里親だと思うので、里親を広げるよう、公的機関がもっと力を入れてもらいたい。

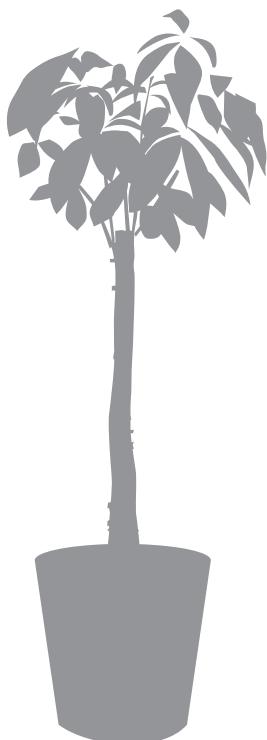
1012 3才から5才になるまで、言葉の遅れている男の子を預かりましたが、私達の思いや気持ちが施設に通じず、嫌な思いが残りました。

1015 担当していた当時、とても大人しくて、自信がなくて静かだった。子供は、我が家に来る一変しました。家庭や施設で出せなかった自分を出してきて、それはびっくりすることの連続で、いつもギブアップしてもいいと思えるような毎日でした。どの里親家庭でも、同じ様な経験をされているのだろうと思いました。なるべく小さいうちに、里親宅へ委託された方が良いと思います。小学3年生になって、我が家に来て、性的な刺激が施設内であったことも（高齢児による）、行動から分かった。施設は専門の職員がローテーションでみています。休みもあり、子供と離れることもできます。しかし、里親はそうはいきません。児相職員は、その点を理解し、里親を育て支えることが、いかに大切か分からないと、里親は増えていかないでしょう。孤立させないことがとても大切です。

第2章

訪問調査報告

関西、東京、北海道すでに障害児を養育しておられる里親家庭を訪問し、聞き取り調査を行った。
その一部を報告する。



愛していい 愛していい 遠慮しないで愛していい

坂本 洋子さん訪問

報告：北川聰子

12月3日の暖かい日東京八王子市にある坂本さんの家を訪問させていただきました。ライターの村田さんが里親サロンに何度かおじゃましたことがあるということで、村田さんの後について行きましたが、村田さんの記憶があいまいだったおかげで、少し迷うことになったのです。札幌に住んでいる私は、実はその付近の住宅を見て驚くことばかりでした。素敵過ぎるお家が多くお屋敷といえるお家が少なくないのです。そんなお家の設計やデザインを楽しみながら、坂本さんと電話で確認しながら、坂本さんのお家を探すことができました。坂本さんは、角のお家の老夫婦と私たちのことを心配されながら待ってくれていました。「始めまして、よろしくお願ひします。」と私と内藤さんは、初めての出会いにドキドキしながらのごあいさつでした。

坂本さんのお家は、角を曲がった丘の上のぎりぎりのところに立っているお家でした。あとからわかったのですが、子ども部屋に陽がたくさん入るようにと選んだお家だったということです。

坂本さんがクリスチャンであることは、知っていましたが、お家につくと外壁をクリスマスの飾りと電飾で大胆に飾っていました。サンタさんやお人形の大きいこと。そして本当に本当に大きなリースときれいなライトです。残念ながら、昼間だったのでライトアップされたところは見れませんでしたが、夜来たらどんなにか素敵に輝いているのかと思います。丘の上にたっているお家でしたから、かなり離れたところからも見えることでしょう。坂本さんのお話を聞いてこれまでなさるには、深いわけがあったのです。それは。10年前事故で亡くなった里子さんが「ここにあなたの家があるのよ。」と天国からでも見えることができるようについてました。

そのクリスマスの飾りの話を聞いた時、坂本さんは、決して愛を出し惜しみする方ではない、大胆に子どもを愛する方だと思いました。

現在、坂本さんは、高校生から幼稚園児まで5人のお子さんがいるファミリー・ホームをなさっています。そのうち4人のお子さんが障害があったり、発達に弱さがある子であるということでした。驚くことに、これまで委託された12人中11人がなんらかの障害がある子だということでした。

「なぜ障害のある子をこんなにも受け入れていらっしゃるんですか。」と尋ねたところ、一つは、養護学校の校長先生をしているご主人の影響もあるということと、もう一つは、とお聞きすると「ハンディのある子どもを育てる楽しさってあるのよ。」「こんなふうにこのまま24年間走りつづけてきたのよ。」とあっさりと言つてのける凄い坂本洋子さんでした。

「これまでで一番つらかったことは、なんでしたか？」とお聞きしました。「以前に委託されていた里子が、17歳の時に事故で亡くなってしまったこと」と言われました。外のクリスマスのきれいなで大きな電飾のかざりは、亡くなったその子へのプレゼントとして飾っているそうです。『ここがあなたの家だよ』と天国からでもよく見えるようにと。亡くなった子への洋子さんの今も続くその子への思い、愛の形でした。「亡くなってしまったら何にもプレゼントはあげられない。生きていれば、生きていれば、いろんな事をしてやれる。」「とにかく生きていればいい」このことが洋子さんの里親を続ける原点となつたそうです。洋子さんは、「今日のことは今日精一杯生きて、明日のことは思いわざらない」そのような生き方を大事に今も里親を続けていらっしゃいます。

障害のある子を育てるということは、まず「障害があるなしにかかわらず里親がごまかすような生き方をしてはいけない、そして私自身が逃げる生き方見せてはいけないし、流される行き方をしてはいけない」そして「必ず最後まで守る」ということ「血縁がないからこそ愛情を言葉にすることが大切」とおっしゃり、「いろいろなことがあっても子どもが真剣にいきている存在だからこそ、安心メッセージを伝え続ける必要が特にあり、手のつなぎ方一つ考えながら関わっていく必要がある」ということでした。

特に「障害のあるこの子たちこそ家庭が必要です。ときっぱり言われ「障害がない子の場合、将来自分で家庭が持てる可能性があります。でも障害のある子は、難しいことの方が多い。ゆえに一生のうち一回でもいいからお父さん・お母さんがいる家族の経験をしてほしい。」と語られた言葉がとても印象に残っています。

また「まわりのお医者さんなどの専門家や支援してくれる人を増やす必要があり、里親は専門家だと思うことが大切で、社会的養護をしっかりと守っている立場にいるという自覚が大切です。外に開かれ、外部の空気を入れることが大切。ブラッシュアップできるような環境の大切さ。」を語ってくれました。

これから発達に心配のある子を養育する里親さんに、「全体としては、相性はあるけれど子どもは、選んではいけない。そしてなるべく小さいうちに子育てを楽しんでほしい。なぜなら大きくなるにつれて地域との摩擦や思春期の難しい自立の時期など苦しい時が必ず来る。その時のために、苦しさを乗り越えるためにもかわいいと思える貯金をしてほしい。」とのメッセージをいただきました。

つらいのは、子どもだから、理解してもらえないと子どもが一番つらい。子どもは一生懸命やっている。だからこそやはり対社会にたいして言わなければならぬ時もある。私たち里親は、子どもの代弁者なのだから。と熱く語って下さいました。

坂本洋子さんは、ご自身で本も出されているので里親さんではなくても名前を聞いたことがある方もいるかもしれません。私も障害のある子を多人数で育てていらっしゃる方と以前から著書も読ませていただきお名前は知っていました。しかし実際お子さんを育てている洋

子さんにお会いして改めて本当に素敵な里親さんと実感しました。背丈も小柄でどこからこのエネルギーがわいてくるのだろうと不思議な方で、一言でいえば、情熱と理論そしてやさしさがバランスよくそしてたくさんある方でした。里親を続けてきた覚悟と思い、一人一人のお子さんに対する深い理解と愛情、そして里親を社会的養護の専門家としてきちんととらえていて、里親家庭だけではなく地域の方々と連携・児童相談所などの行政との連携・子どもの代弁者としての役割、里親のメンタルヘルスのための場としての里親サロンの開設など、子どもと里親さんを取り巻く環境にも力を尽くしています。

きっと全国の多くの里親さんもこのように一生懸命子どもたちと関わっているかたが大勢いらっしゃるのだと思います。

その一人として坂本さんが、委託された子ども一人ひとりと本気で向い合い、愛情を惜しみなくささげている姿に出会えたことは、今後の里親制度にあっても、社会的養護のある子・障害のある子にとても希望の光が見えるような出会いでした。そしてこれからも「子どもたちのために遠慮しないで愛していい」そんなメッセージをもらった気がします。坂本さんありがとうございました。

(訪問者 村田和木・内藤真起子・北川聰子)

この縁に感謝して

札幌市郊外に住む里親さん訪問

報告：鈴木久也

3月11日、北海道の雪解けの道路を走り、郊外に住む里親さんの自宅を、むぎのこ北川園長、竹内さん、そして私の3人で訪問させていただきました。3人とも同じ里親でもあります。私は少し緊張して自宅を訪問すると、着物を着た里親さんが丁寧に迎えて下さり、何と、お茶を点てて振る舞って下さいました。このおもてなしには3人ともびっくりしました。実はご夫妻ともお茶の先生をしていて、茶室でおいしいお茶とお菓子を頂いてから、お話を伺いました。

里親されたきっかけは、里母さんの実家には、常に地域の子どもと一緒に子どもがいて、実家のお母さんの後ろ姿を見ていた影響があったそうです。里父さんは実子が成長した後自分に何が出来るかと考えた時に奥さんの里親をやりたいという考えに賛同されたとのことでした。

里親登録は、平成15年にしてから、短期のお子さんを何人かお預かりした後、現在は6歳のAちゃんと4歳のBちゃんの二人の女の子を委託されています。この二人の里子さんは身体的にも知的にも障がいがあるとのことでした。

まずは、Aちゃんの来た時の話しをして下さいました。育児放棄で来て、表情もなく、抱っこもダメ、歌もダメ、横抱きにするのもダメ、食べ物は出しただけ食べて、お腹がはちきれるまで食べた。哺乳瓶を見ると泣いて、見たこともなかったのではとのことでした。着替えもさせてくれず、自分でズボンを履いて何でも自分でやってしまう子だったそうです。布団もきれいにして寝かせてあげると泣いてしまい、逆にぐちゃぐちゃの状態の布団に顔を押し付けて寝ると落ち着いた状態だったそうです。

また、保育園に迎えに行くと、保育園の玄関を出た

途端に火がついたようにパニックになり、それが一週間続いたそうです。

そして、小さい頃からよく転び、変だと思お医者さんに行くが、きちんと診断のできるお医者さんがなかなか見つからなかったそうです。現在は良い整形のお医者さんにかかることが出来てほっとしていると話していました。情緒もどんどん落ち着いていき、今ではAちゃんがわざと怒られるようなことをして、里親さんがそれを怒れるまでの信頼関係を築けるようになったそうです。

Bちゃんは、体重2300gで出生をしたそうです。生後5カ月で来て、30ccのミルクを飲むのに1時間かかった。なかなか大きくならなくて、夜泣きがひどい状態だったそうです。一度施設に戻って1年後帰ってきたのですが、腹筋、背筋が発達していなく離乳食も食べない状態でした。Bちゃんの状態に合わせて食事を工夫して、常に運動をさせるようにしたそうです。それでも2歳まで歩くことができず、2歳半の時の保育園の運動会で、初めて歩くことが出来、みんな拍手で応援してくれたそうです。その時は本当に感動したと話して下さいました。

里子さんを育てていく中で、抱かれるのが嫌な子どもを育てる苦労、またその時はどのような気持ちでしたか、という問い合わせには、「その時は無我夢中でした。出来ることは何だろうと必死に考えていました。でも、常に夫に相談していました。私は感情的になってしまいますが、夫は冷静に話しを聞いて返してくれるので客観的に次に何をやったらいいかをお互いに確認しながら進めることができました。会話が常に必要と話していました。また、祖父母の存在も大きく、ただただ愚痴を聞いてくれた。聞いてもらえなかったら二人ともやれなかった。息詰まつたときに、逃げ場があったことが良かった。また、ただ

ただ里子をかわいがってくれる姿を見ていると、ほっとすることができた。祖父母がいなければやれなかつたと思う」と話されていました。このことから、社会的養護を必要とする子ども達を育て守るために、里親だけでは成り立たず、バックアップ・サポート体制の必要性を改めて考えさせられるお話をいたしました。

最後に、里親をやって良かったと思えることがありますか、という問い合わせには、「それは毎日ありますよと、それを探しながらやっている面もあります。心配なことはあるけれど嫌なことはありません。絶対にやめたくないと思います。子どもに縁を持てました。縁を持てたことが最高です。私が望んでも縁がなければ子どもは来ません。落ち込んだこと也有ったけれど、結婚してからはバラ色、実子も授かりものですから」と話されていたことが、私にはとても印象深く残っています。

今回、本当にざくばらんにお話を下さり、里子のこと実子のことから自分たちの子育ての苦労話まで話して下さり、そのお話を聞いているとその時の苦労は私の想像は遥かに超えるものであったとは思いますが、本当に正直に子育てをしてきて、体を張って真正面から子ども達と向き合ってきたのだなという熱く、そして愛情深い思いが感じられました。

里親さんのお話からは、おかげさまでという感謝の気持ちとご縁が本当に宝物だというお二人の純粋でまっすぐなお気持ちが伝わってきました。私の体の中に透き通るような感覚を覚え、お話を聞いて身の引き締まる思いと感動が溢れていきました。私も同じ里親としてということもありますが、30代の一人の人間として、人としての生き方をとても学ばせて頂いたと思いました。本当に充実した時間を過ごさせて頂きました。北海道にこのような里親さんがいるというのも、私たちの誇りだと感じました。里親さんには貴重な時間を割いて頂き本当にありがとうございました。

(訪問参加者 北川聰子・竹内久留美・鈴木久也)

愛おしいを先に

札幌市郊外に住む里親さん訪問

報告：鈴木久也

3月14日、午前中の少し風の強い中、里親さんに会うために札幌市郊外に車で向かいました。ご自宅はとてもきれいなお家でした。ご自宅の中に入ると里母さん、里父さん、Aちゃんの3人で迎えてくれました。Aちゃんは、最初人見知りをしましたが、しばらくして慣れてくると、皆に注目してもらいうれしそうに笑うようになりました。

夫婦で里親を始めたきっかけは、養子縁組を希望していましたが、児相に連絡をとると里親登録をして下さいとアドバイスを受けて、里親登録をしたことがきっかけだったそうです。

Aちゃんは、生後2ヶ月から委託を受けて、現在3歳4ヶ月です。生後5、6ヶ月の頃に里母さんが寝返りなどを見て、発達に遅れがあるのではないかと気付いたそうです。その後、10ヶ月検診で発達に遅れがあるとわかったそうです。

Aちゃんに発達に遅れがあるとわかった時は、複雑な気持ちになりました。里親さんはAちゃんが愛しいということが先にたって、手放そうとは考えなかったそうです。Aちゃんは、ご夫婦に可愛がられて、安定した情緒で楽しそうに意欲的によく遊んでいました。遊びを通して心と体の発達が促されていることが目に見えてわかるように遊んでいました。里父さんと里母さんに時々体を持たれ大人を求めるながら甘えて遊んでいるすがたは、安心しきって幸せそうでした。

夫婦共働きなので、昼間は保育園に預けています。保育園の園長先生と先生たちが良い受け入れをして下さり、子ども達のなかでとても楽しそうに過ごしているそうです。また定期的に専門の病院に通院し、これから地域の発達支援センターにも通い、専門的な支援も受けています。保育園に通園しながらの子育ては、自分たちだ

けではなく専門家の助けが常にそばにあり、子どもにとってもご夫婦にとっても良かったそうです。

Aちゃんと過ごしている中で大変なことはありましたか、という問い合わせのなかで里母さんは、疲れた時、少し休みたいと思うのですが、里父さんは「いいよ、いいよ」と言って頑張ってしまうのが心配と話されていました。

お二人は、Aちゃんを自立するまで育てたいという覚悟を持っているということです。「目標としてはAちゃんがこの家から自立が出来ること。そのことが出来れば」と夢を語ってくれました。北海道の里親さんが、障がいのある子をこのように一生懸命育てて、子どもが笑顔いっぱいの表情をみせてもらい訪問した我々も感動をいただきました。特別な支援が必要な里子さんと一生懸命育てている里親さんを、今後も公私を問わず皆で支えていくことが大切なことであることが改めて感じさせていただいた訪問でした。

(訪問参加者 北川聰子・村田和木・内藤真起子・古家好恵・鈴木久也)

スウェーデンの障害児 支援調査報告

平成21年6月 5名の調査員がスウェーデン(イエテボリ市近郊)を訪問し、障害児の住まいや教育、里親の状況などを視察し、現地講師のレクチャーを受けた。元入所施設で働きながら、内部から施設を解体に導いた元職員の、貴重な証言も収録することができた。

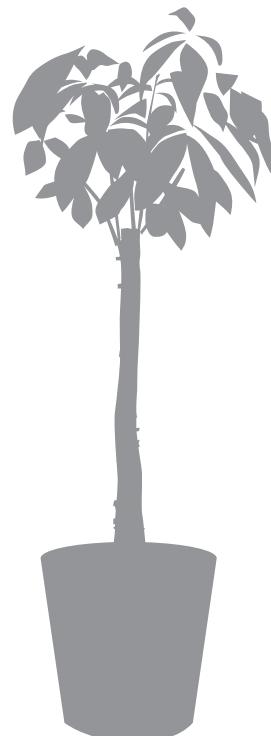
調査員 井田徳子

北川聰子

内藤真起子

花崎三千子

村田和木



LSS住宅について

ビスコープスゴーデン行政区にある LSS 住宅を訪問

報告：内藤真起子

LSS 住宅

LSS 住宅は 21 歳までの障害児が親元を離れ、4 名程度が生活をする住宅のことである。スウェーデンでは、通常の義務教育は 9 年、高等学校 3 年の計 12 年が青少年であるが、障害児の場合、義務教育 10 年、高等養護 4 年の在籍となるため、21 歳までを青少年と位置付けている。そのため、この LSS 住宅においても 21 歳までの障害児が対象となっている。この LSS 住宅は、LSS(ある一定の機能障害者に対するサービスと支援) という法律によって支援をされている。スタッフの業務は社会サービス法を基本としており、LSS と社会サービス法を合わせた住宅となっている。スタッフは高等学校専門教育を受けた者と特別正看護師(区で雇用している障害者ケアを専門にしている正看護師) で賄っている。イエボリ市内に LSS 住宅は 3 つある。それぞれの LSS 住宅はイエボリ市内 21 の区全部の人を対象にしている。

LSS 住宅への入居の決定は家族と在住区のソーシャルワーカーで行う。ファミリー・ホーム(里親)、ショート・ステイ・ホームと組み合わせ、LSS 住宅のどれがいいかについて、子どものために最善のことから考えている。LSS 住宅の利用者はファミリー・ホーム、ショート・ステイ・ホームとの組み合わせでは対応することが難しい障害の重い子どもであることが多い。

暮らしの様子

訪問時点では 3 名の子どもが生活をしていた。数ヵ月後にもう 1 名が引っ越しの予定とのことだった。主に重複障害を持つ子どもたちであり、夜間の常時見守りが必要な子どもも生活をしている。1 名の子どもは未就学児であるため、日中も LSS 住宅で過ごしているが、他

2 名は最重度の障害児が通う養護学校へ通学している。

職員体制は基本的に 3 名の子どもに対して 2 名のスタッフとなっている。ただし、常時ケアが必要な子どもには 1 名に対して 2 名のスタッフで対応している。夜間は寝ずに過ごす職員を 1 名配置している。



子どもの家族と協力をしながら子どもを育てていきたいとの考えから、様々な場面で家族に参画してもらっているとのことだった。洋服選びやおもちゃ選びなど、身近な一つ一つのことについて家族の意見を反映することを大切にしていた。

ここに住んでいる子どもたちは言語によるコミュニケーションをとることができない。そのため、コミュニケーションに大変力を入れていた。一番重要なのは、スタッフが子どもの表情や、体つき、しぐさで、この子は

何を希望しているか学ぶことであると強調していた。その上で子どもにも、手話のようなものや、絵、写真を使うなど、コミュニケーションの方法を見つけるようにしているとのことだった。また、子どもたちもスタッフも様々な感覚を刺激するため、ホビールームを作っていた。音を目と体で感じることができるようにおもちゃが多く置いてあった。

訪問を終えて

日本ではまず、障害児のための居住環境として入所施設以外のものがない。日本においては、“在宅か施設か”の二者択一を迫られる。施設はほとんどの場合子どもの居住地域には存在しておらず、今までの生活から切り離されてしまう。スウェーデンでは、子どもにとって最善の居住環境を検討し、さまざまな選択肢の中から決定することができている。“親が養育できなくなったときにどうするか”という日本の考え方と、“子どもにとって何が最善か”というスウェーデンの考え方の根本が大きく異なっていることを感じた。“子どもにとっての最善”を支援者が考えていかれるようになること、そのための選択肢が多くなることが大変重要であると痛感した。

また、医療スタッフの確保を行政が行っていること、24時間体制でスタッフが勤務をしていることにも環境の充実を感じた。このような手厚いスタッフ配置をしながらも、スタッフの権利をしっかりと法律によって守つており、スタッフとしても満足できる職場環境であることが大変印象的であった。スタッフの介護技術については、高等学校での専門教育を受け、さらにその後も様々なところからの指導があるため、安心して仕事をすることができるとのことだった。

日本では、看護師配置が困難であることから、常時医療行為を必要とする人たちがグループホームなどで暮らすことが難しい状況である。また、1つのグループホームで職員配置は2名ほどが限界である。その体制の中で、「寝ずに見守る職員」を配置することは不可能である。医療従事者の確実な確保によって、重症児の生活も大きく変わってくることを強く感じた。また、医療従事者の安定確保、さまざまな面でのスタッフのバックアップが子どもたちや家族にとって安心できる環境へつながる一端なのではないだろうか。

虐待ケースについて質問を行ったが、「重篤な虐待

ケースはない」との返答だった。虐待に対する行政の介入がとても早く、行政効力が強いことが理由である可能性がある。

子どものLSS住宅（グループホーム）の必要性はスウェーデンではそれほど高くない。LSS住宅入居に至らなくても、さまざまなサービスを早くから手厚く利用する権利がしっかりと根付いているからだ（以下の報告参照）。それでも必要となるケースは、子どもの障害特性、重症度、家庭環境など、複雑に絡んだときに自宅での生活が難しくなったものである。

実家庭でも、里親家庭でも、LSS住宅でも、必要なサービスは同じように受けることができる。夜間の見守りに関しては実家庭においても職員派遣が行われている。そのようなサービス充実が重度障害者でも家庭や里親の下でも安心して生活をすることを可能としているのではないだろうか。また、里親も実家庭と同じサービスを利用する権利を持っていることが、里親委託を多くさせている一因なのではないだろうか。

重度障害児のショートステイホーム エンゲンとグレンタを訪問

報告：井田徳子

訪問先は、イエテボリ市に隣接するムーンダール市が運営する、重度の障害を持つ子ども（16歳まで）を対象としたショートステイホームである。LSS（ある一定の機能障害者に対するサービスと支援）という法律の条件を満たした登録児（32名）が、年間利用日数の査定を受けて、利用する。週1回（週末が多い）+夏休みに1週間程度が、平均的な利用日数のようだ。ショートステイホーム内は、機能障害によって2つに分けられていて、1つは自閉症児用、もう1つは重複身障児用、また4人の子どものプリスクールも併設されている。プリスクールはLSSの管轄ではなく、市の教育部門の運営となっているが、4人はショートステイホームの登録児（重複身障児）なので、ショートステイ利用時も日中の環境は変わらずに利用できるようになっている。職員は各部署の専従職となっていて、介助度の高いプリスクールの子ども（重複身障児）には、職員が1:1対応をしている。

1. 自閉症児のショートステイホーム (エンゲン：原っぱという意味)

居室は3つあり、同時に3人まで宿泊でき、4つの共通スペースがある。

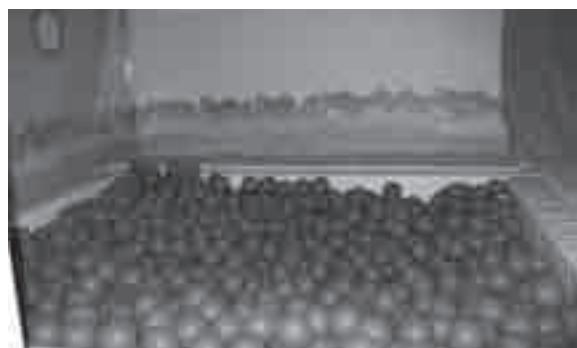
【プレイルーム】

複数のおもちゃが雑然としている環境では、集中して遊ぶことができない自閉症児に配慮し、おもちゃは上部戸棚の中にしまってあって、職員と一緒に1つずつ取り出して遊ぶようにしている。



【ボールプール】

ここは元高齢者住宅で、お風呂やトイレが多く、また、介護できるように広くつくられていたので、風呂場の1つを改造してボールプールにした。マクドナルドやイケアのボールプールは、保護者同伴では遊べないので、利用児は、ここの中でも遊べることを、とても喜んでいる。



【トイレとシャワー】

手順書が貼ってあり、職員の口頭指示がなくても、次に何をすべきか？が、子ども自身で分かるようになっている。



【緊急対応時居室】

テレビ観賞室として共有使用している部屋は、居室が満室時には、緊急対応の居室になる。



こんな工夫が…

! 以前は、各居室の壁色を変えていたそうだが、利用児が、毎回同じ部屋を利用できるとは限らないので、ブルーに統一したことである。尚かつ間取りも統一されているので、利用児が常に同じ部屋を利用できなくても、安定して宿泊できるようになったとのことである。

! TEACCHプログラムのスケジュールやワークシステムを採用している。利用児の理解度に応じた各自専用の提示カードが用意されていて、絵や写真で予定が理解できるようになっている。

! また、個人の所有物は一切預からず、宿泊当日に、洋服・シャンプー・歯磨き・薬などを、子どもが自分で持参することで、宿泊理解に繋げている（シーツやタオルは同色の共有物を使用）。

! 部屋番号をつける代わりに「テントウムシ」「チョ

ウチョウ」などのイラストを居室表示として貼り利用時には、居室表示の横に、宿泊児の写真を貼って、自分の居室が判るようにしている。

2. 重複身障児のショートステイホーム (グレンタ：森の中の広場という意味)

居室は4つあり、同時に4人まで宿泊できる（各居室や廊下の天井に、リフター設置完備）。

【いろいろなことの体験の部屋】の一部

重複身障児の子どもたちには、多くの刺激を与えることが有効なため、ミュージックベッドやウォーターべッドが設置されている。この部屋は、ショートステイの自閉症児も、クールダウンなどの目的で、使用することもあるとのこと。ここでは、鳥の声や波の音など、落ち着くことに留意した、ヒーリング音楽を使用している。



【風呂場】・【おむつ交換台】

元高齢者住宅のため、トイレやお風呂が、介助目的で広々していたのも、利点であったそうだ。



こんな工夫が…

! ショートステイホームの居室は、プリスクールの子どもたちの昼寝用としても機能していて、個室のため、子どもたちは良眠できるそうだ。プリスクールの子どもたち（重複身障児）にとっては、通園行為も重労働であるため、朝礼室で少し休んでから、朝食を摂っている。朝礼室は、夜のショートステイホームのテレビ室（リビング）としても機能している。

! 複数の補助具（立位補助・乳母車・トイレトレーニング用のイスなど）を使用している子どもが多く補助具は、子どもの成長に合わせて型をとり、年に複数回、作り変えているとのこと（無料）。

今現在は、ムーンダール市在住の17歳以上のショートステイ利用者は、イエテボリ市に委託されているが、ムーンダール市の方針で2009年度中に、もう1つショートステイホームができる予定で、そちらの対象年齢は、特殊高等学級卒業の22歳までになるそうだ。ショートステイホームは、親元で生活している子どもが対象で、卒業後はほとんどの場合、グループホームで生活することになる。また、ムーンダール市は、新設されるショート

ステイホーム内の1～2床を、隣接市の利用者用として貸し出し、財政収入にする計画だ。昔は障害児の親のレスパイトを、親族が担うことも多かったが、移民者の増加に伴い、親族が身近にいない核家族も増加したことから、ショートステイホームの増設が必要になった。またスウェーデンでは、障害児の出生は、親が原因ではないという教育が徹底されている。障害児が成人するまで、親元で暮らすことに破綻を来さぬよう、レスパイト・サービスなどを積極的に利用し、兄弟児や夫婦関係を良好に保つことが重要である、という考え方が主流になっている。そして、早い時期から様々な支援が受けられるので、日本のように、障害児の出生が要因で、離婚に至るというケースはほとんどないそうだ。職員は、移民者が自国の文化に囚われることで、様々な支援を受けない時に、失敗を感じる…と言っていた。

LSSという法律ができたのは1994年であるが、このショートステイホームは1989年からある。

ムーンダール市には、以前、大きな障害児施設（サゴーセン）や障害者施設（ストレイトレード）があったために、施設解体後の受け皿として、デイ活動の場やグループホーム、ショートステイホームなどのメニューが数多く揃っている。また、その知識や伝統も残っているため、移住してくる障害児家庭も多いそうだ。LSS法では、ショートステイホームの利用や、ヘルパー派遣も充実している。

障害児の親は、フルタイム勤務ではなくても、差額分の解消として、介護手当が支給されている。また、重度障害児の場合、パーソナルアシスタントが3人程度必要であるとされているので、不況で失業率が高い昨今は、自分の子どものアシスタントとなって、収入を得るということもあるようだ。

そして、子どもの成長に合わせて必要になる、多くの補助器具（自転車も含む）も、全て無料で支給されるなど、経済的な支援も充実している。

また、障害児が通うプリスクールの職員が、理学療法の予約など、様々なことを担っているので、親は仕事を継続しながらの育児が充分可能である。ここでは、理学療法士が職員に対して週1回の訪問指導を行っているが、家庭訪問による親に対してのリハビリ指導も、プログラムされている。

スウェーデンでは、障害の有無に関わらず、年齢に

応じた父親の休暇が、法律によって保障されているので、父親も育児参加する文化ができている。

視察を終えて…

日本の福祉現場で働く私は、利用できる既存のサービスに、障害を持つ利用者を、当てはめることばかり考えてきた。そんな私にとって、利用者のニーズに合わせて法律をも柔軟に変えていく、スウェーデンの福祉現場は衝撃的であった。また、スウェーデンで出会った多様な人種である彼らが異句同音に、福祉サービスの真髄を熱く語り、仕事で実行しているのを、肌で感じた。信念を持って、創造的に仕事をしている現場には、活気がある。勤務時間が50%でも正職員として保証されたり、障害児のパーソナルアシスタントとして、実親が雇用されたりといった発想も、私にはなかった。固定観念に囚われることなく、ニーズに合わせた最良のサービスを創造し、提供していく、理念と信念を、日本の福祉現場で実現化する方法を、考えていきたいと、痛感した。

プリスクールの統合教育

報告：北川聰子

プリスクールの目標

スウェーデンのプリスクールは、1998年に保育園から、遊びを通じて民主主義の力を養っていく教育する場に変わった。幼いころから民主主義の土台をつくることが基本の目標であり、学習計画は、社会的能力、言語発達、運動能力、自己意思の発達、知的能力を発達と学習内容が国の制度によって設けられている。民主主義教育は、統合を受け入れていくことでもある。人種、ジェンダー、障害の有無によって差別されないことが重要である。

訪問したプリスクールは、60人から70人の子どもを受け入れている。学習計画の一番重要なことは、「すべてのことは民主主義」ということを土台にしている。4つのクラスに分かれています、サクランボの谷という名のクラスでは、12名の子どもが在籍している。そのうち3名が障害児で、ダウン症、自閉症、早熟児が所属している。教育内容は、親と密接な関係で、年二回親と話合いの場を持つ。外国人の場合は、一対一の通訳をつける。子どもの見方は、見てないことを見ていくのではなく、子どもの持つ可能性に視点を当てる。民主主義教育の大切さは、教育内容に関して、プリスクール段階から自己決定・選択の自由を大切にしている。スウェーデンの童話長靴下のピッピの主役の女の子は、平等・自立・強い女の子である。やかまし村も女の子も男の子も平等に描かれている童話である。

甘いお菓子は、プリスクールでは、お砂糖を使ってはいけないことになっているので誕生日のケーキなど以外は使わない。

保育時間は、6時から18時までの保育時間である。雨が降っても外遊びを大切にしている。



月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
あつまり 外遊び ランチ	絵 あつまり 外遊び ランチ	リトミック 外遊び ランチ	Baking あつまり 外遊び ランチ	あつまり ポップコーン 外遊び ランチ

スウェーデン全土で、曜日の色が決まっている。月曜日緑 火曜日青 水曜日白 木曜日茶色 金曜日黄色
土曜日ピンク 日曜日赤で、一週間の動きを子どもに解りやすくしている。bakingなどは、算数などサイズや大きさ、量を教えるのにとってもいい。

障害のある子の自己決定は設定に対して、初め、見ていていい。来たかったらいらっしゃいというスタンスである。いやだったら参加しなくてもいい。みんなと一緒にしなくていい。本人が自己選択できるように違うプロ

グラムも用意いていることが多い。テーブルにつけないときは、個別対応している。担当の先生は、「この保育園を通じて子どもたちが愛情をこめて受け入れ、ありのままでいられる社会をつくっていきたい」とのことである。

自己決定について

子どもの自己決定・障害のある子どもの自己決定について日常の保育場面の状況からお話をさせていただいた。

プリスクールは、0才から就学前の子どもたちであるが、ある一定のルールはある。たとえば、12時になつたらお昼寝をすることである。入園してすぐは、嫌がつて泣く子もいるが、周りの子をみて学習することで、少しずつプリスクールの生活に慣れていくことが多い。また、成長して大きくなってからお昼寝に「ノー」という子もいる、そういう場合は、「何をしたいか?」を聞いて可能な限りできるようにするが、他の子のお昼寝を邪魔をしてはいけないという自己選択にともなう責任も教えていくようにする。

また、お絵描きの時間がいやな場合、そのことに対してできるだけやりたいようになるように働きかけるが、他の活動も選択できるような環境も設定する。

おやつ作りの日にお外で遊びたいといった子に対しては、自分の取った選択が、後からおやつをつくった子どもたちと一緒におやつを食べることはできないということを教えていかなければならない。外遊びに出た子には、おやつが当たらない。選択の結果の責任を子どもたちからきちんと教えていくという実例であった。日本場合は、外遊びを選択した子にも、他の子がつくったおやつを分けてあげる場合が多いのではないかだろうか。この現場での具体的な例が、自己決定自己選択の国の幼児教育の在り方を示しているのではないだろうか。

感想

説明して下さった主任クラスの先生は、「21歳の時にチリからの難民としてスウェーデンに来て、スウェーデンで、言葉の習得から専門課程の教育に至るまで、国が責任を持って 権利としての対応の結果として自分が専門家として子育て支援の仕事を担っている」とおっしゃっていた。スウェーデンは他の国から来た人であつても、人権を守り人を大切にして来た国なのだということ

とを、その先生の話からも実感した。人種・ジェンダー・障害の有無によって差別しないことが、プリスクール段階からなされているのであった。また他文化への対応とアイデンティティを大事にしているということであった。障害を持った子どもの支援も、大部分は、このような一般的のプリスクールで行われ、行政と連携しながら先生たちは、その子にあった対応をわかりやすく考えつつ保育していた。その中で、障害児の自己決定については、健常児と同じようにプリスクールの中で行われていた。日本の障害児教育は、まだまだ支援者側の価値観の押しつけがなされていることが多いが、この国では障害児も障害児でない子も変わらず、その子の気持ちを尊重し、導いていく教育の在り方がしっかりととしたベースに流れていたこと。そしてそのことを 実際の保育場面に即して教えていただいたのは、大変参考になった。日本の場合、本人の自己決定に寄り添っていきたいが、実際は集団で動くことがほとんどで、個別に寄り添っていく人員配置も困難である現状がある。しかしなんとか本人の意思を大切する支援を求めていかなければならない。押しつけられたことではなく、本人が納得して参加することで、楽しさを感じることも多くなり、発達にもよい影響を与えるのではないかだろうか。また、小さい時から民主主義を学び、自分と他人を人種や障害があるなしにかかわらず大切にするという教育は本当に大切なものであり、今後の日本の目指す方向性を示唆された。

重度重複障害のある子のためのプリスクール&ショートステイ

報告：北川聰子

【案内・説明してくださった方々】

- 校長先生
- ペアトリスさん リンダさん（区役所のバッカ行政区の職員で、LSSという法律に基づいて、障害のある子ども・家族・本人のニーズを査定して、支援の量と内容を決める人）
- マティアスさん（プリスクールに通園している子どものお父さん）



スウェーデンのプリスクールは、保育園のことで障害児は、統合保育という形でほとんどの子どもが保育園に通っている。しかし今回訪ねたプリスクールは、重複障害児のための特別なプリスクールということであった。

1. 子どもの人数・職員配置・スケジュール

子どもは13人在籍していて、3つのグループに分かれている。クラスといつても日本のように一部屋ではなく一つのグループにお部屋は、遊びやリラックス・食事の空間がそれぞれそなえられている。職員は、直接子どもに接する人は13人で、校長先生は、「1対1対応が必要」ということで実にうらやましい実態であった。

スケジュール

- 6:30～朝ごはん
- 音楽朝礼
- 個別指導
- お昼
- お昼寝
- PM外遊び
- 15～17時に家に帰る



校長先生は健常児も同じだが、今のレベルを共にどこまで成長できるかを絶えず考えている。フリースクールに行くのは権利であって義務ではない。教育目標は健康な部分を伸ばすことである。

2. 教育内容

ハビリテーションの職員は、2週間に1回音楽療法士が通ってくる。1週間に1回プールに通う。個別発達計画を立てて、調整しながらゴールへ向かう。ノーマルな子どもと同じ発達過程を辿るが、辛抱強く待つ必要がある。保護者がパートナーとして学習計画を共につくる。保護者と職員は一対一ではなく、チームで接するほうがよい。

最初の親の悲しみはどこの国にも共通であるが、プリスクールが安心できる場所である必要がある。プリスクールは普通の子どもたちの6倍のお金が出ているが、スウェーデンのこのような政策がいつまで続くかわからないところもある。

3. ファミリーサポート

4年生の男の子のパパの話を聞くことができた。スウェーデンではサポートシステムがありすぎて選択するのが難しい。しかし、根底の精神は可能な限り普通の暮らしをするということである。一般の社会保障の他に障害のある子はLSSという法律で守られている。LSSによって本人と家族が生まれてから死ぬまで守られている。パパの家では週に1回と1か月に1回の週末にショートステイを使っている。土曜日の9～16時までと、木曜日の16時15分から20時30分までは、ヘルパーが来ている。その間はできるだけ普通の家庭と同じような暮らしをし、弟を大事にできる時間を過ごすようにしている。ママは働いている。経済的保証は介護手当、車、服など収入に関係なく支給される。家も必要によっては改装の費用が出たり、車の改造費用が出される。1年間親たちは10日間のお休みをもらって子どもたちとキャンプ等に行くことができる。ただ申請主義なので沢山の専門家や行政のひとと会わなければならず、大変である。親のメンタルヘルスケアに関してはリハビリテーションセンターでカウンセリングを受けたりすることができる。プリスクールの隣がショートステイホームになっていて、プリスクールに通っている子どもが気軽にショートステイを利用して家族の育児の軽減やレスパイトとなっている。また子どもにとっても隣にあるということで安心して泊まることができる。しかし、スタッフは全

く別のスタッフで、人員配置的にも恵まれている。全体としては、日本と比べてゆとりある教育環境と、ショートステイホームのゆったりした環境、また考えられないほどの人員配置、ちなみに日本の知的障害児通園施設は4対1の配置であり、一部屋に10人程度の子どもたちが活動している。またファミリーサポートも充実していて、障害があっても社会の宝物という観点で家族もできるだけ普通の暮らしができるようにショートステイやパーソナルアシスタントがあり、家族で子どもを抱えることもなく、国がきちんと子どもを守っているということが具現化されているという印象であった。

スウェーデンの里親制度

バリシュー 行政区コンタクト業務部を訪問

報告：村田和木

6月17日の午後は、バリシュー行政区のコンタクト業務部を訪ねた。イエテボリ市には21の行政区があるが、コンタクト業務部がある区は7つしかない。バリシュー行政区には里親や里親型のグループホームが必要な子どもたちがたくさんいるそうだ。

迎えてくれたのは、区の職員であるビルギッタさん、ヘレーズさん、そしてソフィーさんの3人。おひとりは妊娠中だった（余談だが、イエテボリを訪ねて印象深かったのは、妊娠中と見られるお腹の大きな女性をよく見かけたこと。出産しやすく、子育てしやすい環境がとのえられているからだろう）。ビルギッタさんとヘレーズさんは里親関係の仕事をし、ソフィーさんはサポート・ファミリーとコンタクト・ファミリー（または、コンタクト・パーソン）に関する仕事をしている。この訪問で得た有益な情報を、できるだけ多く記したい。

バリシュー行政区の特徴

人口は15,000人。150カ国以上から来た異なる国籍の人たちが住んでいて、学校に通っている子どもたちの90%がスウェーデン人以外だそうだ。スウェーデン社会に統合されていない外国人家庭が多いことは、いろいろな意味で問題になっている。

サポート・ファミリー（SF）とコンタクト・ファミリー（CF）

スウェーデンでは、「原則として、子どもたちは可能な限り親元で暮らすべき」と考えられている。SFとCFは、親元で暮らしている子どもたちのためのサービスだ。SFは機能的障がいのある子どもが対象で、CFはそれ以外の子を対象としている。SFはLSS法（1994年施行）で、CFは社会サービス法（1982年施行）によっ

て定められている。

サービスの内容は、子どもが月に1、2回、週末に泊まりに行く、あるいは週に何回か過ごす、1日のうちの数時間だけ特定の人と会ってサポートを受けるなど。SFやCFは「子どもが親元で暮らし続けるための支援」と位置づけられていて、利用するのは年少の子どもたちが多い。バリシュー行政区ではCFが30～35軒、SFが5軒ある。他の区ではSFのほうが多く、CFの多いバリシュー区は特殊だそうだ。

SFやCFは年に1回、新聞に広告を出して探す。反応が多い年もあれば、あまりない年もある。子どもにSFを探す場合は、子どもの障がいを受け入れてくれるSFを優先的に探す。SFもCFも、子どもの近所に住んでいることが最重要視されるが、子どものネットワークを広げてくれるような家族がよいそうだ。SFには、子ども1人を月に1回だけ週末に預かるとして、1,134クローネ（約14,000円）の謝礼と470クローネ（約5,800円）の経費が出る。

里親家庭

バリシュー行政区では現在、120人の子どもたちが約80の里親家庭で暮らしている。スウェーデンには子どもの入所施設がない。保護された子どもたちのほとんどは里親家庭で暮らすようになる。子どもに里親が必要かどうかは、市の社会福祉部署家族部のソーシャルワーカーが決める。コンタクト業務部は、その子どもや家族のニーズを満たしてくれる里親を探す。

ただし、里親を探す前に、親戚や身近な人たちの中に里親になれそうな人を見つける努力をしなければならない。それは法律で決まっているという。

子どもが里親を利用する期間は、ほんの数日から成

人に至るまでと、ケースによってさまざまだ。里親が育てる子どもの数は1～3人。「4人以上は多すぎる」そうだ。里親家庭の他に、治療を目的としたグループホームもある。治療ホームは県庁から許可され、専門職員を雇っている。里親制度も治療的グループホームも、社会サービス法によって運営されている。

①里親開拓（リクルート）……新聞広告の利用

通訳のハンソン友子さんによると、こちらの新聞には「里親家庭を探しています」という広告がよく出ているそうだ。バリシュー行政区における里親家庭の予備は、現在25。それでは少ないし、予備はたくさんあったほうがいいので、里親探しのキャンペーンはしおりゅう行っているという。方法としては、まず、イエテボリ市周辺にたくさんある小さな市や町の新聞に広告を載せる。『イエテボリ・ポステン』といった大きな新聞にも定期的に広告を出す。イエテボリ市周辺では「里親になつてもいい」という人が少なくなっているので、この秋、大々的なキャンペーンを行う予定だと話していた。

②里親認定までの道筋……調査、教育、インタビュー

バリシュー行政区では外国人が多く住んでいるため、子どもとの国籍のマッチングが重要になる。里親にふさわしいのは、「外国出身だが、スウェーデン社会に溶け込んでいて、スウェーデン語を話せる家族」。障がいのある子どもを預ける場合は、その子の障がいに関する知識や経験を持っている人が必要になる。里親への申し込みがあったら、その家族が本当に里親にふさわしいかどうかを調査する。なお、里親になるということは仕事ではないので、他に生計を立てる手段を持っている必要がある。

a 21時間の基礎教育

調査に合格したら、計21時間の基礎教育を受けてもらう。たとえば、週に3時間、7週間にわたって受講してもいいし、週末、泊まり込みで受けてもいい。

基礎教育の内容は、あくまでも里親なのだから、子どもの本当の親のことを忘れてはいけないこと、子どもとはどういうものか、里親家庭に預けられる子どもの状態など、里親として必要なことは全部教えるそうだ。他の里親の体験談も聞けるし、里親になるとどういう問題が起きるのかといった事例も多く話されるので、とてもいい内容だと話していた。

b インタビュー

里親家族として認定される前に、夫と妻が別々にインタビューされる。インタビューでは、20ページにもわたる質問表に答えなければならない。質問内容は、生育歴、これまでどのように生きてきたか、いまの生活と仕事、子どもを養育するということをどう考えるか。2時間半近くも徹底的に質問されるので、不純な動機や嘘をついている場合は見破られてしまう。

c 里親の年齢

日本でしばしば話題になる里親の年齢について聞いてみた。“この道30年”というソフィーさんは、「里親と子どもとの年齢差は、40歳以上でないほうがいい」と言う。子どもが15歳だったら里親は55歳までが原則だそうだ。ただし、若ければいいというものでもない。里親家庭に預けられる子どもたちには、愛情やたくさんの時間をかけることが必要なので、幼い実子という競争相手のいる家庭はふさわしくない。グループホームを運営する場合は、健康であるなら年配でもいいという話だった。

③里親を利用する子どもの年齢

スウェーデンでは10代になってから、里親家庭に行く子どもが多い。子どもが幼いときは、できるだけ親元で暮らせるように公的機関が支援するが、子どもが10代になつてみると、親元には置けなくなる。というのは、親が犯罪者だったり、精神疾患や知的障がい、依存症など、非常に大きな問題を抱えているからだ。

子どもが新生児で、母親が育児に困難を抱えている場合、母子が入るシェルターを利用してもらう。そこでは8週間にわたって、職員が母子と一緒に暮らし、上手な子育ての方法などを教える。しかし、親のほうに子育ての意思がなかったり、子どもにサポートが必要なことを理解せず、シェルターにも入ろうとしないときは、子どもは「強制保護法」によって保護される。

保護した子どもを緊急で預けられる「緊急家庭」もある。預けられる子どもの数は4人まで。バリシュー行政区には2つの緊急家庭があるそうだ。あくまでも緊急対応なので、長く暮らすべきではないが、きちんとした里親が見つかるまでそこで暮らす子どももいる。

④子どもの強制保護

強制保護の執行は、区の社会委員会の議長が書類にサインすれば行える。ただ、区はその日から1週間以内に行政裁判所に必要な書類を提出しなければならない。行政裁判所は12日で審理し、仮判決を下す。仮判決後、区は3週間以内にその子どもに関する徹底的な調査を行い、行政裁判所に提出する。裁判所はそれを元に本格的に審理をし、最終判決を下す。ただし、「強制保護は正しかった」という結論に至っても、7ヵ月ごとに見直していくかなくてはならない。親の状態や状況が改善したと認められたら、子どもは親元に帰す。

⑤親支援のメニュー

子どもは親元で暮らすことが原則なので、子育てをしている親のための支援はたくさんあるそうだ。家族やカップルに対するセラピー、家庭に向けた「親学」を教える、親が通う「親学校」もある。MST (Multi System Therapy) というのは、「家で暴れたりするような問題のある子どもにどういう態度で接したらいいか」などを教えるもので、6ヵ月間集中的な教育を受ける。MSTのセラピストはいつでも、電話でアドバイスしてくれる。

また、地域のサポート・ファミリーやコンタクト・ファミリー、コンタクト・パーソンに子どもを預かってもらうことで、親は息抜きすることができる。

⑥障がいの有無

里親家庭には障がいのある子どもも委託される。多いのはADHD、次に自閉症だそうだ。病名の診断がされていなくても、ADHDや自閉症の傾向のある子どもは少なくない。特殊学校や特殊学級に通っている子どももいる。

⑦里親への謝礼（里親手当）と経費

里親手当は、里親になったことでどれだけの時間と手間をかかっているかによって、段階的に決まっている。子どもの世話だけでなく、子どもの親との関わりも含まれている。

謝礼はいちばん安くて月に4,730 クローネ（約59,000円）、いちばん高いのは10,613 クローネ（約132,000円）。謝礼には税金も含まれる。経費は手取りで、3,745 クロー

ネ（約46,000円）～6,063 クローネ（約75,600円）。子どもが来たことで里母が一時的に働けなくなったら、補償金として給料の全額分が支給される（注：円換算のレートは2010年2月末をもとにしている）。

⑧里親家庭への支援

ビルギッタさん、ヘレーズさん、ソフィーさんの仕事には家族支援と現場指導も入っていて、1人当たり25家庭を担当している。里親からは週に何回も電話がかかってくるし、家庭訪問にも行く。家庭訪問は法律で年に2回と定められているが、「それでは少なすぎる。ショッちゅう行くことが必要だ」と話していた。ただ、車で片道4時間もかかったり、飛行機で訪ねなければならない場合もある。家庭訪問では、里親の質問に答え、「こういったときにはこうしなさい」といった指導も行う。育てるのが難しい子どもの場合は、臨床心理士のセラピーや相談を受けられるように手配もするそうだ。日本に比べると、かなり手厚い支援だと思う。

脱施設について

ウルフ・サミュエルソンさんと
カミラ・ナリーンさん

報告：村田和木

6月18日の午後、ムーンダル市の障がい者福祉部門の事務所で、ウルフ・サミュエルソンさん（写真右）とカミラ・ナリーンさん（写真左）に会って話を聞いた。カミラさんは障がい者福祉部門で児童と青少年の担当課長をしている。ウルフさんは、知的障がいのある成人のための2つのグループホームとデイ活動のユニット・チーフを務めているそうだ。

ウルフさんが障がい者に関わる仕事に就いて37年になる。スウェーデンが経験したいろいろな改革のほとんどは経験していて、ムーンダル市にあった『サーゴーセン』という障がい児入所施設の解体にも立ち会った。『サーゴーセン』で働いていた人はあまり残っていないそうなので、ウルフさんは貴重な生き証人と言える。



スウェーデンにおける入所施設解体の経緯

昔は、機能障がいのある子どもたちの医療的なケア・看護・介護は県の責任下にあって、障がい児（者）の入所施設は医者の管理下に置かれていた。ムーンダル市には成人のための『ストレートレード』と、子どもたち（といつても25歳まで）のための『サーゴーセン』があった。2つの施設は道路を隔てて建っていたそうだ。『サーゴーセン』の中には学校もあり、子どもたちは施設の敷地内

だけで生活していた。

1960年代末、学者たちが唱えたノーマライゼーションの原理に基づいて、入所施設の改革が始まり、1970年代初めには本格的な動きになった。『サーゴーセン』では、施設の外に「生徒のための家」と呼ばれる寄宿舎を建て、子どもたちは平日はそこで暮らし、週末は親元へ帰れるようにした。それが脱施設への第一歩となった。

同時に、親が幼い子どもを手元で育てるための支援のシステムがつくれられた。具体的には保育園をつくって、その中に機能障がいのある子どもを対象にしたクラスをつくった。これによって、障がい児を持つ親たちも子どもを預けながら仕事を続けられるようになった。ちなみに、スウェーデンでは半世紀も前から夫婦共働きが常識だそうだ。寄宿舎や保育園をつくったことで、入所施設は不要になった。ウルフさんは「施設を解体するには、入所する人を減らすのが一番です」と話す。

1974年、ムーンダル市に2つのグループホームがつくれられ、『サーゴーセン』に住んでいた子どもたちが引っ越しした。2年後の1976年、「スウェーデンにあるすべての入所施設は、5年以内に解体する」という法律ができる、『サーゴーセン』は1980年までに完全に解体された。元の施設は改築され、5人単位のユニット（生活空間）や病棟に変わっていった。その後、障がい児（者）のケア・看護・介護は県から市に移行し、グループホームの運営も市が行うこととなった。

施設解体の原動力

施設解体が進んだ理由として、ウルフさんは、60年代末から70年代にかけてヨーロッパ全体で起きた、ヒューマニズムに基づいた政治的運動の影響、当時のヨーロッパが好景気だったこと、機能的障がいについて

の研究プロジェクトが盛んに行われていたことを挙げた。スウェーデンにおいて一番の原動力になったのは、カール・グリュネバルドさんという社会省の役人で、彼と彼の仲間たちが施設解体のシナリオを描いて実行したそうだ。

施設職員たちの闘い

職員たちの“個人的な闘い”もあった。ウルフさんをはじめ、若い職員は「子どもたちが親元を離れて入所施設に入っているのはよくない」と考える人が多く、規則違反を承知で、子どもを外に連れ出して社会を見せたり、自分の家に連れ帰ったりしていた。

当時、ウルフさんは5歳～12歳の子どもが暮らすユニットで働いていたが、あるとき施設の地下室でテントを見つけ、夏の間、子どもたちと一緒に海辺でテント生活することにした。嵐になって大変だったときもあるが、子どもと職員がテントで寝起きし、一緒に買い物に行ったり。子どもたちの中にダウン症の男の子がいて、彼は車のナンバープレートを見たのをきっかけにすべてのアルファベットを覚えた。「家」など15の単語も読めるようになった。ウルフさんは彼の様子を見ていて、「入所施設で暮らすことが、子どもの発達を阻害している」と気づいたという。

最大の反対者は親

聞いているとすばらしいことばかりだが、スウェーデンが最初からこうだったわけではない。1960年頃までは、障がいのある人たちは家族や社会から隔離され、死ぬまで施設の中で暮らさなければならなかった。障がいのある子どもが生まれると、医者は「その子のことは忘れて、新しい子どもを産みなさい」と言ったそうだ。「自分で育てたい」と願う親には、行政から強い圧力がかかった。入所施設は閉鎖的で、親がわが子に面会に行くことすら難しかった。そんな絶対的な存在である施設が解体されることは、親たちにとって大変な衝撃だった。

スウェーデンにはFUB(全国知的障がい児童・青少年・成人連盟/1950年代に発足)という団体がある。いわゆる「親の会」だが、1974年にウルフさんと彼の上司が取材を受けて、「入所施設はよくない。障がいのある人たちも社会に出るべきだ」と話したら、FUBから呼び出され、強く抗議された。ウルフさんは「親たちは、

自分の子どもたちが社会に出たら孤立するのではないかという恐れを抱いていました。また、障がいのある人は施設で暮らすものだと考えてきたので、すごく反対したのです」と説明する。

施設解体の最大の反対者は親だったが、彼らの不安は、グループホームで暮らす子どもたちの様子をすることで解消されていった。なお、施設が解体される際には、国から県にたくさんのお金が出た。内訳は、職員の意識改革のための教育費用、グループホームの建設費用、引っ越し費用など。特に職員には多くの教育の機会が与えられた。大抵の場合、入所者と職員が一緒にグループホームに移った。

罪の意識

社会全体の考え方が「子どもでも大人でも、入所施設で暮らすのはよくない」となっていく中、行政の指示に従って子どもを入所施設に預けた親たちは、罪の意識にとらわれることになった。きょうだいのほうも、突然、存在すら知らされていなかった兄弟姉妹が現れたことに衝撃を受け、困惑した。罪の意識は、家族が親密な関係を築くことを阻害する。子ども時代を施設で過ごし、現在は大人のグループホームで暮らす人の中で、親きょうだいや親戚との関係が疎遠な人は少なくないそうだ。ウルフさんは「親たちを支えるものが何もなかったのは、やはりよくなかった。罪の意識を超えるための支えがなかったのです」と悲しそうに話していた。

LSS法の制定

1994年、LSS法が施行された。Lは権利、Sはサービス、Sはサポートの頭文字だそうだ。LSS法の大きな特長は、個別ケアと個別支援を基本にしていること。つまり、個人が可能な限り自立して、可能な限り自己決定をし、その人が望む生活を営んでいく。職員はそのためのケアと支援を行う。カミラさんは「それぞれの人が、その人に必要な仕事を職員に言いつけます。つまり、私たち職員は単なるツール(道具)にすぎないのです」と話す。スウェーデンでも、以前は「障がい者のできないところを補う」という考え方をしていたが、いまは「その人の持っている能力を活かし、それを強化するべきだ」という考え方へ変わってきたそうだ。たとえば「自閉症」という診断も、カミラさんは「その人と職員が接する際に、

一番いい方法でコミュニケーションを取るための情報であって、それ以上の意味は持ちません」と言い切る。「私たちの仕事は、当人と家族が安心できることです。つまり、障がいのある子どもや大人が『私にもできる。私は1人の人間として、このままで尊敬を受ける』と思えるような状況をつくらないといけません。そうあるべきです」という言葉に感銘を受けた。

視察を終えて

私は2004年春から、都内の児童養護施設で子ども相手のボランティアをしている。そこでは8人の子どもたちを3人の職員が交替で世話をしている。それを聞いたウルフさんとカミラさんは、「子どもが8人も一緒に住んでいるのは、スウェーデンでは考えられない」と驚いていた。日本の児童養護施設は7割が大舍制で、そこではもっと多くの子どもたちが集団で暮らしていることを知ったら、彼らはどれほど驚いたことだろう。

今回、私が一番感心したのは、スウェーデンでは、子どもが親元で暮らせるための家族支援が充実していることだ。家族支援を充実させることが施設解体にもつながっている。また、職員の側が利用者の個人の尊厳を非常に大切にしていること、自分たちの仕事に自信と誇りを持っているのも印象的だった。たった3日間でこれほど充実した視察を行うことができたのは、ひとえに通訳のハンソン友子さんのおかげだ。深く感謝したい。

スウェーデン社会を支えているもの

ハンソン・友子さんによるレクチャー

報告：北川聰子

スウェーデン社会を支える柱

- 民主主義 みんなで意見を出し合って決めていく
- 平等 人間の、年齢・障害・人種・性別に関係なく意見には同じ重さがある
- 自己決定 自分で自分の進む道を選択する

スウェーデン社会を支えていること

- ・選択の自由 どんな人でも、その人の選択の自由を保障する
- ・環境 持続的に受け継いでいく・保全型社会を目指す

スウェーデンの教育

- 1994年 教育の大改革が行われた
- 大枠を決めて任せる方式
- 教育計画（国）科目・学習計画（市）各校毎の時間表（学校）
- 大枠の中身
- 保育園から大学まで決まっている
- 理念・哲学・方針 たくさんあるが
- 障害者関係には
- 健常児・障害児にも同じ教育を行う
- 保育園までは完全統合
- 保育園以上 場の統合 ⇔ スウェーデンの問題点

スウェーデンでの議論

- 1994年度にLSSという法律が施行された
- LSSの対象となる人達は3つのグループにわけられている。

- 1：知的障害のある人、自閉症や自閉症に似た症状のある人
- 2：成人に達してから事故や病気による脳の損傷により重度の知的機能傷害のある人
- 3：他の永久的な身体的または精神的な機能障害があるために、日常生活をおくることが困難で、多量の支援が必要な人

障害者に対する考え方

- 生きること・生活について
- 基本的な考え方
- 普通の人と同じに生きる権利がある
- 普通の人と同じように生きていくことを保障する

親の子供を持つ権利

- ・親として当然の権利
- ・子ども自身での権利
- ・子どもにも権利がある

スウェーデンでの議論

- ・個人を大切にする教育と社会システム
- ・経済的な自立
- ・女性の就労
- ・関係を維持することは難しい
- ・スウェーデンの高離婚率

障害者のカップルに子供ができた場合

- ・親の権利
- ・親として子にかかわる
- ・子供を産むか産まないかを選択する 必要があれば選択のサポート

- ・親・兄弟・成年後見人 制度が保障されている
- ・子どもの権利
 - ・子どもは一人の自立した人間である
 - ・子どもが普通に育っていくために必要なことをサポートする
 - ・里親家庭で育つことが多い
- ・具体的な支援
 - ・里親家庭 一 子供は里親が育てる
 - ・子供の権利を守る
 - ・障害者の親との面談
 - ・時にはコンタクトパーソンがついて面会する
 - ・行政のサービスソーシャルワーカの仕事としての支援
 - ・親子を関係を保障する
- ・基本的な部分についてサポートを行う
 - ・考え方のサポート
 - ・社会としてのあり方
 - ・金銭的サポート
 - ・必要なサポートを確保する
- ・人間関係についてのサポート
 - ・親の視点
 - ・親の視点からのサポート
 - ・子供の視点
 - ・子供の視点からのサポート
 - ・子供のための最善
- ・サポートを行う人間を育てる
 - ・接し方

地域で暮らす

- ・ムーンダール市
 - ・人口 5万7523人 (2004年)
 - ・16ヶ所の知的障害のある人達を対象としたグループホームとサービス住宅がある。
 - ・アパート数にすると101戸。
- *18歳以下の児童、青少年のための緊急アパートが3部屋確保してある。
- ・104名の人たちがLSSにより住宅の提供を受けてい

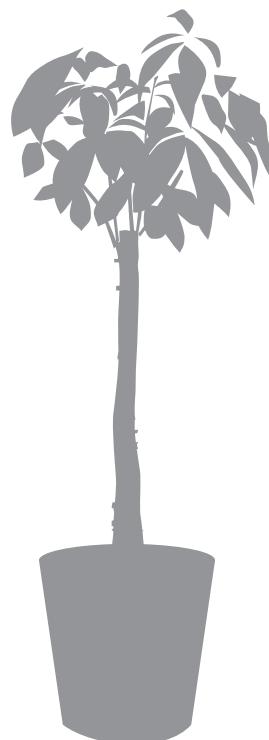
- る。
 - ・38名の知的障害者が、在宅支援サービスを受けて、自立したアパートで生活している。
 - ・デイ活動の場は大型が3ヶ所で、1ヶ所は小規模。全部で150名が活動している。
 - ・ムーンダール市全体の予算は約21億Kr (約315億円)
 - ・障害者福祉部門の全予算は、1億6260万Kr (約24億3900万円)
 - ・住宅と在宅支援 680万Kr (約1億200万円)
 - ・デイ活動 239万Kr (約3585万円)
 - ・介護とケア部門 (高齢者、訪問看護などを含む) 全体の予算は6億3070万Kr (約94億6050万円)
- どんなに障害があっても普通の暮らしをする権利があることが、すべての基本。

第4章

シンポジウムと里親研修会

Iは、横浜で開いた子どもの住まいを考えるシンポジウム「里親さんとつながりたい」の報告。当日の概要と、基調講演を掲載する。

IIは、札幌で行われた里親研修会「障害のある子も里親家庭で育つために」の報告



I 子どもの住まいを考えるシンポジウム

1 里親さんとつながりたい

橋爪久子

プログラム

- ①アンケート調査報告
- ②基調講演 川名はつ子氏（早稲田大学人間科学学術院准教授）
- ③グループワーク
- ④地域資源の情報提供

日時■ 2010年3月9日（火） 10:00~13:00

会場■横浜市健康福祉総合センター 大会議室 8A、8B

参加者36名、4つのグループに分かれてのグループワークになった。グループメンバーは、県や市の職員、児童や障害児者の分野の施設職員、相談員、里親、障害児の親など様々な立場の方で構成され、意見交換がなされました。印象的だった意見を下記に明記。

- ・里子に関して、自分の里子がちゃんと育っているのか心配で児相に里子の話を聞きに来てくれて助かった。18歳を過ぎて就職をしたのでGHを探しているが、「辛かったら戻ってきて良い、家を出されるわけではない」というのをどう伝えたらいいのか、悩む。18歳で措置解除になってしまふが、就職をして一番不安な時期は延長が認められると良い。
- ・障害児の場合、自分の子だと母親は自分の責任と感じてしまうことが多々あり、わが子よりも気軽に子育てを楽しめた。
- ・里子と実子の関係はよほど間にサポート体制がないと難しい。
- ・里親になるための研修も多く、仕事との両立は大変。障害児の里親は馴らし期間をゆっくり丁寧に取っていけば難しいことはないが時間が取れない。国で里親になるための休暇を作ってほしい。

・障害児が自立後にケアしてもらえる場所がない、という意見に対しては異世代交流のような形でしていくのではよいのではないかと意見が出ました。

- ・現在の子育て支援はアフターケアに回りがちであるが予防の観点から母子健康手帳を活用してはどうか。
- ・里親さんが少し疲れた時に児相に相談をすると措置解除にされてしまうのでは、という心配が常にある。お互い助け合えるような仕組みがあるとよい。

シンポジウム実施後に行ったアンケートでは22通の回収があり、里親さん4名、施設職員、7名、相談員2名、その他8名。アンケートの調査報告は、「非常に良かった」「良かった」を合わせて、21名。無記名1。基調講演については、「非常に良かった」「良かった」を合わせて20。「あまり良くなかった」1（川名先生本人）。無記名1。グループワークについては「非常に良かった」「良かった」を合わせて20。無記名1。

と非常に高い満足度が伺える。概ね、里親のことを知ることができて良かった、という意見が多かった。

2 基調講演

障がいをもつ里子の暮らしを支える

— 地域での共生をめざして —

川名 はつ子

I. はじめに－血縁よりも、共に暮らした時間と記憶

1990年代前半に東京都療育医療センターで重度の障害をもつ子どもたちとじかに触れ合う機会があり、必要な治療が済んでも家庭に帰れず施設に入所したままになる子どもたち（重症心身障害児＋被ネグレクト児）の存在に衝撃を受けた。「自発的に動き回って世界を広げていくことが難しく、環境変化への適応に時間がかかるこの子たちこそ、温かい家庭でたくさんの愛情と刺激を受けながら一貫した養育を受ける必要があるだろう」（「養子と里親を考える会」の会誌『新しい家族』第31号、1997年）。

里親養育とは：親元で育つことの出来ない子どもを家庭に引き取り、18歳までの自立をめざして養育する制度（児童福祉法第27条）。養育里親、専門里親（虐待・障害対応）、親族里親、短期里親。

国連の子どもの権利条約第20条：適切な家庭環境を奪われた子どもには国が特別の保護や援助を与える。

※このように社会的養護では、法制度上は一般家庭（里親）への養育委託や養子縁組が優先され、施設への収容は最後に。欧米では里親委託や養子縁組が中心だが、日本では約4万人の要保護児童の行く先は里親1割、施設9割となっている。

障がい児里親の可能性：障害をもつ子どもを引き取って育てている里親さんが当時すでに310/2,454人、約13%（厚労省2004調べ）。日本では里親養育が振るわないというのに、いったいどんな条件があれば障がい児の里親による養育が可能になるのか…。里親さんを訪問して聞き書きを始めた。

障がいとは：身体障害・知的障害・精神障害の3区分＋発達障害。心に負った傷や、適切に育てられなかったために発達が遅れたこと（2次障害）まで含め、障害を広く捉えれば、障害者手帳を持っていなくても要保護児童の大多数は障害を抱えているのでは？

※社会の理解や行政の援助がまだ薄いなかで、障がい児を引き受けるという明確な動機をほとんどもたないまま受託した里親さんたちの捨て身の努力、試行錯誤が続いている。

実親が育てても子育てに種々の問題が生じやすい昨今、里親さんたちはその上に、迎えたお子さんたちの「18歳までの自立」に重い責任を感じている。

苦労が実を結んだ例ばかりでなく不調で措置解除になった例もあったが、後日里親子の交流が復活するなど親子の絆、きょうだいの絆ができている。その後、里親家庭の実子たち、乳児院・児童養護施設育ちの子どもたちにも出会い、「障害をもつ子どもたちによりよい養育環境を提供し、里親家庭の家族それぞれが充実した生涯をおくるには」という問い合わせが生じてきた。

II. 障がい児を育てる里親・養親 - 私の出会った里親さんたち

※人名はすべて仮名

1. 里親 福井和夫さん・昌子さん夫妻

里子：中沢実くん：198●年生れ。肢体不自由、弱視で身障3級、肢体不自由児施設で育つ。実父母は死去。異母姉たちは文通以外の交流を拒否。中1から福井さん宅で実子の女児2人とともに育てられていたが、実くんに感情の発露が乏しく、向上心や社会常識がないことに里父がいらだち耳を引っ張るなどしたことが体罰とされ、元の施設に措置替えとなる。20歳過ぎて東北地方の都外施設に入所。施設職員有志が「実くんを訪ねる旅」を企画。

2. 里親 佐藤由子さん・輝さん夫妻

里子：松山正男くん（知的障がいをもつ。5歳半から養育し、中卒後ベンキ職人となったが、定着せず。里親宅の近くに再就職先と住まいを世話。その後、親方の廃業で失業し、北海道の牧場に住み込む。消息が途絶え、家出人捜索願を出したことも。軽微な犯罪でも取り調べに際し自己を守れず、誘導尋問で有罪になる恐れ。里父は借金を肩代わりして老齢年金の中から返済するとともに、弁護士の協力を得て救援活動も行なった。

3. 里親 富田ユキさん（元幼稚園長）・清三さん夫妻（グループインタビューに参加）

里子：富田（木本）アイちゃん（198●年生れ。知的障がいをもつ。児童相談所の判定では自閉症）。小学校入学直前に委託された時は、言語も歩行もおぼつかなかったが、中学のころにはしっかり意見を表明できるまでになった。絵が得意で、コンクール入賞も。中学校や養護学校高等部で不登校。児童相談所は知的障がい者の入所施設に措置替えの方針で宿泊実習も行なったが、里親としては自分たちが要介護になるまでは、一緒に暮らしたい。父方の梨栽培農家の後継者がいないので、卒業後はそこに里親ファミリーホームを開設し、アイちゃんがヘルパーとして働けないかを模索している。

4. 里親 山本明彦さん・文子さん夫妻（実子が2人。ダウン症の女児を育て、社会への恩返しにと障がい児の養育を希望）

里子：山本（杉田）瞳ちゃん（199●年生れ；重症心身障害児。乳児院から3歳で受託。赤い車椅子で養護学校に通学。休日は父・姉と手話コーラスの教室に通う。15歳になるのを待って養子縁組。結婚して介護タクシーを始めた実子の兄が、2人の妹の世話ををするという。

5. 養里親 藤原美佐子さん・末男さん夫妻（3人の子の障がいと付き合って）

里子a：塚本あつ子さん（197●年生れ。実母は精神遅滞で、19歳のとき女子寮で出産。父不明。保健婦がケア。生後2日で里子に。大学卒業後、介護福祉士。婚家から「藤原家のお嬢さんとして嫁いで欲しい」と請われて養子縁組。生まれた長女が3歳のときうつ病のため藤原家に戻り、里母（養母）が入院や退院後のケア。うつ病が軽快し、長女の入学を機に婚家に戻る矢先、突然自殺（33歳）。

里子b：佐川マコトくん（197●年生れ；腸に障がい（鎖肛？）があり、生後すぐ手術。2歳4ヵ月で里子に。結婚して近くに住み、妻・長女と共に里親の老後をみるつもり。

里子c：前田善弘くん（198●年生れ；「健常」）乳児院、養護施設で育つ。5歳9ヵ月から養育したが、多動気味でトラブル。中学生のとき、「性非行」をかばいきれず、児童自立支援施設に措置替え。その後も里母を慕って度々帰省。姉の喪で結婚予定を延期。痴漢行為が止まらない。

6. 里親 水田睦子さん・俊夫さん夫妻（実子3人とともに里子を養育。現在は他県で里親ファミリーホーム開設；ヘルパーや保育者などの支援者とともに4～5人を養育）

里子：岡本康太くん（198●年生まれ、軽度の肢体不自由）。反応の乏しさに里母が燃え尽き、うつ状態に陥って、措置解除。養護学校卒業時から交流が復活。その後、里父も脱サラし、支援の手厚いA市に移住して里親ファミリーホームを開設。康太君は、能力開発センターを出てコンピュータ会社に一般就労し、一時は実子たちと同居して通勤した。その後、実母宅に戻ったが、母親の借金の後始末などで、本人より里母が悩まされている。

7. 養里親 齐藤洋子さん・哲夫さん夫妻（健常の姉娘は18歳で養子縁組。短期里子も多数受託。専門里親の講習修了）

里子：須田健郎くん：198●年生まれ。母親がひとりで自宅分娩。未熟児。父不明、母も行方不明。小学校入学後、学習につまずいてようやく2学期から知的障がい児と認定され、障がい児用の特別児童扶養手当を受給。里母が教育センターに通って助言を請い、日記を毎日書かせた。中学は1日体験入学して他学区の心障学級に決め、教員たちに見守ってもらうことが出来た。本人は普通高校志望を断念して養護学校高等部に進学。卒業後は寄宿制の能力開発センターで工業技術を2年間学び、特例子会社に就職。知的障がい者用のグループホームで放置されて精神障がい（被害妄想など）を発症し、リハビリ中。

8. 養親 上原悦子さん・豊蔵さん夫妻（思春期すぎて精神障がいを発症した養女を夫婦でケア）

養子：香織ちゃん：197●年生れ。実父が家庭内暴力（D V）をはたらき、実母が家出。実父の次の相手女性に育てられていたのを2歳4カ月で引き取り、すぐに養子縁組。5年後、もう1人育てたくて2歳男児の里親となり、小6の時養子縁組して、ふたりを姉弟として養育した。姉の方は高校中退後、統合失調症を発症。被害妄想が激しく、暴力を振るつたり、退行現象を起こしたりして病院を転々とする。養父も協力して通院治療や保健所のデイケアを受けている。児童相談所の専門家の無理解による心ない言葉にかえって傷ついた。

9. 養里親 野中義男さん・恵子さん夫妻（長期・短期あわせて10人以上を養育。障がい児や被虐待児、虚弱児が多数。成長ホルモンの分泌異常で低身長の女児なども。B県里親会会長）

里子 マサルくん：197●年生れ。3歳10カ月から養育。小3の時養子縁組。知能テストはボーダーラインで高校中退。30歳時、ダンプカーの運転手。養親宅から通勤。

10. 養里親 小林久則さん・すみさん夫妻（里父は市場に勤務）

里子 生田ヒロミちゃん：197●年生れ；精神遅滞とB型肝炎。暴走族に入り、「非行」の後始末に里

父が奔走。措置解除後も養育し、障害基礎年金の受給やアルバイト先の斡旋など。結婚にこぎつけ、妊娠中のケアが必要なため、住居地の保健師による訪問指導を要請したが、流産に終わった。

11. 里親 館岡麻子さん・昌男さん夫妻（里母は里親子支援組織の理事。里父は弁護士）

里子 黒田正雄くん：197●年生れ。里子の姉（健常児）にきょうだいをと乳児院から引き取る。言葉の遅れのみ告知。判定を受けたら軽度の精神遅滞。措置解除後も運転免許取得や通勤寮の利用を支援。おだてに弱く、中学生に誘われて盗んだバイクでひったくりなど繰り返し、警察沙汰に。その後障がい者枠で一般就労し、交通事故にあった里母の世話。通勤寮の同窓生と結婚の予定もある。養子縁組すると財産目当てにカモにされる恐れがあり、成年後見制度の利用を検討中。

<障がい児の里親を務めての感想は>

「子どもがかわいい」「情が湧く」「他人の痛みが分かり、障がい児の家族への理解・共感が生まれた」

III. 障がいをもつ里子の地域での共生をめざして—社会資源を活用しよう

入口で— 障がい告知を含む適切な情報提供

- 里親さん自身が明確な動機を持ち、希望して障がい児を受託した例はきわめてまれ。
- 児童相談所や施設でも障がいが気づかれないまま、したがって知らされないままの受託もある。
- 里親さんにとって想定外であっても、引き受けれる事例は多い。
- 里親さんの資質や養護経験を見込んで委託された例もある。
- 乳児院や児童養護施設が里親委託推進の方針をもっていれば、愛着の形成が効果的になれる。
- 愛着が形成されれば、障がいの有無や重症度にかかわりなく、里親は障がい児を養育することが可能。
- 「施設病」が2次障がいとなって困難を引き起こしがち。子どもとの出会いは早い方が好まし

い。

- 医療や障がい者福祉の情報・知識は、早期に適切に提供されるべきである。

障がいをもつ里子の生育過程で必要な支援

- 妊娠・出生前診断・出産・発病・闘病などの情報の取得・引継ぎのため、母子健康手帳の活用
- 障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳）の申請・交付
- 自立支援医療（旧 育成医療）の活用
- 障がいの受容（早い・遅い；外的・内的）について
- 障がい児の早期療育、統合保育や二重措置について
- 就学時健診、分離教育・交流教育・統合教育および今後の特別支援教育について

出口で一措置解除後の進路や生活支援

- 障がい児も高校へ（「共に育つ教育を進める連絡会」「地域で生きる会」など各地の自助組織）
- 専門学校・大学・大学院への進学（20歳までの措置延長、奨学金）
- 自動車教習所
- 能力開発センター（2年間の寄宿制、工業技術・コンピュータなど）
- 障害基礎年金（軽度では受けられない。理解ある医師の意見書）
- 住居（通勤寮、グループホームにおける身上監護＝健康管理・金銭管理・生活支援）
- 就労支援センターによるトライアル雇用、ジョブコーチ、福祉作業所
- 結婚、出産、育児について、本人・里親の意識、社会の啓発
- 知的障がい者の人権擁護（犯罪の被害者・加害者になることの予防）

II 里親研修会

「障がいのある子ども里親家庭で育つために」

報告者 古家好恵

3月13日（土）10時より里親さんのための研修会が「障がいのある子ども里親家庭で育つために」とのテーマで行われました。

全道から、52名の里親さんが参加しました。また、札幌市児童相談所からと北海道児童相談所の職員の方の出席もありました。

初めに、開会に先立って主催者を代表して、グループホーム学会副代表の光増先生より挨拶があり、続いて札幌市里親会会长田中貞美様、日本ファミリーホーム協議会会长ト藏康行様より、来賓のご挨拶を頂きました。

＜障害児の育ちの理解＞

庄司順一氏（青山学院大学教授）

アメリカは施設よりも里親制度が中心である。その大きな根拠となっているのは、1909年第1回ホワイトハウス・カンファレンスの中で、家庭生活で子どもを育てるべきと言うことである。しかし、障がいのある子どもは排除されてきたと言える。

今日、里親家庭で障がいのある子どもや虚弱の子どもを委託されている家庭が多い。専門里親は平成14年から開始。最初は虐待を受けた子どもに対応するために設置。その後、非行のある子どもも家庭環境に問題があることが原因ということで専門里親の対象となった。平成21年より、障害児も対象になった。専門里親の研修内で1コマ分が障がいに特化したものとなった。しかし一つの研修で十分ということはないため、様々な研修に参加をする必要がある。

アンケート調査の結果、委託児童に障がいがある割合は14.4%。発達に心配のある児童は24.4%。内、委託後に障がいが分かったのは67.6%。委託後に児童相談所や療育機関との連携が重要となっている。

～里親～

ある期間、子どもを預かる場所。以前は小さい子どもを長い期間預かって育てあげるものと考えられてきた。

可能であれば親元へ帰すことが里親制度と思う。

平均委託期間は短くなっている。

里親制度の改正で、親代わりから親の補完に広がってきた。また、社会的養育の観点から、関係機関などとの連携を図りながら養育をしていくという形に変化してきた。

～子どもの障がいの捉え方～

発達障害：障害があっても育ちは基本的には変わらない。

我々里親の立場からいくと、病名を知ることよりも、子どもを具体的に理解することが大切である。子どもがそのことをするには意味がある。その前の出来事との関係の中で行動する。そうは言っても専門家の診断を受けることは大事なことで、障害のせいにするのではなく、生活の中でどのようなことが子どもの負担なっているのかを理解することが大切。

～子どもの育ち～

アタッチメント：子どもが育っていくには親との基本的信頼関係は絶対不可欠。赤ちゃんは何も疑わずに親に身をまかせる。虐待を受けている子どもは基本的信頼感がない。

アタッチメントは、特定の他者との間に結ぶ絆。困った時に、助けてもらうという絆。アタッチメントの機能は安心感、安全感を得る。親といえば、里親といえば大丈夫、安心という感覚。「してほしい」といった時に応えてくれるということは、アタッチメントの基礎となる。困ったら助けてもらうという実感が持てる。

虐待を受けた子どもはアタッチメントを結ばれていない。アタッチメントを結ばれていっても、離れたり、失ったりを繰り返している。そこが要保護事情の子どもの特徴である。そして、ライフストーリーを信頼しているひととの中でつくることが大事。

公の文章に出たのは平成14年度の里親関係の通知分の中で、愛着関係が基本的に重要であるということがのった。

以上、障害があっても、自分が大事な存在と実感できるアタッチメントを結ぶことが大切とのお話をした。会場は庄司先生のお話の間中、温かさに包ま

れていきました。ありがとうございました。

<障害児支援や制度について>

大塚晃氏（上智大学教授）

障害のある方にとって医療は不可欠であるが、“子ども”という観点が抜けてきたのではないか。“障がい”に焦点が当てられすぎてきた。“障害児”である前に“子ども”である。

専門家は動かない。専門家のいる場所にいかなければ支援を受けられない。利用者本位、家族本位になっていない。本人や家族が生活をする場に様々な支援があって、本人や家族が生きていかれるような形であるべき。地域にある様々なサービスを使いながら生活をすることができるようにならなければいけない。（医療モデル⇒地域生活モデル）

色々なサービス、資源をとりまとめなければ利用することが困難。そのため、チームで関わっていくことが大切（ケア会議、自立支援協議会など）。里親だけに任せることではない。地域で支えていけるようにするためにどうしたらよいかを考えるべき。

平成18年から施行されている障害者自立支援法は「施設から地域へ」という理念に基づいている。

～自立支援法～

専門里親であってもサービスを使えるようになるべき。整合性をどうするかが課題。役割分担を決めていくべき。

～自立支援法の不満～

○1割負担を強いる。（それまではほとんど費用がかからなかった）

○事業者にとって収入が減少。

○サービスを使うために障害程度区分の認定を行うが、知的障害や精神障害の方がうまく判定されないことがある。

障害者の権利擁護を中心に考えられていくのではないか。障害児者にとっての最善の利益の観点から支援の考え方が回っていくのではないか。従来の考え方では障害児ができないところ、不足しているところを発展させていくことに注目してきた。

これからはエンパワメントを見て、支援をしていく。否定的な部分を見るのではなく、良いところを伸ばすことで出来なかったことも少しづつできるようになっていく。

～自立支援協議会～

障害児者に関わる関係者が集まって、検討をしていく会議。障害児者の支援はこの協議会を中心に行なわれる。

子どもの分野は障がいについて知らない。障がいの分野は子どもについて知らない。お互いに連携を密に図っていくことが大切。自立支援協議会にも積極的に関わり、考えていくことが大切。

～障害児支援の見直し～

本人のトータルな生活支援を行うことが里親の役割。その中に発達支援もあるのではないか。

⇒多くの専門家と連携しながら

本人のトータルな生活支援を行うのが専門里親さんの役割。

家族支援をしっかりと位置付けていく。今までの家族支援は理念的なものだった。

具体的にどうネットワークをつくるか、ペアレント・トレーニングのプログラムを組んでいくか、ライフストーリーを一緒につくろうなど、具体的なものが出てきた。最近の進歩してきたところで、家族支援の具体性が出てきた。

法律に位置づけられることによって、どの地域に住んでいても、支援を受けられる制度が皆さんを応援するものではなくてはならないと思っている。

大塚先生は厚労省の専門官という立場で長い間行政を地域につなぐため、いろいろ現実にあった制度や施策をつくってこられました。子どもは障害がある前に子どもであるという優しさの香りが浸みわたるようなお話をされました。ありがとうございました。

<ペアレント・トレーニング>

中田洋二郎氏（立正大学教授）

～ペアレント・トレーニング～

親が親としての適切な養育スキルを持つためのト

トレーニング。アメリカでは親子関係がうまくいかない家族に対するトレーニングであり、受容、共感、傾聴が中心であるが、子どもの行動を変えるためのトレーニングについて話をする。子どもの行動を変えるためには親の行動を変えなければならない。

発達障害の子どもを受容、共感していこうとすると難しいことが多い。子どもの良いところ（行動）を讃める。子どもがそれを受けて自分のことを知り、自分を評価することができるようになることで親子関係が良くなっていく。

発達障害は症状診断であるため、年齢によって診断が変わったり、状況で変わることがある。

⇒診断にこだわらない。行動を見ていくことが必要。

～基本的な考え方～

行動を観察して、それがどういうことで起きて、それによってどのようになっているのかを分析する。

子どもを変えるのではなく、親自身の行動を変える。大人が行動を変えることで子どもにどのような影響を与えるかについて見ていくことが必要。

子どもは“肯定的注目”を求めている。讃め慣れていいくと、目線で讃めることができるようになる。

～ねらい～

○親としての自信を取り戻す。

⇒同じような環境の親がいる。自分だけではないことが分かり、自信を取り戻す。

○子どもに自信を与える。

⇒親が自信を取り戻すことで“讃める”ことができ、子どもが自信を持つことができる。

○歪んでしまった親子関係を修正する。

○子どもによりよい親子関係を保つ。

○反抗・非行を予防する。

⇒いつも冷静に讃めたり、対応することができるわけではない。しかし、いつでもペアレント・トレーニングで学んだことを頭に入れておき、ここぞという時に行う事が出来るようになることが必要。

～概要～

○注目する

⇒良い注目であろうが悪い注目であろうが、注目

されていることでその行動が継続されていく。

○否定的注目を一時的になくして、望ましくない行動を減らす。

⇒一時的に無視する。その後、肯定的注目をするようにする。

選択法を取ることも場合によっては有効。

⇒子どもが指示に従ったことに対して必ず讃める。讃めるチャンスを親に与えていく。親が子どもを讃めることをトレーニングしていく。

小学3～4年生に実施することが適當。中学生に実施していくことは難しい。歪んでしまっている親子関係を是正していくには小学3～4年生くらいがちょうどよい。

～讃めるときの3要素～

①タイミング良く即座に讃める

→年齢などに合わせてタイミングを図って讃めるようにする。

②行動をできるだけ具体的に言葉にして

→年齢が小さければ小さいほど具体的な言葉で。大きくなれば少し抽象的にする。

③批判・コメントはしない。

→讃めた直後に批判やコメントをしてしまうことで、すぐに自己否定感に陥ってしまう。

～指示の出し方～

CCQ…CALM CLOSE QUIET

穏やかに 近づいて 静かに

～中田先生のコメントから～

ペアレント・トレーニングは親を完全な養育者にしてしまうものではありません。親が子どもを育てるスキルが少ない時など、親子の距離が適切な距離を保てるように、使うとよいと考えています。

子どもを否定的に見てしまうことが多くあるのですが、そのことにも目をそらさず、褒める行動を見ていくことを教えていただきました。子育ての勇気をいただきました。ありがとうございました。

＜養育者のメンタルヘルス＞

北川聰子氏（社会福祉法人麦の子会 総合施設長）

～メンタルヘルスの必要性～

・養育者に愛されることが原点。

- ・メンタルヘルスは、子どもを愛し、かわいがるため。
 - ・子どもたちにとって大切→子どもたちは1人では育たない。育てる人の支援が大切。
 - ・障害児を大事にする社会をつくっていくために、子どもたちが身近な人たちに愛されることが大切。
- ⇒養育者のため、子どものためにもメンタルヘルスは必要。

メンタルヘルスというのは、子どもたちにとってやっぱり大事なことだと押さえていいと思う。

どんなに障害が重くてもかわいがられていい。障がい児を大事にする社会をつくっていく時に、身近な人に愛されることが原点と考えている。

育てて行くにしたがってストレス、大変だというところをどうクリアしていくか。

障害の受容についてピアカウンセリングをしている2人にお話ををしていただきたい。

そして、一人の方は、障害と知った時のぬぐい去れない感情・子どもを肯定できない苦しみ、ワークショップで心情に気づき、語ることにより、子どもがかわいく思えるようになったこと。

二人目の方は、自らも虐待を受け、子どもを虐待してしまう苦しみから、カウンセリング、親同士の自助グループ、ショートステイホーム、ホームヘルプサービス、子ども発達クリニックでの相談等の専門支援を受けて回復していく様子が話されました。

注意深く特別な配慮の必要な子どもたちです。障害を受け入れることも、育てることも大変さがあって二人が子どもをどのようにかわいいと思えるようになったのかということをお話しして下さいました。

このようなお母さんたちをどのように支援をしてきたか、北川先生より講義が進められました。

～障害のある子育て～

子育て + 特別な子育て

- ・子どもの障害を受容することが大変。
 - ・育てていく中でストレスが多い。
- 専門的サービスを受けて子育てをして気持ちをポ

ジティブにして、子どもをかわいいと思えるように、少し距離を置くことは必要と思う。

マイナス感情があることを否定しない。色々な感情があることを肯定。→理解をしてくれる周囲の人々に話をする。

タイムアウトをする。クールダウンをする。

(クールダウン出来ない時は「あなたを守るために外へ出る」と子どもに事前に伝えておく)

同じ境遇の仲間に会って、話をすることが大切。

～社会的擁護の子どもの子育て～

社会的養護の子どもを育てているので、国の仕事をしている。里親さんは里親会、児童相談所とつながり、一人で育てるのではなく、色々な資源と手をつないでチームアプローチをする。

障害は欠点、弱点だから埋めるというのではなく、今を認めてこの子たちにとって人生が幸せになるという、充足モデルの子育てのありかたが大切ではないか、全部はできないけれど、少しづつ子どもにできることを日々行ったり、気づいたりして、つながって育てていくことが何よりも里親にとって大事と思う。

北川先生は、当事者のお母さん、子どもたちと共に、歩まれています。勇気をもって発表されたお母さん、たゆまぬ支援を続けている北川先生ありがとうございました。

＜養育者のメンタルヘルスその2＞

遠藤光博氏（ノビロ学園園長）

北海道内に13～14ヶ所の障害児入所施設。全施設で実施している短期入所利用者の25～30%が札幌在住の子どもたち。

子どもは出来る限り家庭で育てられるべき。

施設が24時間365日バックアップできる体制がなければ、子どもが在宅で生活することは難しい。

→施設での支援と地域での支援は車の両輪であり、どちらも大切。

～施設入所の理由～

- ・虐待や不適切な育ちの環境（環境の問題）
- ・1人親や親の障害など、養護事情によるもの（環

境問題)

- ・行動障害、援助の度合いの高い子ども（本人の問題）

～親の辛さ、支援～

- ・「自分がやらなければ」と親が自分自身を追い詰めてしまう。

→支援者がサポートすることをアピールしなければならない。

- ・孤立感を感じてしまう。

→「大変な時は支援をしてくれる場所がある」と安心できる場所を地域でつくる。

孤立しない支援を全体として考えていかなければならぬ。

～障がいのある子どもの子育て～

- ・父にも母にも子育てをしない日をつくる。→応援ネットワークをつくる。公的制度を活用する。

・親が安心感を持って子育てができるようにする。

→緊急ニーズに対応できるネットワークをつくる。

- ・本人と家族本位で。→支援の形態ではなく、ニーズに沿った対応を行っていく。

・一人一人を丁寧に支援していく。→保護者と関係者が連携をし、地域にあるニーズを拾い上げていく。

障害のある子が入所施設に行く話をして下さって、私たちも何かあったら施設か里親ではなく、施設と里親とも連携が大切ということを知ることができました。何かありましたら施設に相談したりして連携していきましょう。いつも子どもたちとお母さんたちを温かく見守って下さっている遠藤先生ありがとうございました。

最後に、主催者を代表して「障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会」室津滋樹代表より閉会の挨拶がありました。

子ども時代こそ家庭的なところで障害のある子どもも育ってほしい。それは、子どもたちの願いでもあると考えます。家庭的なところで色々経験をしてほしいと思い、このような研修会を企画しました。この趣旨に共感して下さった講師の方々と一緒に今

後も活動を進めていきたいと思いますので、皆さんこれからもよろしくお願ひいたします。

講師の皆様、参加者の皆様、スタッフの皆様、ご協力ありがとうございました。

＜アンケートについて＞

以下に研修後寄せられたアンケートを報告させていただきます。

～研修を終えての感想～

- ・とても参考になった研修でした。
- ・現在の子育てに役立つ実践的な研修内容でした。
- ・ペアレント・トレーニングで教わった、誉めるということを実践してみようと思いました。
- ・仲間とつながること、専門機関の方々とつながることの大切さを感じました。
- ・メンタルヘルスの講義で、二人の障がいを持つお母さんが勇気を持って話してくれたことに感激しました。また、自分の心を開くことも大切なのだとと思いました。

～今後の里親制度についてご意見、要望など～

- ・今後、子育て支援の中での各機関との連携を取りながら、孤立させないサポート支援が現代社会の中では特に必要となってくることを感じました。

- ・里親であっても働けるような制度を望みます。
- ・このような研修を通して、若い里親さんが増えることを期待します。
- ・今回のような研修を続けて欲しいと思います。
- ・里親だけではなく、皆が協力して、育てるシステムが早く出来ることを願っています。

※貴重なご意見をたくさんありがとうございました。

障害のある子どもが里親家庭で育つために

障害児の里親促進のための基盤整備事業報告書

平成21年度独立行政法人福祉医療機構(子育て支援基金)助成事業

■発行日 平成22年3月31日

■発行者 障害のある人と援助者でつくる 日本グループホーム学会
代表 室津滋樹

■事務局 白梅学園大学堀江まゆみ研究室気付
東京都小平市小川町1-830
FAX 042-344-1889
<http://www.gh-gakkai.com>
Mail info-gh-gakkai@shiraume.ac.jp

